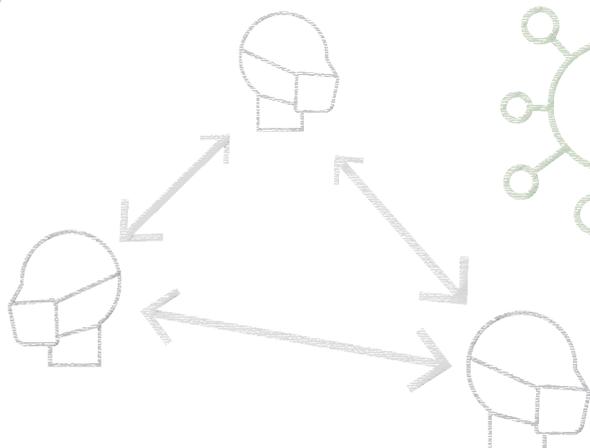
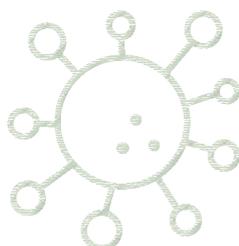
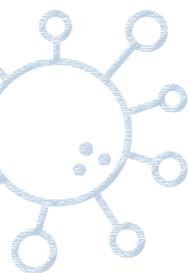


新型コロナウイルスの
感染拡大による
「文化遺産と社会との関係」
への影響把握調査報告書

九州大学河野俊行研究室
令和4年5月



目次

1. 調査概要	1
1-1. はじめに.....	1
1-2. 調査の前提と目的.....	2
1-3. ウェブアンケートの概要.....	6
1-4. 調査対象エリアとサンプル数.....	7
1-5. アンケート項目.....	10
1-6. アンケート設問票.....	11
2. アンケート調査結果	19
2-1. 回答者の属性.....	19
2-2. 単純集計.....	36
3. 比較分析	53
3-1. 調査対象エリアによる比較.....	53
3-2. 居住年数による比較.....	96
3-3. 愛着の度合いによる比較.....	114
3-4. 年齢区分による比較.....	131
3-5. 居住地域での滞在時間の増減による比較.....	152
3-6. 文化遺産への関心度による比較.....	169
4. 三重分析、テーマ別分析	187
4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析.....	187
4-2. 旅行頻度×文化遺産への関心.....	206
4-3. 東京都区部の分析.....	208

資料. 調査対象市区町村一覧



1. 調査概要

1. 調査概要

1-1. はじめに

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大による影響（以下、コロナ禍）は世界中を混乱させ、その発生から現在に至るまで程度の差はあれ、国内外における自由な行動を制限した。日本国内でも様々な混乱が生じた一方で、コロナ禍によって行動制限が要請されたことや通勤時間を伴わないリモートワークが推奨されたこと等を通して、特に社会人には、これまでよりも多くの可処分時間が生まれ、新たな趣味や勉強に取り組む姿勢も生まれた。また、自分の時間や家族と過ごす時間を大事にする意識や周辺環境を含めた居住環境への関心が高まるなどライフスタイルや価値観に大きな影響を与えた。

コロナ禍の文化遺産への直接的な被害は少ないものの、歴史的建造物や博物館が閉鎖されて文化遺産への直接的な訪問ができなくなり、また、何百年にもわたって続けられてきた祭礼行事でさえ中止を余儀なくされるなど伝統芸能や祭礼の開催にも深刻な影響を与えた。その状況は2020年の初頭から、本調査実施時点（2022年1月）まで続いている。この状況が続くと社会と文化遺産がこれまで長年培ってきた関係が変化し、これまで外部収入を基に維持されていた有形文化遺産はさらに危機的な状況に晒されると考えられた。これは観光による収入源というだけでなく、例えば、檀家が盆や彼岸時に菩提寺に集まっていた習慣が廃れることで、檀家が協力して担っていた菩提寺建造物の維持管理や修理修復も危ぶまれる状況になると予想される。

コロナ禍による行動制限は、人々に文化遺産と接する機会を減少させ、人々の文化遺産に対する価値観にも影響を与えた可能性がある。上記のような社会的背景の中で、九州大学（調査実施者：河野俊行）は、コロナ禍が社会と文化遺産に与えた影響に関する既往調査等を整理した上で、コロナ禍前後における文化遺産と社会の関係性の変化を問うためのウェブアンケート調査を実施した。

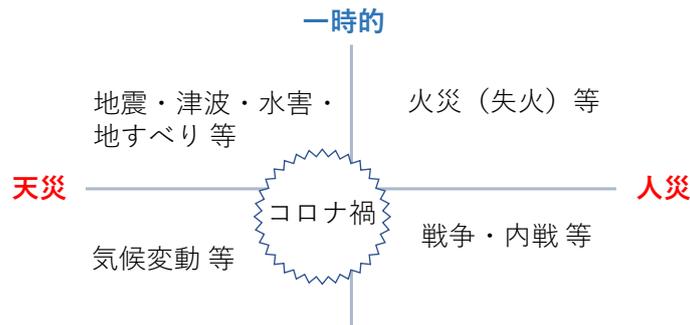
本調査は、日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」の成果の一部である。

1-2. 調査の前提と目的

1-2-1. 災害としてのコロナ禍の捉え方

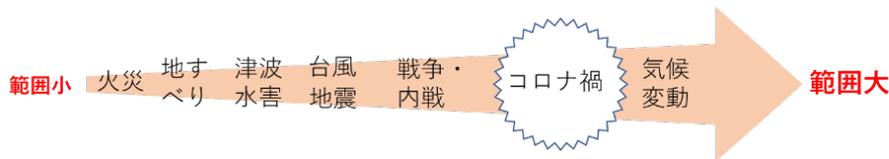
本調査の前提として、コロナ禍は災害であり、被害または影響をうけた文化遺産を被災文化遺産として捉え、以下のようにコロナ禍の特徴を整理する。

- ・コロナ禍（疫病）は地震、水害等のような天災という側面と、失火や戦争・内戦等のような人災の両側面を持ち、さらに、地震や火災のように一時的な災害ではなく、戦争や内戦等のように継続的な災害である。



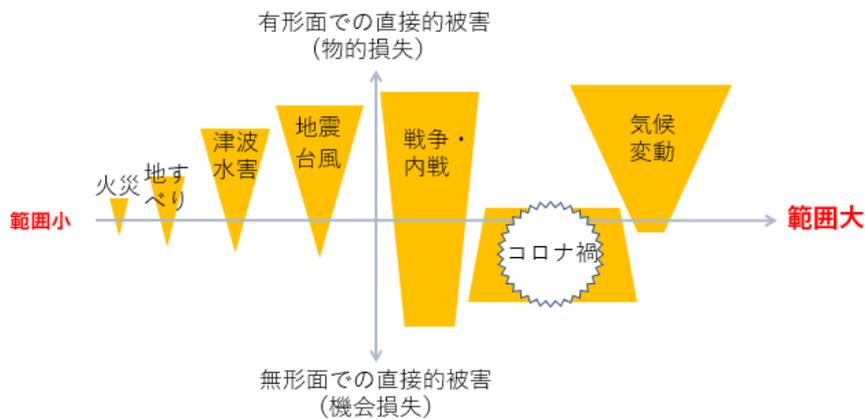
図：災害としてのコロナ禍の捉え方1

- ・コロナ禍は、火災や地震等よりもその影響する範囲が大きく、気候変動と同様に世界規模に影響する災害である。



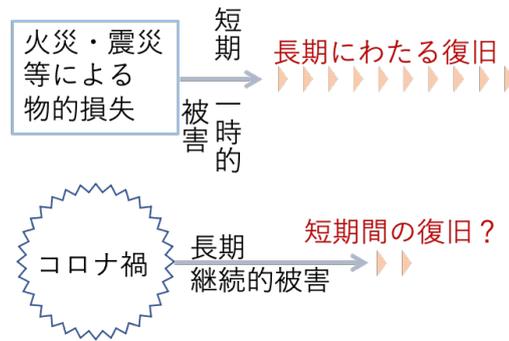
図：災害としてのコロナ禍の捉え方2

- ・コロナ禍は、有形の文化遺産に対しては、来場者が激減したことによる経済的な損失は大きいものの、直接的な物的被害は小さく、短期的な維持管理不足による虫害等の被害が起こる程度の災害である。一方、無形の文化遺産に対しては、政策的な行動制限や開催自粛などで機会そのものが失われており、甚大な被害を与えた災害である。



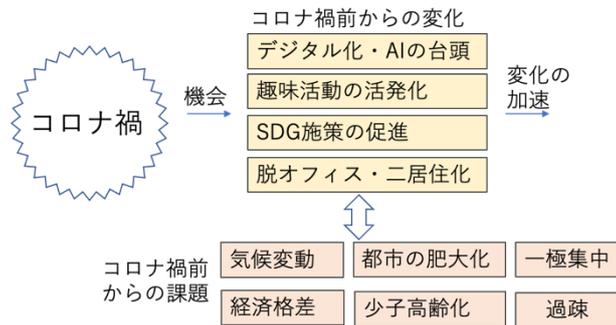
図：災害としてのコロナ禍の捉え方3

- ・コロナ禍の発災期間から考える。火災や震災の発災期間は短期的・一時的である一方、有形文化遺産に甚大な物的損失をもたらし、その復旧・修復・再建には長期間を要する。それに対して、コロナ禍の発災期間は、長期的・継続的であるが、先に述べたように物的損失がほとんど生じない災害である。そのため、物理的な復旧は短期となるとみられるものの、無形遺産への影響を含めて長期継続的に受けた被害の実態把握が難しく、どのような復旧過程が必要か不明である。



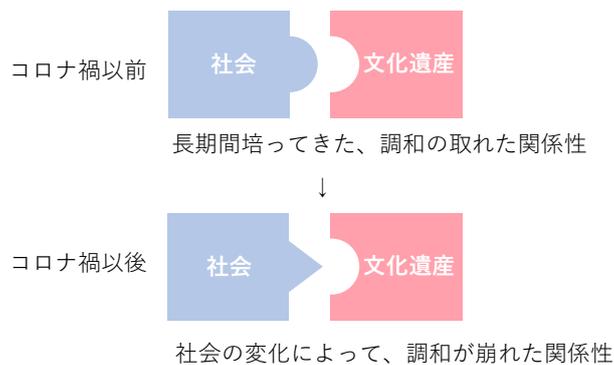
図：災害としてのコロナ禍の捉え方4

- ・コロナ禍は社会に様々な変化を生じさせた。しかし、これらの変化の多くはコロナ禍以前からの課題に対応した変化がほとんどであった。つまり、コロナ禍は、これまでの人々の生活様式を含む社会の変化を加速させる「機会」を与えたと捉えられる。例えば、コロナ禍は、これまで取り組まれつつも遅滞していたデジタル化や二地域居住などの動きを一気に加速させている。



図：災害としてのコロナ禍の捉え方5

- ・コロナ 禍により、文化遺産と相対する社会自体が大きく変わったのであれば、コロナ禍からの復旧プロセスもそれに合わせる必要がある。例えば、地域コミュニティのあり方が変化しているのであれば、お祭り等の無形文化遺産はコロナ禍以前のように開催できず、変化に応じた対応が求められる。さらに、檀家離れの加速など、社会の変化により、有形遺産を維持していく経済システムにも狂いが生じている可能性もある。

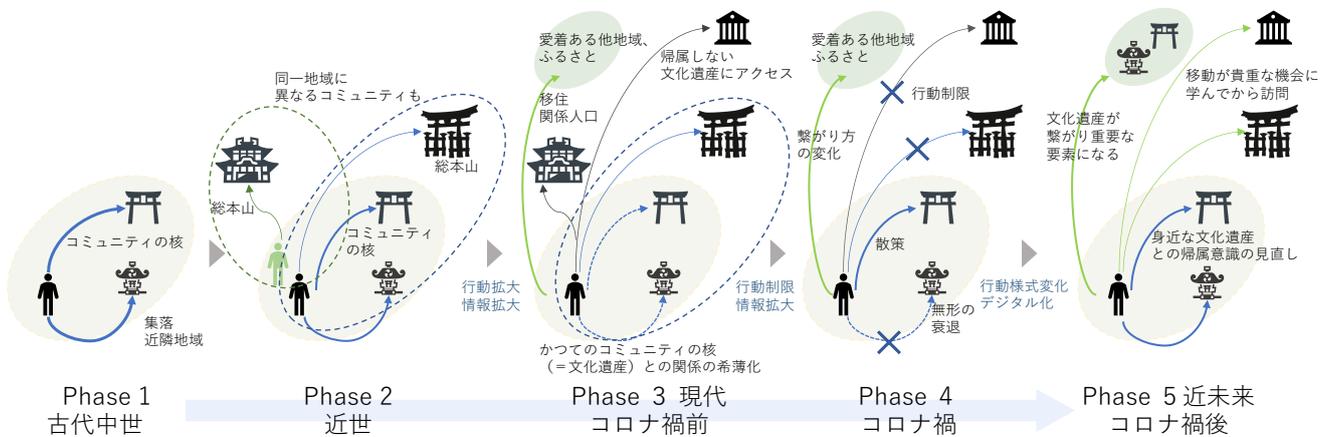


図：災害としてのコロナ禍の捉え方6

1-2-2. 社会と文化遺産の関係の変化イメージ

本調査の前提として、歴史における人々の行動範囲の拡大やコロナ禍における行動制限に伴い、社会と文化遺産との関係に、以下のような変化が起きていると仮定する。

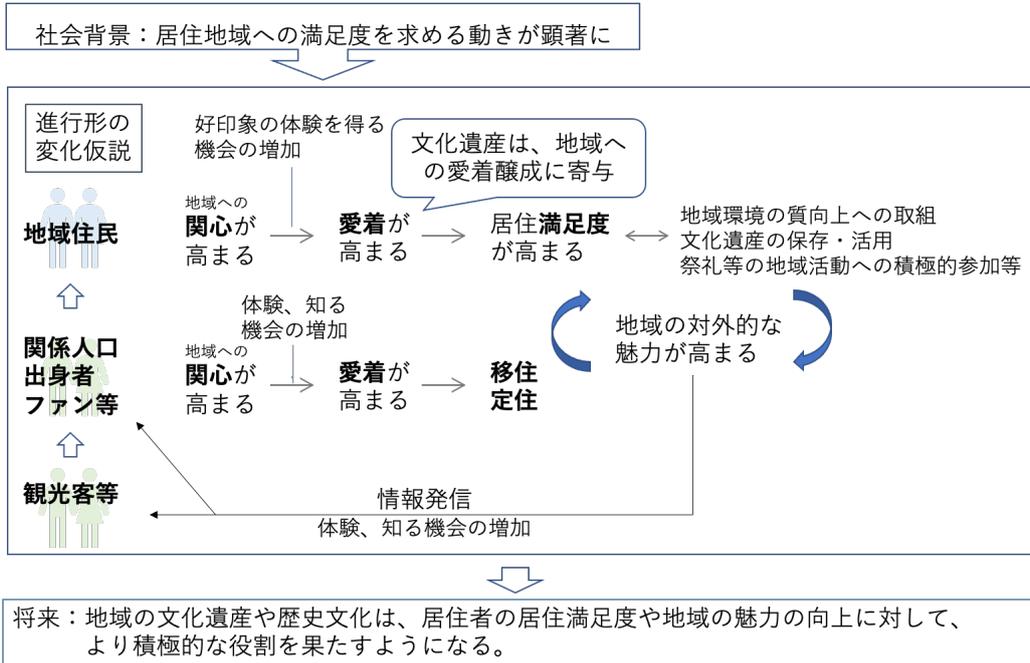
・時代を経るごとに、人の行動範囲は拡大し、得られる情報も増大していった。現代においても過去と同じ役割を果たしている祭礼等の文化遺産も存在しているものの、行動範囲と集団規模が大きくなるにつれて、小さな規模の文化遺産（身近な文化遺産、祠等）の存在に対する帰属意識（愛着）や関心は薄くなっていった。個人が居住する地域への（帰属意識や愛着）または関心は、居住地域の身近な文化遺産から、徐々に、より世界的に著名な文化遺産（例えば世界遺産）に移っていったと想定できる。しかし、コロナ禍による行動制限により、初詣の訪問先が居住地域から離れた著名な神社から身近な神社に変わったように、コロナ禍を機会として、地域の身近な文化遺産に再び意識が向く傾向が生じる。このように、行動範囲の広がり、または制限により、社会と文化遺産の関係性は変化するものと仮定した。



Phase 1 古代～	Phase 2 中世～	Phase 3 現代（コロナ禍前）	Phase 4 現代（コロナ禍）	Phase 5 近未来（コロナ禍後）
<p>行動範囲：集落単位。個人は集落（地域）単位の同一の文化遺産に日常的にアクセス</p> <p>帰属意識：集落に帰属</p> <p>関係性：地域、コミュニティ、文化遺産が一体に存在</p>	<p>行動範囲：国内単位。集落外にある中核的文化遺産へのアクセス（総本山、伊勢神宮など）</p> <p>帰属意識：地域だけでなく、異なる宗派等にも帰属するようになる。</p> <p>関係性：異なる文化遺産に帰属するコミュニティが同一地域内に複数形成される</p>	<p>行動範囲：世界単位。日本を越えて、自身が帰属していない文化遺産にアクセス。</p> <p>帰属意識：地域への帰属意識が薄れ、地域の文化遺産への関心も薄れる。</p> <p>関係性：各個人の興味がにより、帰属意識が異なる。地域と文化遺産の関係は一体化せず、関心による文化遺産とのつながりが生まれる。</p>	<p>行動範囲：地域単位。コロナ禍による行動制限発生、祭礼の中止（無形文化遺産の危機）</p> <p>帰属意識：情報社会の加速による他地域との新しい繋がりが誕生する。（zoom等による通信プラットフォーム、新たなコミュニケーション）、</p> <p>関係性：身近な文化遺産への関心の見直し、各文化遺産もそれぞれの情報を発信</p>	<p>行動範囲：選択地域単位+世界単位。複数の地域に存在する文化遺産にアクセス</p> <p>帰属意識：身近な文化遺産にも地域を介して帰属。個人は情報社会によって複数の地域と直接的な関係を持つことが可能。</p> <p>関係性：地域コミュニティと文化遺産が再結合。また、遠く地域とのつながる遠隔型、テーマ型の関係性が強まる。訪問前に文化遺産を学ぶ、訪問先の地域住民と zoom 等で事前に関係構築できるようになる。文化遺産を含む地域の魅力が重視され、それが地域への誘引ともなる。</p>

図表：社会と文化遺産の関係の変化イメージ

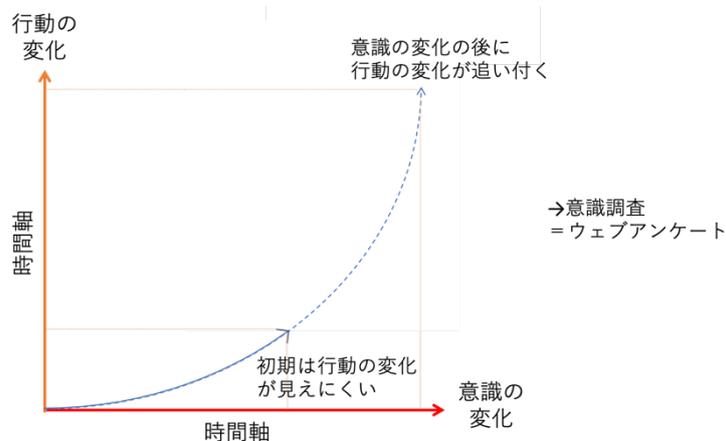
- ・さらに、コロナ禍以後、居住地域の周辺環境への関心が高まっていることから、地域の文化遺産や歴史文化は、将来の居住満足度や地域の魅力の向上に対して、より積極的な役割を果たすと仮説を立てた（下図）。



図：将来における文化遺産の新たな役割のイメージ(仮説)

1-2-3. 調査の目的

- ・これらの仮説を証明するような実際の行動の変化は、現時点では表層的に留まり顕在化していない。しかし、人々の意識は既に大きく変化しているものと仮定する。行動の変化よりも先んじる意識の変化の把握は、将来的な行動の変化を予測するために有効と考えられる。そのため、本調査は、まず意識の変化を捉えることを目的とした。コロナ禍からの復興を見据えられている時点（22年1月）で、日本国民の意識の変化を捉え今後の文化遺産保護や文化遺産を活用した地域づくりの基礎となるデータを集めるため、日本全国を対象とした大規模な意識調査（ウェブアンケート）を実施した。



図：行動の変化に対して先行する意識の変化

1-3. ウェブアンケートの概要

ウェブアンケートの概要は以下の通りである。

表：ウェブアンケート調査概要

調査実施主体	国立大学法人 九州大学 河野俊行研究室
調査タイトル	『コロナ禍前後における地域愛着に関する調査』
調査実施協力者	(株) 都市環境研究所 (担当：山田大樹、関宏光)
アンケート実施期間	2022年1月26日～2月8日 ¹
アンケート回収数	10,438 サンプル
調査システム	NTT ドコモ プレミアパネル

ウェブアンケート調査の実施は、株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ社）の提供サービスであるプレミアパネル²を使用し、2022年1月26日～2月8日にかけて実施した。

¹ 調査自体は2月25日まで実施。最終的な調査結果は総数10527件であるが、本報告書では2月8日までのデータを用いる。

² プレミアパネルは、ドコモの会員組織「dポイントクラブ」の会員に、アンケート形式で「プロモーション」や「リサーチ」を行うサービス。会員数は日本全国で約600万人である。

1-4. 調査対象エリアとサンプル数

1-4-1. 調査対象エリア

調査対象エリア（以下、対象エリア）は、全国一律ではなく、選んだ対象エリアで比較がしやすいように、「A 三大都市圏—地方圏の都市規模」、「B 地域内の歴史文化環境への愛着・誇り・帰属意識」の視点から以下の5つの対象エリアを設定した。各対象対象となる市区町村の一覧は巻末の資料にまとめた。

表：対象エリア設定の視点と対象エリア区分

対象エリア設定の視点	対象エリア区分
A 三大都市圏—地方圏と都市規模	A-1 三大都市圏中心部（=東京都区部）
	A-2 地方圏県庁所在市（政令市を除く）
	A-3 地方圏町村
B 歴史文化環境への愛着・誇り・帰属意識	B-1 京都市中心部（上京区、中京区、下京区）
	B-2 国宝天守所在市（松本市、犬山市、彦根市、姫路市、松江市）

A 三大都市圏—地方圏と都市規模の視点から選択した対象エリア

・三大都市圏（東京圏、関西圏、名古屋圏）と地方圏（三大都市圏以外）および都市の規模の違いによって、地域愛着への愛着の度合いは変わるかという視点から対象エリアを設定した。国土交通省の調査³では都市（市町村）を、①三大都市圏の主な都市、②三大都市圏の市町村、③地方圏の主な都市、④地方圏のその他の都市、⑤地方圏の町村の5段階で区分している。本調査では、対象エリアごとの差がより顕在化するように、上記から①③⑤のエリアを取り上げ、さらに①は東京都区部のみ(=A-1)、③から政令市を除いた県庁所在市(=A-2)、⑤の地方圏町村(=A-3)とした。

B 歴史文化環境への愛着・誇り・帰属意識の視点から選択した対象エリア

・地域の歴史文化環境への愛着・誇り・帰属意識によって地域への愛着が増減するかという視点から、対象エリアを設定した。地域内の歴史文化環境への関心が強いと考えられる地域として、B-1 京都市中心部と B-2 国宝天守所在市を選び、設定した。

B-1 京都市中心部

・京都は、日本の歴史文化の中心ともいえる古都であり、特に中心部には多種の重要文化財が集積している。京都市中心部の住人が抱く京都の歴史・文化への誇りは非常に強いものと考え、京都市上京区、中京区、下京区の限定的な範囲に絞って対象エリアを設定した。

B-2 国宝天守所在市

・天守は広い範囲から望観でき地域の象徴となっていること、その所在市には旧藩の影響が色濃く残る城下町が残っている場合が多い。天守は、復興天守や模擬天守を含めて日本各地、特に県庁所在市に多く残るが、その中でも国宝天守は価値が認められて、市内小中学生へ教育がなされ、対外的にもよく宣伝されている。そのため、国宝天守の所在市は、天守所在市の中でも歴史・文化への誇りが特別に強いものになっていると考え、松本市、犬山市、彦根市、姫路市、松江市を対象エリアとして設定した。なお、松江市は、国宝天守が所在し、かつ地方圏の県庁所在市であるため B-2 だけでなく A-2 にも重複して含まれる。

³ 国土交通省『平成 21 年度 国土交通白書』2010 年、第 2 章 3 節参照。地域愛着についての全国的なアンケートを実施しており、本調査の比較対象となる。

1-4-2. 年齢区分

- ・回答者の年齢層が偏らないよう、対象エリアごとに20歳～74歳まで5歳ごとの11区分を設定した。20歳未満は、地域愛着の度合いを問うアンケートの特性から20歳以上と同等の回答を得られないこと、NTTドコモのシステムとして18歳以下からのアンケート回答を得られないことから、20歳未満を調査対象としていない⁴。

1-4-3. 設定サンプル数

- ・対象エリア区分10歳ごとの許容誤差が5%以内となるように、各区域の5歳ごとのサンプル数を各200名以上と設定した⁵。
- ・B-2の京都市中心部はサンプルとなりうる在住者が少ないため、基本とするサンプル数を65-70歳区分はシステム上サンプル収集可能とされる上限の80件を基準とし、さらに高齢者70-75歳区分からのサンプル回収数は少なくなると想定されたため回収可能想定上限の58件とした。
- ・対象エリア区分、年齢区分ごと、下記のようにサンプル数を設定した。

表：対象エリア区分、年齢区分ごとの設定サンプル数（※回収結果とは異なる）

対象エリア区分	年齢区分											全回答者
	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	
A-1 東京都区部	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,200
A-2 地方圏県庁所在市 (政令市を除く)	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,200
A-3 地方圏町村	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	276	3,026
B-1 京都市中心部	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	58	858
B-2 国宝天守所在市	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,200
全回答者	955	955	955	955	955	955	955	955	955	955	734	10,484

※上記の中で、松江市はB-2が所定数に至るまで回収し、それ以上の分をA-2に加える設定とした。

⁴ 表中で70歳以上となっているものは70-74歳を指す。

⁵ サンプル数に関しては、許容誤差5%、信頼度95%、母比率を50%とした場合は385名。(許容誤差 x 、信頼度 $(1-\alpha)$ 、母比率 p)

$$z_{1-\frac{\alpha}{2}} \times \sqrt{\frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n}} \leq \frac{x}{100}$$

1-4-4. アンケート回答者の属性

- ・NTT ドコモ社のシステムを使用することで、ウェブアンケート回答時に、回答者が事前に登録している属性を自動的に取得することが可能である。性別、年齢の他、居住地（都市コード）等を含め、以下の22項目を取得する属性として設定した。

表：ドコモ社のシステムで回答者から自動取得するよう設定した属性一覧

1	性別	9	職業	17	国内旅行(出張除く)頻度(年間)
2	年齢	10	同居家族人数(本人含む)	18	海外旅行(出張除く)頻度(年間)
3	未既婚	11	家族仕事・業種	19	1年以内に観光で訪れた県(複数回答可)
4	居住市町村	12	出身都道府県	20	趣味(複数回答可)
5	都市規模コード	13	個人税込年収	21	テレワーク・オンライン授業頻度 ⁶
6	居住地の郵便番号	14	世帯税込年収	22	現在住宅の居住年数
7	住居形態	15	同居家族		
8	業種	16	非同居家族		

自動的に得られるアンケート回答者の属性は、現在ドコモ社のプレミアパネルで利用されている2018年度～2021年度による基礎アンケートによる。年齢については基礎アンケートで属性を更新しなくても自動的に更新されるようになっている。しかし、基礎アンケートに回答したタイミングで属性データが更新されるため、少ない割合ながら、最も古い基礎情報として2018年に回答したデータが含まれている可能性がある。つまり、システムへの登録時には17歳だった回答者が、その際の基礎アンケートの属性を3年間更新せずに20歳になっても職業が「高校生」のまま引き継がれている可能性がある。ただし、本調査の回答者のうち、少なくとも9割は、属性情報を1年以内に更新していることがわかっている⁷。

⁶ 2021年度のみ実施

⁷ 2021年度内に回答を求めた項目21に9,634名/10,438名回答していることから、少なくとも9割の方が属性を更新している。

1-5. アンケート項目

アンケートの設問で回答を求めた内容は以下の15項目である。

表：アンケート設問項目

1	同一市区町村での継続居住年数	9	文化遺産全般への関心の度合い
2	居住地域への愛着の度合い	10	コロナ禍による居住地域での滞在時間の増減
3	居住地域に愛着を感じている点	11	コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減
4	コロナ禍でより愛着を感じるようになった点	12	コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増減
5	居住地域以外に愛着を感じている地域	13	コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い
6	居住地域で認識している文化遺産	14	コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い
7	居住地域の文化遺産への自身の愛着の度合い [個人]	15	コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の認識度合いの増減
8	居住地域の文化遺産への地域住民の愛着の度合い [集団]		

1-6. アンケート設問票

アンケート設問票は、ドコモ社によるインターネットのシステムを通じて配布した。
アンケート票は次の通りである。

『地域の文化遺産への愛着に関するアンケート』※赤字は、アンケート上には表示されない。

前文：

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

(行間)

日本の各地域には「歴史と文化」が、多種多様な「文化遺産」として残されています。

(行間)

このアンケートは、日本全国を対象として「お住まいの地域の文化遺産への関心や愛着」と、それに対する「新型コロナウイルスの感染拡大が引き起こした状況（コロナ禍）による影響」を把握するための調査です。

(行間)

質問の中には、コロナ禍における外出に関する質問も含まれております。ご回答しづらい質問があるかもしれませんが、主旨をご理解の上、ご協力のほど、よろしくお願いします。

(行間)

----- (ラインの後改行)

※質問は、回答者のあなたご自身のことを伺っております。

※現在の状況、現在のお考えにあわせてご回答ください。

※本アンケートは、九州大学（研究代表：河野俊行教授）の調査研究活動の一環であり、ご回答は当該調査研究の目的以外に使用することはありません。

※アンケートの回答は適切に処理を行うため、個人が特定されることはありません。

----- (ラインの後改行)

ご協力頂ける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

開始

●**居住歴**

(1)現在、お住まいの市区町村に継続して何年住んでいますか？

(回答は一つ)

- ① 2年未満
- ② 2年以上～5年未満
- ③ 5年以上～10年未満
- ④ 10年以上～20年未満
- ⑤ 20年以上～
- ⑥ 出生時から

●**地域愛着**

「愛着」は、自分にとって「親しみがある」「大事だな」と感じられるものとお考え下さい。

「お住まいの地域」は、ご自宅を中心として、普段生活されている地域とし、最大でも日常的に利用している交通手段で概ね30分以内に行ける範囲とします。

(2)お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じていますか？

(回答は一つ)

- ① 感じている
- ② どちらかというと感じている
- ③ どちらかというと感じていない
- ④ 感じていない

<3A、3Bは、問(2)の回答結果による分岐設問>

→3A：問(2)で①または②と答えた方向けの設問

(3A)お住まいの地域の、どのような点に愛着(親しみ)を感じていますか？

(回答はいくつでも)

- ① 自然環境に恵まれている
- ② 気候や風土が良い
- ③ まち並みが美しい
- ④ 伝統・習慣など歴史・文化がある
- ⑤ 地名のイメージが良い
- ⑥ 治安や風紀が良い
- ⑦ 落ち着いた雰囲気がある
- ⑧ 活気がある
- ⑨ 通学、通勤に便利
- ⑩ 買い物など日常生活が便利
- ⑪ 働くところがある

- ⑫ 家族・親戚がいる
- ⑬ 友人が多くいる
- ⑭ 自宅近隣との人間関係がある
- ⑮ 地域のコミュニティ活動が盛んである
- ⑯ 自分の家・土地がある
- ⑰ 生まれたり育ったりした場所がある
- ⑱ その他(具体的に)

記述必須

- ⑲ 上記の項目内にはない<排他>

<3A、3Bは、問(2)の回答結果による分岐設問>

→3B：問(2)で③と答えた方向けの設問

(3B)お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じている点があれば、あてはまるもの全てを選んでください。

問(3)で⑨以外を選択した方向けの設問

(4)前問(3)で選ばれた項目のうち、コロナ禍の期間中(2020年1月～現在)に、愛着(親しみ)をより感じるようになった点(改めて良さを感じた点)がありますか？

(回答はいくつでも)

- ① 自然環境に恵まれている
- ② 気候や風土が良い
- ③ まち並みが美しい
- ④ 伝統・習慣など歴史・文化がある
- ⑤ 地名のイメージが良い
- ⑥ 治安や風紀が良い
- ⑦ 落ち着いた雰囲気がある
- ⑧ 活気がある
- ⑨ 通学、通勤に便利
- ⑩ 買い物など日常生活が便利
- ⑪ 働くところがある
- ⑫ 家族・親戚がいる
- ⑬ 友人が多くいる
- ⑭ 自宅近隣との人間関係がある
- ⑮ 地域のコミュニティ活動が盛んである
- ⑯ 自分の家・土地がある
- ⑰ 生まれたり育ったりした場所がある
- ⑱ その他(具体的に)

記述必須

⑱ 愛着（親しみ）をより感じるようになった点はない<排他>

→問(2)で愛着は感じていないと答えた方には質問しない

→問(3)で「⑱愛着（親しみ）をより感じるようになった点はない」に答えた人には質問しない

→選択肢は前問で愛着があるとしたもののみを表示、ただし⑰、⑱は必ず提示。

< 5 A、5 Bは、問(2)の回答結果による分岐設問 >

→5 A：問(2)で愛着は感じているとした①または②と答えた方向けの設問

(5 A)お住まいの地域以外にも、愛着（親しみ）を感じている地域が特にありますか？

(回答はいくつでも)

- ① 現在住んでいる地域だけに、愛着（親しみ）を感じている <排他>
- ② 成人前に、住んでいた地域
- ③ 成人後に、住んでいた地域
- ④ 住んだことはないが、観光で訪問した地域
- ⑤ 住んだことはないが、観光以外で訪問した地域
- ⑥ その他の地域(具体的に)

_____ 記述必須 _____

< 5 A、5 Bは、問(2)の回答結果による分岐設問 >

→5 B：問(2)で愛着を感じていない③または④と答えた方向けの設問、「お住まいの地域以外であれば」とする。
選択しも①が変わる。

(5 B) お住まいの地域以外であれば、愛着（親しみ）を感じている地域がありますか？

(回答はいくつでも)

- ① 特に愛着（親しみ）を感じている地域はない <排他>
- ② 成人前に、住んでいた地域
- ③ 成人後に、住んでいた地域
- ④ 住んだことはないが、観光で訪問した地域
- ⑤ 住んだことはないが、観光以外で訪問した地域
- ⑥ その他の地域(具体的に)

_____ 記述必須 _____

●地域の文化遺産

(リード文)「文化遺産」は、概ね50年以上の歴史文化があるものとお考え下さい。

(6) お住まいの地域には、どのような文化遺産がありますか？

(回答はいくつでも)

- ① 歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠 等）
- ② 歴史的な街並み、棚田などの景観

- ③ 伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼 等）
- ④ 伝統芸能（能、歌舞伎 等）
- ⑤ 考古遺跡、古墳、土器
- ⑥ 歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡
- ⑦ 地域にまつわる伝承・民話・地名
- ⑧ 古美術品（絵画、彫刻、仏像 等）
- ⑨ 伝統的工芸品（陶芸、織物 等）
- ⑩ 方言、慣習
- ⑪ 郷土料理、食文化
- ⑫ その他(具体的に)

_____ 記述必須 _____

- ⑬ 全くない<排他>

(7)あなたは、お住まいの地域の文化遺産に愛着（親しみ）を感じていますか？

(回答は一つ)

→問(6)で「⑬全くない」を選択した回答者を除いて質問

- ① 感じている
- ② どちらかというと感じている
- ③ どちらかというと感じていない
- ④ 感じていない

(8)あなた個人ではなく、お住まいの地域の住民の方々は、お住まいの地域の文化遺産に愛着（親しみ）を感じている方が多いと思いますか？

(回答は一つ)

→問(6)で「⑬全くない」を選択した回答者を除いて質問

- ① 多いと思う
- ② どちらかという人多いと思う
- ③ どちらかという人少ないと思う
- ④ 少ないと思う
- ⑤ その他(具体的に)

_____ 記述必須 _____

●コロナ禍による変化

(リード文) コロナ禍の期間中（2020年1月～現在）における、文化遺産への関心と行動の変化について伺います。

(9)あなたは、現在、文化遺産全般について、どれぐらい関心がありますか？

(回答は一つ)

- ① 強い関心がある

- ② どちらかというに関心がある
- ③ どちらかというに関心がない
- ④ 関心がほとんどない
- ⑤ まったくない

(10) コロナ禍以前（2018～2019年の2年間）と比べ、お住まいの地域に滞在している時間が増えたと思いますか？

（回答は一つ）

→問(1)で「①2年未満」を選択した回答者を除いて質問

- ① 増えた
- ② どちらかというが増えた
- ③ 変わらない
- ④ どちらかというが減った
- ⑤ 減った

(11) コロナ禍の期間中、緊急事態宣言等による移動制限を受けて、お住まいの地域の歴史や文化、つまり文化遺産のことを、もっと知りたいと思うようになりましたか？

（回答は一つ）

- ① 思うようになった
- ② どちらかというと思うようになった
- ③ 変わらない
- ④ どちらかというと思わなくなった
- ⑤ 思わなくなった

(12) コロナ禍の期間中にお住まいの地域の文化遺産を知る機会は増えたと思いますか？

（回答は一つ）

- ① 増えた
- ② どちらかというが増えた
- ③ 変わらない
- ④ どちらかというが減った
- ⑤ 減った

(13) コロナ禍以前、お住まいの地域で行われる伝統的なお祭り（年中行事含む）に、参加または見物をしていましたか？ もっとも実感に近いものを1つ選んでください。

（回答は一つ）

- ① よく参加していた
- ② ときどき参加していた
- ③ よく見物していた
- ④ ときどき見物していた

- ⑤ ほとんど参加も見物もしていなかった
- ⑥ 住んでいる地域には伝統的なお祭りはない

(14) コロナ禍の期間中に、お住まいの地域でいつも行われていた伝統的なお祭りが、中止・縮小になったことを「さみしい」と思いますか？

(回答は一つ)

→問(13)で「⑥伝統的なお祭りはない」を選んだ人には質問しない

- ① とても思う
- ② どちらかというと思う
- ③ どちらかというと思わない
- ④ まったく思わない
- ⑤ 中止にも縮小にもなっていない

(15) コロナ禍を機会として、お祭り等の文化遺産は、お住まいの地域への愛着（親しみ）にとって、より重要なものになったと思いますか？

(回答は一つ)

- ① より重要になった
- ② どちらかというより重要になった
- ③ 変わらない
- ④ どちらかというより重要ではなくなった
- ⑤ より重要ではなくなった



2. アンケート調査結果

2. アンケート調査結果

2-1. 回答者の属性

回収数：10438 サンプル（=全回答者数）

回答デバイス：スマートフォン（97.2%）、PC(2.8%)

以下、アンケートシステムによって取得した回答者の属性⁸を整理する。

(1) 性別

性別ごとの回答者数と割合は次の通りである。

回答者は、性別の割合が概ね半々となっている。

表：性別区分ごとの回答者数

	男性	女性	全回答者
回答者数(人)	4,916	5,522	10,438
割合(%)	47.1	52.9	100.0

(n=全回答者数)

(2) 年齢

年齢区分（5歳刻み）ごとの回答者数は以下の通りである⁹。

各年代の回答者数は、アンケートの設定サンプル数にしたがって、概ね同じ割合となっている。

表：年齢区分ごとの回答者数

	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	全回答 者
回答者 数(人)	849	959	964	960	959	960	960	960	962	962	943	10,438
割合 (%)	8.1	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.0	100.0

(n=全回答者数)

⁸ 属性は回答者による記入情報であり、毎年更新が求められているものの、更新は任意のため、最大で4年間属性を修正していない回答者も含まれる可能性がある。ただし、年齢については自動的に更新されている。

⁹ 20-24歳の回収がB-1京都市中心部とB-2国宝天守所在市では、調査期間の都合上、設定の通りの数が回収ができていないものの、それ以外については計画通りに回収することができた。

2-1. 回答者の属性

表：対象エリア区分、年齢区分ごとの回答者数

対象エリア区分		20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	全回答者 数
A-1 東京都区部	回答者 数(人)	201	200	201	200	201	201	202	200	201	203	201	2,211
	割合 (%)	9.1	9	9.1	9	9.1	9.1	9.1	9	9.1	9.2	9.1	100.0
A-2 地方圏県庁所在市 (政令市を除く)	回答者 数(人)	221	226	228	242	228	238	236	233	242	238	244	2,576
	割合 (%)	8.6	8.8	8.9	9.4	8.9	9.2	9.2	9	9.4	9.2	9.5	100.0
A-3 地方圏町村	回答者 数(人)	275	275	275	275	277	276	277	276	277	275	279	3,037
	割合 (%)	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.2	100.0
B-1 京都市中心部	回答者 数(人)	39	83	88	85	81	82	80	82	82	80	61	843
	割合 (%)	4.6	9.8	10.4	10.1	9.6	9.7	9.5	9.7	9.7	9.5	7.2	100.0
B-2 国宝天守所在市	回答者 数(人)	134	200	201	202	202	204	201	201	201	203	201	2,150
	割合 (%)	6.2	9.3	9.3	9.4	9.4	9.5	9.3	9.3	9.3	9.4	9.3	100.0
全回答者	回答者 数(人)	870	984	993	1,004	989	1,001	996	992	1,003	999	986	10,817
	割合 (%)	8.0	9.1	9.2	9.3	9.1	9.3	9.2	9.2	9.3	9.2	9.1	100.0

(n=全回答者数)

※松江市(379人)は、A-2、B-2の両方に属しているため、その数が重複し、合計が総回答者数 10438 人よりも多くなっている。

表：松江市の年齢区分ごとの回答者数

松江市	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	全回答 者
回答者数(人)	21	25	29	44	30	41	36	32	41	37	43	379
割合(%)	5.5	6.6	7.7	11.6	7.9	10.8	9.5	8.4	10.8	9.8	11.3	100.0

(n=全回答者数)

(3) 未既婚

未婚、既婚ごとの回答者数と割合は次の通りである。

回答者は、未婚、既婚の割合が概ね半々となっている。

表：未既婚区分ごとの回答者数

	結婚している	結婚していない	全回答者
回答者数(人)	5,699	4,739	10,438
割合(%)	54.6	45.4	100.0

(n=全回答者数)

(4) 居住都道府県

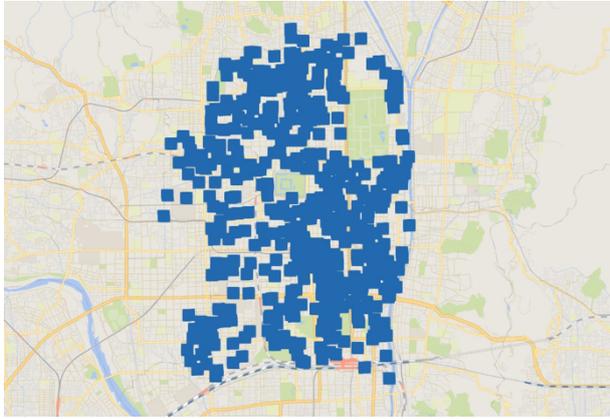
居住都道府県ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

表：居住都道府県区分ごとの回答者数

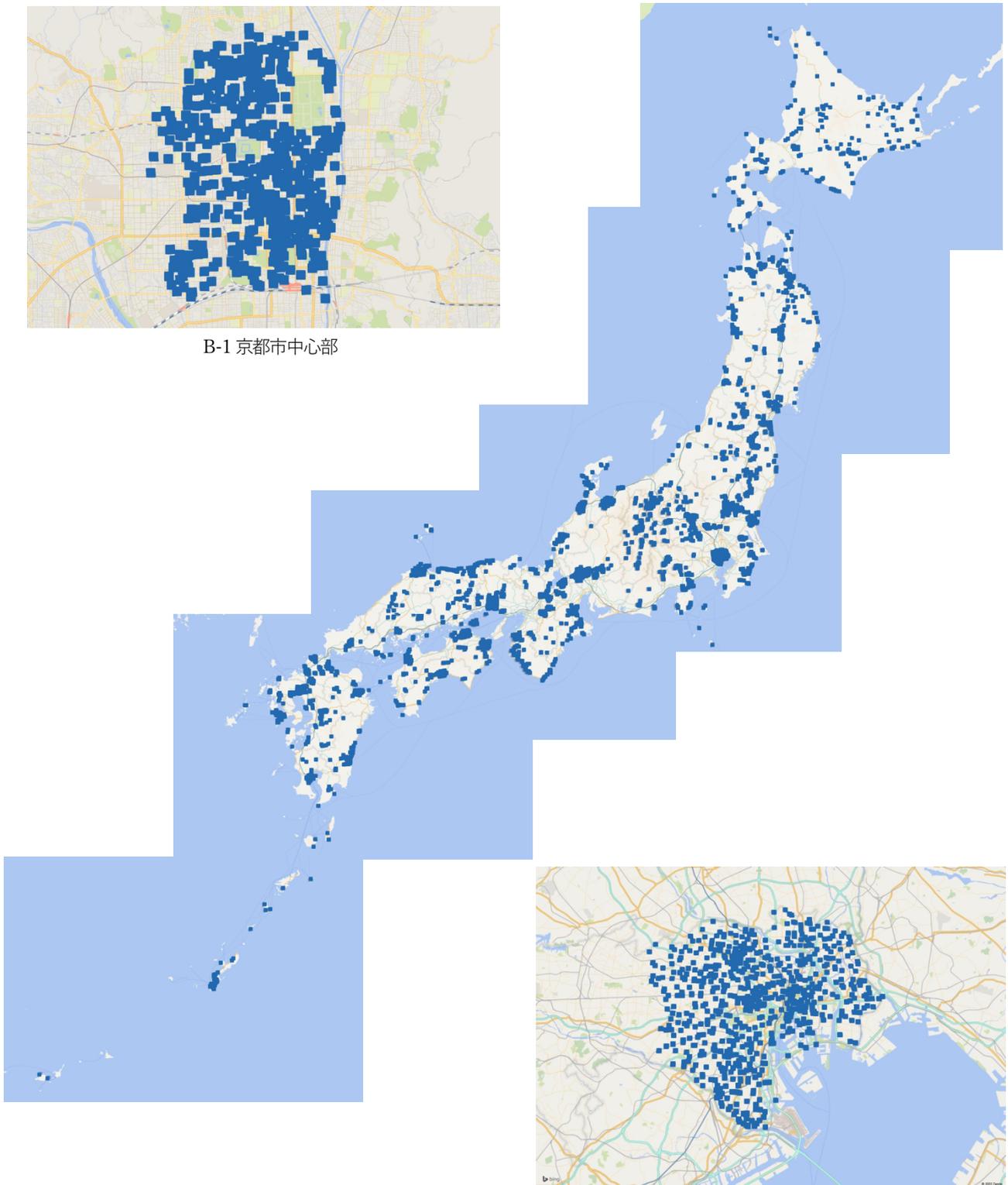
	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
回答者数(人)	316	172	163	148	113	124	180	160	221	190
割合(%)	3.0	1.6	1.6	1.4	1.1	1.2	1.7	1.5	2.1	1.8
	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
回答者数(人)	68	57	2,224	28	33	112	146	78	81	644
割合(%)	0.7	0.5	21.3	0.3	0.3	1.1	1.4	0.7	0.8	6.2
	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
回答者数(人)	254	83	117	102	354	860	0	1,082	91	157
割合(%)	2.4	0.8	1.1	1.0	3.4	8.2	0.0	10.4	0.9	1.5
	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
回答者数(人)	89	398	38	67	49	142	145	170	76	174
割合(%)	0.9	3.8	0.4	0.6	0.5	1.4	1.4	1.6	0.7	1.7
	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 (海外等)	わから ない・答えた くない	全回答者
回答者数(人)	82	130	95	119	89	136	81	0	0	10,438
割合(%)	0.8	1.2	0.9	1.1	0.9	1.3	0.8	0.0	0.0%	100.0

(n = 全回答者数)

回答者の居住地の郵便番号から割り出した回答者の分布状況は以下の通りである。下図のように回答者の居住地は全国に分布するが、三大都市圏は東京都区部と京都中心部のみから回収であり、三大都市圏の政令指定都市や地方圏の一般市（県庁所在市以外）は対象から除かれており、例えば、大阪府全域や横浜市、札幌市などの主要都市は調査対象エリアに含まれていない。そのため、回答者の所在は下図のように斑状の分布となっている。



B-1 京都市中心部



A-1 東京都区部

図：回答者の分布状況

(5) 都市規模

回答者の居住市町村からみる、都市規模ごとの回答者数は次の通りである。
100万人以上の都市は、東京都区部と京都市が該当する。

表：都市規模区分ごとの回答者数

	100万人以上	50万人以上	30万人以上	20万人以上	10万人以上	5万人以上	5万人未満	全回答者
回答者数(人)	3,054	1,364	1,176	1,346	345	140	3,013	10,438
割合(%)	29.3	13.1	11.3	12.9	3.3	1.3	28.9	100.0

(n = 全回答者数)

(6) 出身都道府県

出身都道府県ごとの回答者数と割合は次の通りである。東京都(1,324人)と兵庫県(1,027人)の出身者がそれぞれ1,000人を超えている。

表：出身都道府県区分ごとの回答者数

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
回答者数(人)	396	201	184	183	137	133	205	191	197	190
割合(%)	3.8	1.9	1.8	1.8	1.3	1.3	2.0	1.8	1.9	1.8

	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
回答者数(人)	188	167	1,324	166	97	120	156	90	85	591
割合(%)	1.8	1.6	12.7	1.6	0.9	1.1	1.5	0.9	0.8	5.7

	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
回答者数(人)	262	122	180	119	297	590	212	1,027	84	156
割合(%)	2.5	1.2	1.7	1.1	2.8	5.7	2.0	9.8	0.8	1.5

	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
回答者数(人)	107	345	86	111	70	144	136	176	87	249
割合(%)	1.0	3.3	0.8	1.1	0.7	1.4	1.3	1.7	0.8	2.4

	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 (海外等)	わからな い・答えた くない	全回答者
回答者数(人)	95	157	122	115	101	142	61	30	54	10,438
割合(%)	0.9	1.5	1.2	1.1	1.0	1.4	0.6	0.3	0.5	100.0

(n = 全回答者数)

<回答者の出身都道府県と居住都道府県が同一である割合>

出身都道府県と居住都道府県を併せて回答者の属性を確認すると、回答者の74.9%は、出身都道府県と現在の居住都道府県が同一であった。

100人以上の回答者が現在居住している都道府県に着目すると、東京都の回答者は、出身都道府県と居住都道府県が同じ/異なる割合が約半々であり、同じく大都市である京都府の回答者は出身都道府県と居住都道府県が同じ/異なる割合が5：3程度だった。その他はおおむね出身都道府県と居住都道府県が同一であるとする回答者が大半を占めた。

表：出身地と居住地と同じである回答者の割合（出身都道府県の回答者数を母数）

出身地		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全回答者	回答者数(人)	396	201	184	183	137	133	205	191	197	190
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	293	156	140	120	101	99	156	129	161	153
	割合(%)	74.0	77.6	76.1	65.6	73.7	74.4	76.1	67.5	81.7	80.5

出身地		埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全回答者	回答者数(人)	188	167	1,324	166	97	120	156	90	85	591
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	53	48	1,195	17	24	91	126	65	64	528
	割合(%)	28.2	28.7	90.3	10.2	24.7	75.8	80.8	72.2	75.3	89.3

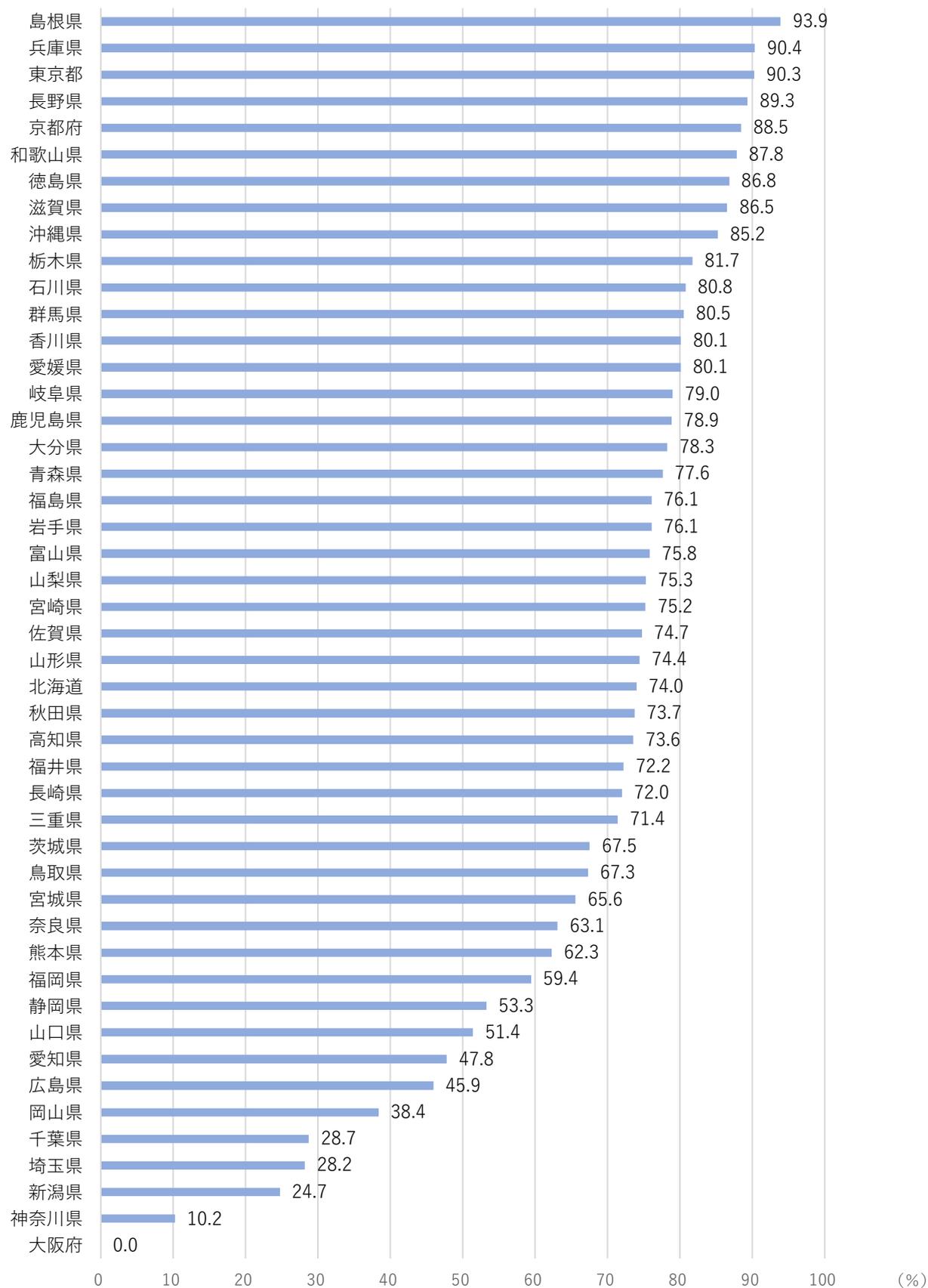
出身地		岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全回答者	回答者数(人)	262	122	180	119	297	590	212	1,027	84	156
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	207	65	86	85	257	522	0 ¹⁰	928	53	137
	割合(%)	79.0	53.3	47.8	71.4	86.5	88.5	0.0	90.4	63.1	87.8

出身地		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全回答者	回答者数(人)	107	345	86	111	70	144	136	176	87	249
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	72	324	33	51	36	125	109	141	64	148
	割合(%)	67.3	93.9	38.4	45.9	51.4	86.8	80.1	80.1	73.6	59.4

出身地		佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	全回答者
全回答者	回答者数(人)	95	157	122	115	101	142	61	10,354
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	71	113	76	90	76	112	52	7,752
	割合(%)	74.7	72.0	62.3	78.3	75.2	78.9	85.2	74.9

(n=全回答者数)

¹⁰ 大阪府については、アンケートの調査対象として大阪府居住者を対象にしていなかったため、0%となっている。



図：出身地と居住地が同じである回答者の割合（出身都道府県の回答者数を母数）

※アンケートの調査対象として大阪府居住者を対象にしていない

2-1. 回答者の属性

表：居住地と出身地が同じである回答者の割合（居住都道府県の回答者数を母数）

居住地		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全回答者	回答者数(人)	316	172	164	148	113	124	181	160	223	190
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	293	156	140	120	101	99	156	129	161	153
	割合(%)	92.7	90.7	85.4	81.1	89.4	79.8	86.2	80.6	72.2	80.5

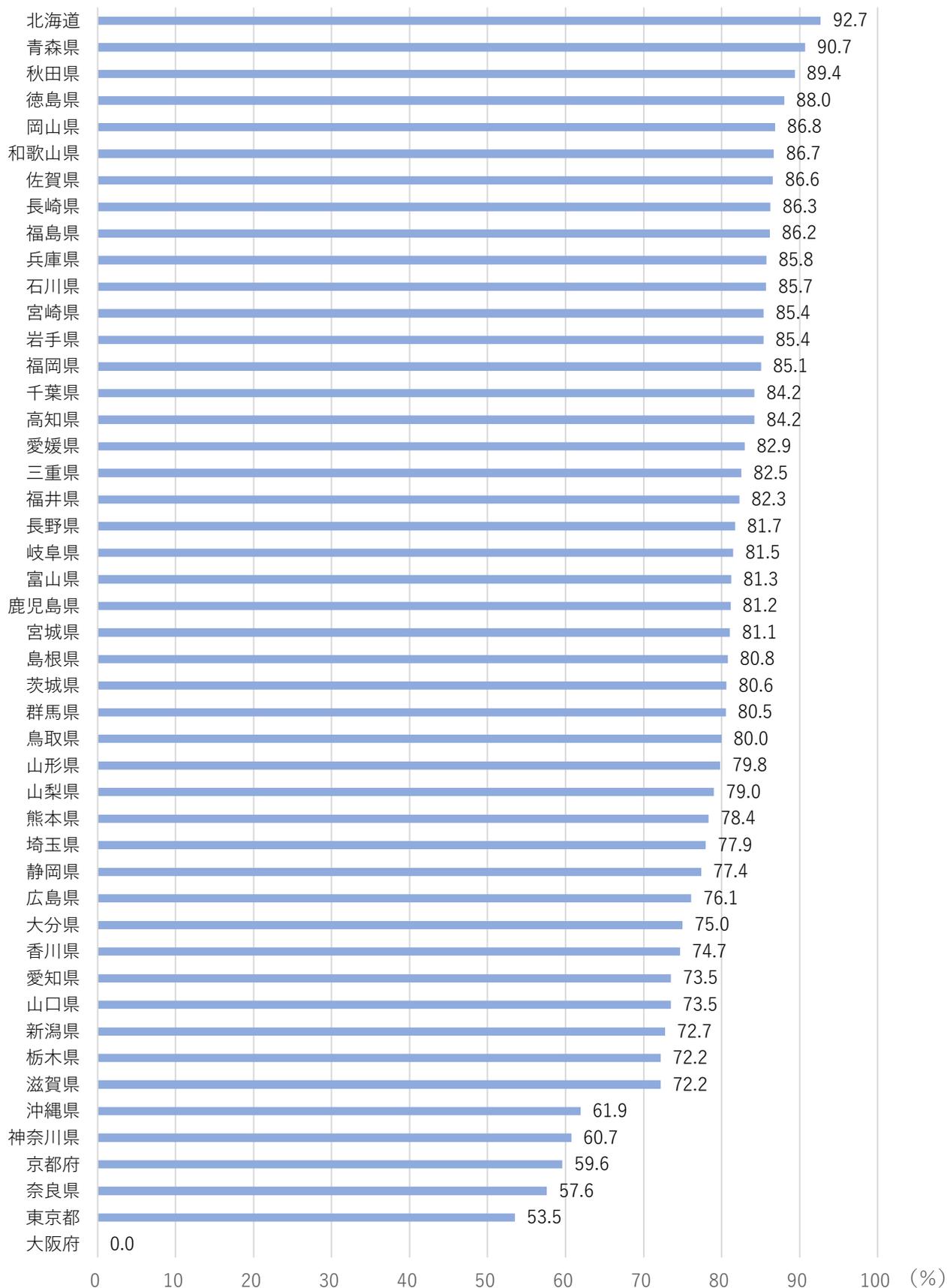
居住地		埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全回答者	回答者数(人)	68	57	2,234	28	33	112	147	79	81	646
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	53	48	1,195	17	24	91	126	65	64	528
	割合(%)	77.9	84.2	53.5	60.7	72.7	81.3	85.7	82.3	79.0	81.7

居住地		岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全回答者	回答者数(人)	254	84	117	103	356	876	0	1,082	92	158
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	207	65	86	85	257	522	0	928	53	137
	割合(%)	81.5	77.4	73.5	82.5	72.2	59.6	0.0	85.8	57.6	86.7

居住地		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全回答者	回答者数(人)	90	401	38	67	49	142	146	170	76	174
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	72	324	33	51	36	125	109	141	64	148
	割合(%)	80.0	80.8	86.8	76.1	73.5	88.0	74.7	82.9	84.2	85.1

居住地		佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	全回答者
全回答者	回答者数(人)	82	131	97	120	89	138	84	10,492
	割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
居住地と出身地が同じ	回答者数(人)	71	113	76	90	76	112	52	7,752
	割合(%)	86.6	86.3	78.4	75.0	85.4	81.2	61.9	73.9

(n = 全回答者数)



図：居住地と出身地が同じである回答者の割合（居住都道府県の回答者数を母数）

2-1. 回答者の属性

表：出身都道府県、居住都道府県の内訳

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
出身都道府県(人)	396	201	184	183	137	133	205	191	197	190
居住都道府県(人)	316	172	163	148	113	124	180	160	221	190

	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
出身都道府県(人)	188	167	1324	166	97	120	156	90	85	591
居住都道府県(人)	68	57	2224	28	33	112	146	78	81	644

	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
出身都道府県(人)	262	122	180	119	297	590	212	1027	84	156
居住都道府県(人)	254	83	117	102	354	860	0	1082	91	157

	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
出身都道府県(人)	107	345	86	111	70	144	136	176	87	249
居住都道府県(人)	89	398	38	67	49	142	145	170	76	174

	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 (海外等)	わからない・答え たくない
出身都道府県(人)	94	157	122	115	101	142	61	30	54
居住都道府県(人)	82	130	95	119	89	135	81	0	0

(n = 全回答者数)

(7) 現在住宅の居住年数

現在住宅の居住年数ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、20年を超えて現在の住宅に住んでいると回答する人が32.8%と最も多く、次いで20年以内が22.5%、10年以内が14.7%となっている。

表：現在住宅の居住年数区分ごとの回答者数

	6か月以内	1年以内	3年以内	5年以内	10年以内	20年以内	それ以上	わからない	全回答者
回答者数(人)	204	197	681	570	1,073	1,639	2,393	543	7,300
割合(%)	2.8	2.7	9.3	7.8	14.7	22.5	32.8	7.4	100.0

(n = 事前登録者数)

※本項目は、回答者が2020年10月以降に事前に登録していたもので回答者数は7,300人に留まっている。

(8) 住居形態

住居形態ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「持ち家一戸建」と回答する人が54.1%と最も多く、次いで「賃貸マンション（アパート・公営を含む）」が26.5%となっている。

表：住居形態区分ごとの回答者数

	持ち家 一戸建	持ち家 マンション (分譲)	賃貸一戸建	賃貸マンション (アパート・公営を 含む)	社宅・寮	その他	全回答者
回答者数(人)	5,646	1,054	321	2,764	347	306	10,438
割合(%)	54.1	10.1	3.1	26.5	3.3	2.9	100.0

(n=全回答者数)

(9) 同居家族人数（本人含む）

同居家族人数（本人含む）ごとの回答者数と割合は下表の通りである。「2人世帯」が最も多く34.3%、続いて「3人世帯」が33.3%、同居平均人数（本人含む）の平均は2.4人となっている。

表：同居家族人数（本人含む）区分ごとの回答者数

	1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人世帯	7人世帯	全回答者
世帯人数（合計）	2,092	7,162	10,419	3,724	1,635	192	14	25,238
回答者数(人)	2,092	3,581	3,473	931	327	32	2	10,438
割合(%)	20.0	34.3	33.3	8.9	3.1	0.3	0.0	100.0

(n=全回答者数)

※世帯人数 / 世帯数 = 25,238 / 10,438 = 2.4178 ≒ 2.4人/世帯

(10) 同居家族

同居家族の属性ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「配偶者」と回答する人が51.7%と最も多く、次いで「子供」が30.1%、「父・母」が26.7%、「なし」が20.0%となっている。

表：同居家族区分ごとの回答者数

	なし	配偶者	子供	父・母	祖父・祖母	兄弟・姉妹	孫・ひ孫	友人・知人	その他	全回答者
回答者数(人)	2,092	5,393	3,139	2,783	321	1,011	123	199	230	10,438
割合(%)	20.0	51.7	30.1	26.7	3.1	9.7	1.2	1.9	2.2	100.0

(n=全回答者数)

(11) 非同居家族

非同居家族の属性ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「兄弟・姉妹」と回答する人が52.3%とお最も多く、次いで「母親」が41.1%、「父親」が35.1%となっている。

表：非同居家族区分ごとの回答者数

	配偶者	(回答者または配偶者の子ども)	父親	母親	兄弟・姉妹	祖父母	孫	あてはまるものはない	全回答者
回答者数(人)	717	2,713	3,614	4,228	5,382	2,225	1,691	1,870	10,295
割合(%)	7.0	26.4	35.1	41.1	52.3	21.6	16.4	18.2	100.0

(n=事前登録者数)

※本項目は、回答者が事前に登録している属性であり、2020年10月以降に確認されたもので、回答者数は一部に留まっている。

(12) 職業

職業ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「会社員」と回答する人が29.1%とお最も多く、次いで「パート・アルバイト」が15.1%、「無職」が13.0%、「専業主婦・専業主夫」が11.8%となっている。

表：職業区分ごとの回答者数

	会社員	会社役員・管理職	公務員・団体職員	自営業	自由業・専門職	派遣・契約社員	パート・アルバイト
回答者数(人)	3,041	481	773	466	298	546	1,581
割合(%)	29.1	4.6	7.4	4.5	2.9	5.2	15.1

	高校生	予備校生	専門学校生・短期大学生・大学生・大学院生	専業主婦・専業主夫	無職	その他	全回答者
回答者数(人)	7	3	351	1,233	1,356	302	10,438
割合(%)	0.1	0.0	3.4	11.8	13.0	2.9	100.0

(n=全回答者数)

※20歳以上を対象としている回答者の職業に「高校生」が含まれているが、登録時のミスまたはシステム登録時（回答者の登録時期による）の情報が現在も変更されずに残っている場合が考えられる。

(13) 業種

業種ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「医療・福祉」と回答する人が9.9%、次いで「その他サービス」が9.2%であり、その他の業種は5%未満となっている（「その他」、「非該当」を除く）。

表：業種区分ごとの回答者数

	農業・林業 ・漁業 ・鉱業	土木・建設 ・不動産 ・建物サー ビス	飲料	食品 ・食品加工	化粧品 ・ヘアケア	日用雑貨 ・トイレタ リー	たばこ	医薬品 ・健康食品	家電製品
回答者数(人)	175	439	41	171	19	24	4	46	69
割合(%)	1.7	4.2	0.4	1.6	0.2	0.2	0.0	0.4	0.7

	自動車 ・バイク	その他 製造業	デパート ・スーパー	コンビニエ ンススト ア・その他 小売	運輸・倉庫 ・物流関連	電気・ガス ・熱供給 ・水道	電気通信業	ソフトウェ ア・情報処 理・その他 の情報サー ビス業	マスコミ ・広告、新 聞・放送業
回答者数(人)	136	570	350	261	417	114	132	230	63
割合(%)	1.3	5.5	3.4	2.5	4.0	1.1	1.3	2.2	0.6

	市場調査 ・シンクタンク	金融・保険 業（銀行・ 証券・保 険・貸金な ど）	飲食 ・宿泊サー ビス	その他 サービス	教育 ・学習支援	医療・福祉	その他	非該当	全回答者
回答者数(人)	6	317	348	964	386	1,031	1,175	2,950	10,438
割合(%)	0.1	3.0	3.3	9.2	3.7	9.9	11.3	28.3	100.0

(n = 全回答者数)

(14) 家族仕事・業種

家族仕事・業種ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「その他サービス」と回答する人が10.5%、次いで「医療・福祉」が9.2%であり、その他の業種は概ね5%未満となっている（「その他」、「非該当」を除く）。

表：家族仕事・業種区分ごとの回答者数

	農業・林業 ・漁業 ・鉱業	土木・建設 ・不動産 ・建物サー ビス	飲料	食品 ・食品加工	化粧品 ・ヘアケア	日用雑貨 ・トイレタ リー	たばこ	医薬品 ・健康食品	家電製品
回答者数(人)	306	570	48	187	23	48	9	59	94
割合(%)	2.9%	5.5%	0.5%	1.8%	0.2%	0.5%	0.1%	0.6%	0.9%

	自動車 ・バイク	その他 製造業	デパート ・スーパー	コンビニエ ンススト ア・その他 小売	運輸・倉庫 ・物流関連	電気・ガス ・熱供給 ・水道	電気通信業	ソフトウェ ア・情報処 理・その他 の情報サー ビス業	マスコミ ・広告、新 聞・放送業
回答者数(人)	192	603	307	184	345	144	121	148	44
割合(%)	1.8%	5.8%	2.9%	1.8%	3.3%	1.4%	1.2%	1.4%	0.4%

	市場調査 ・シンク タ ンク	金融・保険業 (銀行・証 券・保険・貸 金など)	飲食 ・宿泊サー ビス	その他 サービス	教育 ・学習支援	医療・福祉	その他	非該当	全回答者
回答者数(人)	7	265	288	1,098	372	958	3,140	2,092	10,438
割合(%)	0.1%	2.5%	2.8%	10.5%	3.6%	9.2%	30.1%	20.0%	100.0

(n = 全回答者数)

(15) 個人税込年収

個人税込年収ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「300万円未満」と回答する人が11.6%と最も多く、次いで「0円」、「100万円未満」、「200万円未満」と回答する人が各々概ね9%となっている。回答者の約半数は「400万円未満」となっている。

表：個人税込年収区分ごとの回答者数

	0円	100万円 未満	200万円 未満	300万円 未満	400万円 未満	500万円 未満	600万円 未満	700万円 未満	800万円 未満	900万円 未満
回答者数(人)	936	970	1,005	1,206	905	714	457	279	172	121
割合(%)	9.0	9.3	9.6	11.6	8.7	6.8	4.4	2.7	1.6	1.2

	1000万円 未満	1200万円 未満	1500万円 未満	2000万円 未満	2000万円 以上	分からな い	答えたく ない	全回答者
回答者数(人)	83	77	46	16	24	815	2,612	10,438
割合(%)	0.8	0.7	0.4	0.2	0.2	7.8	25.0	100.0

(n = 全回答者数)

(16) 世帯税込年収

世帯税込年収ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「400万円未満」と回答する人が8.3%と最も多く、次いで「300万円未満」、「500万円未満」、「200万円未満」と回答する人が各々概ね8%となっている。

表：世帯税込年収区分ごとの回答者数

	100万円 未満	200万円 未満	300万円 未満	400万円 未満	500万円 未満	600万円 未満	700万円 未満	800万円 未満	900万円 未満	1000万円 未満
回答者数(人)	348	423	830	871	806	695	496	425	297	262
割合(%)	3.3	4.1	8.0	8.3	7.7	6.7	4.8	4.1	2.8	2.5

	1200万円 未満	1500万円 未満	2000万円 未満	2000万円 以上	分からな い	答えたく ない	全回答者
回答者数(人)	269	175	94	81	1,865	2,501	10,438
割合(%)	2.6	1.7	0.9	0.8	17.9	24.0	100.0

(n=全回答者数)

(17) 国内旅行（出張除く）頻度（年間）

国内旅行（出張除く）頻度（年間）ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「1年に1回も行かない」と回答する人が45.9%と約半数を占めており、次いで「1回」、「2~3回」と回答する人が各々概ね20%となっている。

表：国内旅行（出張除く）頻度（年間）区分ごとの回答者数

	1回	2~3回	4~5回	6~7回	8~9回	10回以上	1年に1回も 行かない	全回答者
回答者数(人)	2,067	2,418	569	160	45	146	4,578	9,983
割合(%)	20.7	24.2	5.7	1.6	0.5	1.5	45.9	100.0

(n=事前登録者数)

※本項目は、近年、回答者が事前に登録した属性であり、回答者数は9,983人に留まっている。

(18) 海外旅行（出張除く）頻度（年間）

海外旅行（出張除く）頻度（年間）ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「1年に1回も行かない」と回答する人が91.3%と大半を占めている。

表：海外旅行（出張除く）頻度（年間）区分ごとの回答者数

	1回	2~3回	4~5回	6~7回	8~9回	10回以上	1年に1回も 行かない	全回答者
回答者数(人)	569	231	41	14	3	10	9,115	9,983
割合(%)	5.7	2.3	0.4	0.1	0.0	0.1	91.3	100.0

(n=事前登録者数)

※本項目は、近年、回答者が事前に登録した属性であり、回答者数は9,983人に留まっている。

(19) 1年以内に観光で訪れた都道府県

1年以内に観光で訪れた都道府県（複数回答可）ごとの回答者数と割合は下表の通りである。
回答者は、「観光で訪れた都道府県はない」と回答する人が44.0%と約半数を占めている。

表：1年以内に観光で訪れた都道府県（複数回答可）区分ごとの回答者数

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
回答者数(人)	493	193	220	349	185	240	324	301	467	407
割合(%)	5.1	2.0	2.3	3.6	1.9	2.5	3.4	3.1	4.8	4.2
	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
回答者数(人)	376	543	800	673	264	213	351	261	299	577
割合(%)	3.9	5.6	8.3	7.0	2.7	2.2	3.6	2.7	3.1	6.0
	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
回答者数(人)	328	462	373	351	410	794	691	708	320	232
割合(%)	3.4	4.8	3.9	3.6	4.3	8.2	7.2	7.3	3.3	2.4
	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
回答者数(人)	310	261	347	303	165	171	281	210	188	377
割合(%)	3.2	2.7	3.6	3.1	1.7	1.8	2.9	2.2	2.0	3.9
	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	観光で訪れた都道府県はない	全回答者	
回答者数(人)	143	189	232	233	150	161	251	4,238	9,634	
割合(%)	1.5	2.0	2.4	2.4	1.6	1.7	2.6	44.0	100.0	

(n=事前登録者数)

※本項目は、近年、回答者が事前に登録した属性であり、回答者数は9,634人に留まっている。

(20) 趣味

趣味（複数回答可）ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答者は、「テレビ」と回答する人が42.3%と最も多く、次いで「音楽鑑賞」が41.1%、「国内旅行」が32.2%、「飲食」が29.9%、「映画（邦画）」が29.6%、「映画（洋画）」が28.4%となっている。

本調査とも関係が深い「神社仏閣巡り」は11.8%となっている。

表：趣味区分ごとの回答者数

	音楽鑑賞	楽器演奏	映画 (邦画)	映画 (洋画)	読書・雑誌	テレビ	ゲーム	マンガ
回答者数(人)	4,102	652	2,957	2,831	2,520	4,225	2,190	1,917
割合(%)	41.1	6.5	29.6	28.4	25.3	42.3	21.9	19.2

	アニメ	飲食	お酒	競馬	パチンコ	国内旅行	海外旅行	料理
回答者数(人)	1,752	2,988	2,077	493	468	3,213	1,124	1,769
割合(%)	17.6	29.9	20.8	4.9	4.7	32.2	11.3	17.7

	株・マネー	スポーツ・アウトドア・フィットネスなどの運動	スポーツ観戦	観劇	神社仏閣巡り	美容	健康	手芸・裁縫
回答者数(人)	887	1,570	2,031	626	1,173	1,216	1,366	638
割合(%)	8.9	15.7	20.4	6.3	11.8	12.2	13.7	6.4

	園芸・ガーデニング	日曜大工・DIY	車・バイク	ファッション	パソコン・携帯電話・モバイル	カメラ	カラオケ	レジャー施設（テーマパーク）
回答者数(人)	958	521	1,201	1,378	1,225	651	826	918
割合(%)	9.6	5.2	12.0	13.8	12.3	6.5	8.3	9.2

	温泉	銭湯・サウナ	囲碁・将棋	ボランティア活動	その他	特になし	全回答者
回答者数(人)	2,247	748	185	227	342	807	9,978
割合(%)	22.5	7.5	1.9	2.3	3.4	8.1	100.0

(n=事前登録者数)

※本項目は、回答者が事前に登録している属性であり、回答者数は一部に留まっている。

(21) テレワーク・オンライン授業頻度

テレワーク・オンライン授業頻度ごとの回答者数と割合は下表の通りである。

回答時期にも差があるが約8割が全くテレワークやオンライン授業をしていない。

表：テレワーク・オンライン授業頻度区分ごとの回答者数

	ほぼ毎日	週4~5日	週2~3日	週1日程度	2週間に1日程度	1ヶ月に1日程度	それ未満	テレワーク・オンライン授業・講義はしていない	全回答者
回答者数(人)	262	196	353	247	84	171	645	7,676	9,634
割合(%)	2.7	2.0	3.7	2.6	0.9	1.8	6.7	79.7	100.0

(n=事前登録者数)

※本項目は、回答者が事前に登録している属性であり、2021年4月以降に確認されたもので、回答者数は9,634人に留まっている。

2-2. 単純集計

各質問と回答者数、全回答者数に対する割合について単純集計結果を以下に示す。

なお、単純集計結果については、本調査が日本全国を対象にした調査ではなく特定の調査対象エリアを対象としている調査であり、文化的な背景が色濃いとみられる京都中心区や国宝天守所在市が高い割合で含まれることから日本全体の平均を示しているものではないことを留意する必要がある。

2-2-1. 現在の居住地域での継続居住年数

現在の居住地域（居住地のある同一市町村）に「20年以上」住んでいる方（「20年以上～(33.3%)」と「出生時から(25.7%)」を含む）は、59.0%と過半数以上を占めている。

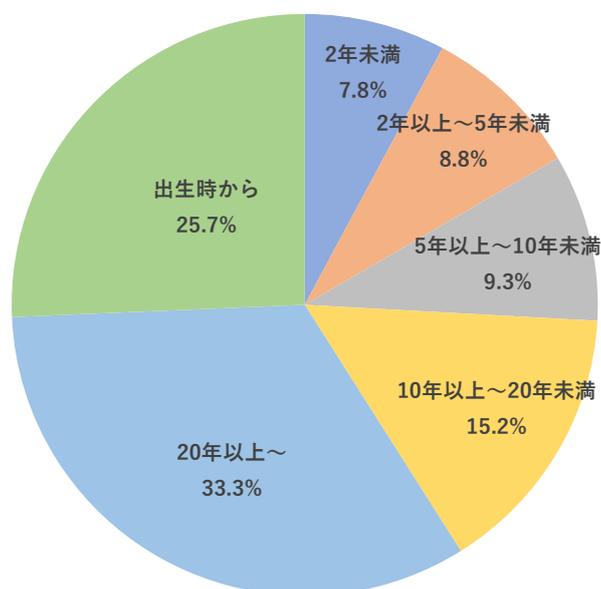
※回答者は20歳以上が対象のため、「出生時から」は自動的に20年以上となる。

Q(1) 現在、お住まいの市区町村に継続して何年住んでいますか？（回答は一つ）

表：現在の居住地域での継続居住年数

	2年未満	2年以上 ～5年未満	5年以上 ～10年未満	10年以上 ～20年未満	20年以上～	出生時から	全回答者
回答者数(人)	811	914	969	1,582	3,476	2,686	10,438
割合(%)	7.8	8.8	9.3	15.2	33.3	25.7	100.0

(n=全回答者数)



図：現在の居住地域での継続居住年数

2-2-2. 居住地域への愛着の度合い

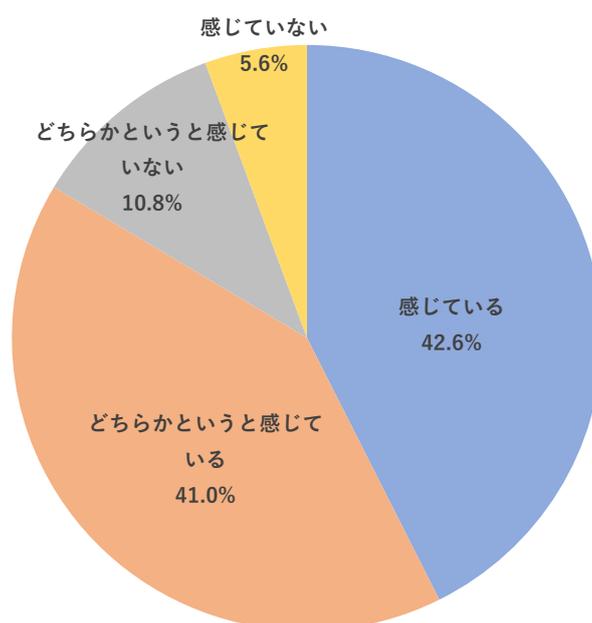
居住地域に愛着を「感じている(42.6%)」または「どちらかというと感じている(41.0%)」と答えた回答者の合計は83.6%と、多くの方が地域への愛着を感じている。

Q(2) お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じていますか？(回答は1つ)「愛着」は、自分にとって「親しみがある」「大事な」と感じられるものとお考え下さい。「お住まいの地域」は、ご自宅を中心として、普段生活されている地域とし、最大でも日常的に利用している交通手段で概ね30分以内に行ける範囲とします。

表：居住地域への愛着の度合い

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない	全回答者
回答者数(人)	4,451	4,277	1,124	586	10,438
割合(%)	42.6	41.0	10.8	5.6	100.0

(n=全回答者数)



図：居住地域への愛着の度合い

2-2-3. 居住地域内で愛着を感じている点

居住地域に愛着を感じている回答者は、居住地域内で愛着を感じている点として、特に「自然環境に恵まれている (47.1%)」「買い物など日常生活が便利 (47.0%)」「自分の家・土地がある (41.4%)」「落ち着いた雰囲気がある (34.0%)」「家族・親戚がいる (33.5%)」「治安や風紀が良い (33.0%)」「通学、通勤に便利 (32.7%)」を選んでいる。

Q(3)A お住まいの地域の、どのような点に愛着(親しみ)を感じていますか？ (回答はいくつでも)
(※Q(2)で「感じている」「どちらかというと感じている」と回答した方に対する質問)

表：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点 (Q(3)A)

	自然環境に恵まれている	気候や風土が良い	まち並みが美しい	伝統・習慣など歴史・文化がある	地名のイメージが良い	治安や風紀が良い	落ち着いた雰囲気がある
回答者数(人)	4,107	2,442	1,146	1,935	1,261	2,884	2,971
割合(%)	47.1	28.0	13.1	22.2	14.4	33.0	34.0

	活気がある	通学、通勤に便利	買い物など日常生活が便利	働くところがある	家族・親戚がいる	友人が多い	自宅近隣との人間関係がある
回答者数(人)	598	2,856	4,102	1,432	2,922	1,830	1,303
割合(%)	6.9	32.7	47.0	16.4	33.5	21.0	14.9

	地域のコミュニティ活動が盛んである	自分の家・土地がある	生まれ育った場所がある	その他(具体的に)	愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない	全回答者
回答者数(人)	510	3,610	2,560	74	158	8,728
割合(%)	5.8	41.4	29.3	0.8	1.8	100.0

(n=Q(2)の居住地域への愛着の度合いで「感じている」又は「どちらかというと感じている」を選択した回答者を母数)

※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-3において整理している

Q(3)B お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じている点があれば、あてはまるもの全てを選んでください。(回答はいくつでも)

(※Q(2)で「どちらかというと感じていない」と回答した方に対する質問)

表：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点 (Q(3)B)

	自然環境に恵まれている	気候や風土が良い	まち並みが美しい	伝統・習慣など歴史・文化がある	地名のイメージが良い	治安や風紀が良い	落ち着いた雰囲気がある
回答者数(人)	285	88	28	85	56	128	152
割合(%)	25.4	7.8	2.5	7.6	5.0	11.4	13.5

	活気がある	通学、通勤に便利	買い物など日常生活が便利	働くところがある	家族・親戚がいる	友人が多い	自宅近隣との人間関係がある
回答者数(人)	25	182	249	97	136	53	34
割合(%)	2.2	16.2	22.2	8.6	12.1	4.7	3.0

	地域のコミュニティ活動が盛んである	自分の家・土地がある	生まれ育った場所がある	その他(具体的に)	愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない	全回答者
回答者数(人)	7	222	86	3	270	1,124
割合(%)	0.6	19.8	7.7	0.3	24.0	100.0

(n=Q(2)の居住地域への愛着の度合いで「どちらかというと感じていない」を選択した回答者を母数)

※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-3において整理している

愛着を感じるようになった点のいずれかを選択した回答者の数 (Q(3)A+Q(3)B) と、居住地域への愛着の度合いで「感じていない」以外を選択した回答者数 (9,852 サンプル) に対する割合を以下に示す。

回答者のうち、3割以上は、「自然環境に恵まれている」(44.6%)、「買い物など日常生活が便利」(44.2%)、「自分の家・土地がある」(38.9%)、「落ち着いた雰囲気がある」(31.7%)、「家族・親戚がいる」(31.0%)、「通学、通勤に便利」(30.8%)をコロナ禍で愛着を感じるようになった点として選択している。

表：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点 (Q(3)A+Q(3)B)

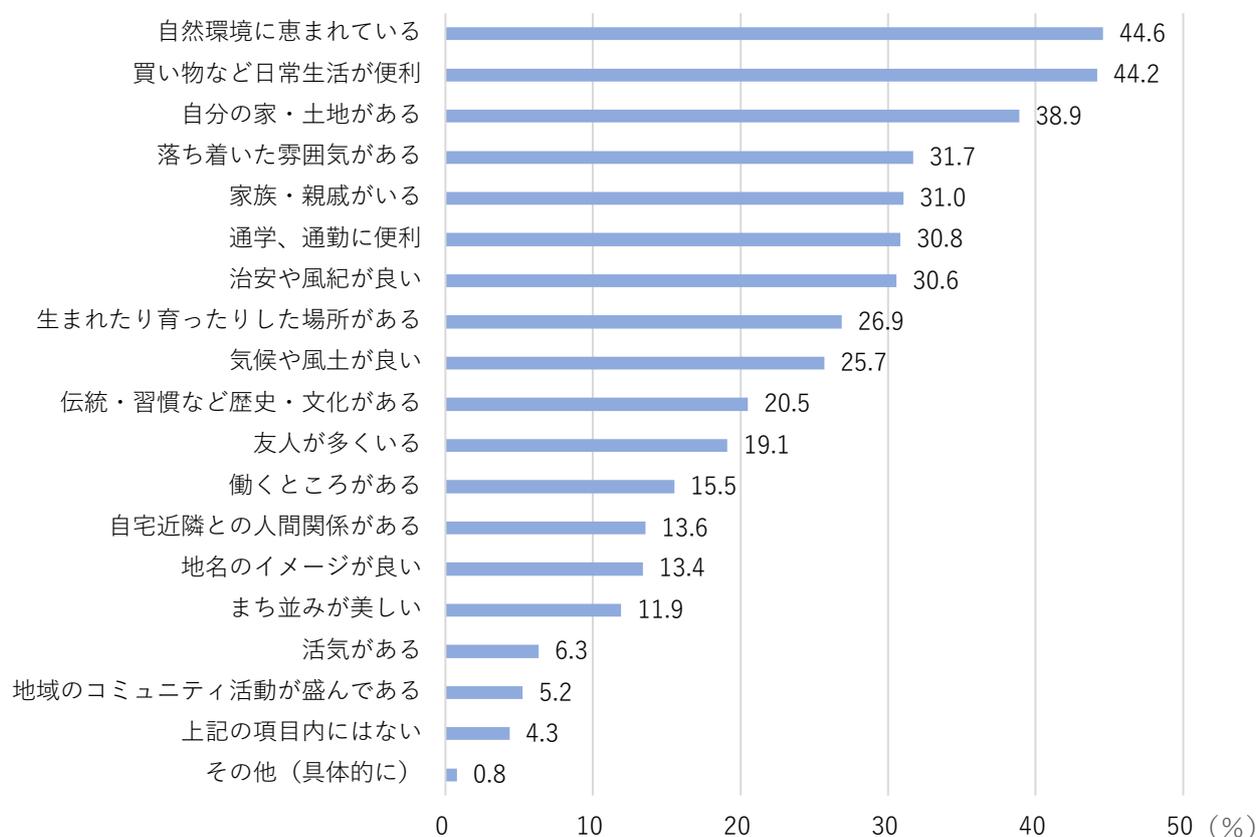
	自然環境に恵まれている	買い物など日常生活が便利	自分の家・土地がある	落ち着いた雰囲気がある	家族・親戚がいる	通学、通勤に便利	治安や風紀が良い
回答者数(人)	4,392	4,351	3,832	3,123	3,058	3,038	3,012
割合(%)	44.6	44.2	38.9	31.7	31.0	30.8	30.6

	生まれたり育ったりした場所がある	気候や風土が良い	伝統・習慣など歴史・文化がある	友人が多くいる	働くところがある	自宅近隣との人間関係がある	地名のイメージが良い
回答者数(人)	2,646	2,530	2,020	1,883	1,529	1,337	1,317
割合(%)	26.9	25.7	20.5	19.1	15.5	13.6	13.4

	まち並みが美しい	活気がある	地域のコミュニティ活動が盛んである	上記の項目内にはない	その他(具体的に)	全回答者
回答者数(人)	1,174	623	517	428	77	9,852
割合(%)	11.9	6.3	5.2	4.3	0.8	100.0

(n=Q(2)の居住地域への愛着の度合いで「感じていない」以外を選択した回答者を母数)

※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-3において整理している



図：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点 (Q(3)A+Q(3)B)

2-2-4. コロナ禍でより愛着を感じるようになった点

Q(3)で選んだ点のうち、コロナ禍の期間中により愛着を感じるようになった点として「買い物など日常生活が便利 (59.6%)」、「家族・親戚がいる (54.4%)」「自然環境に恵まれている ((52.1%)」が特に選ばれている。コロナ禍においても地域内で買い物ができる便利さや、行動制限が課される中で家族が近くに住んでいる良さ、外出して自然環境に接することができることの良さが再認識されたことが読み取れる。

Q(4) 前問Q(3)で選ばれた項目のうち、コロナ禍の期間中(2020年1月～現在)に、愛着(親しみ)をより感じるようになった点(改めて良さを感じた点)がありますか？(回答はいくつでも)

表：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点

	自然環境に恵まれている	気候や風土が良い	まち並みが美しい	伝統・習慣など歴史・文化がある	地名のイメージが良い	治安や風紀が良い	落ち着いた雰囲気がある
回答者数(人)	2,287	996	358	580	330	1,155	1,190
割合(%)	24.3	10.6	3.8	6.2	3.5	12.3	12.6

	活気がある	通学、通勤に便利	買い物など日常生活が便利	働くところがある	家族・親戚がいる	友人が多くいる	自宅近隣との人間関係がある
回答者数(人)	142	1,076	2,594	583	1,663	860	615
割合(%)	1.5	11.4	27.5	6.2	17.6	9.1	6.5

	地域のコミュニティ活動が盛んである	自分の家・土地がある	生まれたり育ったりした場所がある	その他(具体的に)	愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない	全回答者
回答者数(人)	203	1,885	1,013	11	2,195	9,424
割合(%)	2.2	20.0	10.7	0.1	23.3	100.0

(n=Q(2)の居住地域への愛着の度合いで「感じていない」及びQ(3)のコロナ禍でより愛着を感じるようになった点で「愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない」以外を選択した回答者を母数)

※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-4において整理している

Q(3)で選ばれた愛着を感じている点が、Q(4)で愛着をより感じるようになったとされた割合(Q(4) / [Q(3)A+Q(3)B])

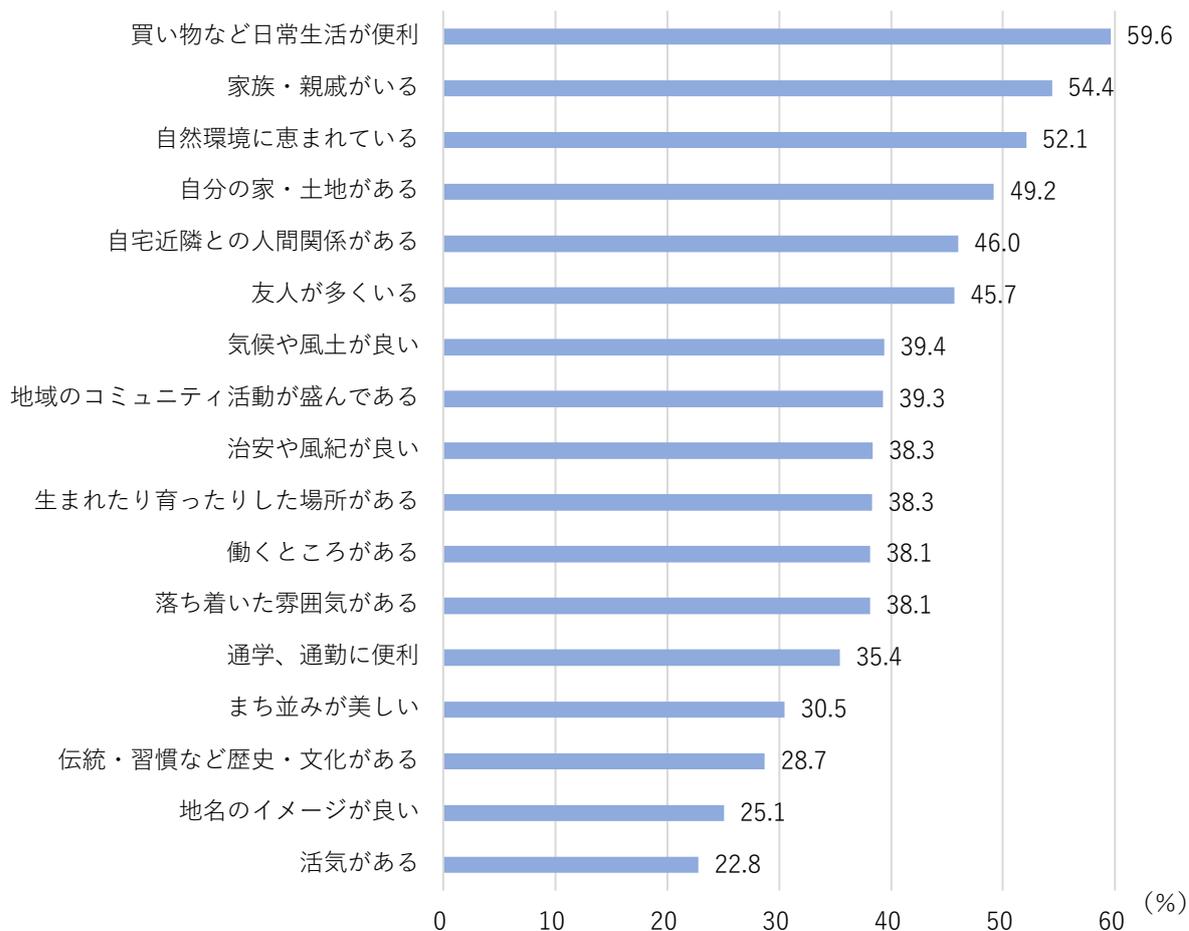
表：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点 (Q(3)A+Q(3)B)

	買い物など日常生活が便利	家族・親戚がいる	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある	自宅近隣との人間関係がある	友人が多くいる	気候や風土が良い
割合(%)	59.6%	54.4%	52.1%	49.2%	46.0%	45.7%	39.4%

	地域のコミュニティ活動が盛んである	治安や風紀が良い	生まれたり育ったりした場所がある	働くところがある	落ち着いた雰囲気がある	通学、通勤に便利	まち並みが美しい
割合(%)	39.3%	38.3%	38.3%	38.1%	38.1%	35.4%	30.5%

	伝統・習慣など歴史・文化がある	地名のイメージが良い	活気がある
割合(%)	28.7%	25.1%	22.8%

(n=全回答者数)



図：コロナ禍でより愛着を感じるようになった点 (Q(3)A+Q(3)B)

2-2-5. 居住地以外に愛着を感じている地域

居住地以外に愛着（親しみ）を感じている地域については、「成人前に住んでいた地域」と答えた回答者が35.9%と最も多く、「現在の居住地だけに親しみを感じている」は25.0%であった（Q(5)A+Q(5)B）。

Q(5)A お住まいの地域以外にも、愛着（親しみ）を感じている地域がありますか？（回答はいくつでも）

表：居住地以外に愛着を感じている地域（Q(5)A）

	現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）	全回答者
回答者数(人)	2608	3113	1691	1833	858	392	8728
割合(%)	29.9	35.7	19.4	21.0	9.8	4.5	100.0

(n=Q(2)の居住地への愛着の度合いで「感じている」又は「どちらかというと感じている」を選択した回答者)

Q(5)B お住まいの地域以外で、愛着（親しみ）を感じている地域がありますか？（回答はいくつでも）

表：居住地以外に愛着を感じている地域（Q(5)B）

	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）	全回答者
回答者数(人)	559	636	302	218	183	74	1710
割合(%)	32.7	37.2	17.7	12.7	10.7	4.3	100.0

(n=Q(2)の居住地への愛着の度合いで「感じていない」又は「どちらかというと感じていない」を選択した回答者)

回答者全数に対する割合（[Q(5)A+Q(5)B]/全回答者数 10,438人）

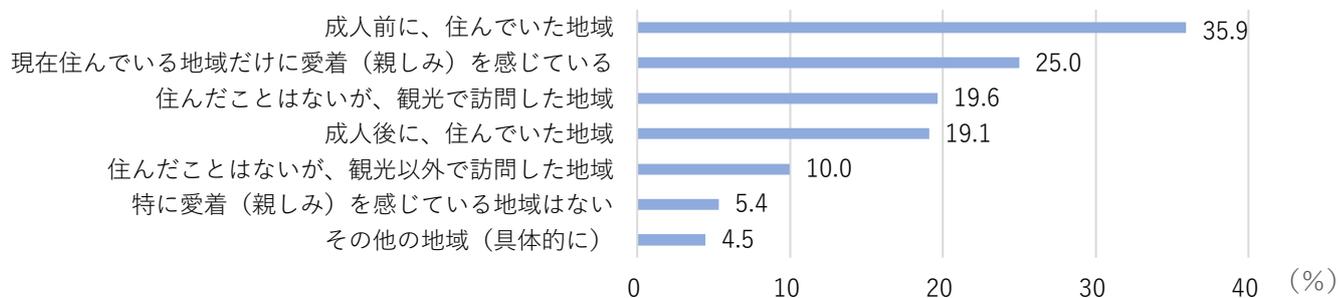
表：居住地以外に愛着を感じている地域（Q(5)A+Q(5)B）

	成人前に、住んでいた地域	現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	住んだことはないが、観光で訪問した地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	その他の地域（具体的に）	全回答者
回答者数(人)	3749	2608	2051	1993	1041	559	466	10,438
割合(%)	35.9	25.0	19.6	19.1	10.0	5.4	4.5	100.0

(n=全回答者数)

※現在住んでいる地域はQ(2)で愛着を「感じている」又は「どちらかというと感じている」と答えた回答者の数

※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-5において整理している



図：居住地以外に愛着を感じている地域（Q(5)A+Q(5)B）

2-2-6. 居住地域で認識している文化遺産

居住地域の文化遺産として認識度が高いものは、「歴史的な建造物 (51.9%)」、「伝統的なお祭りや伝統行事 (30.6%)」、「郷土料理、食文化 (25.1%)」であった。なお、居住地域内で文化遺産が「全くない」を選択した回答者は22.8%であった。

Q(6) お住まいの地域には、どのような文化遺産がありますか？ (回答はいくつでも) 「文化遺産」は、概ね50年以上の歴史文化があるものとお考え下さい。

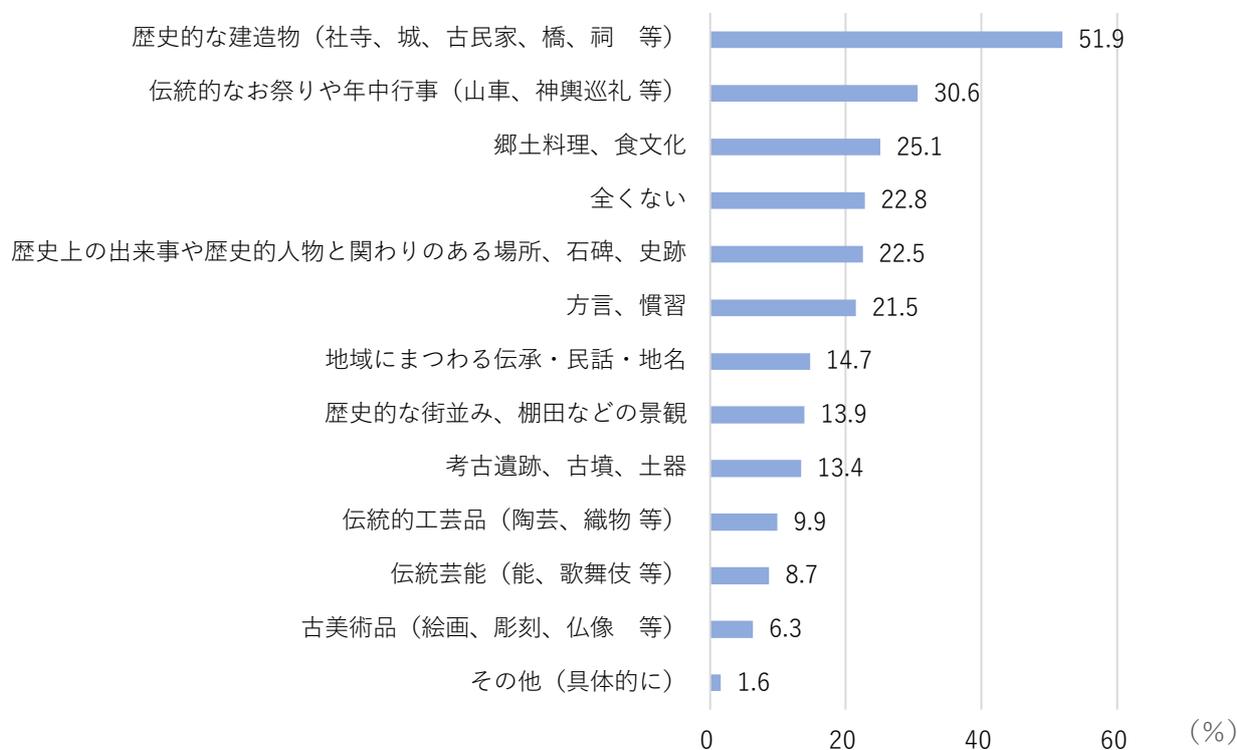
表：居住地域で認識している文化遺産

	歴史的な建造物 (社寺、城、古民家、橋、祠 等)	伝統的なお祭りや年中行事 (山車、神輿巡礼 等)	郷土料理、食文化	全くない	歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡	方言、慣習	地域にまつわる伝承・民話・地名
回答者数(人)	5,422	3,196	2,621	2,378	2,347	2,243	1,536
割合(%)	51.9	30.6	25.1	22.8	22.5	21.5	14.7

	歴史的な街並み、棚田などの景観	考古遺跡、古墳、土器	伝統的工芸品 (陶芸、織物 等)	伝統芸能 (能、歌舞伎 等)	古美術品 (絵画、彫刻、仏像 等)	その他 (具体的に)	全回答者
回答者数(人)	1,446	1,399	1,036	907	653	162	10,438
割合(%)	13.9	13.4	9.9	8.7	6.3	1.6	100.0

(n=全回答者数)

※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-6において整理している



図：居住地域で認識している文化遺産

2-2-7. 居住地域の文化遺産への愛着度合い（個人）

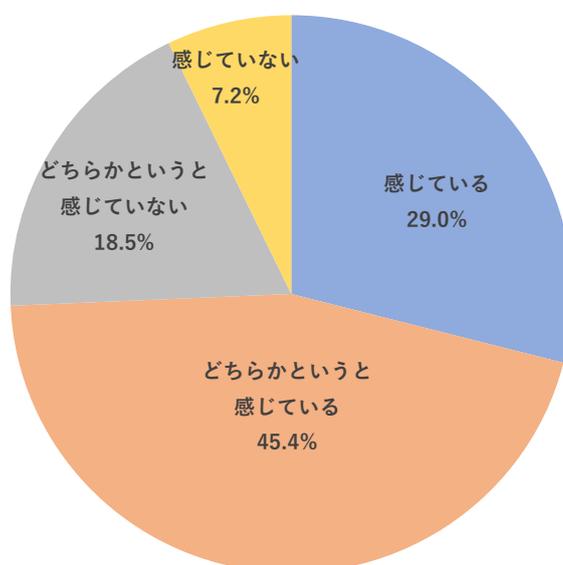
回答者が認識している居住地域の文化遺産への愛着を「感じている（29.0%）」、「どちらかというと感じている（45.4%）」と回答した回答者の合計は74.4%となっており、約3/4の方が居住地域内の文化遺産への愛着を感じている。

Q(7) あなたは、お住まいの地域の文化遺産に愛着（親しみ）を感じていますか？（回答は1つ）

表：居住地域の文化遺産への愛着度合い（個人）

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない	全回答者
回答者数(人)	2,337	3,656	1,489	578	8,060
割合(%)	29.0	45.4	18.5	7.2	100.0

(n=Q(6)の居住地域で認識している文化遺産が「全くない」以外を選択した回答者)



図：居住地域の文化遺産への愛着度合い（個人）

2-2-8. 居住地域の文化遺産への愛着度合い（集団）

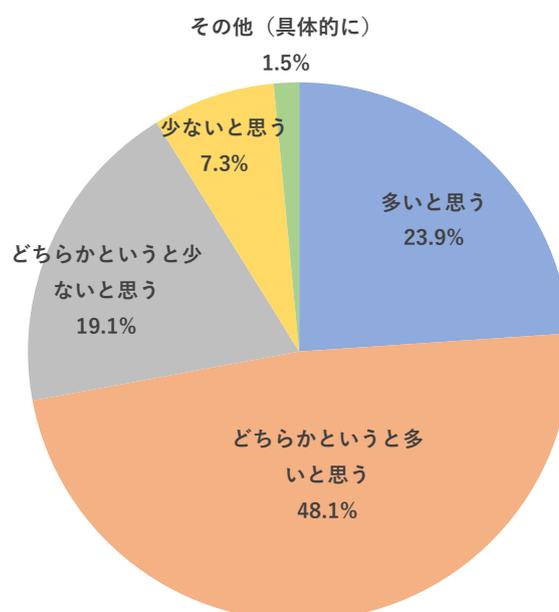
回答者が認識している居住地域の文化遺産に対し、地域住民が愛着を感じている人が「多いと思う（23.9%）」、「どちらかというともいと思う（48.1%）」と回答した回答者の合計は72.0%となっており、約3/4の方が居住地域内の文化遺産に対して「地域住民が愛着を感じている」と考えている。

Q(8) あなた個人ではなく、お住まいの地域の住民の方々は、お住まいの地域の文化遺産に愛着（親しみ）を感じている方が多いと思いますか？（回答は1つ）

表：居住地域の文化遺産への愛着度合い（集団）

	多いと思う	どちらかというともいと思う	どちらかというとも少ないと思う	少ないと思う	その他（具体的に）	全回答者
回答者数(人)	1,929	3,878	1,541	592	120	8,060
割合(%)	23.9	48.1	19.1	7.3	1.5	100.0

(n=Q(6)の居住地域で認識している文化遺産が「全くない」以外を選択した回答者)
※その他の具体的な記述の回答は、第3章の3-1-8において整理している



図：居住地域の文化遺産への愛着度合い（集団）

<居住地域の文化遺産への愛着度合いの個人と集団の違い>

2-2-8と2-2-9を比較した際、自身の回答としては「感じている（29.0%）」、「どちらかというと感じている（45.4%）」と回答した回答者の合計は74.4%である一方、地域住民は愛着を感じている人が「多いと思う（23.9%）」、「どちらかというともいと思う（48.1%）」とした回答者は72.0%よりも多い。自身の回答を「どちらかというと感じていない（18.5%）」、「感じていない（7.2%）」と答えた回答者は25.7%で、地域住民は愛着を感じている人が「どちらかというとも少ないと思う（19.1%）」、「少ないと思う（7.3%）」と併せて26.4%でほぼ同等の数値になっている。

つまり、個人の文化遺産への愛着の度合いと、地域としての愛着の度合いは、ほぼ同等程度と考えられている。ただし、文化遺産への愛着を強く持つ方は、地域の方よりも自身の方が愛着を強く持っていると感じていると調査結果からは読み取れる。

2-2-9. 文化遺産全般への関心

回答者の文化遺産全般に対する「強い関心がある (7.2%)」、「どちらかというに関心がある (44.4%)」と回答した回答者の合計は51.6%となっており、約半数の方が文化遺産全般に対して関心を持っている。

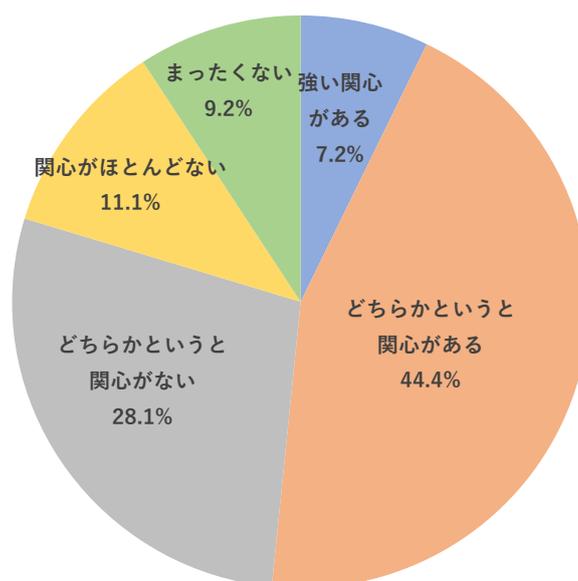
一方で、「どちらかというに関心がない (28.1%)」「関心がほとんどない (11.1%)」「まったくない (9.2%)」と回答した回答者の合計は48.4%となっており、関心の有無についてはおおよそ半々となっている。

Q(9) あなたは、現在、文化遺産全般について、どれくらい関心がありますか？（回答は1つ） コロナ禍の期間中（2020年1月～現在）における、文化遺産への関心と行動の変化について伺います。

表：文化遺産全般への関心

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない	全回答者
回答者数(人)	751	4,638	2,933	1,159	957	10,438
割合(%)	7.2	44.4	28.1	11.1	9.2	100.0

(n=全回答者数)



図：文化遺産全般への関心

2-2-10. コロナ禍での滞在時間の増加傾向

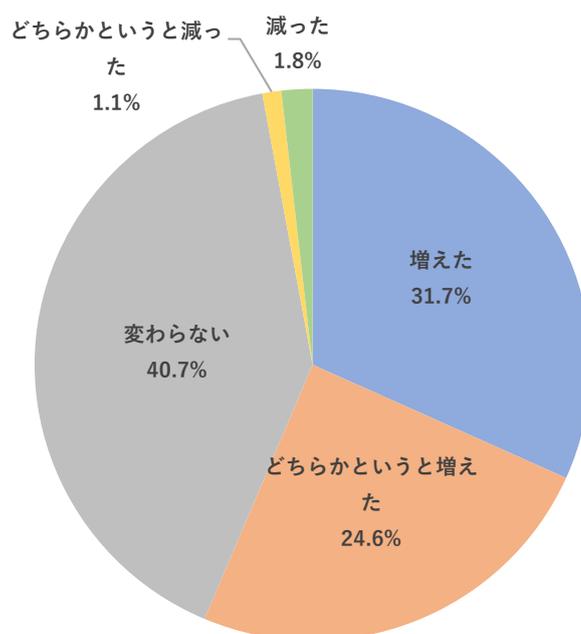
コロナ禍における居住地域での滞在時間は、「増えた (31.7%)」、「どちらかというが増えた (24.6%)」と回答した回答者の合計は 56.3% であり、過半数の回答者が滞在時間は増加したと回答している。約 4 割の回答者が「変わらない (40.7%)」と回答しており、「減った (1.8%)」、「どちらかというが減った (1.1%)」と答えた回答者を合わせても滞在時間が減ったと考えている回答者は 2.9% にとどまっている。

Q(10) コロナ禍以前 (2018～2019 年の 2 年間) と比べ、お住まいの地域に滞在している時間が増えたと思えますか? (回答は 1 つ)

表：コロナ禍での滞在時間の増加傾向

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った	全回答者
回答者数(人)	3,055	2,364	3,923	110	175	9,627
割合(%)	31.7	24.6	40.7	1.1	1.8	100.0

(n=Q(1)の居住年数が「①2年未満」以外を選択した回答者)



図：コロナ禍での滞在時間の増加傾向

2-2-11. コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

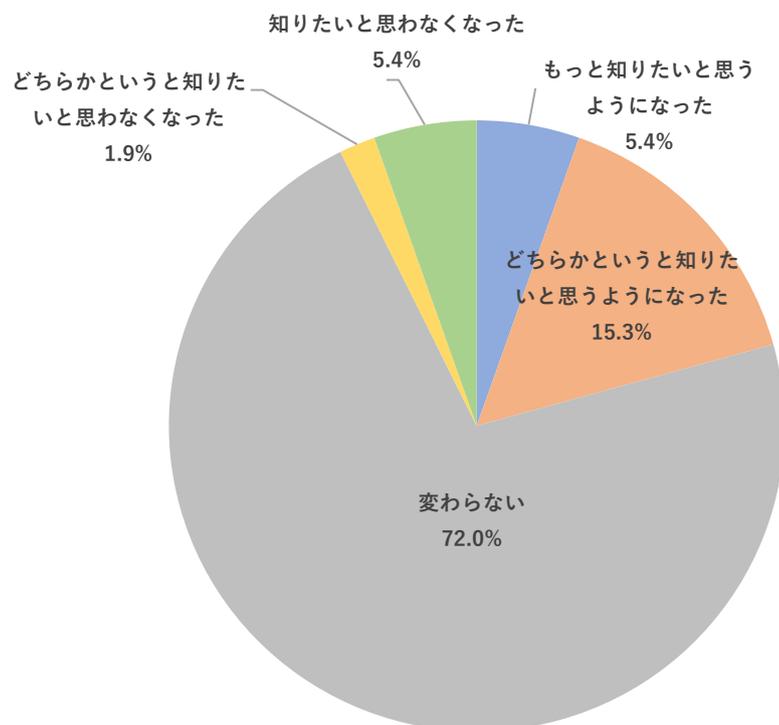
コロナ禍で居住地域への文化遺産への関心は、「変わらない」とする回答者が72.0%と過半数を占める一方で、「もっと知りたいと思うようになった(5.4%)」、「どちらかという知りたいと思うようになった(15.3%)」と回答した回答者の合計は20.7%であった。その一方で、「知りたいと思わなくなった(5.4%)」、「どちらかという知りたいと思わなくなった(1.9%)」と回答した回答者の合計は7.3%に留まった。

Q(11) コロナ禍の期間中、緊急事態宣言等による移動制限を受けて、お住まいの地域の歴史や文化、つまり文化遺産のことを、もっと知りたいと思うようになりましたか？ (回答は1つ)

表：コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった	全回答者
回答者数(人)	567	1,595	7,518	197	561	10,438
割合(%)	5.4	15.3	72.0	1.9	5.4	100.0

(n=全回答者数)



図：コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

2-2-12. コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増加有無

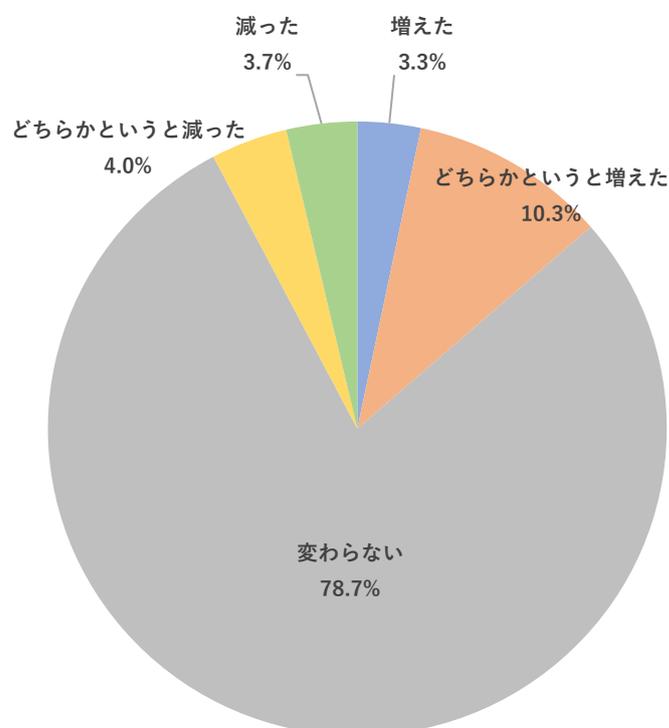
コロナ禍の居住地域の文化遺産を知る機会は、「変わらない」とする回答者が78.7%と過半数を占める一方で、「増えた(3.3%)」、「どちらかというが増えた(10.3%)」と回答した回答者の合計は20.7%であった。その一方で、「減った(3.7%)」、「どちらかというが減った(4.0%)」と回答した回答者の合計は7.7%に留まった。

Q(12) コロナ禍の期間中にお住まいの地域の文化遺産を知る機会は増えたと思いますか？ (回答は1つ)

表：コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増加有無

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った	全回答者
回答者数(人)	346	1,077	8,215	414	386	10,438
割合(%)	3.3	10.3	78.7	4.0	3.7	100.0

(n = 全回答者数)



図：コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増加有無

2-2-13. コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

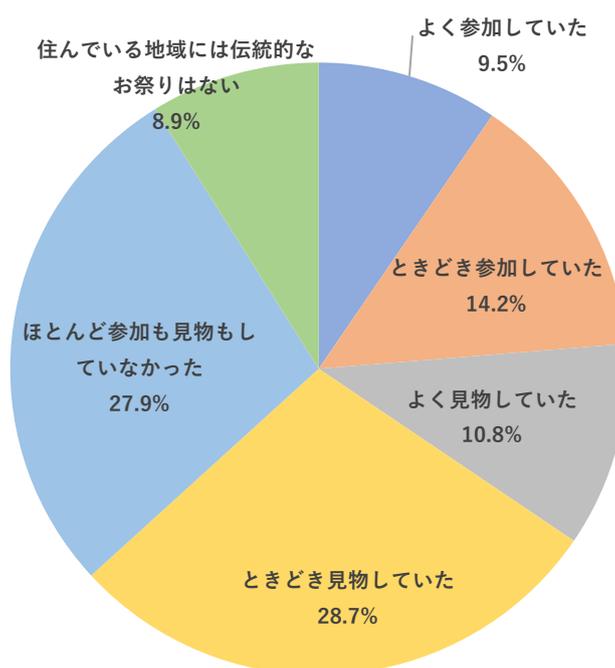
コロナ禍以前の回答者のお祭りへの参加度合いは、「良く参加していた (9.5%)」「ときどき参加していた (14.2%)」「よく見学していた (10.8%)」「ときどき見物していた (28.7%)」というような自身の関与を示す回答は合わせて73.2%となっており、大多数がお祭りに多少関与していることが見て取れる。その一方で、「ほとんど参加も見物をしていなかった」とする回答者は27.9%、「住んでいる地域には伝統的な祭りがない」とする回答者は8.9%であった。

Q(13) コロナ禍以前、お住まいの地域で行われる伝統的なお祭り（年中行事含む）に、参加または見物をしていましたか？ もっとも実感に近いものを1つ選んでください。（回答は1つ）

表：コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない	全回答者
回答者数(人)	990	1,480	1,128	2,996	2,910	934	10,438
割合(%)	9.5	14.2	10.8	28.7	27.9	8.9	100.0

(n=全回答者数)



図：コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

2-2-14. コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

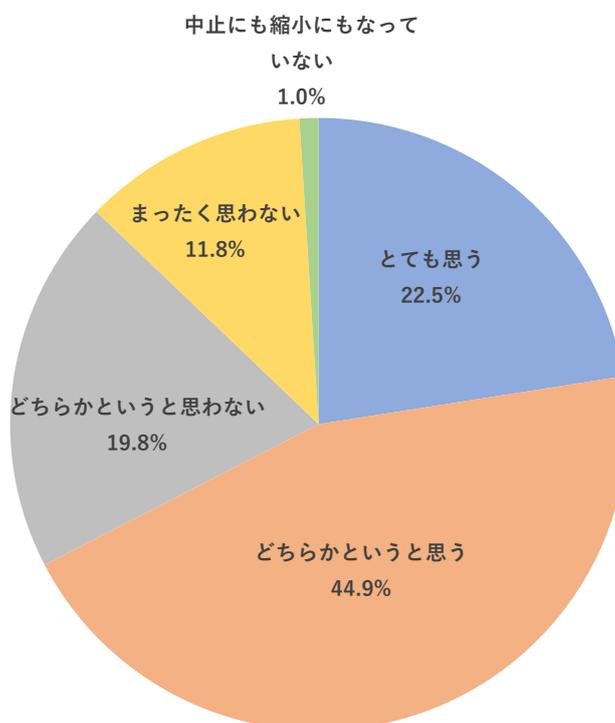
コロナ禍によるお祭り中止に対して「さみしい」と思う回答者の割合は、「とても思う (22.5%)」「どちらかというと思う (44.9%)」を合わせて67.4%となっており、回答者の2/3以上を占めた。それに対し、「どちらかというと思わない (19.8%)」「まったく思わない (11.8%)」を合わせて31.6%、「中止にも縮小にもなっていない」と答えた回答者は1.0%であった。

Q(14) コロナ禍の期間中に、お住まいの地域でいつも行われていた伝統的なお祭りが、中止・縮小になったことを「さみしい」と思いますか？ (回答は1つ)

表：コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

	とても思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	まったく思わない	中止にも縮小にも なっていない	全回答者
回答者数(人)	2,141	4,267	1,881	1,121	94	9,504
割合(%)	22.5	44.9	19.8	11.8	1.0	100.0

(n=Q(13)で「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない」以外を選択した回答者)



図：コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

2-2-15. コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

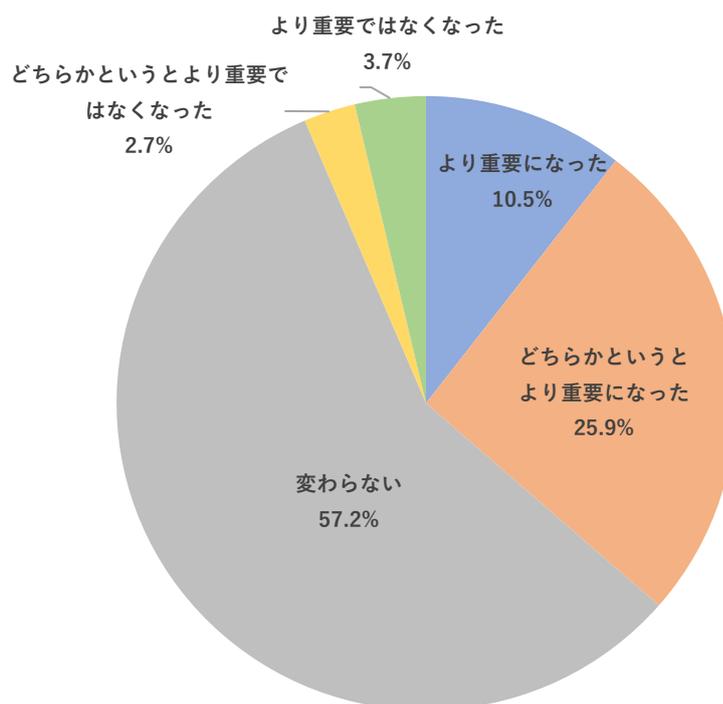
コロナ禍を機に地域愛着に対する文化遺産の重要度は、「変わらない」と回答した人が57.1%と過半数を超える一方で、「より重要になった(10.5%)」、「どちらかというより重要になった(25.9%)」を合わせ、重要になったと感じた回答者は36.4%となっている。その一方で、「どちらかというより重要ではなくなった(2.7%)」「より重要ではなくなった(3.7%)」を合わせて6.4%に留まった。

Q(15) コロナ禍を機会として、お祭り等の文化遺産は、お住まいの地域への愛着(親しみ)にとって、より重要なものになったと思いますか？(回答は1つ)

表：コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

	より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった	全回答者
回答者数(人)	1,098	2,705	5,965	286	384	10,438
割合(%)	10.5	25.9	57.1	2.7	3.7	100.0

(n=全回答者数)



図：コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い



3. 比較分析

3. 比較分析

3-1. 調査対象エリアによる比較

「A-1 東京都区部」、「A-2 地方圏県庁所在地」、「A-3 地方圏町村」、「B-1 京都市中心部」、「B-2 国宝天守所在市」の5つの調査対象エリア（以下、エリア）ごとの回答結果を比較する。

なお、各エリアの母数は以下の通りであり、京都市中心部は母数が少ないことに留意が必要である。

表：調査対象エリアの回答者数

調査対象エリア	A-1 東京都区部	A-2 地方圏県庁所在地	A-3 地方圏町村	B-1 京都市中心部	B-2 国宝天守所在市
回答者数（人）	2,211	2,576	3,037	843	2,150

※松江市の回答者はA-2にもB-2にも含まれるが、全回答者の割合については重複していない。

3-1-1. エリア×継続居住年数

A-1 東京都区部に住んでいる回答者うち同区内での継続居住年数が「2年未満」である割合は10.8%、「2年以上～5年未満」も11.5%となっており、他のエリアと比べて高い割合になっている。一方で「出生時から」住んでいると答えた回答者は16.1%と、他のエリアと比較して顕著に少ない割合となっている。

B-1 京都市中心部では、同一市内での継続居住年数が「2年未満」の回答者は他都市と同等程度であるものの、「20年以上～」（25.9%）と「出生時から」（26.9%）を合わせても52.8%とA-1 東京都区部と同様に少ない割合であった。

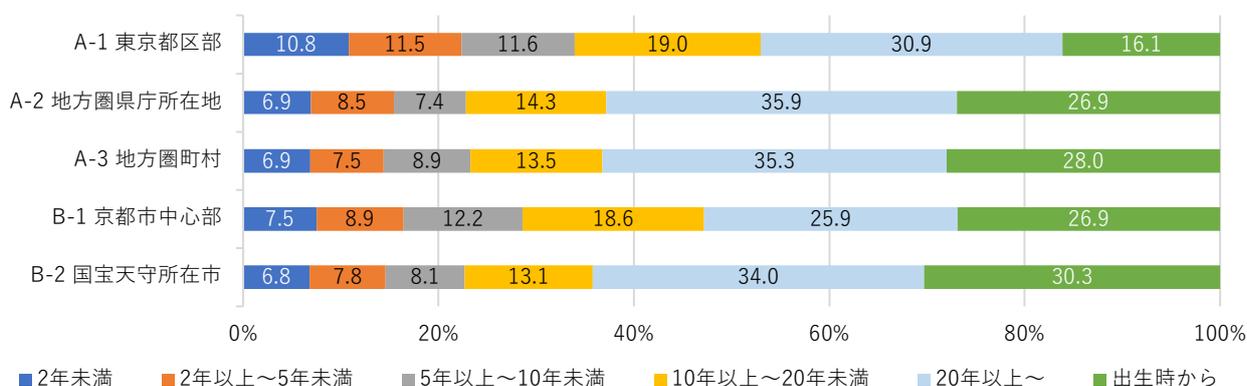
三大都市圏（A-1、B-2）は地方圏（A-2、A-3、B-2）と比較して継続居住年数が短い傾向が見られた。

表：エリア×継続居住年数

	2年未満	2年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上～	出生時から
全回答者	7.7%	8.7%	9.2%	15.1%	33.6%	25.7%
A-1 東京都区部	10.8%	11.5%	11.6%	19.0%	30.9%	16.1%
A-2 地方圏県庁所在地	6.9%	8.5%	7.4%	14.3%	35.9%	26.9%
A-3 地方圏町村	6.9%	7.5%	8.9%	13.5%	35.3%	28.0%
B-1 京都市中心部	7.5%	8.9%	12.2%	18.6%	25.9%	26.9%
B-2 国宝天守所在市	6.8%	7.8%	8.1%	13.1%	34.0%	30.3%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------



図：エリア×継続居住年数

3-1-2. エリア×居住地域への愛着の度合い

調査対象エリアごとで、居住地域に愛着を「感じている」「どちらかというと感じている」の割合を合わせて比較すると、概ね居住地域への愛着の度合いは大きくは変わらず、78.8%~86.3%の範疇に収まっている。

その中でも A-3 地方圏町村では「愛着を感じている」と答えた割合が35.3%と他エリアと比較して顕著に低く、「どちらかというと感じている(43.5%)」をあわせても5つのエリアの中で最も低い割合(78.8%)に留まっている。

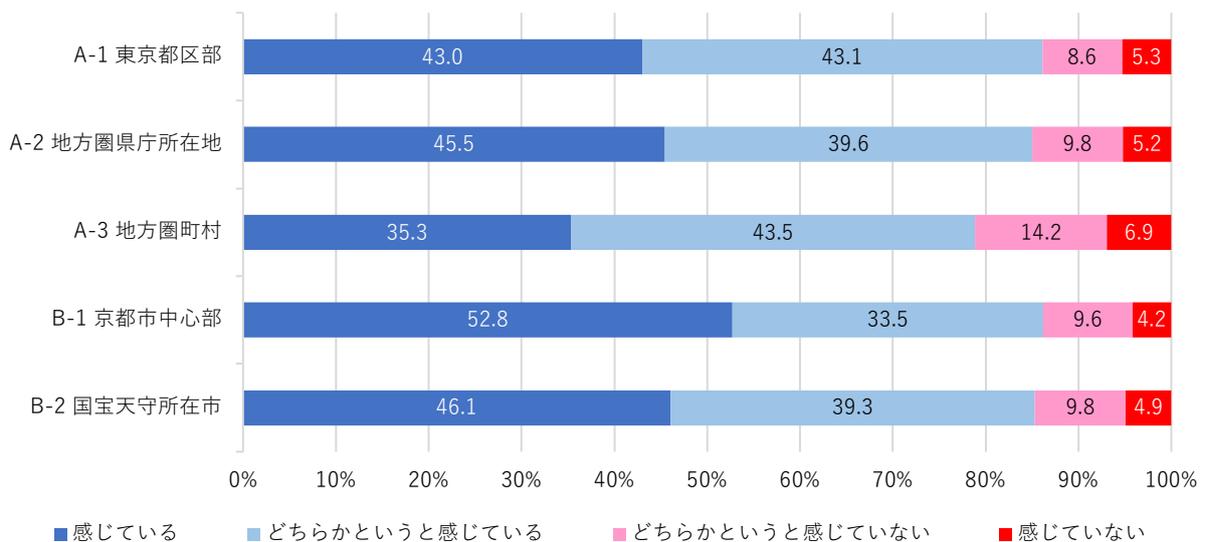
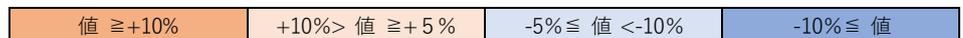
一方、B-1 京都市中心部は「感じている(52.8%)」と「どちらかというと感じている」を合わせた割合は86.3%と東京都区部の86.1%と対してほぼ変わらないものの、愛着を「感じている」とした割合が52.8%と突出して高い割合だった。

調査結果からは、居住地域への愛着度合いは、三大都市圏でも地方圏でも歴史文化が強いエリアでも大きくは変わらないものの、地方圏の町村においては愛着度合いが若干下がること、歴史文化が強いエリアは地域により強い愛着を感じている傾向が読み取れる。

表：エリア×居住地域への愛着の度合い

	感じている	どちらかという 感じている	どちらかという 感じている	感じている
全回答者	42.8%	40.9%	10.8%	5.6%
A-1 東京都区部	43.0%	43.1%	8.6%	5.3%
A-2 地方圏県庁所在地	45.5%	39.6%	9.8%	5.2%
A-3 地方圏町村	35.3%	43.5%	14.2%	6.9%
B-1 京都市中心部	52.8%	33.5%	9.6%	4.2%
B-2 国宝天守所在地	46.1%	39.3%	9.8%	4.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×居住地域への愛着の度合い

3-1-3. エリア×愛着を感じる点

エリアごとの居住地域内の愛着を感じる点について比較する。

Q(3)A お住まいの地域の、どのような点に愛着(親しみ)を感じていますか？ (回答はいくつでも)

(※Q(2)で「感じている」「どちらかというと感じている」と回答した方に対する質問)

+

Q(3)B お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じている点があれば、あてはまるもの全てを選んでください。(回答はいくつでも) (※(Q2)で「どちらかというと感じていない」と回答した方に対する質問)

愛着を感じる各項目を選んだ回答者の数 (Q(3)A+Q(3)B) と全回答者 (10,438 サンプル) に対する割合

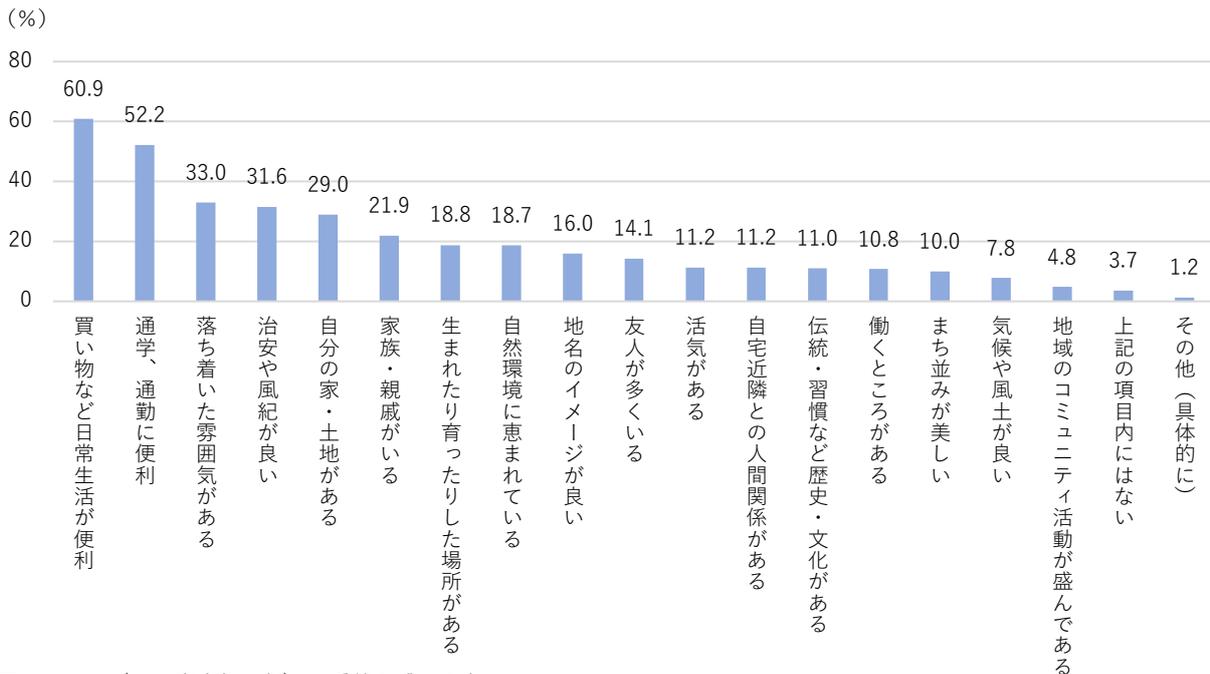
A-1 東京都区部

居住地域に愛着を感じている点として、最も高い割合で選ばれたものが「買い物など日常生活が便利」で60.9%、続いて「通学、通勤に便利」が52.2%と生活利便性に関する項目に高い割合を示した。

表：エリア (A-1 東京都区部) × 愛着を感じる点

	買い物など日常生活が便利	通学、通勤に便利	落ち着いた雰囲気がある	治安や風紀が良い	自分の家・土地がある	家族・親戚がいる	生まれたり育ったりした場所がある	自然環境に恵まれている	地名のイメージが良い	友人が多くいる
A-1 東京都区部	60.9%	52.2%	33.0%	31.6%	29.0%	21.9%	18.8%	18.7%	16.0%	14.1%

	活気がある	自宅近隣との人間関係がある	伝統・習慣など歴史・文化がある	働くところがある	まち並みが美しい	気候や風土が良い	地域のコミュニティ活動が盛んである	上記の項目内にはない	その他(具体的に)
A-1 東京都区部	11.2%	11.2%	11.0%	10.8%	10.0%	7.8%	4.8%	3.7%	1.2%



図：エリア (A-1 東京都区部) × 愛着を感じる点

居住地域に愛着を感じている点を問う設問に対する「その他の回答」として、26件の回答があり、そのうち有効回答は25件であった。主な意見について以下に示す。

○利便性の良さ

- ・通院に便利
- ・通院に便利
- ・遠方への移動の際のアクセスが良いこと
- ・実家に近い
- ・子育てしやすい
- ・美味しい魚がスーパーで手頃な値段で購入できる。
- ・季節ごとの野菜果物が充実。近くに温泉がある
- ・沿線が他に比べそこまで混まない
- ・飲み屋がたくさんある
- ・東大が近くにある
- ・母校が近い
- ・おいしいお店がある
- ・駅近くで家族の通勤に便利なので住んでいる

○近所付き合いの良さ

- ・近所に知り合いがいらないので楽
- ・何より人が温かい
- ・好きな店がある
- ・下町で親しみやすい
- ・治安が悪いからこそその近隣の人達との助け合いと無関心さがちょうど良い
- ・自治会が良く機能している

○自然環境の良さ

- ・畑がある
- ・景色が良い

○地域の行事

- ・祭りがある

○昔から馴染みがある

- ・当たり前になった
- ・大学生の時から住んでいて、種々の事物に馴染んでいる。

○災害等への対策

- ・災害がほとんどない

○治安の悪さ

- ・治安、風紀が余り良くない。

A-2 地方圏県庁所在市

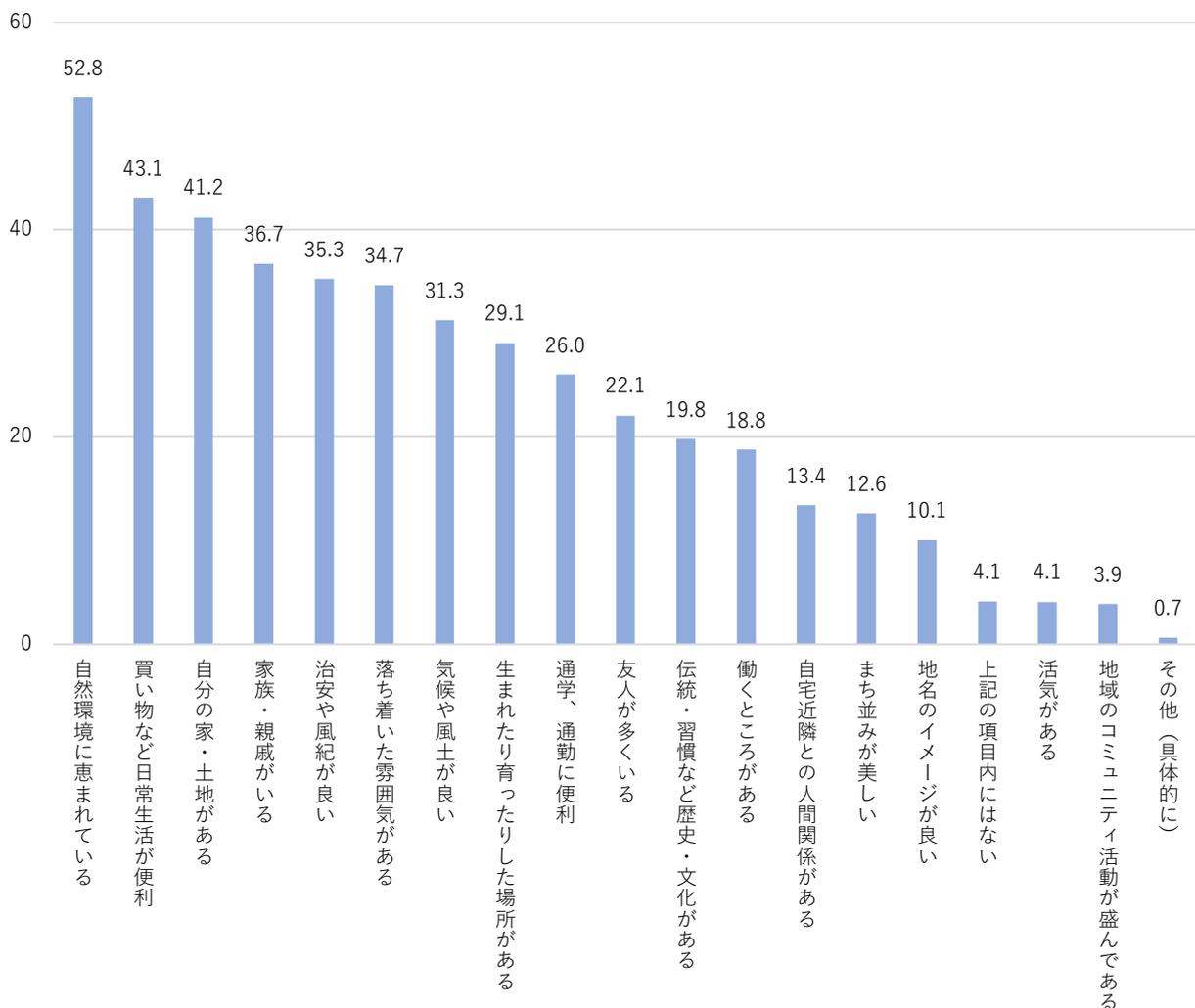
居住地域に愛着を感じている点として、最も高い割合で選ばれたものが「自然環境に恵まれている」で52.8%、続いて「買い物など日常生活が便利(43.1%)」、「自分の家・土地がある(41.2%)」、「家族・親戚がいる(36.7%)」、「治安や風紀が良い(35.3%)」、「落ち着いた雰囲気がある(34.7%)」と生活利便性や周辺環境、近隣に家族や親戚がいるなど、多様な項目に高い愛着度合いを示した。

表：エリア（A-2 地方圏県庁所在市）×愛着を感じる点

	自然環境に恵まれている	買い物など日常生活が便利	自分の家・土地がある	家族・親戚がいる	治安や風紀が良い	落ち着いた雰囲気がある	気候や風土が良い	生まれたり育ったりした場所がある	通学、通勤に便利	友人が多くいる
A-2 地方圏県庁所在市	52.8%	43.1%	41.2%	36.7%	35.3%	34.7%	31.3%	29.1%	26.0%	22.1%

	伝統・習慣など歴史・文化がある	働くところがある	自宅近隣との人間関係がある	まち並みが美しい	地名のイメージが良い	上記の項目内にはない	活気がある	地域のコミュニティ活動が盛んである	その他（具体的に）
A-2 地方圏県庁所在市	19.8%	18.8%	13.4%	12.6%	10.1%	4.1%	4.1%	3.9%	0.7%

(%)



図：エリア（A-2 地方圏県庁所在市）×愛着を感じる点

居住地域に愛着を感じている点を問う設問に対する「その他の回答」として、15件の回答があり、そのうち有効回答は13件であった。主な意見について以下に示す。

○利便性の良さ

- ・おいしいものが食べられるお店がいっぱいある、観光地である
- ・ご飯がうまい
- ・食の美味しさ プロスポーツキャンプ
- ・食べ物が美味しい

○自然環境の良さ

- ・山あり海あり
- ・晴れが多い、ほどよい田舎

○昔から馴染みがある

- ・転勤族だったので長く住んだところだから
- ・親のお墓がある
- ・慣れているから
- ・親の都合で転勤を繰り返し、現在の場所に落ち着きました
- ・地元が良い

○災害等への対策

- ・災害が少ない
- ・自然災害が少ない

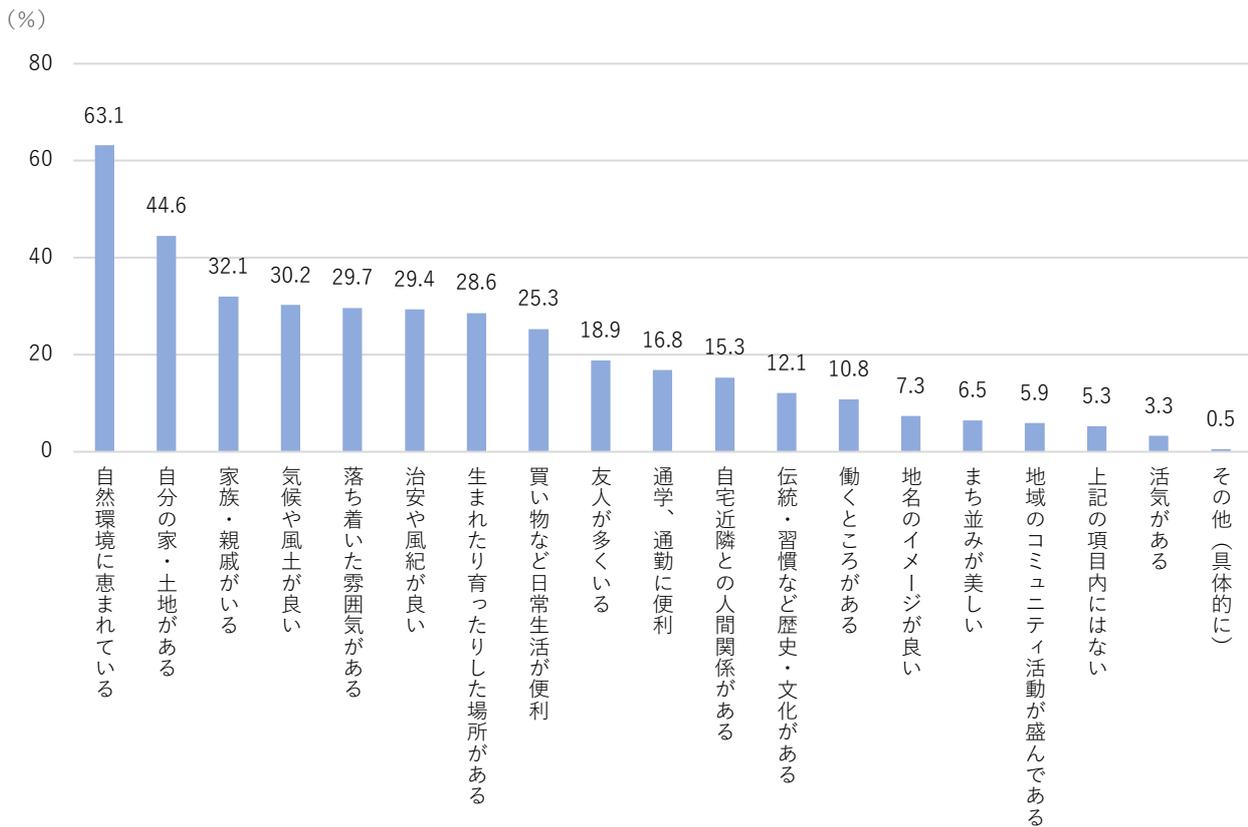
A-3 地方圏町村

居住地域に愛着を感じている点として、最も高い割合で選ばれたものが「自然環境に恵まれている」が圧倒的で63.1%となり、続いて「自分の家・土地がある」(44.6%)であった。次に「家族・親戚がいる」(32.1%)、「気候や風土が良い」(30.2%)と続くが回答者の1/3よりも少ない割合となっており、全体的に居住地域内に愛着を感じる点が少ない。

表：エリア (A-3 地方圏町村) × 愛着を感じる点

	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある	家族・親戚がいる	気候や風土が良い	落ち着いた雰囲気がある	治安や風紀が良い	生まれたり育ったりした場所がある	買い物など日常生活が便利	友人が多い	通学、通勤に便利
A-3 地方圏町村	63.1%	44.6%	32.1%	30.2%	29.7%	29.4%	28.6%	25.3%	18.9%	16.8%

	自宅近隣との人間関係がある	伝統・習慣など歴史・文化がある	働くところがある	地名のイメージが良い	まち並みが美しい	地域のコミュニティ活動が盛んである	上記の項目内にはない	活気がある	その他(具体的に)
A-3 地方圏町村	15.3%	12.1%	10.8%	7.3%	6.5%	5.9%	5.3%	3.3%	0.5%



図：エリア (A-3 地方圏町村) × 愛着を感じる点

居住地域に愛着を感じている点を問う設問に対する「その他の回答」として、15件の回答があり、そのうち有効回答は15件であった。主な意見について以下に示す。

○利便性の良さ

- ・空港、インターが近い
- ・交通機関がある
- ・公共交通機関が充実している

○自然環境の良さ

- ・北アルプスの景観が良い
- ・海が綺麗

○災害等への対策

- ・災害が少ない
- ・山に囲まれているので地震に強い

○治安の良さ

- ・治安がいい

○暮らしやすさ

- ・暮らしやすい
- ・住めば都と言う言葉を真に受けている
- ・静か

○温泉

- ・温泉
- ・近くに温泉がある

○その他

- ・動物の飼育
- ・結婚した町

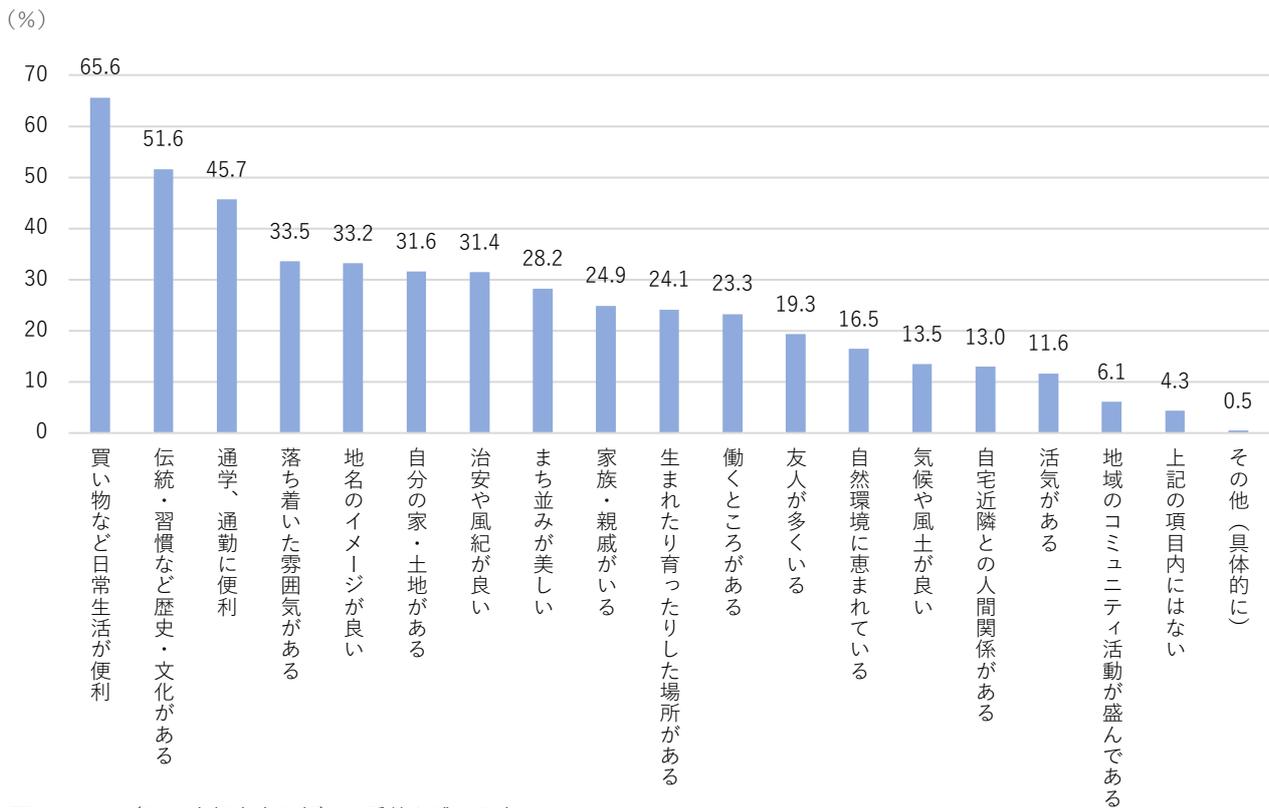
B-1 京都市中心部

居住地域に愛着を感じている点として、最も高い割合で選ばれたものが「買い物など日常生活が便利」で65.6%、続いて「伝統・習慣など歴史・文化がある」(51.6%)、「通学、通勤に便利」(45.7%)、「落ち着いた雰囲気がある」(33.5%)であった。大都市の中心部で生活の利便性への愛着と、歴史・文化に高い愛着を示した。

表：エリア (B-1 京都市中心部) × 愛着を感じる点

	買い物など日常生活が便利	伝統・習慣など歴史・文化がある	通学、通勤に便利	落ち着いた雰囲気がある	地名のイメージが良い	自分の家・土地がある	治安や風紀が良い	まち並みが美しい	家族・親戚がいる	生まれたり育ったりした場所がある
B-1 京都市中心部	65.6%	51.6%	45.7%	33.5%	33.2%	31.6%	31.4%	28.2%	24.9%	24.1%

	働くところがある	友人が多い	自然環境に恵まれている	気候や風土が良い	自宅近隣との人間関係がある	活気がある	地域のコミュニティ活動が盛んである	上記の項目内にはない	その他(具体的に)
B-1 京都市中心部	23.3%	19.3%	16.5%	13.5%	13.0%	11.6%	6.1%	4.3%	0.5%



図：エリア (B-1 京都市中心部) × 愛着を感じる点

居住地域に愛着を感じている点を問う設問に対する「その他の回答」として、4件の回答があり、そのうち有効回答は4件であった。主な意見について以下に示す。

○近所付き合いの良さ

・転入者である自身を受け入れてくれた

・下町

○自然環境の良さ

・環境が気に入り 30 年前に購入しました

○知名度の高さ

・世界的知名度

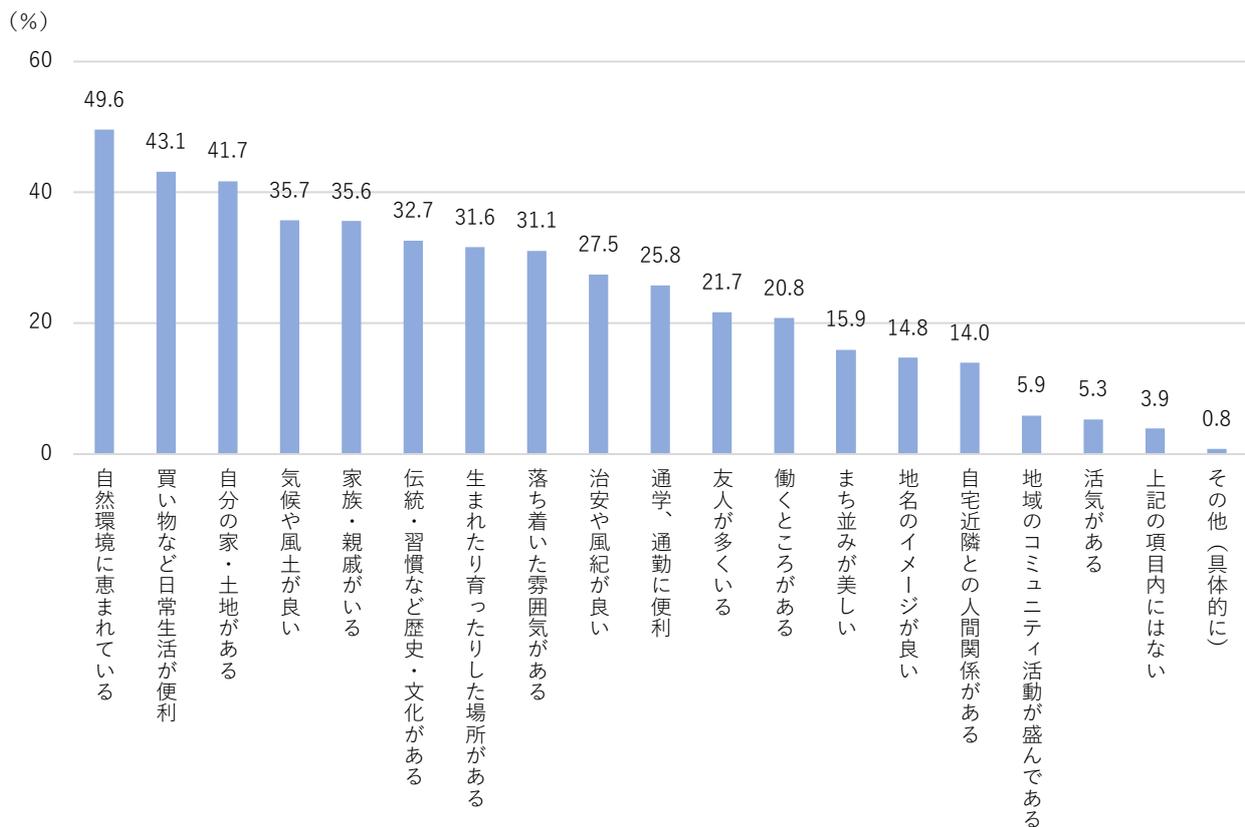
B-2 国宝天守所在市

居住地域に愛着を感じている点として、最も高い割合で選ばれたものが「自然環境に恵まれている」で49.6%、続いて「買い物など日常生活が便利(43.1%)」、「自分の家・土地がある(41.7%)」、「気候や風土が良い(35.7%)」、「家族・親戚がいる(35.6%)」であった。「伝統・習慣など歴史・文化がある」にも約1/3となる32.7%の回答者が愛着を示した。突出して高い割合を示す項目はないものの自然環境や利便性、家族関係などの項目に愛着が示されている。

表：エリア（B-2 国宝天守所在市）×愛着を感じる点

	自然環境に恵まれている	買い物など日常生活が便利	自分の家・土地がある	気候や風土が良い	家族・親戚がいる	伝統・習慣など歴史・文化がある	生まれたり育ったりした場所がある	落ち着いた雰囲気がある	治安や風紀が良い	通学、通勤に便利
B-2 国宝天守所在市	49.6%	43.1%	41.7%	35.7%	35.6%	32.7%	31.6%	31.1%	27.5%	25.8%

	友人が多くいる	働くところがある	まち並みが美しい	地名のイメージが良い	自宅近隣との人間関係がある	地域のコミュニティ活動が盛んである	活気がある	上記の項目内にはない	その他（具体的に）
B-2 国宝天守所在市	21.7%	20.8%	15.9%	14.8%	14.0%	5.9%	5.3%	3.9%	0.8%



図：エリア（B-2 国宝天守所在市）×愛着を感じる点

居住地域に愛着を感じている点を問う設問に対する「その他の回答」として、17件の回答があり、そのうち有効回答は16件であった。主な意見について以下に示す。

○ 利便性の良さ ・自然が豊かなのに生活に不都合がない	○ 近所付き合い ・自宅近隣との人間関係がない
○ 自然環境の良さ ・ちょうどよい田舎	・空が綺麗
○ 昔から馴染みがある ・住んでいるところだから ・街の構成が出身地に似ている ・地元が隣の市だから	・地域の情報を知っている ・先祖代々の歴史もあるから
○ 災害等への対策 ・自然災害が少ない	
○ 建築物 ・国宝犬山城	・姫路城がある
	・国宝がある
	・彦根城があるからです
	・城がある
○ その他 ・良いところ悪いところ分かるから	

< (Q(3)A+Q(3)B) お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じている点 (A-1、A-2、A-3、B-1、B-2の比較)>

対象エリアごとに最も選択されている愛着を感じている点として、大都市圏であるA-1 東京都区部とB-1 京都市中心部はどちらも「買い物など日常生活が便利」が選ばれており、A-2 地方圏県庁所在市、A-3 地方圏町村、B-2 国宝天守所在市では「自然環境に恵まれている」が選ばれている。

割合の合計値を比較すると、合計が最も大きい対象エリアがB-1 京都市中心部で合計477.8%、続いてB-2 国宝天守所在市が合計457.6%、A-2 地方圏県庁所在市が合計439.7%と多くの点に対して愛着があると答えていた。

「伝統・習慣など歴史・文化がある」には、B-1 京都市中心部で51.6%、B-2 国宝天守所在市で32.7%、A-2 地方圏県庁所在市で19.8%、A-3 地方圏町村で12.1%、A-1 東京都区部で11.0%と調査対象エリア設定の目的通り対象エリアによって大きく差が生じている。

表：エリアごとで愛着(親しみ)を感じている点(1～3番)

	エリア内で1番多く選ばれた項目	エリア内で2番目に多く選ばれた項目	エリア内で3番目に多く選ばれた項目
全回答者	買い物など日常生活が便利	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある
A-1 東京都区部	買い物など日常生活が便利	通学、通勤に便利	落ち着いた雰囲気がある
A-2 地方圏県庁所在市	自然環境に恵まれている	買い物など日常生活が便利	自分の家・土地がある
A-3 地方圏町村	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある	家族・親戚がいる
B-1 京都市中心部	買い物など日常生活が便利	伝統・習慣など歴史・文化がある	通学、通勤に便利
B-2 国宝天守所在市	自然環境に恵まれている	買い物など日常生活が便利	自分の家・土地がある

表：エリア×愛着(親しみ)を感じている点

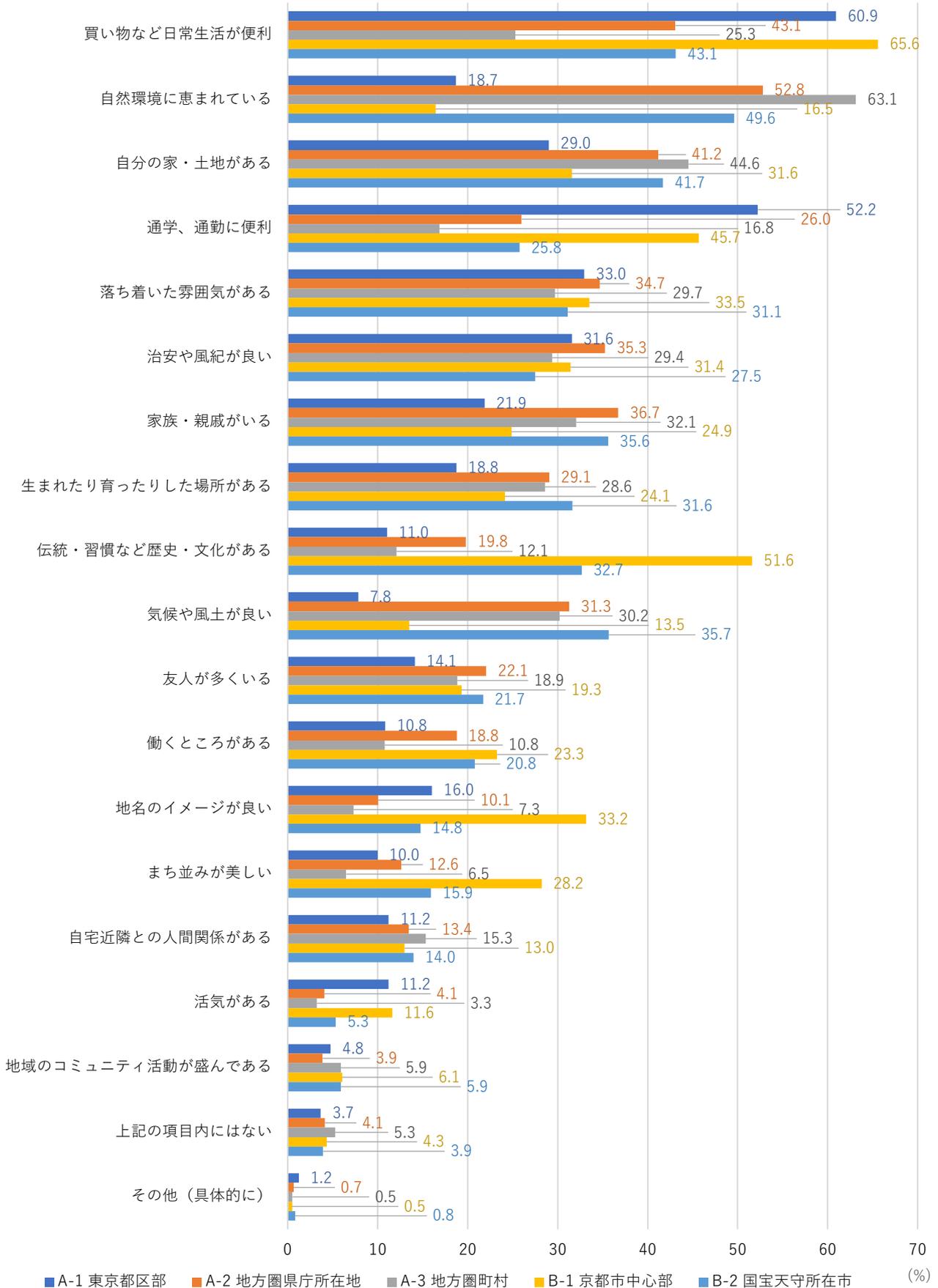
	割合 合計	買い物な ど日常生 活が便利	自然環境 に恵まれ ている	自分の 家・土地 がある	通学、通 勤に便利	落ち着いた 雰囲気 がある	治安や風 紀が良い	家族・親 戚がいる	生まれ たり育っ たりした 場所がある	伝統・習 慣など歴 史・文化 がある
全回答者	425.8%	47.6%	40.1%	37.6%	33.3%	32.4%	31.0%	30.2%	26.4%	25.4%
A-1 東京都区部	368.1%	60.9%	18.7%	29.0%	52.2%	33.0%	31.6%	21.9%	18.8%	11.0%
A-2 地方圏県庁所在市	439.7%	43.1%	52.8%	41.2%	26.0%	34.7%	35.3%	36.7%	29.1%	19.8%
A-3 地方圏町村	385.6%	25.3%	63.1%	44.6%	16.8%	29.7%	29.4%	32.1%	28.6%	12.1%
B-1 京都市中心部	477.8%	65.6%	16.5%	31.6%	45.7%	33.5%	31.4%	24.9%	24.1%	51.6%
B-2 国宝天守所在市	457.6%	43.1%	49.6%	41.7%	25.8%	31.1%	27.5%	35.6%	31.6%	32.7%

	気候や風 土が良い	友人が多 くいる	働くところ がある	地名のイ メージが 良い	まち並み が美しい	自宅近隣 との人間 関係があ る	活気があ る	地域のコ ミュニテ ィ活動が 盛んであ る	上記の項 目内には ない	その他 (具体的 に)
全回答者	23.7%	19.2%	16.9%	16.3%	14.7%	13.4%	7.1%	5.3%	4.3%	0.8%
A-1 東京都区部	7.8%	14.1%	10.8%	16.0%	10.0%	11.2%	11.2%	4.8%	3.7%	1.2%
A-2 地方圏県庁所在市	31.3%	22.1%	18.8%	10.1%	12.6%	13.4%	4.1%	3.9%	4.1%	0.7%
A-3 地方圏町村	30.2%	18.9%	10.8%	17.3%	6.5%	15.3%	3.3%	5.9%	5.3%	0.5%
B-1 京都市中心部	13.5%	19.3%	23.3%	33.2%	28.2%	13.0%	11.6%	6.1%	4.3%	0.5%
B-2 国宝天守所在市	35.7%	21.7%	20.8%	14.8%	15.9%	14.0%	5.3%	5.9%	3.9%	0.8%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------

3-1. エリアによる比較



図：エリア×愛着(親しみ)を感じている点

<エリア間で差が生じた「愛着を感じている点」>

エリアの違いにより、どのような「愛着を感じている点」に差が表れるのかを、より詳細に検討する。全回答者から高い割合で選ばれている「自然環境に恵まれている」はエリアによる差が大きくなっている。しかし、選択される割合が少ないものでもエリアの差が大きい項目が見られる。例えば、「活気がある」は全体では7.1%だが、その割合はA-1 東京都区部は11.2%に対して、A-3 地方圏町村では3.2%とその差は大きくなっている。そのため、全回答者の割合を100.0%とした時に、その割合に対する各エリアでの割合を比較する。

「伝統・習慣など歴史・文化がある」「自然環境に恵まれている」「気候や風土が良い」の項目で大きな差が表れている。一方で、「落ち着いた雰囲気がある」「治安や風紀が良い」「自宅近隣との人間関係がある」「友人が多くいる」など、雰囲気や人間関係には大きな違いは表れなかった。

表：エリア×愛着を感じる点の違い(各項目の合計を100%にして比較)

	買い物など日常生活が便利	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある	通学、通勤に便利	落ち着いた雰囲気がある	治安や風紀が良い	家族・親戚がいる	生まれたり育ったりした場所がある
平均値	47.6%	40.1%	37.6%	33.3%	32.4%	31.0%	30.2%	26.4%
(100%に換算)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
A-1 東京都区部	128.0%	46.6%	77.2%	156.9%	101.7%	101.8%	72.4%	71.0%
A-2 地方圏県庁所在地	90.5%	131.5%	109.5%	78.1%	107.1%	113.7%	121.5%	110.0%
A-3 地方圏町村	53.1%	157.3%	118.5%	50.6%	91.7%	94.7%	106.1%	108.1%
B-1 京都市中心部	137.8%	41.0%	83.9%	137.1%	103.5%	101.3%	82.3%	91.3%
B-2 国宝天守所在市	90.6%	123.5%	110.9%	77.4%	96.0%	88.6%	117.8%	119.7%

伝統・習慣など歴史・文化がある	気候や風土が良い	友人が多くいる	働くところがある	地名のイメージが良い	まち並みが美しい	自宅近隣との人間関係がある	活気がある	地域のコミュニティ活動が盛んである
25.4%	23.7%	19.2%	16.9%	16.3%	14.7%	13.4%	7.1%	5.3%
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
43.4%	33.0%	73.6%	64.2%	98.6%	68.1%	83.8%	157.9%	89.9%
77.9%	132.0%	114.9%	111.2%	61.9%	86.1%	100.3%	57.6%	73.2%
47.6%	127.5%	98.1%	63.9%	45.0%	44.4%	114.4%	45.8%	111.3%
202.8%	56.9%	100.5%	137.7%	203.8%	192.6%	97.0%	163.7%	114.2%
128.4%	150.6%	113.0%	123.0%	90.7%	108.8%	104.4%	75.0%	111.4%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +50%	+50% > 値 ≧ +25%	-25% ≦ 値 < -50%	-50% ≦ 値
----------	-----------------	-----------------	----------

3-1-4. エリア×愛着をより感じるようになった点

コロナ禍でより愛着を感じるようになった点を明らかにするため、Q(3)A または Q(3)B で「愛着がある」として選んだ項目が、さらに Q(4) で「愛着が増した」と選ばれた割合を示す。

全回答者としては「買い物など日常生活が便利」(59.5%)、「家族・親戚がいる」(52.3%)、「自然環境に恵まれている」(50.0%)の順でコロナ禍により愛着を感じるようになったと回答された。これらは行動制限が課されるなかで、地域内で買い物等の生活が成り立つこと、両親などの家族が地域内に住んでいること、自然環境が重視されるようになったことを示しているとみられる。一方で、コロナ禍で人流が減る中、「活気がある」という項目は重視されないようになっており、A-1 東京都区部でも他地域でも同様であった。

エリアでの比較としては、A-2 地方圏県庁所在市は「家族・親戚がいる」に高い割合(59.1%)を示したのに対して、B-1 京都市中心部は43.8%と低い数値を示した。

表：エリア×コロナ禍でより愛着を感じるようになった点

	全回答者	A-1 東京都区部	A-2 地方圏県庁所在市	A-3 地方圏町村	B-1 京都市中心部	B-2 国宝天守所在市
買い物など日常生活が便利	59.5%	61.4%	58.9%	56.5%	62.5%	57.9%
家族・親戚がいる	52.3%	52.2%	59.1%	54.7%	43.8%	51.8%
自然環境に恵まれている	50.0%	50.0%	50.0%	54.9%	43.6%	51.4%
自分の家・土地がある	47.9%	45.1%	50.2%	51.2%	43.5%	49.2%
自宅近隣との人間関係がある	45.2%	43.8%	47.3%	47.3%	41.9%	45.5%
友人が多くいる	44.9%	42.6%	45.6%	48.4%	45.5%	42.6%
地域のコミュニティ活動が盛んである	39.6%	41.0%	41.1%	41.9%	40.8%	33.1%
治安や風紀が良い	38.9%	38.7%	38.3%	39.8%	39.8%	38.1%
落ち着いた雰囲気がある	38.0%	38.6%	36.5%	40.4%	36.5%	37.9%
生まれたり育ったりした場所がある	38.0%	36.4%	37.0%	40.5%	40.5%	35.4%
気候や風土が良い	37.6%	35.4%	40.4%	38.8%	33.0%	40.3%
働くところがある	37.5%	35.7%	41.2%	36.1%	36.7%	38.1%
通学、通勤に便利	35.0%	36.5%	37.2%	33.4%	35.8%	32.1%
まち並みが美しい	30.2%	34.0%	26.9%	25.0%	31.6%	33.4%
伝統・習慣など歴史・文化がある	29.0%	29.9%	30.2%	26.9%	32.6%	25.6%
地名のイメージが良い	25.4%	22.9%	25.2%	29.0%	26.1%	23.8%
愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない	23.3%	24.0%	21.6%	23.6%	22.6%	24.6%
活気がある	22.8%	23.8%	24.0%	25.0%	19.1%	22.0%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

A-1 東京都区部

同設問に対する「その他の回答」として、7件の回答があり、そのうち有効回答は6件であった。主な意見について以下に示す。

○利便性の良さ

- ・通院に便利
- ・東大が近くにある

○近所付き合いの良さ

- ・何より人が温かい

○自然環境の良さ

- ・畑がある

○昔から馴染みがある

- ・なおさら当たり前になった

○災害等への対策

- ・ワクチン接種を頑張っている

A-2 地方圏県庁所在市

同設問に対する「その他の回答」として、7件の回答があり、そのうち有効回答は1件であった。主な意見について以下に示す。

○利便性の良さ

- ・おいしいご飯が食べられるお店がいっぱいある

A-3 地方圏町村

同設問に対する「その他の回答」として、0件の回答があり、そのうち有効回答は0件であった。主な意見について以下に示す。

B-1 京都市中心部

同設問に対する「その他の回答」として、2件の回答があり、そのうち有効回答は2件であった。主な意見について以下に示す。

○利便性の良さ

- ・飲み屋が多い

○近所付き合いの良さ

- ・町内会の人柄がいい事を発見しました

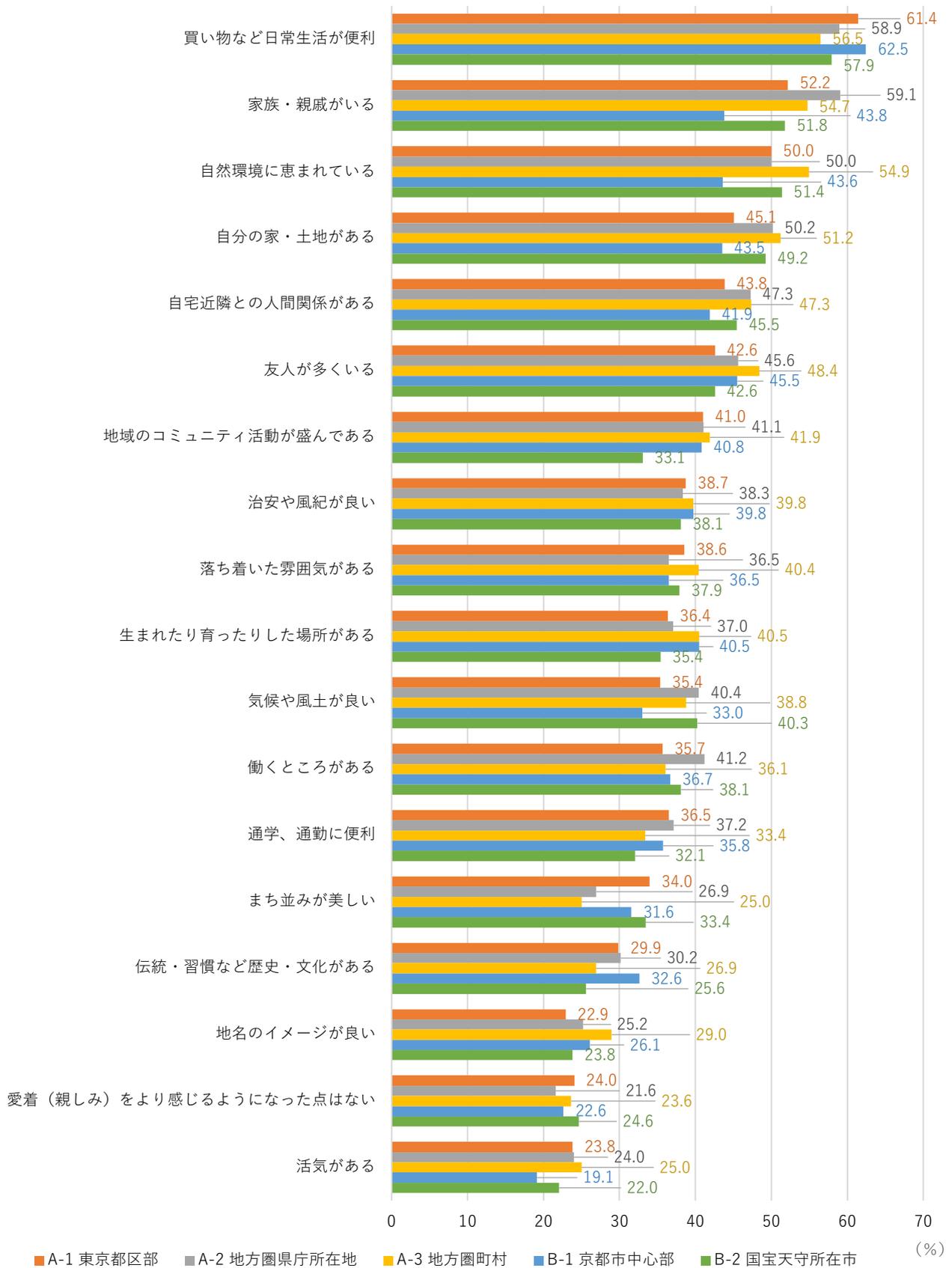
B-2 国宝天守所在市

同設問に対する「その他の回答」として、1件の回答があり、そのうち有効回答は1件であった。主な意見について以下に示す。

○昔から馴染みがある

- ・自分や子供や孫が育ったところだから

3-1. エリアによる比較



図：エリア×コロナ禍でより愛着を感じるようになった点

<エリア間で差が生じた「コロナ禍で愛着が高まった点」>

コロナ禍の中で愛着が高まったとする点に、エリア差が見られるかを検討する。「自然環境に恵まれている」についてはA-3 地方圏町村で愛着が高まった点として強く表れた一方で B-1 京都市中心部ではあまり高まっていない。「通学、通勤に便利」「活気がある」という点は三大都市圏のA-1 東京特部、B-1 京都市中心部で愛着が高まった。歴史文化が強いB-1 京都市中心部は「伝統・習慣など歴史・文化がある」という点が、コロナ禍で愛着が高まる（＝見直される）点となっている。「気候や風土がよい」については、地方圏、特にB-2 国宝天守所在市が特に高まっている一方で、三大都市圏ではあまり愛着が増していないという結果となった。

表：エリア×愛着をより感じるようになった点

	買い物など日常生活が便利	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある	家族・親戚がいる	落ち着いた雰囲気がある	治安や風紀が良い	通学、通勤に便利
全回答者	29.9%	21.6%	19.0%	16.7%	12.8%	12.6%	12.3%
(割合を100%とした場合)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
A-1 東京都区部	130.3%	44.9%	71.5%	70.7%	102.8%	100.6%	161.0%
A-2 地方圏県庁所在地	88.7%	127.9%	113.6%	135.3%	102.8%	111.7%	82.1%
A-3 地方圏町村	50.6%	169.6%	126.7%	110.8%	98.9%	97.5%	48.0%
B-1 京都市中心部	143.3%	34.8%	75.7%	68.3%	99.7%	103.8%	139.0%
B-2 国宝天守所在市	87.1%	122.8%	112.5%	115.0%	95.8%	86.4%	69.9%

生まれたり育ったりした場所がある	気候や風土が良い	友人が多い	伝統・習慣など歴史・文化がある	働くところがある	自宅近隣との人間関係がある	まち並みが美しい	地名のイメージが良い	地域のコミュニティ活動が盛んである	活気がある
10.5%	9.6%	9.0%	7.9%	6.7%	6.3%	4.7%	4.3%	2.2%	1.6%
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
67.7%	30.1%	68.7%	43.3%	60.1%	80.4%	74.5%	88.8%	91.7%	170.7%
106.9%	136.9%	116.4%	78.9%	121.6%	104.1%	74.5%	60.7%	78.0%	61.0%
116.4%	128.6%	106.4%	43.3%	61.6%	121.5%	36.2%	51.4%	119.3%	54.9%
97.3%	48.8%	102.0%	223.9%	133.6%	89.9%	197.9%	212.6%	119.3%	140.2%
111.6%	155.6%	106.4%	110.7%	123.1%	104.1%	117.0%	86.4%	91.7%	73.2%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +50%	+50% > 値 ≧ +25%	-25% ≦ 値 < -50%	-50% ≦ 値
----------	-----------------	-----------------	----------

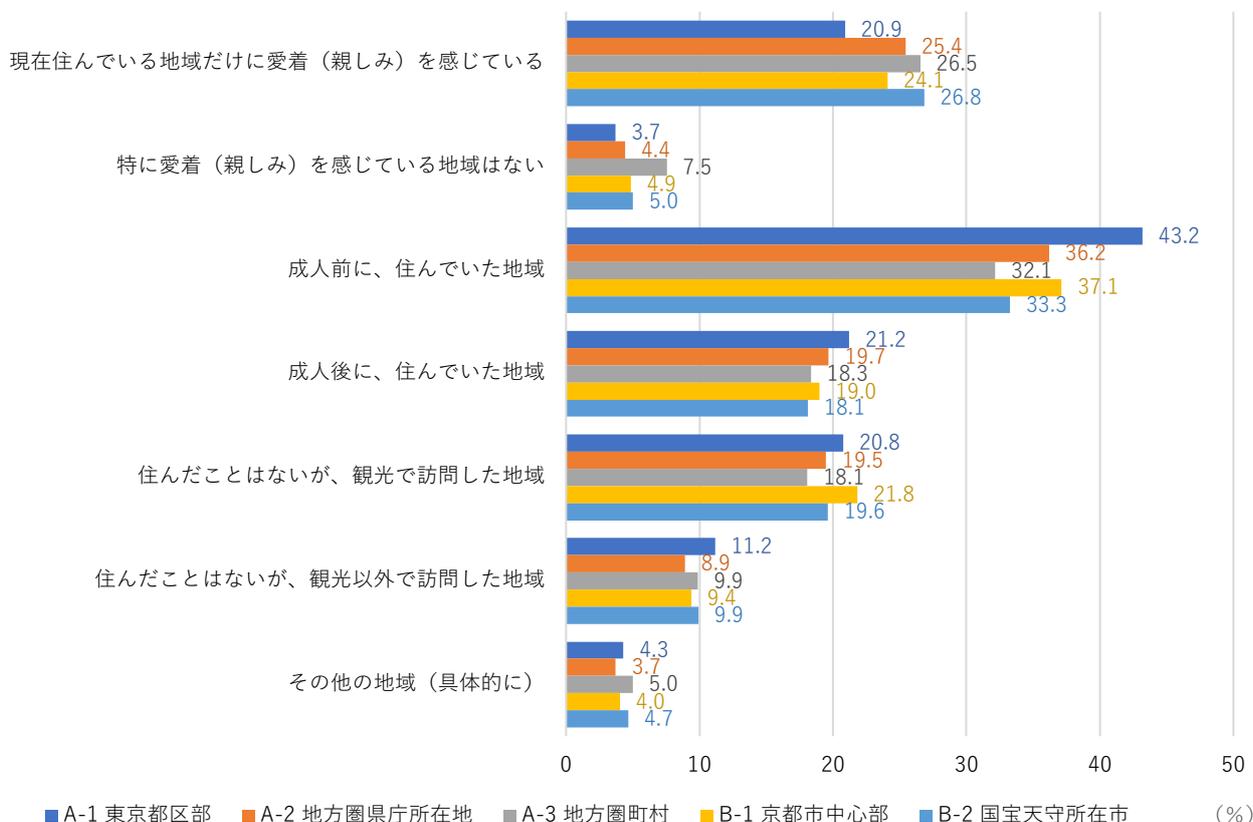
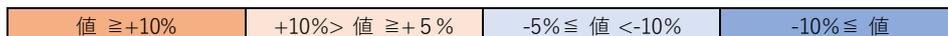
3-1-5. エリア×居住地域以外に愛着を感じている地域

「成人前に、住んでいた地域」にも愛着を感じているとした回答者はA-1 東京都区部では43.2%、A-3 地域圏町村では32.1%とその差が11.1%あった。「現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている」と答えた回答者はA-3 地方圏町村が26.5%、A-1 東京都区部が20.9%とその差が5.6%だった。その他の選択肢についての地域差は最大でも5%未満でエリアによる差はあまりみられなかった。

表：エリア×居住地域以外に愛着を感じている地域

	全回答者	A-1 東京都区部	A-2 地方圏県庁所在地	A-3 地方圏町村	B-1 京都市中心部	B-2 国宝天守所在市
現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	25.0%	20.9%	25.4%	26.5%	24.1%	26.8%
特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	5.4%	3.7%	4.4%	7.5%	4.9%	5.0%
成人前に、住んでいた地域	35.9%	43.2%	36.2%	32.1%	37.1%	33.3%
成人後に、住んでいた地域	19.1%	21.2%	19.7%	18.3%	19.0%	18.1%
住んだことはないが、観光で訪問した地域	19.6%	20.8%	19.5%	18.1%	21.8%	19.6%
住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	10.0%	11.2%	8.9%	9.9%	9.4%	9.9%
その他の地域（具体的に）	4.5%	4.3%	3.7%	5.0%	4.0%	4.7%

凡例：全回答者との比較色分け



A-1 東京都区部

居住地域以外に愛着を感じている地域を問う設問に対する「その他の回答」として、95件の回答があり、そのうち有効回答は79件であった。主な意見について以下に示す。

○勤務・通学先周辺

- ・職場周辺の地域
- ・大学がある地域
- ・転勤先の地域
- ・職場のある地域
- ・働いている場所
- ・勤務地
- ・仕事場
- ・12年ほど仕事で赴任していた場所
- ・横浜 勤務先
- ・職場のある地域

○実家・別荘のある地域

- ・実家がある都城市
- ・妻の実家
- ・両親の生まれ育った地域
- ・住んだ事は無いが、お店を運営していた地域
- ・別荘がある地域
- ・故郷
- ・妻の実家がある地域
- ・先祖が住んでいた地域
- ・両親の実家のある街
- ・実家のある町
- ・実家の有る町
- ・母の生まれ育った地域
- ・祖母の家の地域
- ・親の実家 山梨県
- ・別荘があるところ
- ・出生地
- ・実家
- ・連れ合いの田舎
- ・両親の住んでいた田舎 茨城県
- ・生まれ育った隣町
- ・祖母の住んでいた地域
- ・父親野実家のある地域
- ・妻の実家
- ・田舎
- ・父母の出身地
- ・祖母の住んでいた地域
- ・祖母の家がある地域
- ・母の実家がある地域
- ・祖父の家
- ・祖父母宅
- ・母の実家周辺
- ・生まれ育った場所
- ・幼少期に住んでいた街
- ・今の地域に引っ越すまで住んでいた生まれ育った地域

○友人・知人・親族の居住地域

- ・親しい人が住んでいる地域
- ・親族の住む地域
- ・親戚が住んでいる
- ・親しい人が住んでいる地域
- ・知り合いの住んでいる地域

○過去に住んでいた地域

- ・以前住んでいたところ
- ・今のマンションを買う前に住んでいた池袋
- ・結婚前に住んでいた地域
- ・現在住んでいる前の地域
- ・結婚前に住んでいた地元の埼玉に愛着があります。
- ・引っ越し前に住んでいた吉祥寺
- ・引っ越し前の地域

○趣味・旅行で行ったことのある地域

- ・釣りによく行く地域
- ・毎年 休暇で訪れていた場所
- ・良く買い物に行く地域
- ・よく行く地域

○景観・自然環境の良い地域

- ・海沿い
- ・隣の区、環境が良い
- ・結婚して近くにいた憧れた街 鎌倉とか

○歴史のある地域

- ・京都や奈良のような歴史のある場所

○その他（具体的に場所を記入）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県南房総 ・宮崎県、山形県 ・葉山 佐島 ・福島県 ・銀座 ・静岡県 ・土浦 ・高輪 | <ul style="list-style-type: none"> ・京都市内 ・鎌倉市 ・京都 ・住んでいるところも観光地も様々あります ・青森、下北半島 ・函館 ・岡山県・淡路島・四国地方 |
|--|--|

A-2 地方圏県庁所在市

居住地域以外に愛着を感じている地域を問う設問に対する「その他の回答」として、85件の回答があり、そのうち有効回答は74件であった。主な意見について以下に示す。

○勤務・通学先周辺

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・長年勤めた場所 ・他県の勤務先 ・仕事で行った地域 ・通っていた高校がある地域 ・以前勤務した街 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生時代や初めて仕事をした地域 ・職場 ・働いてる地域 ・通学していた場所 |
|---|---|

○実家・別荘のある地域

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分の郷里の実家 ・実家のある地域 ・もう一軒の持ち家の地域 ・母の実家 ・自分の実家の地域 ・生まれ育った地域 ・故郷の静岡の富士宮 ・出生地 ・出生地 ・生まれ育った所 ・生まれた地域 ・夫の実家 | <ul style="list-style-type: none"> ・主人の故郷 ・産まれた所 ・実家 ・実家 ・生まれた所 ・生まれ育った実家 ・妻の実家や義理の母の住まいなど ・義実家、祖母が住んでいる地域 ・地元 ・実家のまわり ・生家 ・生まれ育ったところ |
|--|---|

○友人・知人・親族の居住地

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・同居では無いので息子達が住んでいる土地 ・子供達が住んでいる街 ・祖母が住んでいた地域 ・長男が住んでいる所 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが住んでいる所 ・おじいちゃん、おばあちゃん家がある地域 ・祖父母が住んでいた ・娘が住んでいる所 |
|--|--|

○過去に住んでいた地域

- ・大学時代の下宿
- ・京都市 大学生の時に暮らしていた
- ・大学生時代に住んでいた地域
- ・夜逃げ前に住んでいた地域
- ・大学生の時に住んだまち
- ・大学時代に住んでいた地域
- ・今の地域に移る前に住んでいた地域
- ・大学時代に住んでいた地域
- ・親と同居する以前に住んでいた所
- ・幼稚園時代通っていた。
- ・大学時に住んで居た場所
- ・大学生の時いたところ
- ・大学の時一人暮らししていた地域
- ・大学生時代に下宿していた地域
- ・一時期住んでいた場所
- ・学生時代に住んでいた地域
- ・引っ越して来る前の地域
- ・結婚後住んでいた地域

○その他（具体的に場所を記入）

- ・長野県の長野市は、善光寺が有り、とても雰囲気が良い
- ・高知県愛媛県
- ・静岡県富士市
- ・岐阜県下呂市
- ・青森、山形県、新潟
- ・福岡市、宇和島市
- ・他の地域を知らない
- ・夕張
- ・いろいろ
- ・高松市
- ・津市八町付近
- ・福岡県
- ・市内
- ・大阪府三島郡島本町
- ・宝塚

A-3 地方圏町村

居住地域以外に愛着を感じている地域を問う設問に対する「その他の回答」として、152 件の回答があり、そのうち有効回答は 129 件であった。主な意見について以下に示す。

○勤務・通学先周辺

- ・職場がある地域
- ・勤務地
- ・長く勤めた職場
- ・仕事で通っていた地域
- ・職場のある場所
- ・以前働いていた地域
- ・学生時代に通っていた地域
- ・学生時代に過ごした所
- ・通学高校所在地
- ・勤務地
- ・転勤した地域
- ・学生の時、通学していた地域
- ・職場があった地域
- ・通勤先
- ・勤務地
- ・勤務している地域
- ・職場のある地域
- ・買い物や仕事場のある所
- ・過去の勤務地
- ・勤務先
- ・通っていた中学校、高校がある地域
- ・活動に利用している地域
- ・現在、働いている地域

○実家・別荘のある地域

- ・生まれて育った所
- ・生まれた地域
- ・実家の地域
- ・生まれ育ったところ
- ・生まれ育った地域
- ・実家がある地域
- ・学生時代にいた地域
- ・生まれ故郷
- ・生まれ故郷
- ・生まれ育った場所
- ・田舎
- ・母の実家
- ・生まれた場所
- ・生まれてから中学まで住んでいた地域(札幌市南区石山)
- ・実家が有る地域
- ・実家のある地域
- ・生まれた故郷
- ・産まれたところ
- ・実家回り
- ・生地
- ・生まれた土地
- ・生まれた土地にも愛着がある
- ・生まれた地域
- ・母親の実家
- ・自分のふるさと
- ・生まれ育った街
- ・生まれた土地
- ・母の実家

- ・父親側の地元
- ・実家が在る所
- ・生まれ育った地域
- ・特に愛着があるのは、1歳頃～6歳迄住んでいた東京です。

○友人・知人・親族の居住地域

- ・子供の家が有る
- ・祖母宅
- ・母方の祖父母の家があった地域
- ・娘が住んでいる所
- ・祖父の住んでる地域
- ・子供が大学生活をしている場所
- ・兄弟がいる地域

○過去に住んでいた地域

- ・大学で島から出て住んだ場所
- ・大学で住んでいた場所
- ・大学時代に住んでいた場所
- ・東日本大震災前に住んでいた地域
- ・幼少期に転勤で住んだ地域
- ・学生時代に棲んでいる場所です。
- ・東京に5年住んでいたの、懐かしい。
- ・子供の住んでいる地域
- ・以前住んでいた地域
- ・転勤で住んだ町
- ・以前住んでいた所
- ・学生時代に住んでいた場所

○景観・自然環境の良い地域

- ・テレビでみた地域
- ・住んだことはないが、今後は観光や移住に関心を持っている地域

○その他（具体的に場所を記入）

- ・帯広市周辺
- ・九州
- ・四国
- ・台湾台北
- ・茨城県
- ・飯能
- ・都会
- ・近隣の市町村
- ・沖縄、北海道
- ・大阪
- ・タイ
- ・別府
- ・種子島
- ・奈良市
- ・住んでいる隣の町

- ・配偶者の出身地
- ・生まれた地域
- ・妻の実家のある地域
- ・地元
- ・生まれ育った自分の出身地

- ・知り合いがすんでいる土地
- ・母が現在住んでいる所
- ・息子、娘が現在住んでいる地域。
- ・長崎島原子供と孫が住んでいる為
- ・祖父母が住んでいた地域
- ・身内が住んでいる地域
- ・祖母の家のある地域

- ・以前住んでいた地域
- ・学生時代住んでいた地域
- ・学生時代に住んでいた場所
- ・子育てした地域
- ・転勤族で住んでいた市町村
- ・自分が生まれ育った町全て
- ・留学していた地域
- ・大学時代に住んだ地域
- ・大学生時代に住んでいた地域
- ・結婚前に住んでいた地域
- ・単身赴任で7年住んでいた仕事先
- ・以前住んでいた地域

- ・大阪市 住み慣れたところ
- ・静岡県浜松市
- ・ふるさと納税で寄付した地域
- ・横浜
- ・四国4県 遍路道
- ・沖縄
- ・隣の市
- ・好きな劇団の本拠地
- ・夕張市
- ・今度引っ越しをする所
- ・岐阜
- ・山口県萩市
- ・難波
- ・陸別

B-1 京都市中心部

居住地域以外に愛着を感じている地域を問う設問に対する「その他の回答」として、36件の回答があり、そのうち有効回答は34件であった。主な意見について以下に示す。

○勤務・通学先周辺

- ・リゾートバイトで行った場所、北海道
- ・転勤族であちこち愛着があります。
- ・転勤前の居住地

○実家・別荘のある地域

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・両親の実家地域 ・別荘 ・地元 ・生まれ育った地域 ・産まれた地域、専門学校に通ってた地域 ・別荘がある和歌山県白浜 ・母の実家 | <ul style="list-style-type: none"> ・育った町 ・実家のある区 ・親の実家 ・別宅 ・親の実家 ・出生地 ・生まれたところ |
|---|---|

○友人・知人・親族の居住地域

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・神戸のおばさんの地域 ・じいちゃんばあちゃん ・祖母や、親戚が住んでいる（いた）地域 ・親戚 | <ul style="list-style-type: none"> ・親戚の住む街 ・祖父母の家 ・友人たちが多くいる地域 |
|--|---|

○過去に住んでいた地域

- ・大学生活を送ったところ
- ・子供の頃少しだけ住んでたところ

○その他（具体的に場所を記入）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄 名古屋 ・子供の頃初めて読んだ小説の地 ・九州 沖縄 ・岡山県 静岡県 愛知県 | <ul style="list-style-type: none"> ・京都 ・日本中 ・枚方市 ・千葉県 |
|--|---|

B-2 国宝天守所在市

居住地域以外に愛着を感じている地域を問う設問に対する「その他の回答」として、101件の回答があり、そのうち有効回答は85件であった。主な意見について以下に示す。

○勤務・通学先周辺

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・職場がある地域 ・仕事で通っていた場所 ・学生時代過ごした場所 ・学生時代を過ごした地域 ・通学していた大学があった地域 ・高校、大学などで通っていた地域 ・働いていた地域 ・社会人時代過ごした地域 ・学生時代通っていた学校の周辺 | <ul style="list-style-type: none"> ・よく出張で行く地域 ・学生時代に通学した街 ・かつての勤務地 ・大学で通っていた地域 ・勤務先 ・出張先 ・住んだことはないが、依然通勤していた地域 ・仕事で通っていたまち ・職場がある市 |
|--|---|

○実家・別荘のある地域

- ・妻の里
- ・生まれて育った町
- ・親の育った地域
- ・配偶者の実家がある地域
- ・先祖がいた実家
- ・出生時 名古屋
- ・自分が生まれ育った土地
- ・配偶者の出生地
- ・母の故郷
- ・親が住んでいた市
- ・実家の地域
- ・生まれ育った地域
- ・生まれ育った土地
- ・出身地
- ・勤務地(母の故郷)
- ・生まれ育った地域
- ・生まれ育った実家
- ・実家がある地域
- ・妻の実家の地域
- ・実家のある地域
- ・親の実家
- ・祖父母の住んでいる地域
- ・実家のあるところ
- ・両親の出身地
- ・産まれ土地
- ・実家のある地域
- ・生まれてから結婚するまで住んでいた地域
- ・結婚するまで生まれ育った地域
- ・出生地

○友人・知人・親族の居住地域

- ・子供、孫達が居る地域
- ・息子夫婦が居住する地域
- ・親戚が住んでいる地域
- ・親戚の地域
- ・親友が住んでいる
- ・嫁いた娘が住んでいる場所
- ・彼氏の住んでいる地域

○過去に住んでいた地域

- ・学生時代に一人暮らしをした地域
- ・学生時代に住んでいた地域
- ・以前、住んでいた場所
- ・転勤族で各地に住み、それぞれの良さを感じている
- ・学生時代に住んでいた地域
- ・結婚後に住んでいた所(転勤前に)
- ・大学時代住んでいた地域
- ・結婚前に住んでいた地域
- ・学生時代生活したところ
- ・仕事で住んでいた
- ・昔住んでいた地域
- ・移住前の地域
- ・就職前に住んでいた地域
- ・結婚前に住んでいた地域

○その他(具体的に場所を記入)

- ・徳島県
- ・大阪市
- ・那須町
- ・全国
- ・糸島の住まい
- ・京都
- ・博多
- ・鳥取県大山町は、自然が豊かでのんびりしているから
- ・豊中市・ハワイ
- ・東京都豊島区駒込
- ・上田市、塩尻市
- ・夢の中にできた地域
- ・福島県伊達市
- ・伊東市 松本市
- ・特に決まった場所ではなく、自分の仕事や病気に
対応できる場所

3-1-6. エリア×居住地域で認識している文化遺産

居住地域で認識している文化遺産をエリアで比較すると、B-1 京都市中心部が最も多く文化遺産を認識しており、各文化遺産を選択した回答者の割合を合計すると 470.3%と突出して高い割合となっている。A-2 地方圏県庁所在地と B-2 国宝天守所在市はほぼ割合は変わらず、ついで A-3 地方圏町村が 207.5%、A-1 東京都区部は 150.1%と最も少ない。

エリアごとで選択される文化遺産の割合は大きく異なり、全回答者で最も割合が高い「歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠 等）」は、B-1 京都市中心部で 85.4%と最も割合が高く、ついで B-2 国宝天守所在市が 79.8%となっている。一方、A-1 東京都区部では 34.5%と著しい差が生まれている。また、B-1 京都市中心部は、「伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼 等）」でも 62.8%と高い割合を示している。

居住地域内に文化遺産が「全くない」と考えている回答者は、A-1 東京都区部で 43.2%と最もその割合が高く、歴史文化が色濃く残る B-1 京都市中心部では 5.8%、B-2 国宝天守所在市では 8.3%と割合が低かった。

三大都市圏-地方圏の区分(A-1~A-3)だけの区分で比較すると、A-2 地方圏県庁所在地が全ての文化遺産の種類で認識の割合が高く、ついで A-3 地方圏町村、A-1 東京都区部と続く。各認識の度合いについてはそれぞれの項目で差が分かれており、「歴史的な建造物」では A-2 地方圏県庁所在地が 54.7%と突出し、A-3 地方圏町村は 36.0%、A-1 東京都区部は 34.5%とほぼ同じである。その一方「郷土料理、食文化」では A-2 地方圏県庁所在地が 37.6%、A-3 地方圏町村が 24.1%であるのに対して A-1 東京都区部は 6.1%と著しく低く、A-1 東京都区部だけが少ない項目として他に「方言、慣習」「地域にまつわる伝承・民話・地名」「歴史的な街並み、棚田などの景観」「考古遺跡、古墳、土器」「伝統的工芸品」「伝統芸能」が挙げられる。

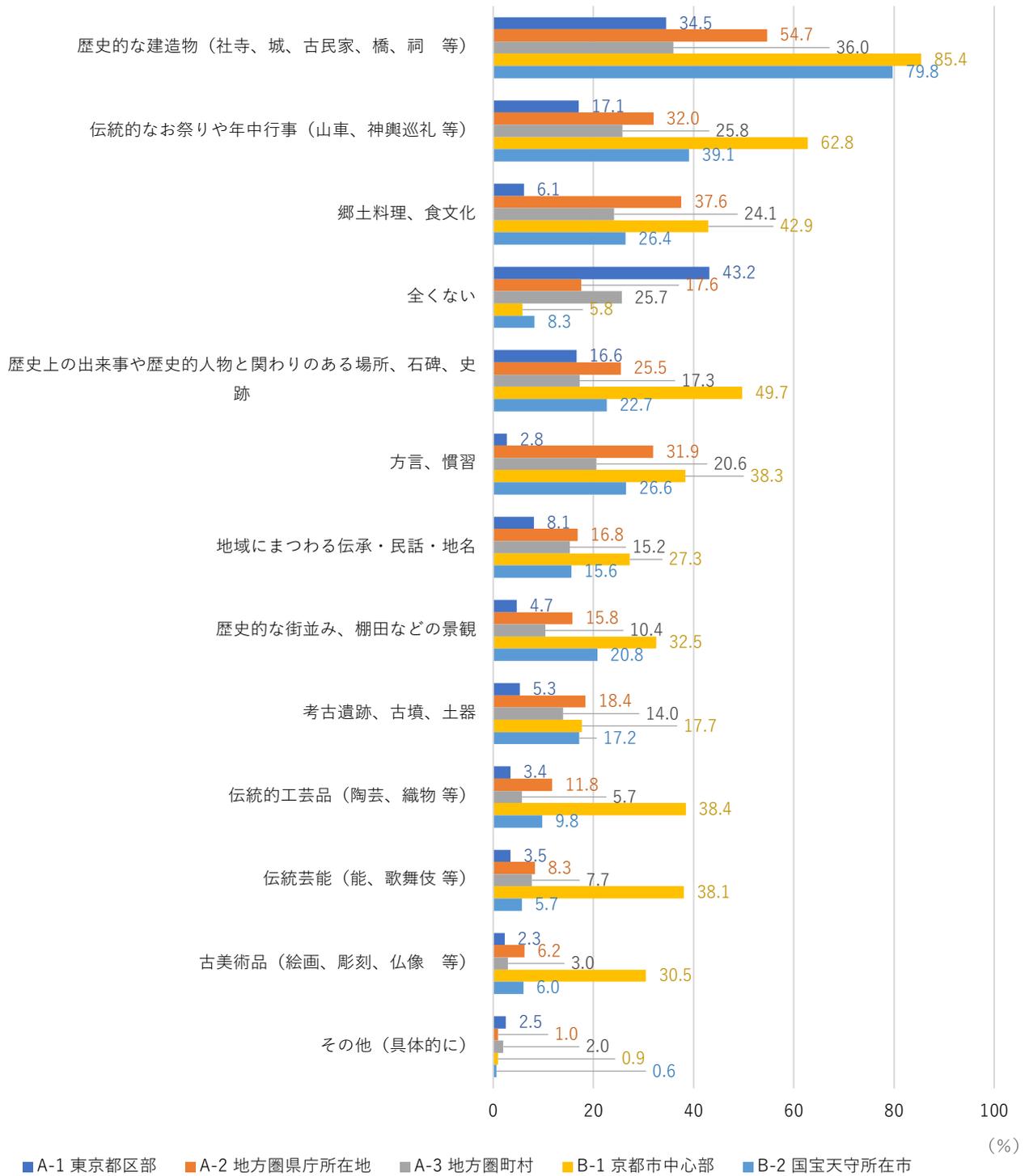
表：エリア×居住地域で認識している文化遺産

	全回答者	A-1 東京都区部	A-2 地方圏県庁所在地	A-3 地方圏町村	B-1 京都市中心部	B-2 国宝天守所在市
各文化遺産を選択した回答者の割合の合計	242.8%	150.1%	277.7%	207.5%	470.3%	278.4%
歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠 等）	51.9%	34.5%	54.7%	36.0%	85.4%	79.8%
伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼 等）	30.6%	17.1%	32.0%	25.8%	62.8%	39.1%
郷土料理、食文化	25.1%	6.1%	37.6%	24.1%	42.9%	26.4%
全くない	22.8%	43.2%	17.6%	25.7%	5.8%	8.3%
歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡	22.5%	16.6%	25.5%	17.3%	49.7%	22.7%
方言、慣習	21.5%	2.8%	31.9%	20.6%	38.3%	26.6%
地域にまつわる伝承・民話・地名	14.7%	8.1%	16.8%	15.2%	27.3%	15.6%
歴史的な街並み、棚田などの景観	13.9%	4.7%	15.8%	10.4%	32.5%	20.8%
考古遺跡、古墳、土器	13.4%	5.3%	18.4%	14.0%	17.7%	17.2%
伝統的工芸品（陶芸、織物 等）	9.9%	3.4%	11.8%	5.7%	38.4%	9.8%
伝統芸能（能、歌舞伎 等）	8.7%	3.5%	8.3%	7.7%	38.1%	5.7%
古美術品（絵画、彫刻、仏像 等）	6.3%	2.3%	6.2%	3.0%	30.5%	6.0%
その他（具体的に）	1.6%	2.5%	1.0%	2.0%	0.9%	0.6%

凡例：全回答者との比較色分け

値 $\geq +10\%$	$+10\% >$ 値 $\geq +5\%$	$-5\% \leq$ 値 $< -10\%$	$-10\% \leq$ 値
----------------	-------------------------	-------------------------	----------------

3-1. エリアによる比較



図：エリア×居住地域で認識している文化遺産

<居住地域内で認識している文化遺産の割合比較>

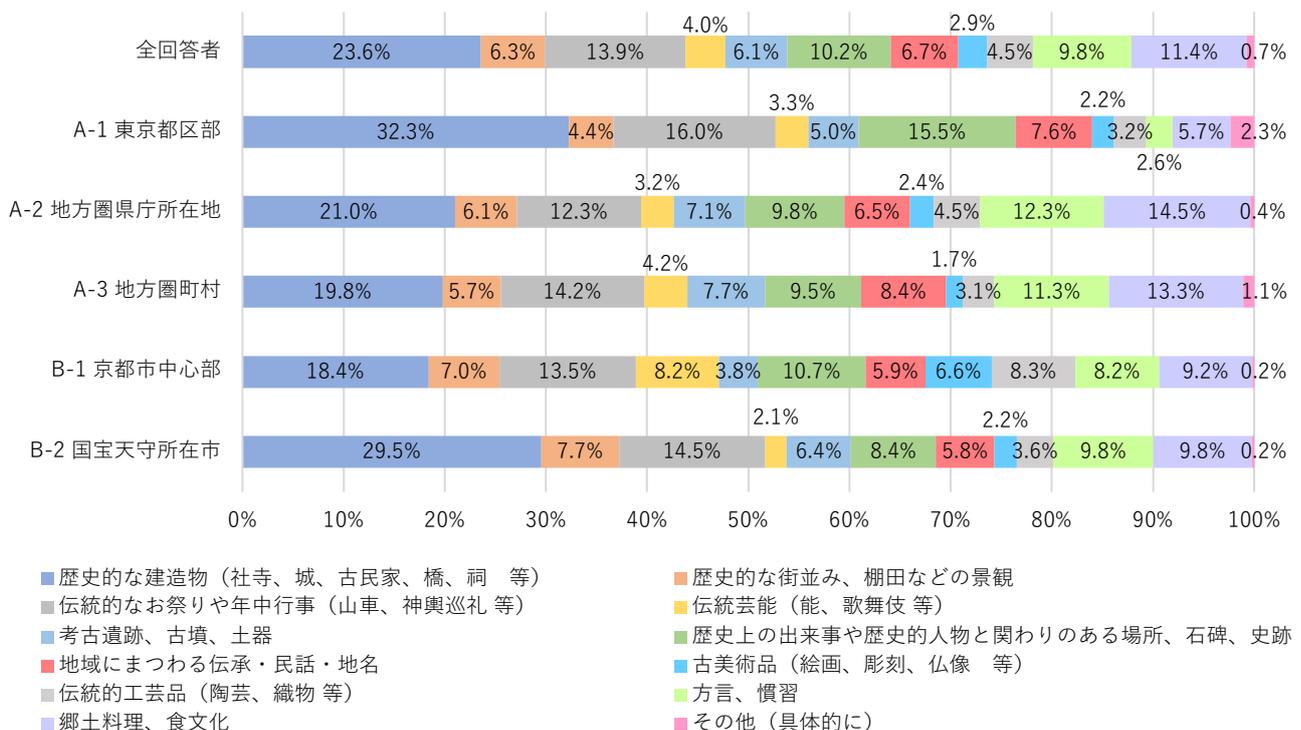
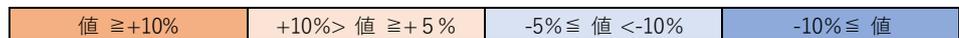
居住地域で認識している文化遺産として選択された割合をエリアで比較した結果を以下に整理する。文化遺産が「全くない」を除き、各エリアで選択された文化遺産の回答者数を母数とし、各エリアにおける選択された文化遺産の割合の合計を100.0%としている。

A-1 東京都区部では、「歴史的な建造物」や「歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡」が全回答者より高く、「方言、慣習」や「郷土料理、食文化」が低い。

また、B-1 京都市中心部では、「歴史的な建造物」が全回答者より低く、B-2 国宝天守所在市では、「歴史的な建造物」が全回答者より高い結果となった。

	全回答者	A-1 東京都区部	A-2 地方圏 県庁所在地	A-3 地方圏 町村	B-1 京都市 中心部	B-2 国宝天 守所在市
歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠 等）	23.6%	32.3%	21.0%	19.8%	18.4%	29.5%
歴史的な街並み、棚田などの景観	6.3%	4.4%	6.1%	5.7%	7.0%	7.7%
伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼 等）	13.9%	16.0%	12.3%	14.2%	13.5%	14.5%
伝統芸能（能、歌舞伎 等）	4.0%	3.3%	3.2%	4.2%	8.2%	2.1%
考古遺跡、古墳、土器	6.1%	5.0%	7.1%	7.7%	3.8%	6.4%
歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡	10.2%	15.5%	9.8%	9.5%	10.7%	8.4%
地域にまつわる伝承・民話・地名	6.7%	7.6%	6.5%	8.4%	5.9%	5.8%
古美術品（絵画、彫刻、仏像 等）	2.9%	2.2%	2.4%	1.7%	6.6%	2.2%
伝統的工芸品（陶芸、織物 等）	4.5%	3.2%	4.5%	3.1%	8.3%	3.6%
方言、慣習	9.8%	2.6%	12.3%	11.3%	8.2%	9.8%
郷土料理、食文化	11.4%	5.7%	14.5%	13.3%	9.2%	9.8%
その他（具体的に）	0.7%	2.3%	0.4%	1.1%	0.2%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×選択された文化遺産の割合の比較

<居住地域内で認識している文化遺産：「その他」の回答>

A-1 東京都区部

居住地域内で認識している文化遺産を問う設問に対する「その他の回答」として、56件の回答があり、そのうち有効回答は20件であった。主な意見について以下に示す。

○公園など	
・総合的な大規模な公園	・公園 海辺
・運河、堀	・菖蒲園
・公園	・緑地公園
○建造物	
・国技館が有る	・世界に誇れるプラネタリウムがある
・美術館	・柴又帝釈天
・帝釈天	・東京大学
・近代的な建築物等	
○名産品など	
・名産物	・染め物等
・郷土野菜	
○文化・芸術	
・演劇や古着屋など	・有名な漫画家さん達の聖地

A-2 地方圏県庁所在市

同設問に対する「その他の回答」として、23件の回答があり、そのうち有効回答は10件であった。主な意見について以下に示す。

○公園・港など	
・旧帝国海軍の港	・公園
○建造物	
・城	・詳しくは知らない 建物など
○歴史的背景	
・原爆落下中心地	
○温泉など	
・温泉	・温泉
・道後温泉、松山城	
○その他	
・俳句が盛ん	

A-3 地方圏町村

同設問に対する「その他の回答」として、62件の回答があり、そのうち有効回答は28件であった。主な意見について以下に示す。

○建造物	
・アイヌ民俗資料館	・刑務所 樺戸博物館
・縄文時代の遺跡 世界遺産登録	

○名産品など ・農作物	
○文化・芸術 ・筆	・映画撮影の場所選ばれた
○歴史的背景 ・開拓の歴史・化石	
○自然・景観 ・シンバクの木 ・自然遺産「世界遺産」の富士山がある ・熊野古道 ・自然遺産 ・北アルプスの景観 ・古道(塩の道)がある ・ホタル ・柿田川の湧き水	・富士山 ・大辺路街道 ・海、山 ・自然 ・桜並木 ・富士山 ・川 ・世界遺産(富士山)
○温泉 ・温泉	
○その他 ・友人との思い出の地	・郷愁を感じる

B-1 京都市中心部

居住地域内で認識している文化遺産を問う設問に対する「その他の回答」として、8件の回答があり、そのうち有効回答は7件であった。主な意見について以下に示す。

○建造物 ・世界遺産 ・博物館、公共施設	・博物館 ・同志社相国寺御所御霊社などに近接。
○自然・景観 ・山々の美しさ	
○その他 ・酒とラーメン	・友達

B-2 国宝天守所在市

居住地域内で認識している文化遺産を問う設問に対する「その他の回答」として、13件の回答があり、そのうち有効回答は6件であった。主な意見について以下に示す。

○建造物 ・世界遺産 ・世界遺産や国宝がある。 ・世界遺産	・世界遺産ならある ・国宝の城
○地域の行事 ・灘のけんか祭り	

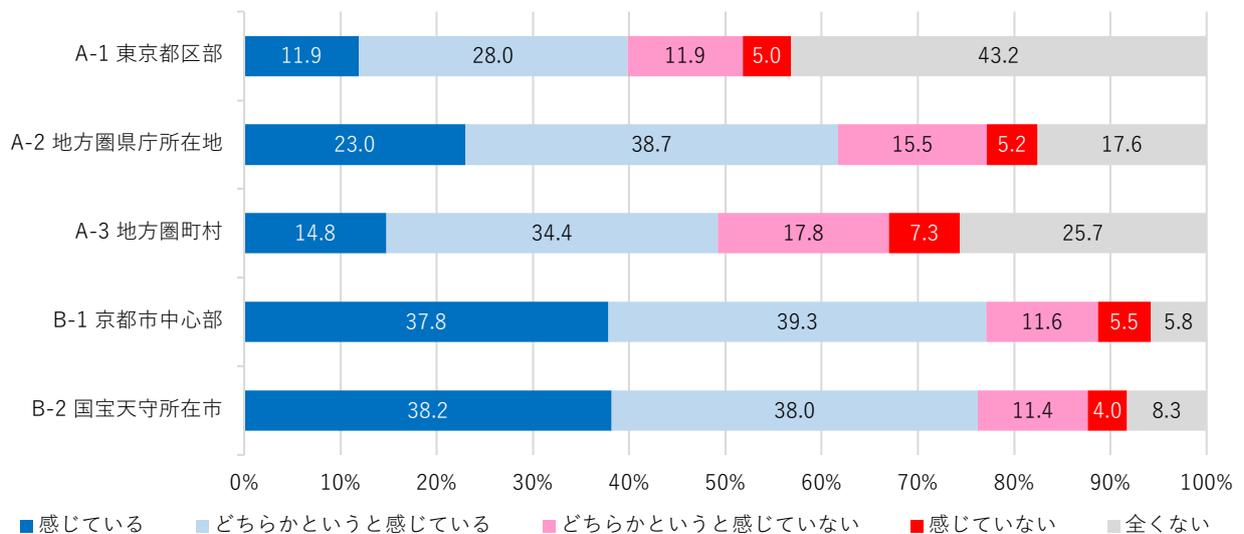
3-1-7. エリア×居住地域の文化遺産への愛着の度合い[個人]

居住地域の文化遺産へ愛着を「感じている」と「どちらかと考えている」を合わせて肯定的にとらえている方が最も多いエリアとして B-1 京都市中心部、B-2 国宝天守所在市がそれぞれ 81.9%、83.1%と高い愛着度合いを示し、続いてA-2 地方圏県庁所在市が61.7%、A-3 地方圏町村が49.2%、A-1 東京都区部は39.9%と最も低かった。特にA-1 東京都区部の「感じている」とした割合は11.9%と特に少なかった。

表：エリア×居住地域の文化遺産への愛着の度合い[個人]

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない	Q(6)で居住地域内に文化遺産が「全くない」とした回答者
全回答者	22.4%	35.0%	14.3%	5.5%	22.8%
A-1 東京都区部	11.9%	28.0%	11.9%	5.0%	43.2%
A-2 地方圏県庁所在市	23.0%	38.7%	15.5%	5.2%	17.6%
A-3 地方圏町村	14.8%	34.4%	17.8%	7.3%	25.7%
B-1 京都市中心部	37.8%	39.3%	11.6%	5.5%	5.8%
B-2 国宝天守所在市	38.2%	38.0%	11.4%	4.0%	8.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×居住地域の文化遺産への愛着の度合い[個人]

3-1-8. エリア×地域住民の文化遺産への愛着の度合い[集団]

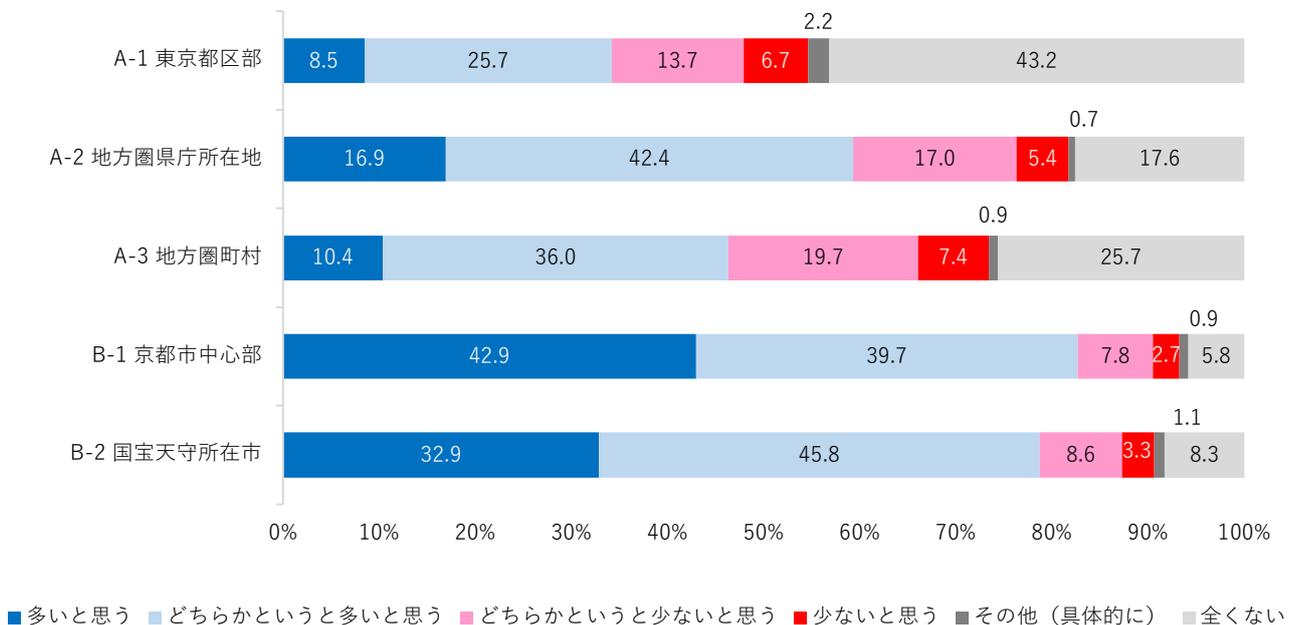
居住地域の文化遺産に対して地域の住民が愛着を感じていると思うか、という設問に対して「多いと思う」「どちらか多いと思う」を合わせて、地域の文化遺産が最も肯定的にとらえられていると考えられているエリアは、B-1 京都市中心部、B-2 国宝天守所在市はそれぞれ82.6%、78.4%と高く、A-2 地方圏県庁所在市は59.3%、A-3 地方圏町村が46.4%であった。A-1 東京都区部が34.2%と最も低かった。

表：エリア×地域住民の文化遺産への愛着の度合い[集団]

	多いと思う	どちらかという 多いと思う	どちらかという 少ないと思う	少ないと思う	その他 (具体的に)	Q(6)で居住地域内 に文化遺産が「全 くない」とした回 答者
全回答者	18.5%	37.2%	14.8%	5.7%	1.1%	22.8%
A-1 東京都区部	8.5%	25.7%	13.7%	6.7%	2.2%	43.2%
A-2 地方圏県庁所在市	16.9%	42.4%	17.0%	5.4%	0.7%	17.6%
A-3 地方圏町村	10.4%	36.0%	19.7%	7.4%	0.9%	25.7%
B-1 京都市中心部	42.9%	39.7%	7.8%	2.7%	0.9%	5.8%
B-2 国宝天守所在市	32.9%	45.8%	8.6%	3.3%	1.1%	8.3%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------



図：エリア×地域住民の文化遺産への愛着の度合い[集団]

<「居住地域の文化遺産に対して地域の住民が愛着を感じていると思うか」：その他の回答>

A-1 東京都区部

同設問に対する「その他の回答」として、49件の回答があり、そのうち1件のみが有効回答で、それも「半々だと思う」というものであった。

A-2 地方圏県庁所在市

同設問に対する「その他の回答」として、11件の回答があり、そのうち1件の有効回答を以下に示す。

○その他

・史跡はあっても知らない事が多いと思う

A-3 地方圏町村

同設問に対する「その他の回答」として、28件の回答があり、そのうち1件の有効回答を以下に示す。

○その他

・どちらとも言えないと思います

B-1 京都市中心部

同設問に対する「その他の回答」として、8件の回答があり、そのうち有効回答は0件であった。

B-2 国宝天守所在市

同設問に対する「その他の回答」として、24件の回答があり、そのうち2件の有効回答を以下に示す。

○その他

・年齢層で分かれると思います

・年配者は愛着を感じている方が多いと思うけど、若い人はそうでもないと思う

<居住地域の文化遺産に対する3-1-7（個人）と3-1-8（集団）の愛着度合いの比較>

A-1 東京都区部では、自身が居住地域の文化遺産に愛着を「感じている(11.9%)」「どちらかというと感じている(28.0%)」と答えているのに対して、地域住民の方は文化遺産に愛着を持っている人が「多いと思う(8.5%)」「どちらかという人多いと思う(25.7%)」であった。B-1 京都市中心部では、居住地域の文化遺産に愛着を「感じている(37.8%)」「どちらかというと感じている(39.3%)」と答えているのに対して、地域住民の方は文化遺産に愛着を持っている人が「多いと思う(42.9%)」「どちらかという人多いと思う(39.7%)」であった。

つまり、調査結果からは、A-1 東京都区部では、地域の人よりも自身の方が地域の文化遺産により愛着を持っていると考える傾向があり、逆にB-1 京都市中心部では、自身よりも地域の方が地域の文化遺産により愛着を持っていると考えている傾向があると考えられることができる。

3-1-9. エリア×文化遺産全般への関心

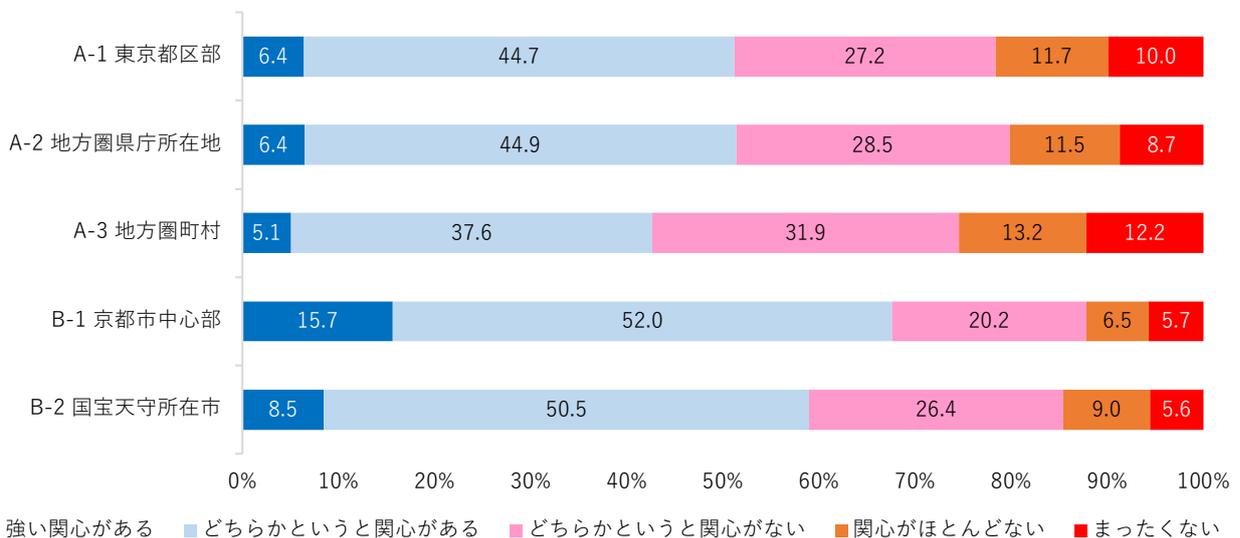
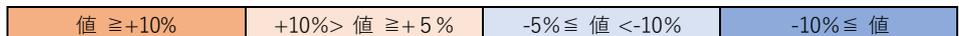
文化遺産全般に対して、「強い関心がある」または「どちらかというに関心がある」と答えた回答者は、三大都市圏—地方圏の比較で見た場合、A-1 東京都区部では51.1%とA-2 地方圏県庁所在地では51.3%と差がほぼ見られなかった。それに対して、A-3 地方圏町村は42.7%と低く、半数を下回った。それに対して、歴史文化の中心地ともいえるB-1 京都市中心部に居住する回答者の割合は67.7%であった。

調査結果からは、前問-前前問で居住地域でも文化遺産がないと考えている人の多いA-1 東京都区部の住民はA-2 地方圏県庁所在地の住民と文化遺産全般への関心度がほぼ変わらず、A-1 東京都区部よりも文化遺産があると考えている人が多いA-3 地方圏の住民はA-1 東京都民よりも文化遺産全般への関心が低いという傾向が見られる。また、歴史文化が色濃く残る地域の住民(B-1,B-2)は、文化遺産全般への関心も高いという傾向が読み取れる。

表：エリア×文化遺産全般への関心

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者	7.2%	44.5%	28.1%	11.1%	9.1%
A-1 東京都区部	6.4%	44.7%	27.2%	11.7%	10.0%
A-2 地方圏県庁所在地	6.4%	44.9%	28.5%	11.5%	8.7%
A-3 地方圏町村	5.1%	37.6%	31.9%	13.2%	12.2%
B-1 京都市中心部	15.7%	52.0%	20.2%	6.5%	5.7%
B-2 国宝天守所在市	8.5%	50.5%	26.4%	9.0%	5.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×文化遺産全般への関心

3-1-10. エリア×コロナ禍での滞在時間の増加傾向

コロナ禍で居住地域内での滞在時間が「増えた」または「どちらかというが増えた」と答えた回答者は、A-1 東京都区部では73.4%、A-2 地方圏県庁所在地で56.6%、A-3 地方圏町村で54.7%とコロナ禍による行動制限が強かった都市部（東京都区部）では滞在時間への影響が突出して強かったことがわかる。

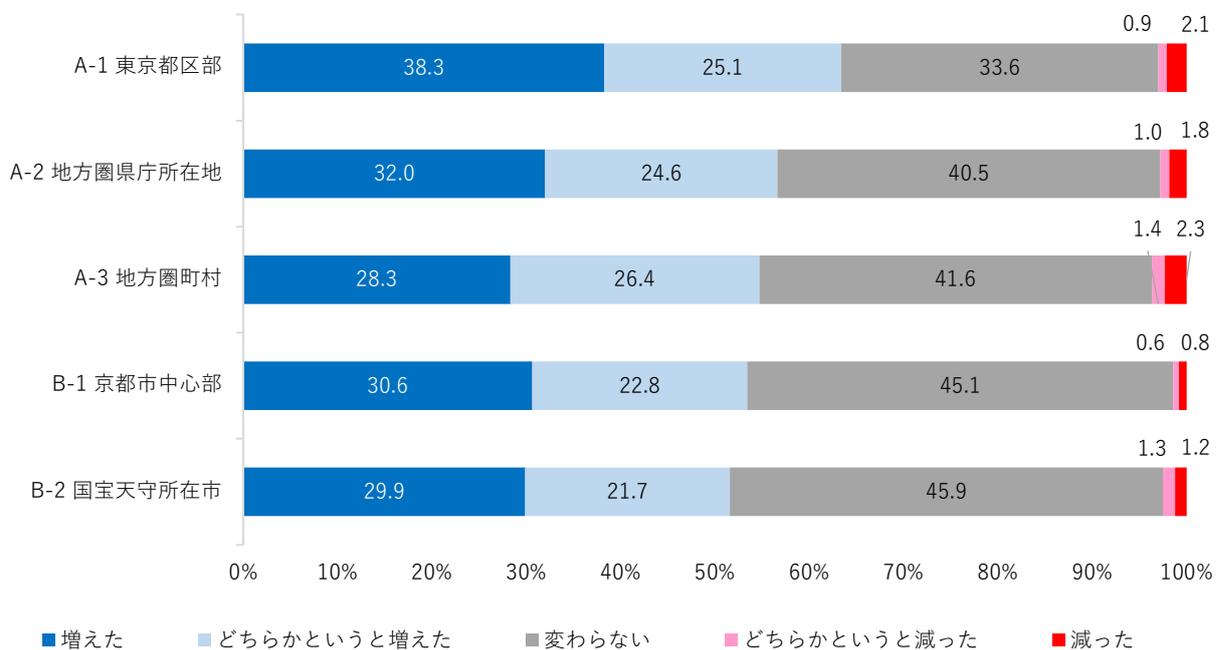
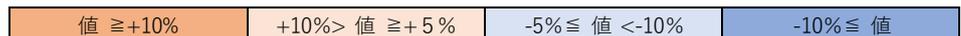
B-1 京都市中心部、B-2 国宝天守所在市では、「増えた」「どちらかというが増えた」を合わせるとそれぞれ53.4%、51.6%であり、A-2、A-3 とほぼ同様の割合であった。

調査結果からは、三大都市圏の中心部のみが突出して、居住地域での滞在時間が増えたことが窺える。

表：エリア×コロナ禍での滞在時間の増加傾向

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	31.7%	24.5%	40.9%	1.1%	1.8%
A-1 東京都区部	38.3%	25.1%	33.6%	0.9%	2.1%
A-2 地方圏県庁所在地	32.0%	24.6%	40.5%	1.0%	1.8%
A-3 地方圏町村	28.3%	26.4%	41.6%	1.4%	2.3%
B-1 京都市中心部	30.6%	22.8%	45.1%	0.6%	0.8%
B-2 国宝天守所在市	29.9%	21.7%	45.9%	1.3%	1.2%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×コロナ禍での滞在時間の増加傾向

3-1-11. エリア×コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

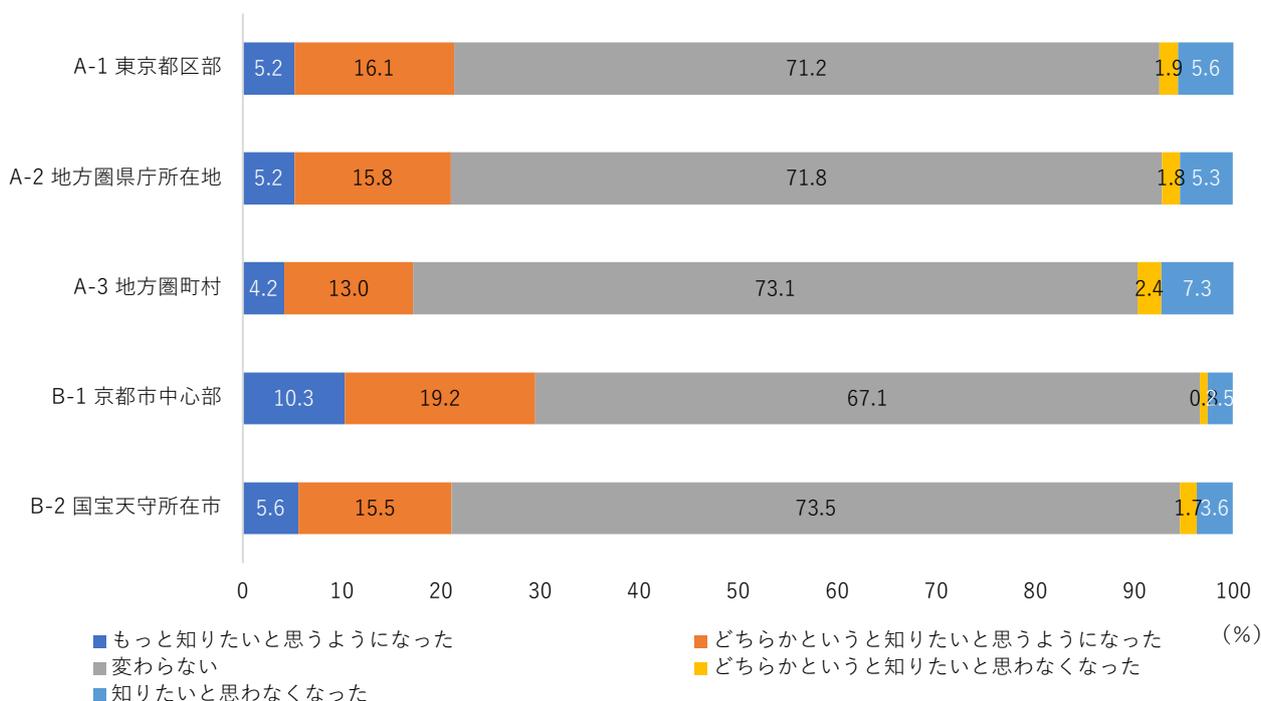
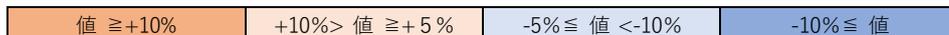
コロナ禍を経て居住地域の文化遺産への関心が増えたかという設問に対して、「変わらない」とする割合どのエリアでも約7割程度で大きくは変わらない。居住地域の文化遺産への関心が増加したかとい点では、B-1 京都市中心部が突出して増加しており、「もっと知りたいと思うようになった(10.3%)」「どちらかという知りたいと思うようになった(19.2%)」を合わせて 29.5%となった。三大都市圏—地方圏で見ると A-1 東京都区部と A-2 地方圏県庁所在地は概ね同じ割合であるものの、A-3 地方圏町村が合計 17.2%と若干低い割合に留まった。

調査結果からは、コロナ禍による居住地域内の文化遺産への関心の増減に関する地域差はほぼ見られないものの、B-1 京都市中心部のみ異なり、関心がより増しているといえることができる。

表：エリア×コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった
全回答者	5.4%	15.3%	72.0%	1.9%	5.4%
A-1 東京都区部	5.2%	16.1%	71.2%	1.9%	5.6%
A-2 地方圏県庁所在地	5.2%	15.8%	71.8%	1.8%	5.3%
A-3 地方圏町村	4.2%	13.0%	73.1%	2.4%	7.3%
B-1 京都市中心部	10.3%	19.2%	67.1%	0.8%	2.5%
B-2 国宝天守所在市	5.6%	15.5%	73.5%	1.7%	3.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

3-1-12. エリア×コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増減

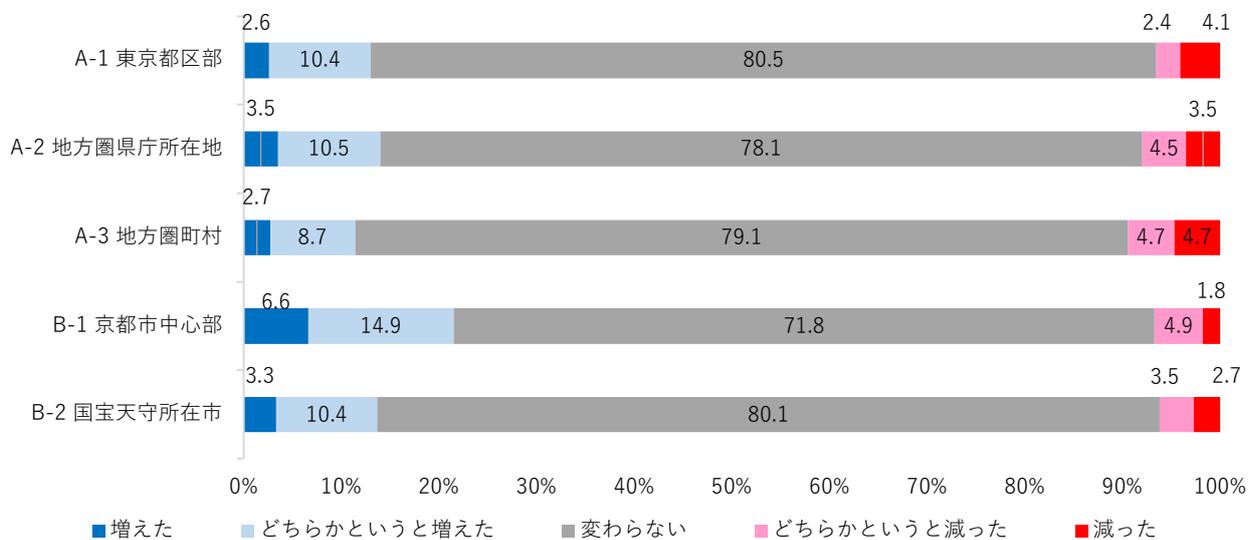
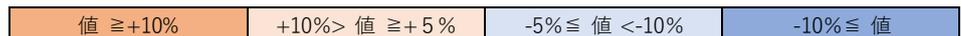
コロナ禍の期間中に居住地域の文化遺産を知る機会が増えたかという設問に対して、どのエリアでも「変わらない」と答えている方が最も多く、B-1 京都市中心部の71.8%を除き、概ね8割が「変わらない」と回答した。B-1 京都市中心部は、「増えた」「どちらかというが増えた」と答えた方を合わせると21.5%で、エリア別では最も多かった。「どちらかというが減った」という回答については概ね違いはないものの、A-3 地方圏町村は「どちらかというが減った」「減った」を合わせると9.4%となり、他の地域よりも高い数値になっている。

調査結果からは、コロナ禍による居住地域内の文化遺産を知る機会の増減に関する地域差はほぼ見られないものの、B-1 京都市中心部のみ異なり、知る機会がより増加していると捉えることができる。

表：エリア×コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増減

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	3.3%	10.3%	78.8%	4.0%	3.7%
A-1 東京都区部	2.6%	10.4%	80.5%	2.4%	4.1%
A-2 地方圏県庁所在市	3.5%	10.5%	78.1%	4.5%	3.5%
A-3 地方圏町村	2.7%	8.7%	79.1%	4.7%	4.7%
B-1 京都市中心部	6.6%	14.9%	71.8%	4.9%	1.8%
B-2 国宝天守所在市	3.3%	10.4%	80.1%	3.5%	2.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増減

3-1-13. エリア×コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

コロナ禍以前において地域住民がお祭りに関わる度合い（参加率+見物率）は、エリアによる差が明確に生じており、A-1 東京都区部では「よく参加していた(5.0%)」「ときどき参加していた(12.0%)」「よく見物していた(9.5%)」「ときどき見物していた(26.6%)」を合わせも5割程度(53.1%)であるが、A-2 地方圏県庁所在地、A-3 地方圏町村では約6割(前者は63.0%、後者は62.0%)、B-1 京都市中心部では約8割(77.4%)、B-2 国宝天守所在市では約7割(70.5%)であった。

また、「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない」と答えた方もA-1 東京都区部が最も割合が多く15.3%であった。A-1 東京都区部の居住者は突出してお祭りへの参加率も見学率も突出して少ないことが読み取れる。

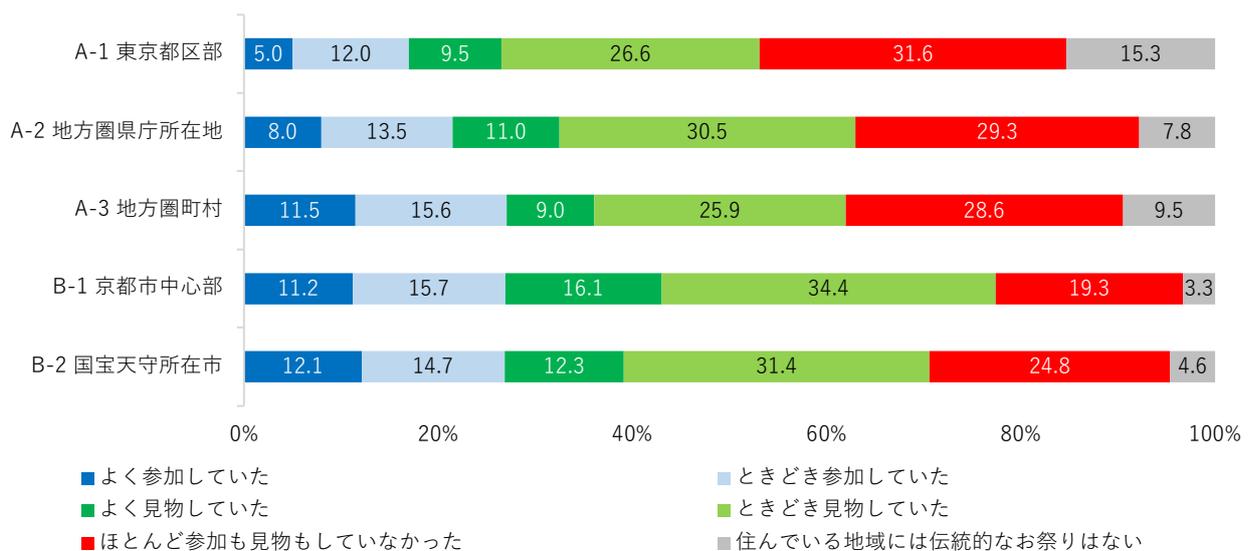
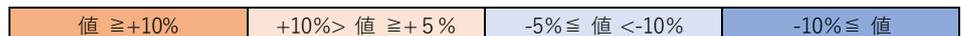
お祭りに参加している割合（「よく参加していた」「ときどき参加していた」の合計）は、B-1 京都中心部(26.9%)でもA-3 地方圏町村(27.1%)でも同様であるが、前者は見学の割合が高いため、お祭りに関わる度合い（参加率+見物率）が高くなっている。

また、地方圏でもA-2 地方圏県庁所在地とA-3 地方圏町村では、参加と見学を併せた関与割合は概ね同じ(63.0%、62.0%)であるが参加と見学の割合が異なり、A-2 地方圏県庁所在地は見学率がより多く、A-3 地方圏町村は参加率がより多い。

表：エリア×コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	9.4%	14.2%	10.8%	28.9%	27.9%	8.8%
A-1 東京都区部	5.0%	12.0%	9.5%	26.6%	31.6%	15.3%
A-2 地方圏県庁所在地	8.0%	13.5%	11.0%	30.5%	29.3%	7.8%
A-3 地方圏町村	11.5%	15.6%	9.0%	25.9%	28.6%	9.5%
B-1 京都市中心部	11.2%	15.7%	16.1%	34.4%	19.3%	3.3%
B-2 国宝天守所在市	12.1%	14.7%	12.3%	31.4%	24.8%	4.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

3-1-14. エリア×コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

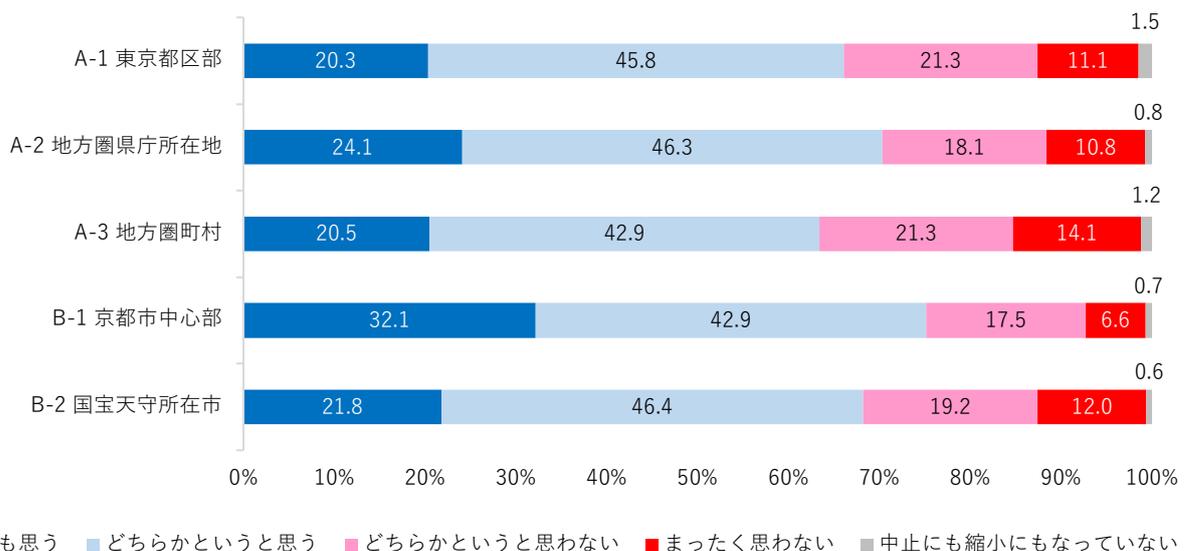
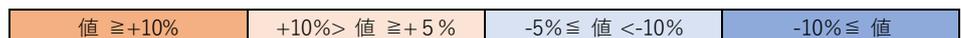
コロナによって中止になったお祭りへの喪失感に関する問いでは、極端な差はないものの、さみしいと「とても思う」「どちらかというと思う」と答えた方は、A-3 地方圏町村が最も低く63.4%、続いてA-1 東京都区部で66.1%、A-2 地方圏県庁所在市は70.4%、B-1 京都市中心部は最も高く75.0%であった。

前問でお祭りへの参加率がB-1 京都市中心部とA-3 地方町村は同等程度であったが、さみしくなったと「まったく思わない」と考える割合は、前者は6.6%と低く、後者は14.1%と高い割合となっている。

表：エリア××コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

	とても思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	まったく思わない	中止にも縮小にもなっていない
全回答者	22.6%	45.0%	19.8%	11.7%	1.0%
A-1 東京都区部	20.3%	45.8%	21.3%	11.1%	1.5%
A-2 地方圏県庁所在市	24.1%	46.3%	18.1%	10.8%	0.8%
A-3 地方圏町村	20.5%	42.9%	21.3%	14.1%	1.2%
B-1 京都市中心部	32.1%	42.9%	17.5%	6.6%	0.7%
B-2 国宝天守所在市	21.8%	46.4%	19.2%	12.0%	0.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア××コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

3-1-15. エリア×コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の認識度合いの増減

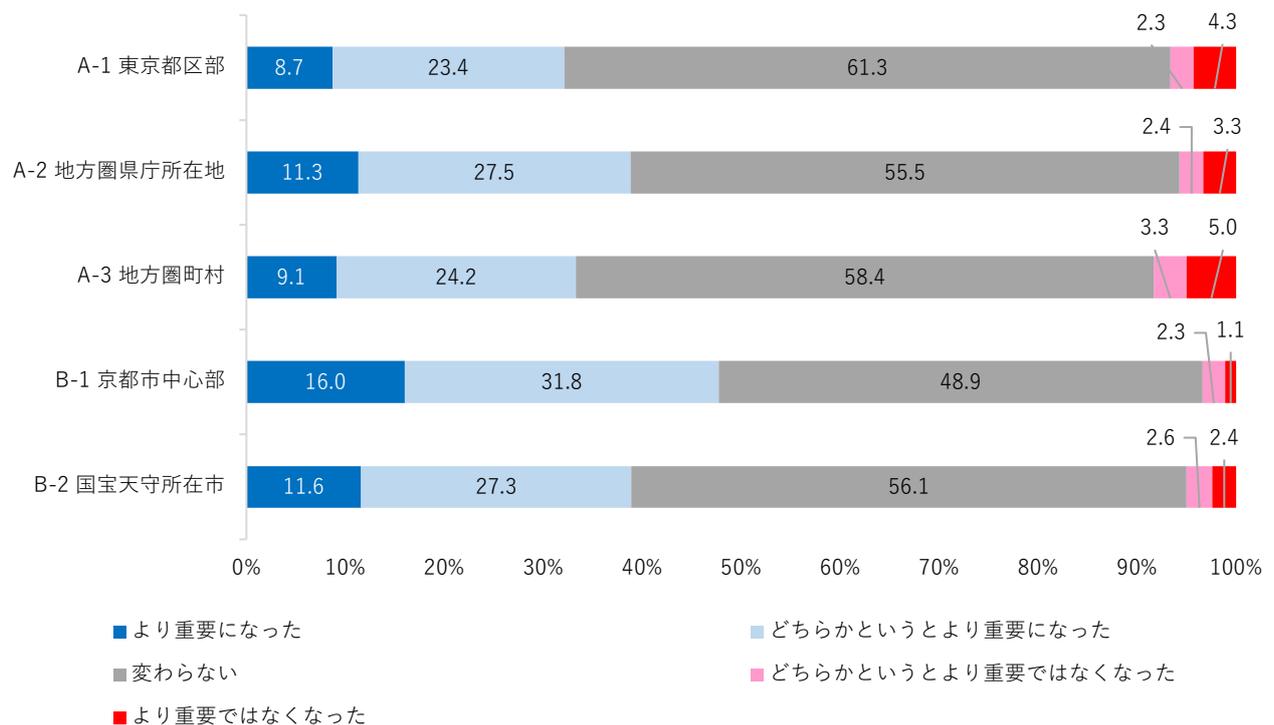
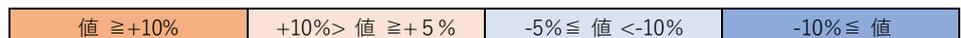
コロナ禍を機会に地域愛着に対して文化遺産が「より重要になった」「どちらかというより重要になった」と答えた割合は、B-1 京都市中心部が最も高く、合わせて47.8%であった。三大都市圏－地方圏で比較すると、A-2 地方圏県庁所在地が最も高く38.8%で、A-1 東京都区部とA-3 地方圏町村はそれぞれ32.1%、33.3%とほぼ同じ割合であった。

また、A-2 地方圏県庁所在地とB-2 国宝天守所在地は概ね同じ割合を示した。

表：エリア×コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

	より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	10.6%	26.0%	57.1%	2.7%	3.6%
A-1 東京都区部	8.7%	23.4%	61.3%	2.3%	4.3%
A-2 地方圏県庁所在地	11.3%	27.5%	55.5%	2.4%	3.3%
A-3 地方圏町村	9.1%	24.2%	58.4%	3.3%	5.0%
B-1 京都市中心部	16.0%	31.8%	48.9%	2.3%	1.1%
B-2 国宝天守所在地	11.6%	27.3%	56.1%	2.6%	2.4%

凡例：全回答者との比較色分け



図：エリア×コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

3-1-16. エリアによる比較まとめ

各設問でキーとなる割合についてエリアごとに比較できるよう整理する。各割合は肯定的な割合の合計(例:「思う」+「どちらかと思う」の割合合計)等を示す。

表：エリア×各設問のキー割合

	Q(1)地域に20年以上住んでいる人の割合	Q(2)地域に愛着を感じている人の割合	Q(3)文化遺産を愛着の要素と考えている人の割合	Q(4)愛着(親しみ)をより感じるようになった点がある人の割合	Q(5)現在住んでいる地域だけに愛着(親しみ)を感じている人の割合
全回答者	59.0%	83.7%	20.5%	74.4%	25.0%
A-1 東京都区部	47.0%	86.1%	11.0%	74.9%	20.9%
A-2 地方圏県庁所在地	62.8%	85.0%	19.8%	76.8%	25.4%
A-3 地方圏町村	63.3%	78.8%	12.1%	69.7%	26.5%
B-1 京都市中心部	52.8%	86.2%	51.6%	77.4%	24.1%
B-2 国宝天守所在市	64.3%	85.3%	32.7%	75.8%	26.8%

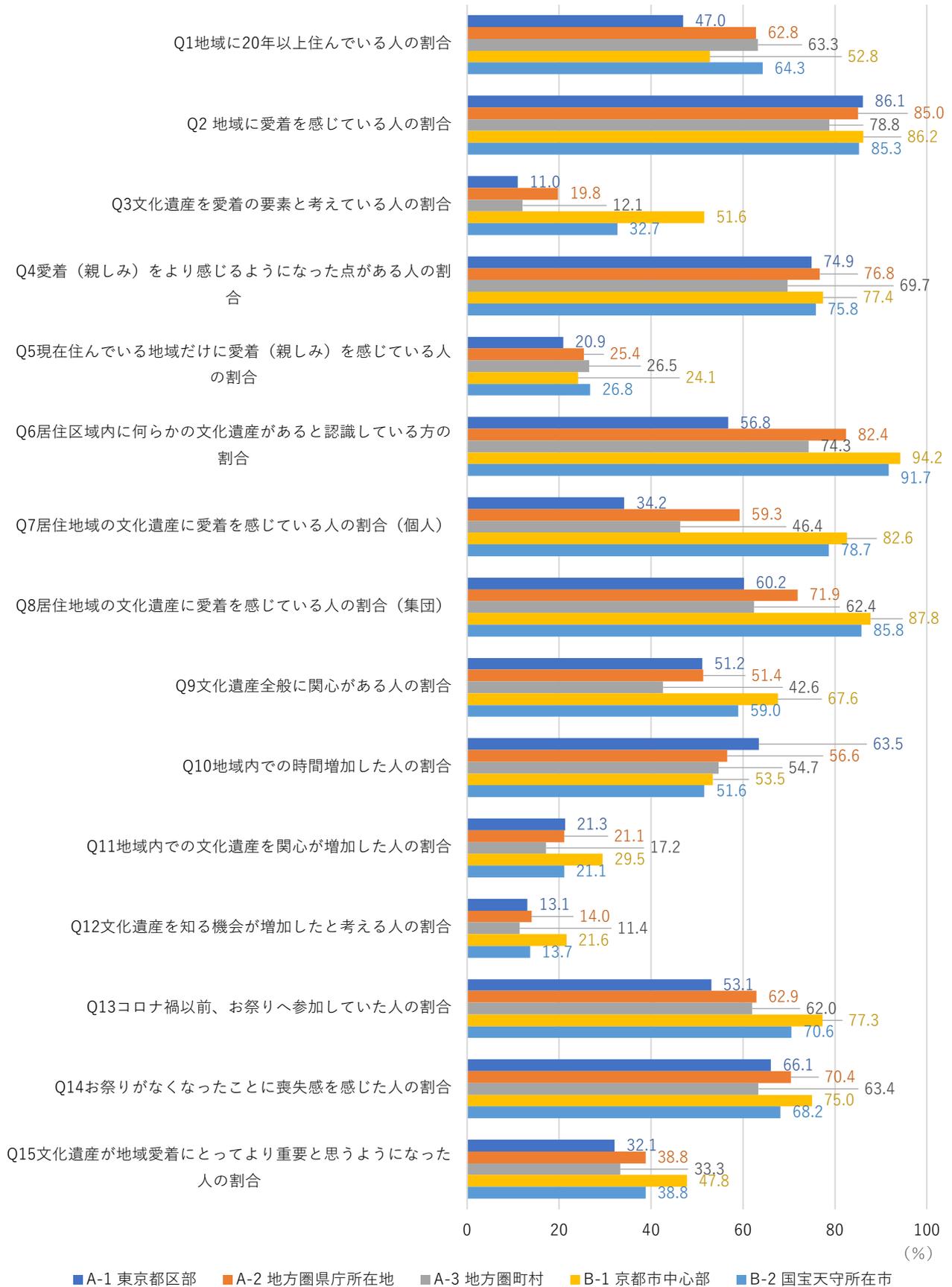
	Q(6)居住区域内に何らかの文化遺産があると認識している方の割合	Q(7)居住地域の文化遺産に愛着を感じている人の割合(個人)	Q(8)居住地域の文化遺産に愛着を感じている人の割合(集団)	Q(9)文化遺産全般に関心がある人の割合	Q(10)地域内での時間増加した人の割合
全回答者	77.2%	55.70%	72.0%	51.7%	56.2%
A-1 東京都区部	56.8%	34.20%	60.2%	51.2%	63.5%
A-2 地方圏県庁所在地	82.4%	59.30%	71.9%	51.4%	56.6%
A-3 地方圏町村	74.3%	46.40%	62.4%	42.6%	54.7%
B-1 京都市中心部	94.2%	82.60%	87.8%	67.6%	53.5%
B-2 国宝天守所在市	91.7%	78.70%	85.8%	59.0%	51.6%

	Q(11)地域内での文化遺産に関心が増加した人の割合	Q(12)文化遺産を知る機会が増加したと考える人の割合	Q(13)コロナ禍以前、お祭りへ参加していた人の割合	Q(14)お祭りがなくなったことに喪失感を感じた人の割合	Q(15)文化遺産が地域愛着にとってより重要と思うようになった人の割合
全回答者	20.7%	13.6%	63.3%	67.4%	32.1%
A-1 東京都区部	21.3%	13.1%	53.1%	66.1%	32.1%
A-2 地方圏県庁所在地	21.1%	14.0%	62.9%	70.4%	38.8%
A-3 地方圏町村	17.2%	11.4%	62.0%	63.4%	33.3%
B-1 京都市中心部	29.5%	21.6%	77.3%	75.0%	47.8%
B-2 国宝天守所在市	21.1%	13.7%	70.6%	68.2%	38.8%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-1. エリアによる比較



図：エリア×各設問のキー割合

3-2. 居住年数による比較

「2年未満」、「2年以上～5年未満」、「5年以上～10年未満」、「10年以上～20年未満」、「20年以上～」、「出生時から」の6つの項目ごとの回答結果を比較する。

なお、各エリアの母数は以下の通りであり、項目により母数が少ないことに留意が必要である。

表：居住年数の回答者数

	2年未満	2年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上～	出生時から
回答者数(人)	811	914	969	1,582	3,476	2,686

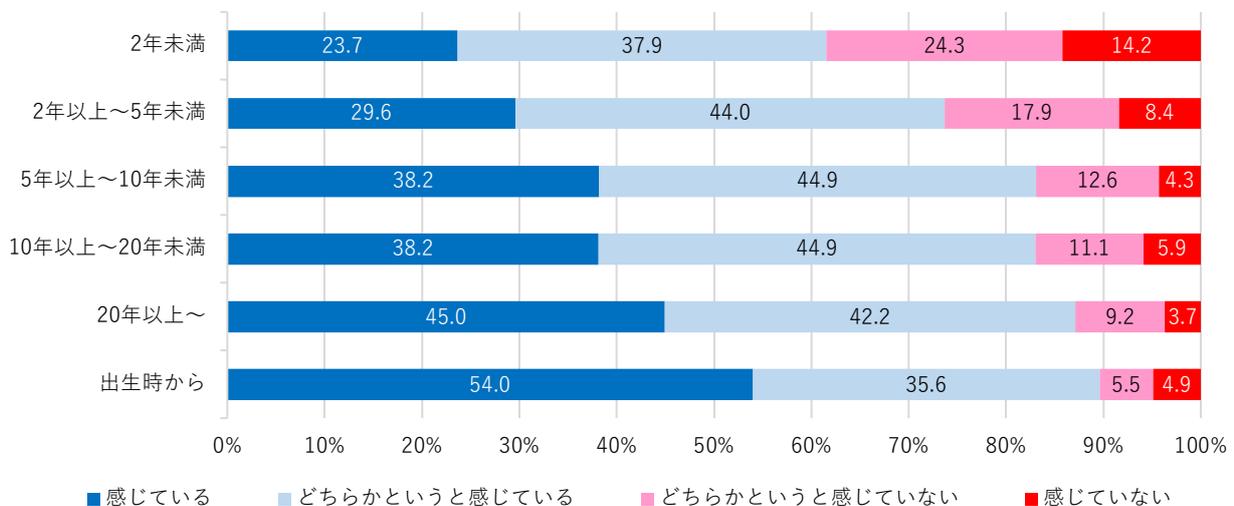
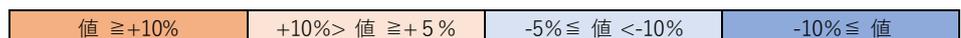
3-2-1. 居住年数×居住地域への愛着の度合い

居住地域への愛着の度合いは、居住年数が短いほど「感じていない」や「どちらかというと感じていない」の割合が高く、居住年数が長いほど「感じている」「どちらかというと感じている」の割合が高くなる。特に、出生時から現在まで同一地域で居住している回答者は、「感じている」と回答する割合が54.0%と高くなっている。

表：居住年数×居住地域への愛着の度合い

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	42.6%	41.0%	10.8%	5.6%
2年未満	23.7%	37.9%	24.3%	14.2%
2年以上～5年未満	29.6%	44.0%	17.9%	8.4%
5年以上～10年未満	38.2%	44.9%	12.6%	4.3%
10年以上～20年未満	38.2%	44.9%	11.1%	5.9%
20年以上～	45.0%	42.2%	9.2%	3.7%
出生時から	54.0%	35.6%	5.5%	4.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域への愛着の度合い

3-2-2. 居住年数×愛着を感じる点

居住地域への愛着を感じる点は、居住年数が短いほど各要素を選択する割合が全体的に低く、出生時から現在まで同一地域に居住している回答者は、要素を選択する割合が全体的に高い。居住年数の比較による特徴として、特に、「自分の家・土地がある」や「生まれ育ったりした場所がある」のほか、「家族・親族がいる」や「友人が多くいる」等の人間関係に関連する要素で差が生じている。

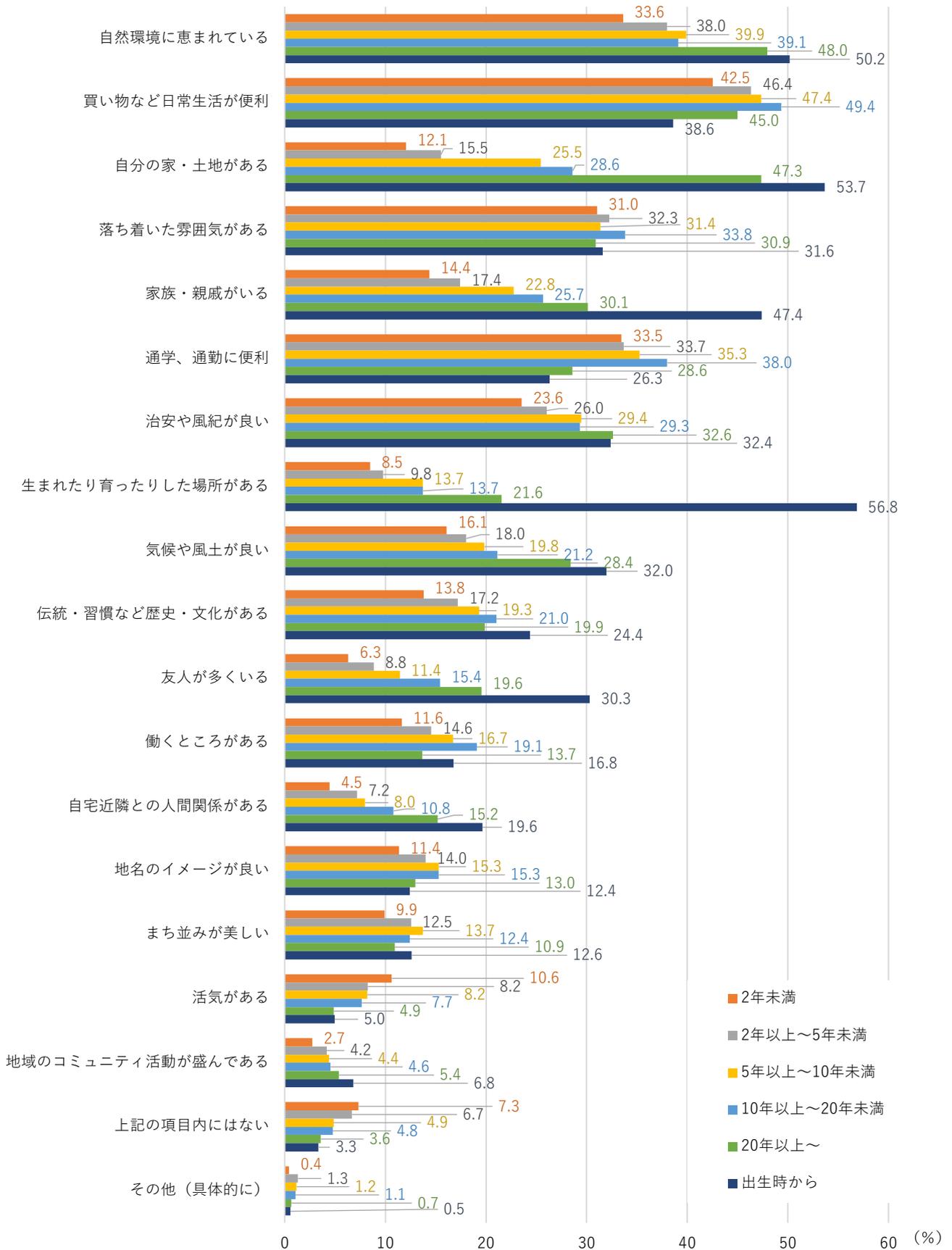
表：居住年数×愛着を感じる点

	全回答者	2年未満	2年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 20年未満	20年以上～	出生時から
自然環境に恵まれている	44.6%	33.6%	38.0%	39.9%	39.1%	48.0%	50.2%
買い物など日常生活が便利	44.2%	42.5%	46.4%	47.4%	49.4%	45.0%	38.6%
自分の家・土地がある	38.9%	12.1%	15.5%	25.5%	28.6%	47.3%	53.7%
落ち着いた雰囲気がある	31.7%	31.0%	32.3%	31.4%	33.8%	30.9%	31.6%
家族・親戚がいる	31.0%	14.4%	17.4%	22.8%	25.7%	30.1%	47.4%
通学、通勤に便利	30.8%	33.5%	33.7%	35.3%	38.0%	28.6%	26.3%
治安や風紀が良い	30.6%	23.6%	26.0%	29.4%	29.3%	32.6%	32.4%
生まれ育ったりした場所がある	26.9%	8.5%	9.8%	13.7%	13.7%	21.6%	56.8%
気候や風土が良い	25.7%	16.1%	18.0%	19.8%	21.2%	28.4%	32.0%
伝統・習慣など歴史・文化がある	20.5%	13.8%	17.2%	19.3%	21.0%	19.9%	24.4%
友人が多くいる	19.1%	6.3%	8.8%	11.4%	15.4%	19.6%	30.3%
働くところがある	15.5%	11.6%	14.6%	16.7%	19.1%	13.7%	16.8%
自宅近隣との人間関係がある	13.6%	4.5%	7.2%	8.0%	10.8%	15.2%	19.6%
地名のイメージが良い	13.4%	11.4%	14.0%	15.3%	15.3%	13.0%	12.4%
まち並みが美しい	11.9%	9.9%	12.5%	13.7%	12.4%	10.9%	12.6%
活気がある	6.3%	10.6%	8.2%	8.2%	7.7%	4.9%	5.0%
地域のコミュニティ活動が盛んである	5.2%	2.7%	4.2%	4.4%	4.6%	5.4%	6.8%
上記の項目内にはない	4.3%	7.3%	6.7%	4.9%	4.8%	3.6%	3.3%
その他（具体的に）	0.8%	0.4%	1.3%	1.2%	1.1%	0.7%	0.5%

凡例：全回答者との比較色分け

値 $\geq +10\%$	$+10\% >$ 値 $\geq +5\%$	$-5\% \leq$ 値 $< -10\%$	$-10\% \leq$ 値
----------------	-------------------------	-------------------------	----------------

3-2. 居住年数による比較



図：居住年数×愛着を感じる点

3-2-3. 居住年数×愛着をより感じるようになった点

コロナ禍で居住地域への愛着をより感じるようになった点は、居住年数が短いほど「自分の家・土地がある」や「生まれたり育ったりした場所がある」を選択する割合が全体的に低く、出生時から現在まで同一地域に居住している回答者が愛着を感じる点として「家族・親戚がいる」や「生まれたり育ったりした場所がある」、「友人が多くいる」を選択する割合が高い。

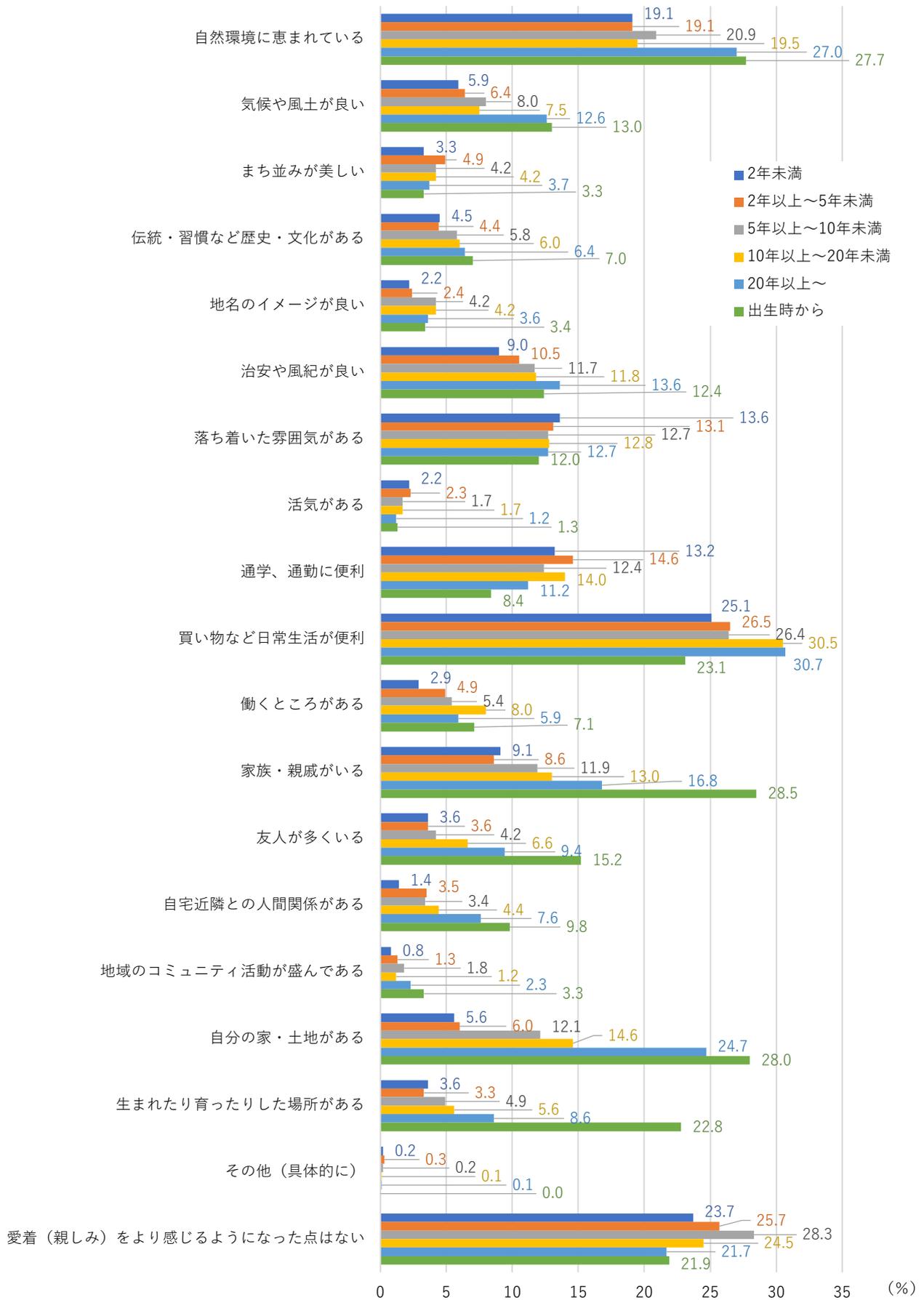
表：居住年数×愛着をより感じるようになった点

	全回答者	2年未満	2年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 20年未満	20年以上～	出生時から
自然環境に恵まれている	24.3%	19.1%	19.1%	20.9%	19.5%	27.0%	27.7%
気候や風土が良い	10.6%	5.9%	6.4%	8.0%	7.5%	12.6%	13.0%
まち並みが美しい	3.8%	3.3%	4.9%	4.2%	4.2%	3.7%	3.3%
伝統・習慣など歴史・文化がある	6.2%	4.5%	4.4%	5.8%	6.0%	6.4%	7.0%
地名のイメージが良い	3.5%	2.2%	2.4%	4.2%	4.2%	3.6%	3.4%
治安や風紀が良い	12.3%	9.0%	10.5%	11.7%	11.8%	13.6%	12.4%
落ち着いた雰囲気がある	12.6%	13.6%	13.1%	12.7%	12.8%	12.7%	12.0%
活気がある	1.5%	2.2%	2.3%	1.7%	1.7%	1.2%	1.3%
通学、通勤に便利	11.4%	13.2%	14.6%	12.4%	14.0%	11.2%	8.4%
買い物など日常生活が便利	27.5%	25.1%	26.5%	26.4%	30.5%	30.7%	23.1%
働くところがある	6.2%	2.9%	4.9%	5.4%	8.0%	5.9%	7.1%
家族・親戚がいる	17.6%	9.1%	8.6%	11.9%	13.0%	16.8%	28.5%
友人が多くいる	9.1%	3.6%	3.6%	4.2%	6.6%	9.4%	15.2%
自宅近隣との人間関係がある	6.5%	1.4%	3.5%	3.4%	4.4%	7.6%	9.8%
地域のコミュニティ活動が盛んである	2.2%	0.8%	1.3%	1.8%	1.2%	2.3%	3.3%
自分の家・土地がある	20.0%	5.6%	6.0%	12.1%	14.6%	24.7%	28.0%
生まれたり育ったりした場所がある	10.7%	3.6%	3.3%	4.9%	5.6%	8.6%	22.8%
その他（具体的に）	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%
愛着（親しみ）をより感じるようになった点はない	23.3%	23.7%	25.7%	28.3%	24.5%	21.7%	21.9%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-2. 居住年数による比較



図：居住年数×愛着をより感じるようになった点

3-2-4. 居住年数×居住地域以外で愛着のある地域

居住地域以外で愛着のある地域は、居住年数が短い回答者は「成人前に、住んでいた地域」や「成人後に、住んでいた地域」を選択する割合が全体的に高く、「現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている」と回答する割合は少ない。成人前に住んでいた地域は全体で35.9%であるが、「現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている」回答者のうち出生時から住んでいる回答者は43.7%を占める。つまり、少なくとも46.8%（35.9%+25.0%×43.7%）の方が成人前に住んでいた地域に愛着を感じている。

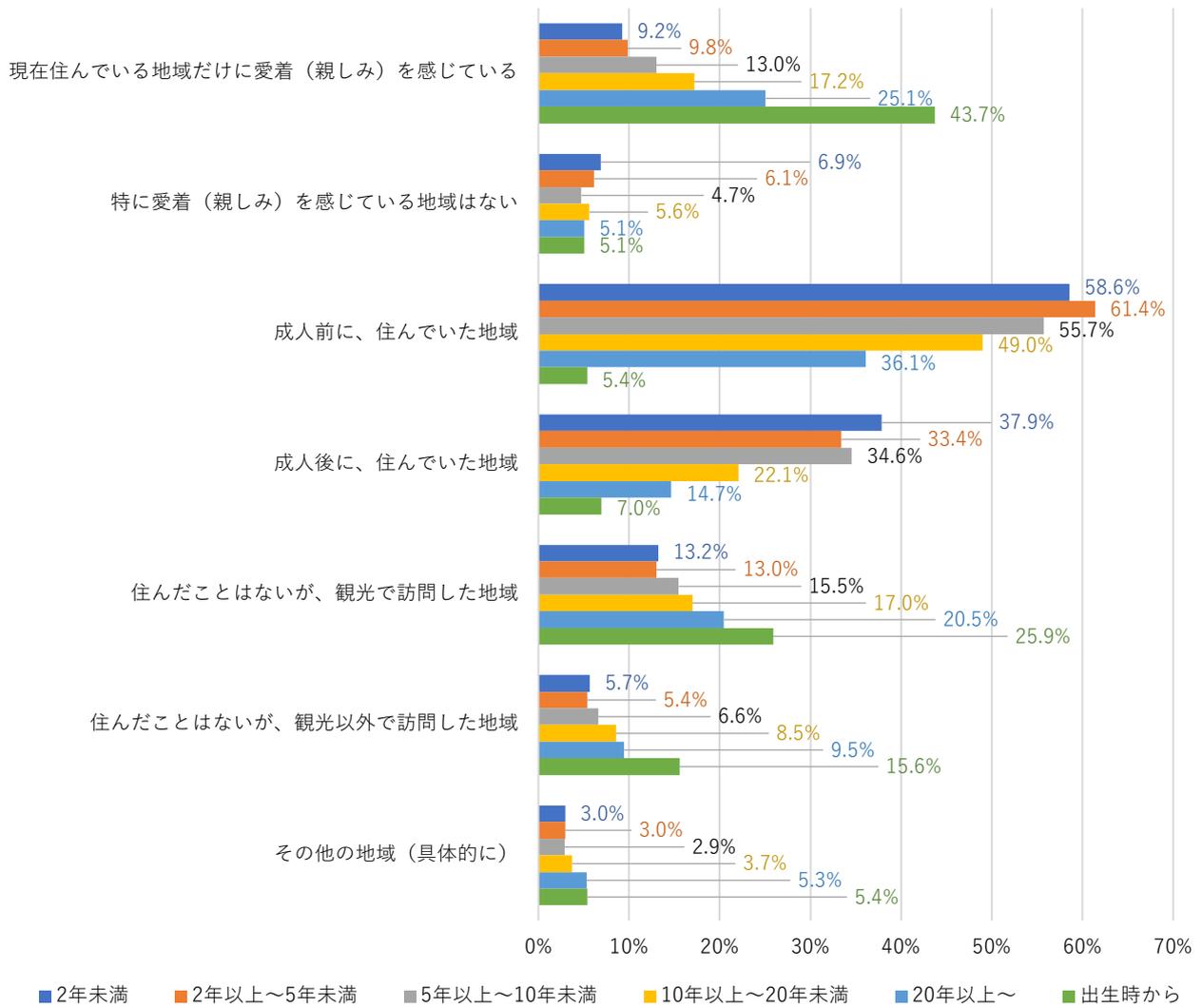
表：居住年数×居住地域以外で愛着のある地域

	現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）
全回答者	25.0%	5.4%	35.9%	19.1%	19.6%	10.0%	4.5%
2年未満	9.2%	6.9%	58.6%	37.9%	13.2%	5.7%	3.0%
2年以上～5年未満	9.8%	6.1%	61.4%	33.4%	13.0%	5.4%	3.0%
5年以上～10年未満	13.0%	4.7%	55.7%	34.6%	15.5%	6.6%	2.9%
10年以上～20年未満	17.2%	5.6%	49.0%	22.1%	17.0%	8.5%	3.7%
20年以上～	25.1%	5.1%	36.1%	14.7%	20.5%	9.5%	5.3%
出生時から	43.7%	5.1%	5.4%	7.0%	25.9%	15.6%	5.4%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-2. 居住年数による比較



図：居住年数×居住地域以外で愛着のある地域

3-2-5. 居住年数×居住地域の文化遺産

居住地域内で認識している文化遺産は、居住年数が長くなるにつれ文化遺産の認識度合いも高まっていく傾向がある。特に「伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼等）」や「歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠等）」「地域にまつわる伝承・民話・地名」が顕著である。ただし、その他については、2年以上の居住年数があると大きな差異は見られない。居住年数が短い回答者は「全くない」と回答する割合が高く、「伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼等）」や「歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠等）」「歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡」を選択する割合は全体的に低い。

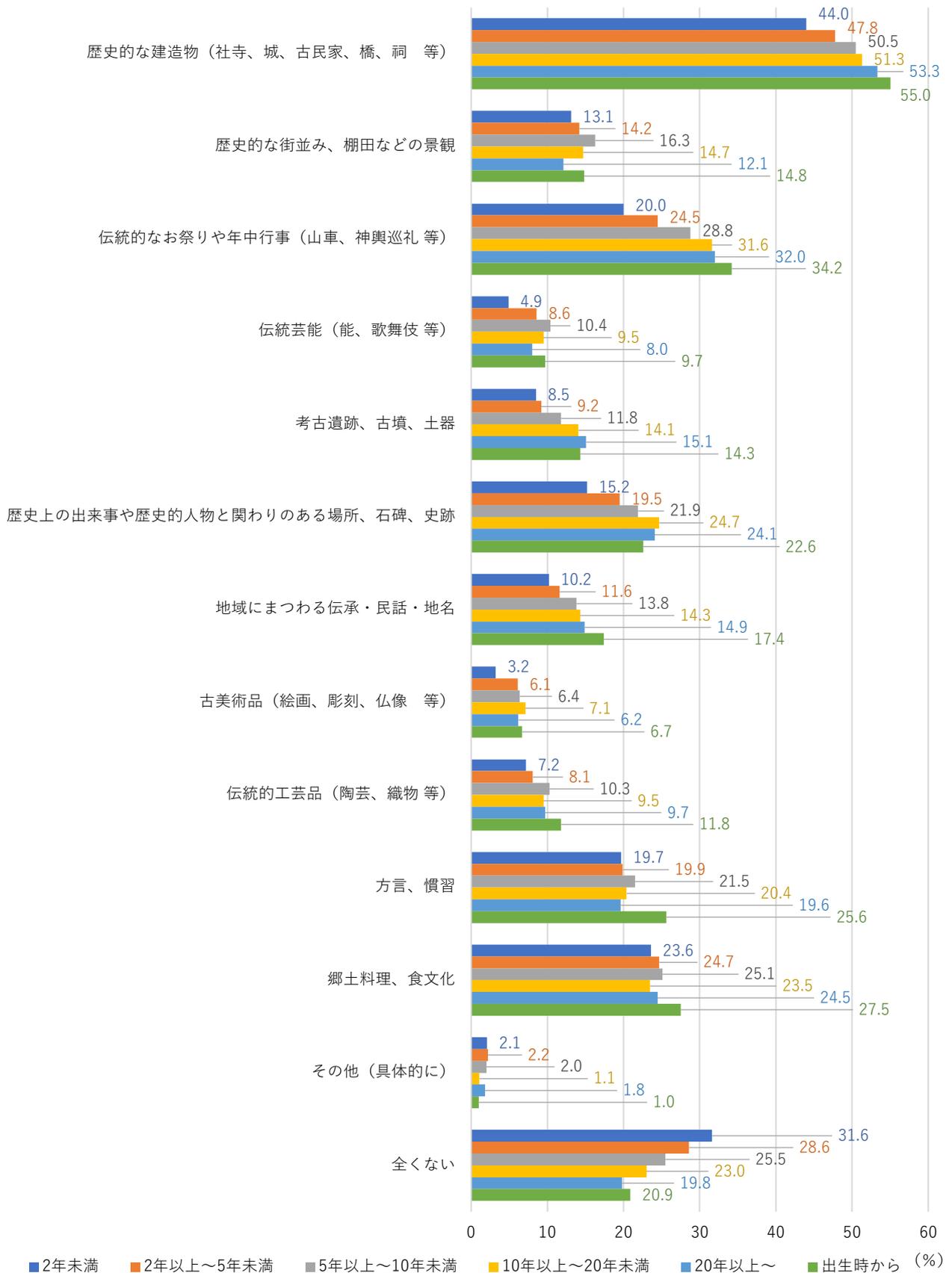
表：居住年数×居住地域の文化遺産

	全回答者	2年未満	2年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 20年未満	20年以上～	出生時から
歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠等）	51.9%	44.0%	47.8%	50.5%	51.3%	53.3%	55.0%
歴史的な街並み、棚田などの景観	13.9%	13.1%	14.2%	16.3%	14.7%	12.1%	14.8%
伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼等）	30.6%	20.0%	24.5%	28.8%	31.6%	32.0%	34.2%
伝統芸能（能、歌舞伎等）	8.7%	4.9%	8.6%	10.4%	9.5%	8.0%	9.7%
考古遺跡、古墳、土器	13.4%	8.5%	9.2%	11.8%	14.1%	15.1%	14.3%
歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡	22.5%	15.2%	19.5%	21.9%	24.7%	24.1%	22.6%
地域にまつわる伝承・民話・地名	14.7%	10.2%	11.6%	13.8%	14.3%	14.9%	17.4%
古美術品（絵画、彫刻、仏像等）	6.3%	3.2%	6.1%	6.4%	7.1%	6.2%	6.7%
伝統的工芸品（陶芸、織物等）	9.9%	7.2%	8.1%	10.3%	9.5%	9.7%	11.8%
方言、慣習	21.5%	19.7%	19.9%	21.5%	20.4%	19.6%	25.6%
郷土料理、食文化	25.1%	23.6%	24.7%	25.1%	23.5%	24.5%	27.5%
その他（具体的に）	1.6%	2.1%	2.2%	2.0%	1.1%	1.8%	1.0%
全くない	22.8%	31.6%	28.6%	25.5%	23.0%	19.8%	20.9%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≥ +10%	+10% > 値 ≥ +5%	-5% ≤ 値 < -10%	-10% ≤ 値
----------	----------------	----------------	----------

3-2. 居住年数による比較



図：居住年数×居住地域の文化遺産

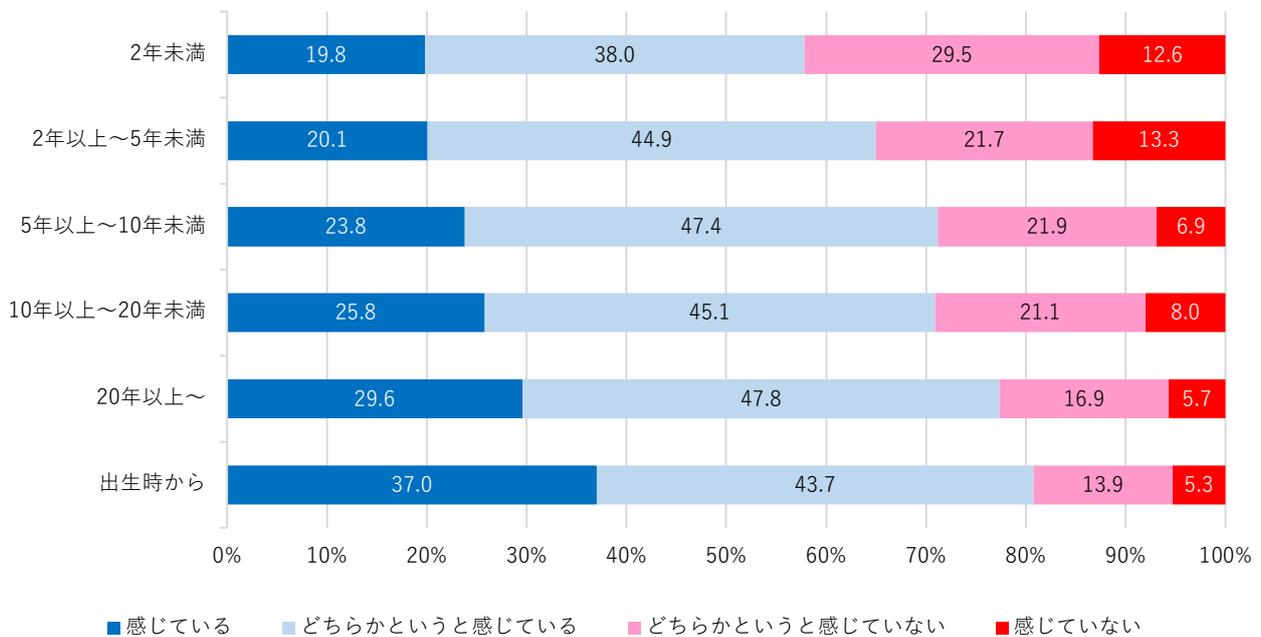
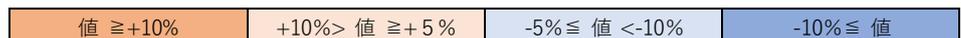
3-2-6. 居住年数×居住地域の文化遺産への愛着度

居住地域の文化遺産への愛着度は、居住年数が短いほど「感じていない」や「どちらかというと感じていない」の割合が高く、居住年数が長いほど「感じている」「どちらかというと感じている」の割合が高くなる。特に、出生時から現在まで同一地域に居住している回答者は、「感じている」と回答する割合が37.0%となっている。

表：居住年数×居住地域の文化遺産への愛着度

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	29.0%	45.4%	18.5%	7.2%
2年未満	19.8%	38.0%	29.5%	12.6%
2年以上～5年未満	20.1%	44.9%	21.7%	13.3%
5年以上～10年未満	23.8%	47.4%	21.9%	6.9%
10年以上～20年未満	25.8%	45.1%	21.1%	8.0%
20年以上～	29.6%	47.8%	16.9%	5.7%
出生時から	37.0%	43.7%	13.9%	5.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域の文化遺産への愛着度

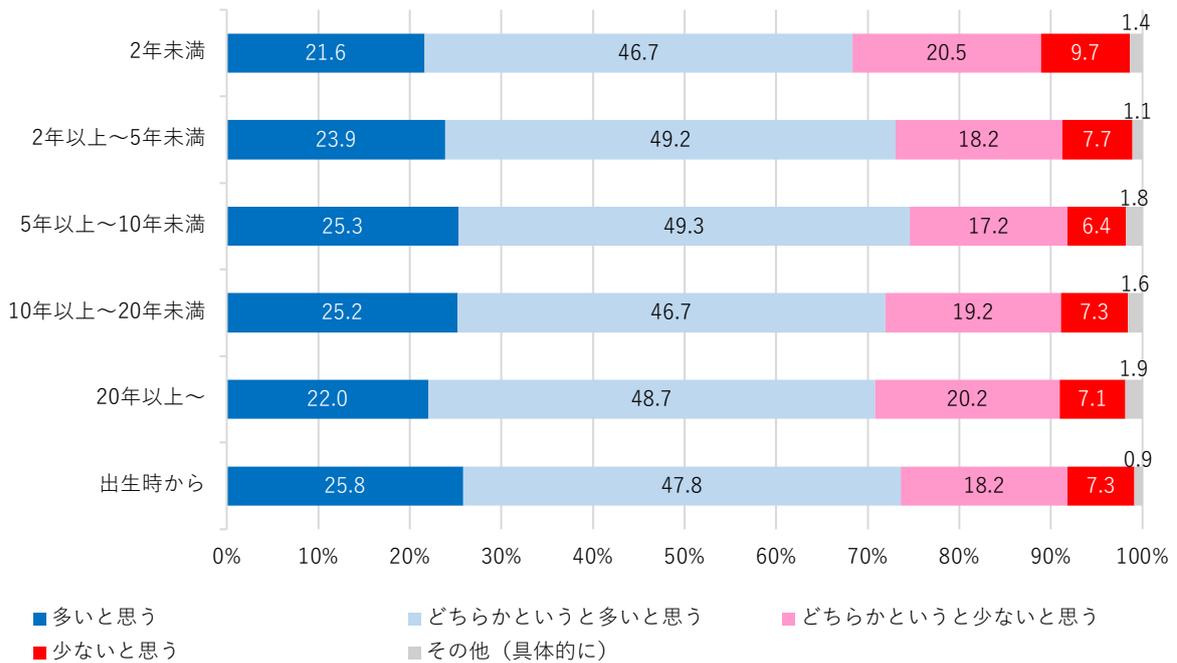
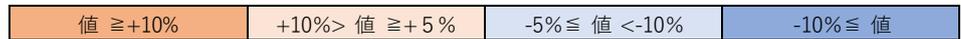
3-2-7. 居住年数×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

「地域住民が地域の文化遺産への愛着を感じている」と思う度合いには、居住年数による違いはほぼ見られない。

表：居住年数×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

	多いと思う	どちらかという 多いと思う	どちらかという 少ないと思う	少ないと思う	その他（具体的に）
全回答者	23.9%	48.1%	19.1%	7.3%	1.5%
2年未満	21.6%	46.7%	20.5%	9.7%	1.4%
2年以上～5年未満	23.9%	49.2%	18.2%	7.7%	1.1%
5年以上～10年未満	25.3%	49.3%	17.2%	6.4%	1.8%
10年以上～20年未満	25.2%	46.7%	19.2%	7.3%	1.6%
20年以上～	22.0%	48.7%	20.2%	7.1%	1.9%
出生時から	25.8%	47.8%	18.2%	7.3%	0.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

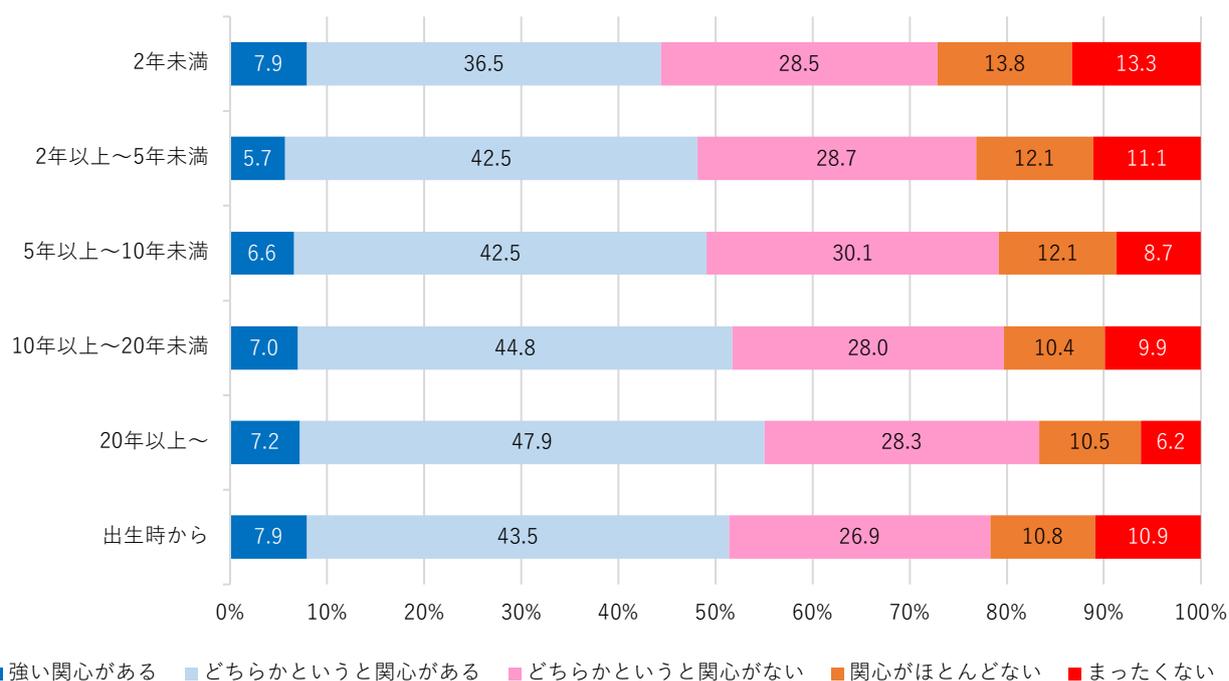
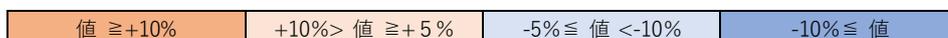
3-2-8. 居住年数×文化遺産全般への関心度

文化遺産全般への関心度には、居住年数による違いはほぼ生じていない。

表：居住年数×文化遺産全般への関心度

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者	7.2%	44.4%	28.1%	11.1%	9.2%
2年未満	7.9%	36.5%	28.5%	13.8%	13.3%
2年以上～5年未満	5.7%	42.5%	28.7%	12.1%	11.1%
5年以上～10年未満	6.6%	42.5%	30.1%	12.1%	8.7%
10年以上～20年未満	7.0%	44.8%	28.0%	10.4%	9.9%
20年以上～	7.2%	47.9%	28.3%	10.5%	6.2%
出生時から	7.9%	43.5%	26.9%	10.8%	10.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×文化遺産全般への関心度

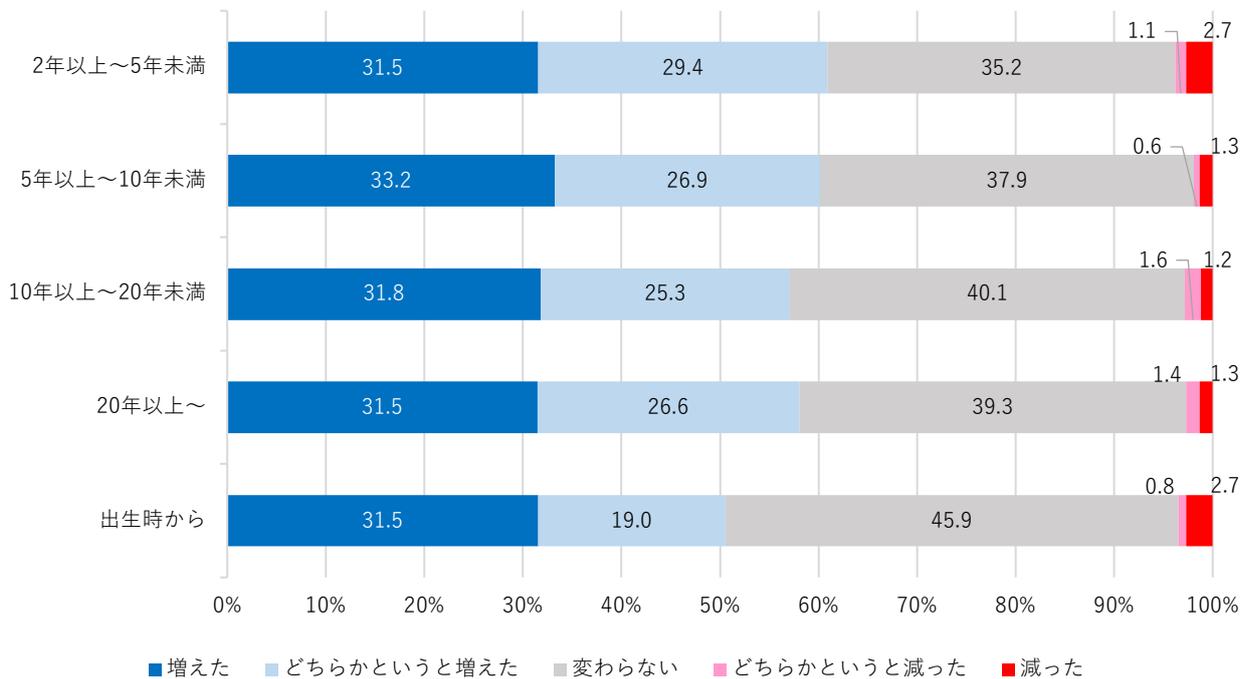
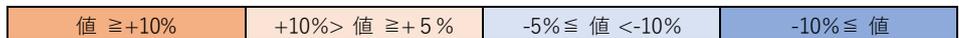
3-2-9. 居住年数×居住地域での滞在時間

居住地域での滞在時間は、居住年数に関わらず「増えた」と回答する人の割合は変わらない。一方で、出生時から現在まで同一地域に居住している回答者は、「どちらかというが増えた」と回答する人が19.0%と少なく、「変わらない」と回答する人が45.9%と多い。

表：居住年数×居住地域での滞在時間

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	31.7%	24.6%	40.7%	1.1%	1.8%
2年以上～5年未満	31.5%	29.4%	35.2%	1.1%	2.7%
5年以上～10年未満	33.2%	26.9%	37.9%	0.6%	1.3%
10年以上～20年未満	31.8%	25.3%	40.1%	1.6%	1.2%
20年以上～	31.5%	26.6%	39.3%	1.4%	1.3%
出生時から	31.5%	19.0%	45.9%	0.8%	2.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域での滞在時間

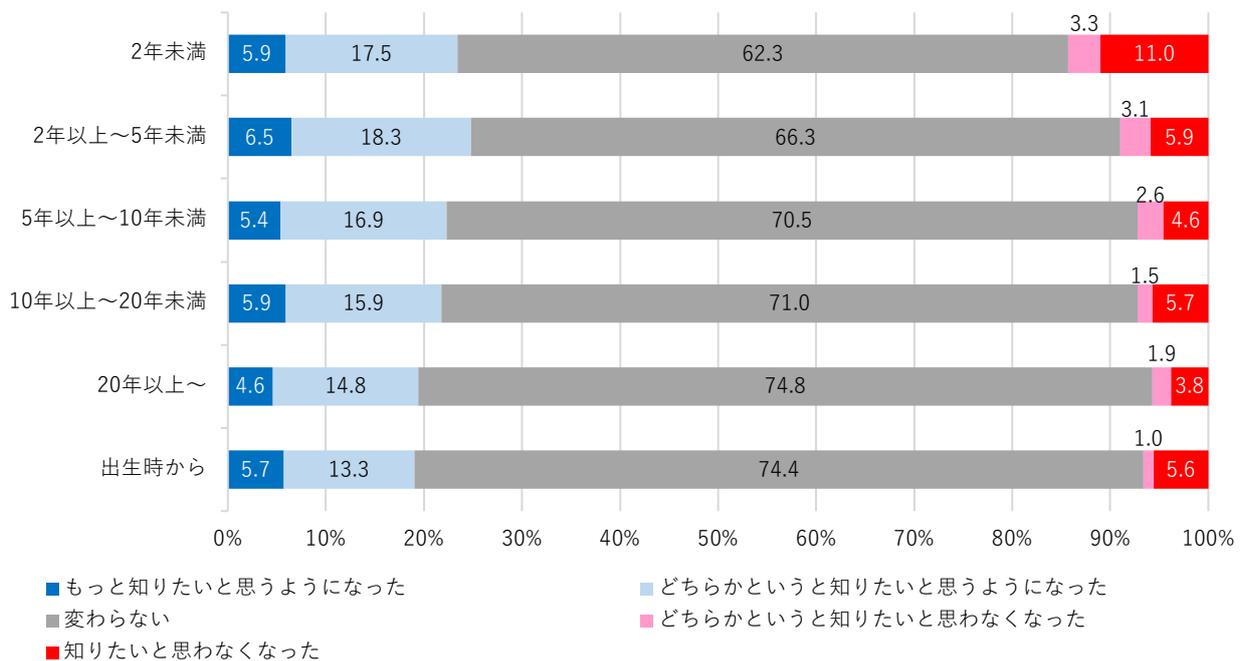
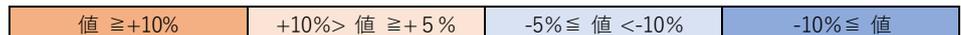
3-2-10. 居住年数×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

コロナ禍を経て居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったという気持ちの変化は、居住年数に関わらず全体的には変わらない。2年未満の回答者は、「知りたいと思わなくなった」と回答する人が11.0%と割合が多くなっている。

表：居住年数×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという 知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという 知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった
全回答者	5.4%	15.3%	72.0%	1.9%	5.4%
2年未満	5.9%	17.5%	62.3%	3.3%	11.0%
2年以上～5年未満	6.5%	18.3%	66.3%	3.1%	5.9%
5年以上～10年未満	5.4%	16.9%	70.5%	2.6%	4.6%
10年以上～20年未満	5.9%	15.9%	71.0%	1.5%	5.7%
20年以上～	4.6%	14.8%	74.8%	1.9%	3.8%
出生時から	5.7%	13.3%	74.4%	1.0%	5.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

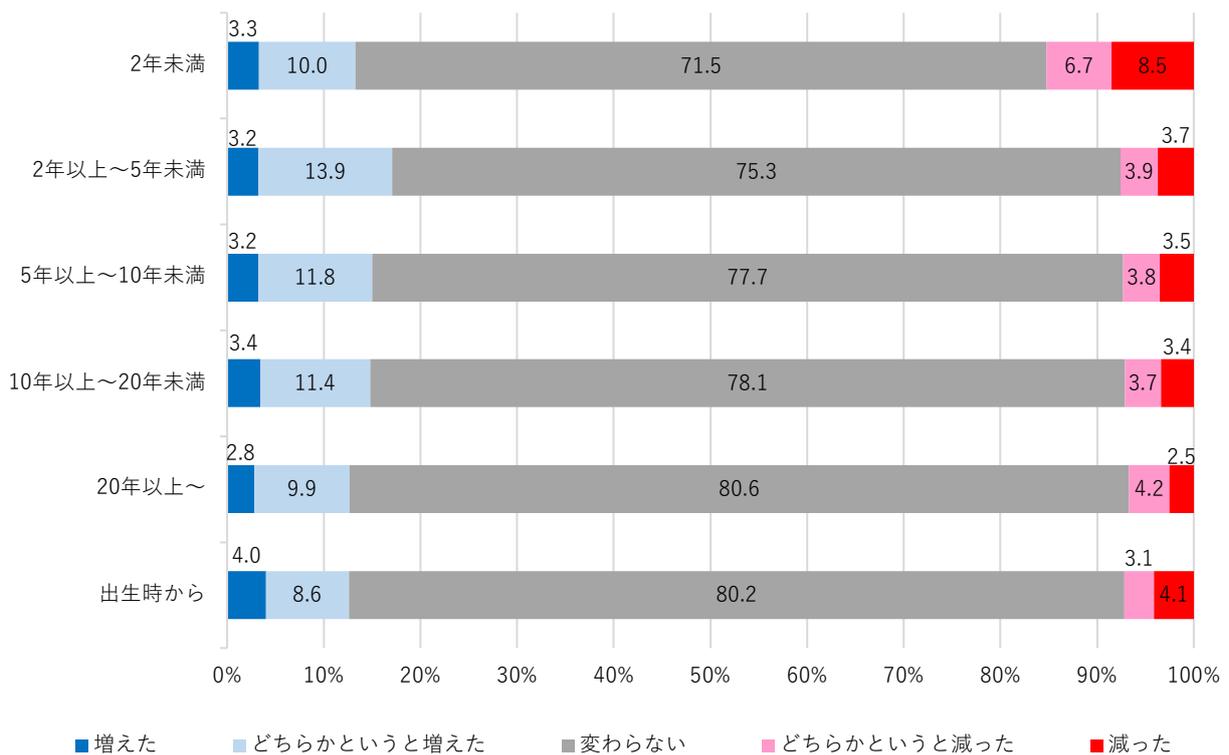
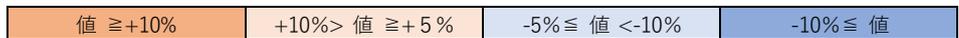
3-2-11. 居住年数×居住地域の文化遺産を知る機会の増減

居住地域の文化遺産を知る機会の増減は、居住年数による違いは大きく見られない。ただし、居住年数が「2年未満」の回答者は若干であるが機会が減っている。

表：居住年数×居住地域の文化遺産を知る機会の増減

	増えた	どちらかという 増えた	変わらない	どちらかという 減った	減った
全回答者	3.3%	10.3%	78.7%	4.0%	3.7%
2年未満	3.3%	10.0%	71.5%	6.7%	8.5%
2年以上～5年未満	3.2%	13.9%	75.3%	3.9%	3.7%
5年以上～10年未満	3.2%	11.8%	77.7%	3.8%	3.5%
10年以上～20年未満	3.4%	11.4%	78.1%	3.7%	3.4%
20年以上～	2.8%	9.9%	80.6%	4.2%	2.5%
出生時から	4.0%	8.6%	80.2%	3.1%	4.1%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域の文化遺産を知る機会の増減

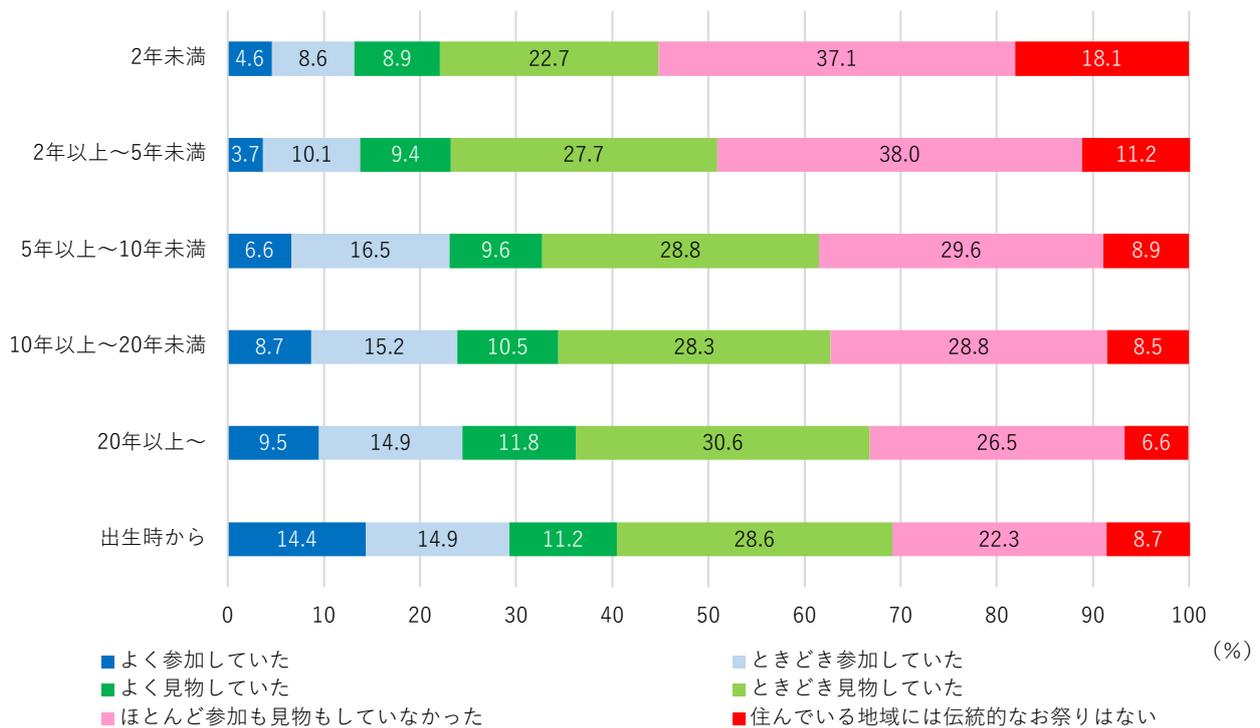
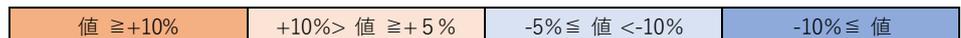
3-2-12. 居住年数×コロナ禍以前の地域の祭りへの参加・見物

コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物は、居住年数が短いほど「ほとんど参加も見物もしていなかった」や「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない」を選択する割合が高く、居住年数が長いほど「よく参加していた」「よく見物していた」の割合が高くなる。

表：居住年数×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	9.5%	14.2%	10.8%	28.7%	27.9%	8.9%
2年未満	4.6%	8.6%	8.9%	22.7%	37.1%	18.1%
2年以上～5年未満	3.7%	10.1%	9.4%	27.7%	38.0%	11.2%
5年以上～10年未満	6.6%	16.5%	9.6%	28.8%	29.6%	8.9%
10年以上～20年未満	8.7%	15.2%	10.5%	28.3%	28.8%	8.5%
20年以上～	9.5%	14.9%	11.8%	30.6%	26.5%	6.6%
出生時から	14.4%	14.9%	11.2%	28.6%	22.3%	8.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

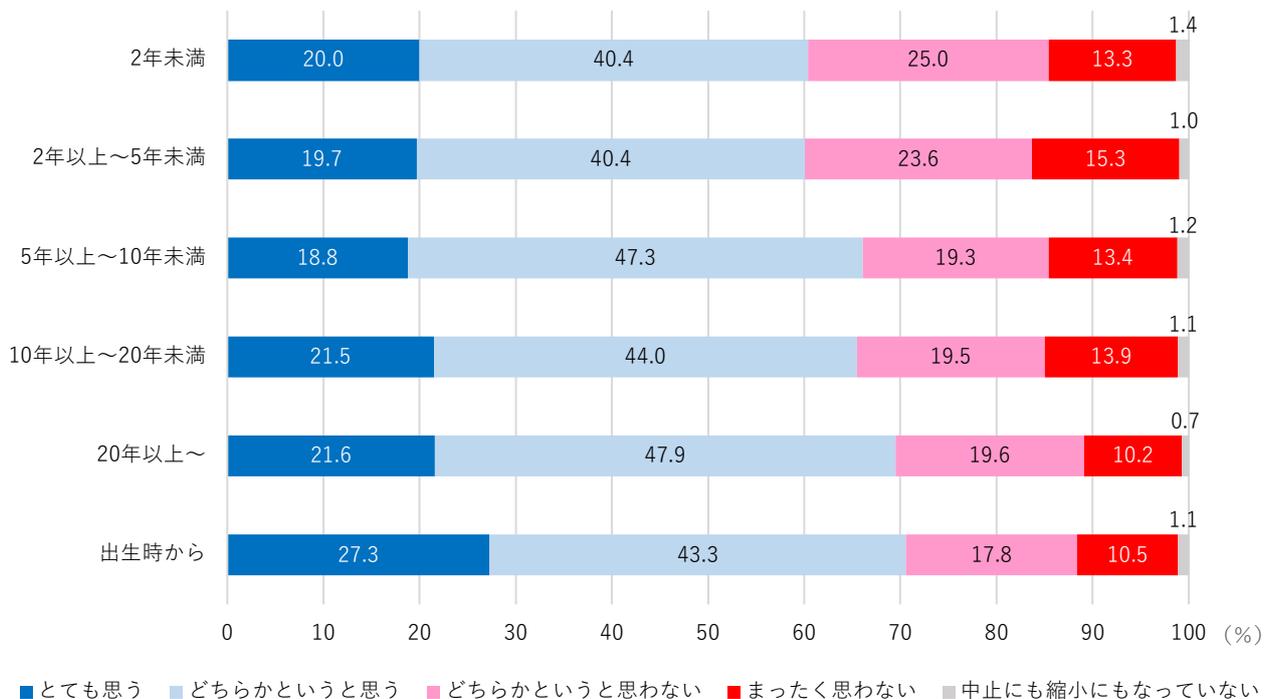
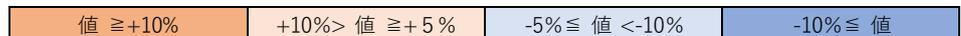
3-2-13. 居住年数×居住地域の祭りが中止・縮小して寂しいか

居住地域の祭りが中止・縮小に対する寂しさを感じる程度について、居住年数が長くなるほど「とても思う」や「どちらかというと思う」を選択する割合が高く、居住年数が短くほど「どちらかというと思わない」「まったく思わない」の割合が高くなる傾向が見られる。出生時から現在まで同一地域に居住している回答者は、「とても思う (27.3%)」と「どちらかというと思う (43.3%)」と回答する割合が合計で70.6%と最も高くなっている。

表：居住年数×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

	とても思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	まったく思わない	中止にも縮小にもなっていない
全回答者	22.5%	44.9%	19.8%	11.8%	1.0%
2年未満	20.0%	40.4%	25.0%	13.3%	1.4%
2年以上～5年未満	19.7%	40.4%	23.6%	15.3%	1.0%
5年以上～10年未満	18.8%	47.3%	19.3%	13.4%	1.2%
10年以上～20年未満	21.5%	44.0%	19.5%	13.9%	1.1%
20年以上～	21.6%	47.9%	19.6%	10.2%	0.7%
出生時から	27.3%	43.3%	17.8%	10.5%	1.1%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

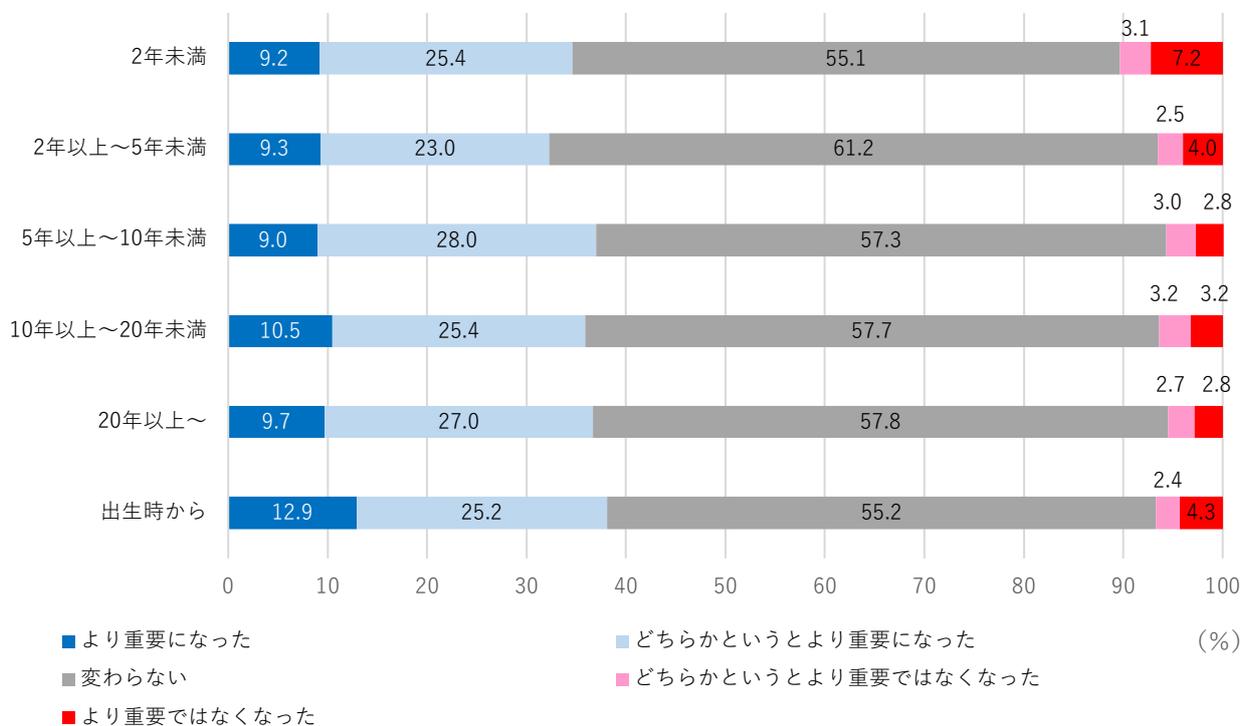
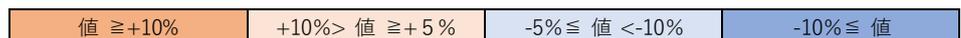
3-2-14. 居住年数×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

居住地域の文化遺産をコロナ禍以前より重要になったと感じる度合いについて、居住年数による違いは大きくは見られない。

表：居住年数×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

	より重要になった	どちらかという より重要になった	変わらない	どちらかという より重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	10.5%	25.9%	57.1%	2.7%	3.7%
2年未満	9.2%	25.4%	55.1%	3.1%	7.2%
2年以上～ 5年未満	9.3%	23.0%	61.2%	2.5%	4.0%
5年以上～ 10年未満	9.0%	28.0%	57.3%	3.0%	2.8%
10年以上～ 20年未満	10.5%	25.4%	57.7%	3.2%	3.2%
20年以上～	9.7%	27.0%	57.8%	2.7%	2.8%
出生時から	12.9%	25.2%	55.2%	2.4%	4.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：居住年数×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

3-3. 愛着の度合いによる比較

「感じている」、「どちらかというと感じている」、「どちらかというと感じていない」、「感じていない」の4つの項目ごとの回答結果を比較する。

なお、各エリアの母数は以下の通りであり、項目により母数が少ないことに留意が必要である。

表：愛着の度合いの回答者数

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
回答者数 (人)	4,451	4,277	1,124	586

3-3-1. 愛着の度合い×継続居住年数

居住地域に愛着を「感じている」、「どちらかというと感じている」と回答した方は、居住年数が長い傾向にあり、「感じていない」、「どちらかというと感じていない」と回答した方は居住年数が短い傾向にある。特に、居住地域に愛着を「感じている」とする回答者は、20年以上現在の場所に居住している（「出生時から」と回答する人を含む）と回答する割合が67.7%と高くなっている。

表：愛着の度合い×継続居住年数

	2年未満	2年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 20年未満	20年以上～	出生時から
全回答者	7.8%	8.8%	9.3%	15.2%	33.3%	25.7%
感じている	4.3%	6.1%	8.3%	13.6%	35.1%	32.6%
どちらかという と感じている	7.2%	9.4%	10.2%	16.6%	34.3%	22.4%
どちらかという と感じていない	17.5%	14.6%	10.9%	15.6%	28.4%	13.1%
感じていない	19.6%	13.1%	7.2%	15.9%	21.8%	22.4%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------



図：愛着の度合い×継続居住年数

3-3-2. 愛着の度合い×愛着を感じる点

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、全体的に愛着を感じる点を選択する割合が高く、特に「家族・親戚がいる（41.0%）」や「生まれたり育ったりした場所がある（38.6%）」を選択する割合が高い。一方で、「どちらかというと感じていない」と回答した方は、全体的に愛着を感じる点を選択する割合が低い。

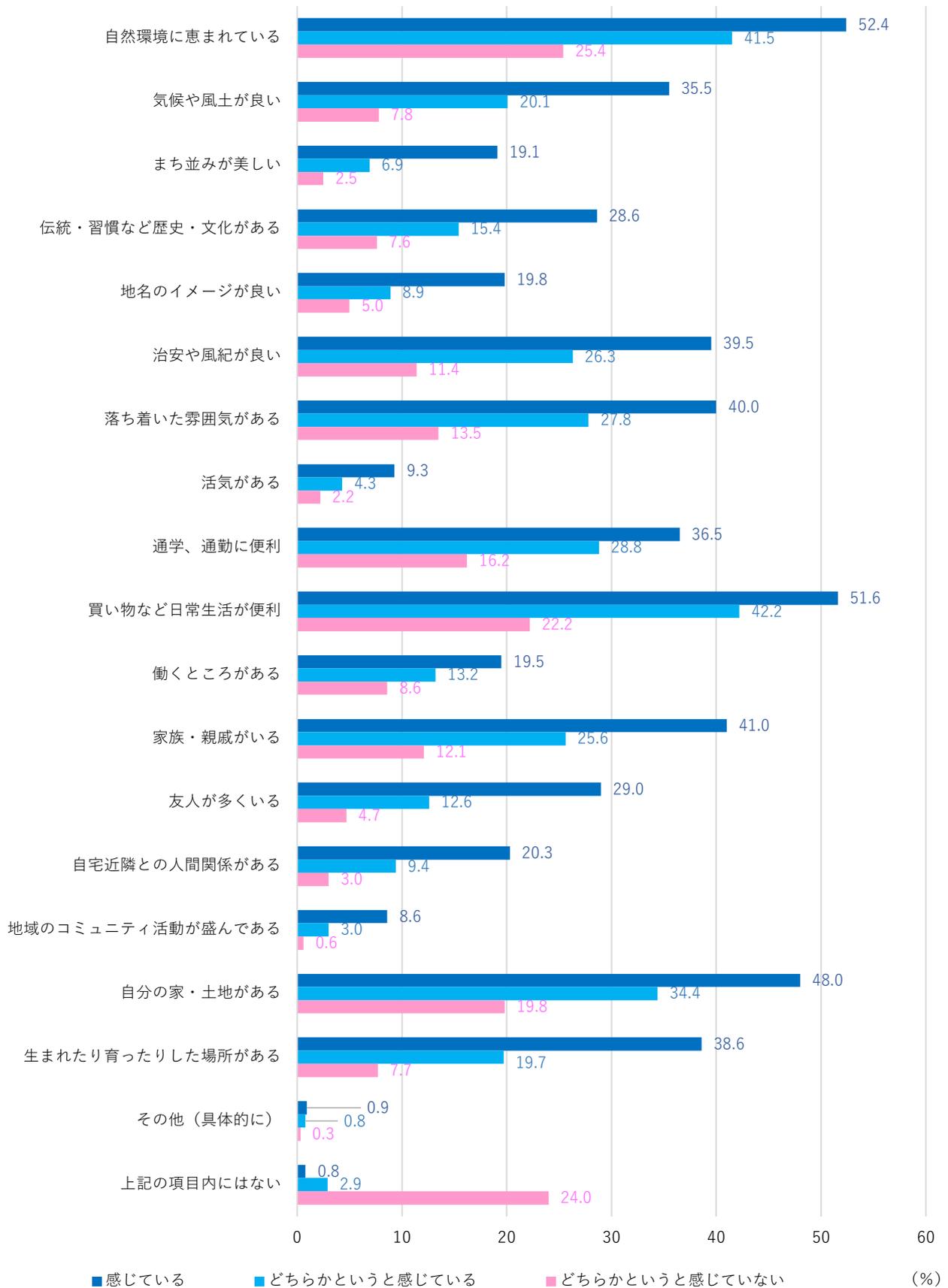
表：愛着の度合い×愛着を感じる点

	全回答者	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない
自然環境に恵まれている	44.6%	52.4%	41.5%	25.4%
気候や風土が良い	25.7%	35.5%	20.1%	7.8%
まち並みが美しい	11.9%	19.1%	6.9%	2.5%
伝統・習慣など歴史・文化がある	20.5%	28.6%	15.4%	7.6%
地名のイメージが良い	13.4%	19.8%	8.9%	5.0%
治安や風紀が良い	30.6%	39.5%	26.3%	11.4%
落ち着いた雰囲気がある	31.7%	40.0%	27.8%	13.5%
活気がある	6.3%	9.3%	4.3%	2.2%
通学、通勤に便利	30.8%	36.5%	28.8%	16.2%
買い物など日常生活が便利	44.2%	51.6%	42.2%	22.2%
働くところがある	15.5%	19.5%	13.2%	8.6%
家族・親戚がいる	31.0%	41.0%	25.6%	12.1%
友人が多くいる	19.1%	29.0%	12.6%	4.7%
自宅近隣との人間関係がある	13.6%	20.3%	9.4%	3.0%
地域のコミュニティ活動が盛んである	5.2%	8.6%	3.0%	0.6%
自分の家・土地がある	38.9%	48.0%	34.4%	19.8%
生まれたり育ったりした場所がある	26.9%	38.6%	19.7%	7.7%
その他（具体的に）	0.8%	0.9%	0.8%	0.3%
上記の項目内にはない	4.3%	0.8%	2.9%	24.0%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-3. 愛着の度合いによる比較



図：愛着の度合い×愛着を感じる点

3-3-3. 愛着の度合い×愛着をより感じるようになった点

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、愛着をより感じるようになった点として「家族・親戚がいる(24.5%)」「友人が多くいる(14.1%)」といった人間関係に関する選択肢や「自分の家・土地がある(25.5%)」「生まれたり育ったりした場所がある(16.4%)」「自然環境に恵まれている(30.3%)」を選択する割合が高い。一方で、「どちらかというと感じていない」と回答した方は、全体的に愛着をより感じるようになった点を選択する割合が低く、「自然環境に恵まれている(10.8%)」「買い物など日常生活が便利(13.7%)」「家族・親戚がいる(7.0%)」では大きく低い割合になっている。

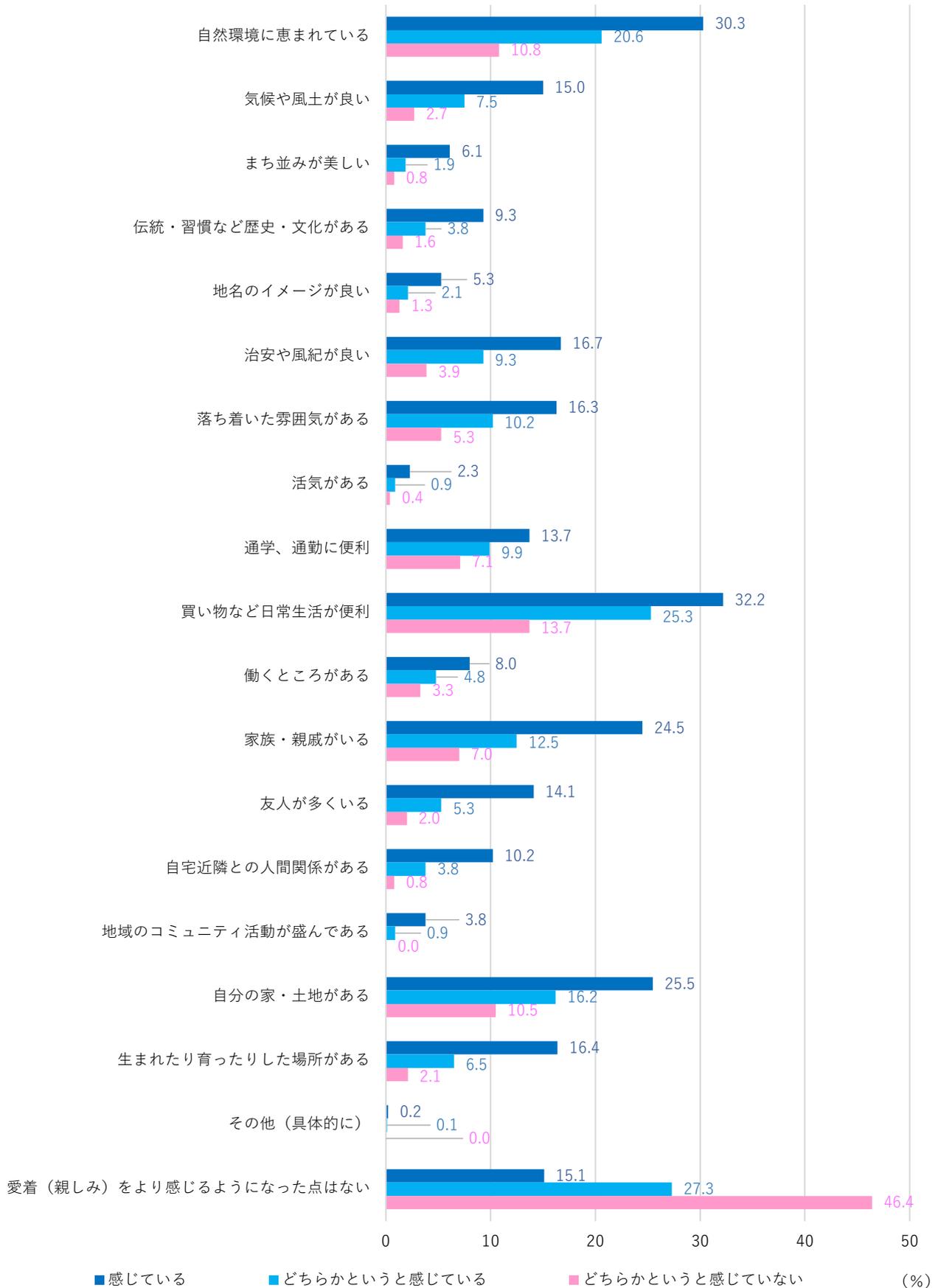
表：愛着の度合い×愛着をより感じるようになった点

	全回答者	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない
自然環境に恵まれている	24.3%	30.3%	20.6%	10.8%
気候や風土が良い	10.6%	15.0%	7.5%	2.7%
まち並みが美しい	3.8%	6.1%	1.9%	0.8%
伝統・習慣など歴史・文化がある	6.2%	9.3%	3.8%	1.6%
地名のイメージが良い	3.5%	5.3%	2.1%	1.3%
治安や風紀が良い	12.3%	16.7%	9.3%	3.9%
落ち着いた雰囲気がある	12.6%	16.3%	10.2%	5.3%
活気がある	1.5%	2.3%	0.9%	0.4%
通学、通勤に便利	11.4%	13.7%	9.9%	7.1%
買い物など日常生活が便利	27.5%	32.2%	25.3%	13.7%
働くところがある	6.2%	8.0%	4.8%	3.3%
家族・親戚がいる	17.6%	24.5%	12.5%	7.0%
友人が多くいる	9.1%	14.1%	5.3%	2.0%
自宅近隣との人間関係がある	6.5%	10.2%	3.8%	0.8%
地域のコミュニティ活動が盛んである	2.2%	3.8%	0.9%	0.0%
自分の家・土地がある	20.0%	25.5%	16.2%	10.5%
生まれたり育ったりした場所がある	10.7%	16.4%	6.5%	2.1%
その他(具体的に)	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%
愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない	23.3%	15.1%	27.3%	46.4%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≥ +10%	+10% > 値 ≥ +5%	-5% ≤ 値 < -10%	-10% ≤ 値
----------	----------------	----------------	----------

3-3. 愛着の度合いによる比較



図：愛着の度合い×愛着をより感じるようになった点

3-3-4. 愛着の度合い×居住地域の以外で愛着のある地域

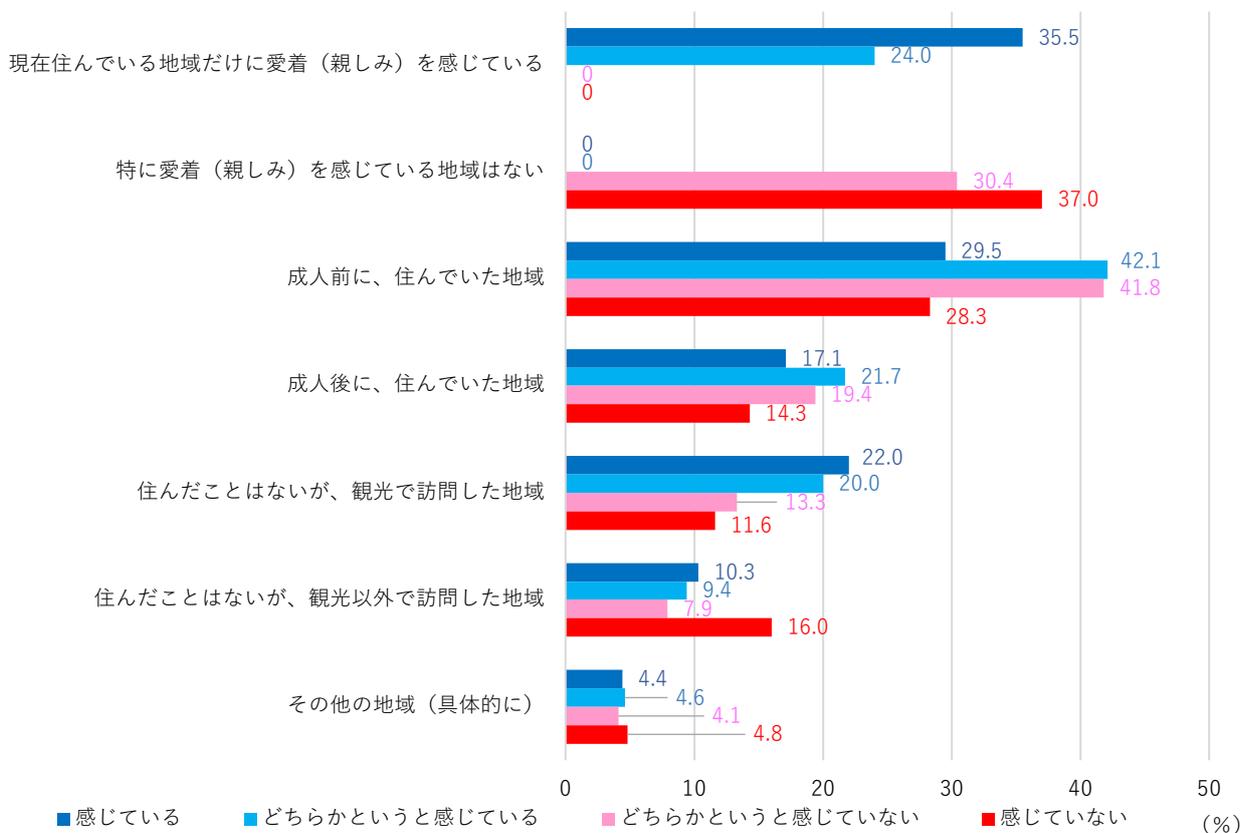
居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域の以外で愛着のある地域として「現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている（35.5%）」を選択する割合が高く、「成人前に、住んでいた地域（29.5%）」は低くなっている。一方で、「どちらかというと感じていない」や「感じていない」と回答した方は、「特に愛着（親しみ）を感じている地域はない」「成人前に、住んでいた地域」を選択する割合が高い。

表：愛着の度合い×居住地域の以外で愛着のある地域

	現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）
全回答者	25.0%	5.4%	35.9%	19.1%	19.6%	10.0%	4.5%
感じている	35.5%	-	29.5%	17.1%	22.0%	10.3%	4.4%
どちらかというと感じている	24.0%	-	42.1%	21.7%	20.0%	9.4%	4.6%
どちらかというと感じていない	-	30.4%	41.8%	19.4%	13.3%	7.9%	4.1%
感じていない	-	37.0%	28.3%	14.3%	11.6%	16.0%	4.8%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------



図：愛着の度合い×居住地域の以外で愛着のある地域

3-3-5. 愛着の度合い×居住地域の文化遺産

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域で認識している文化遺産が多い傾向にある一方で、「どちらかというと感じていない」や「感じていない」と回答した方は、選択する文化遺産が少ない傾向にある。特に、地域愛着を「感じていない」と回答する人は、居住地域で認識している文化遺産が「全くない」と回答する割合が50.9%と顕著に高い。

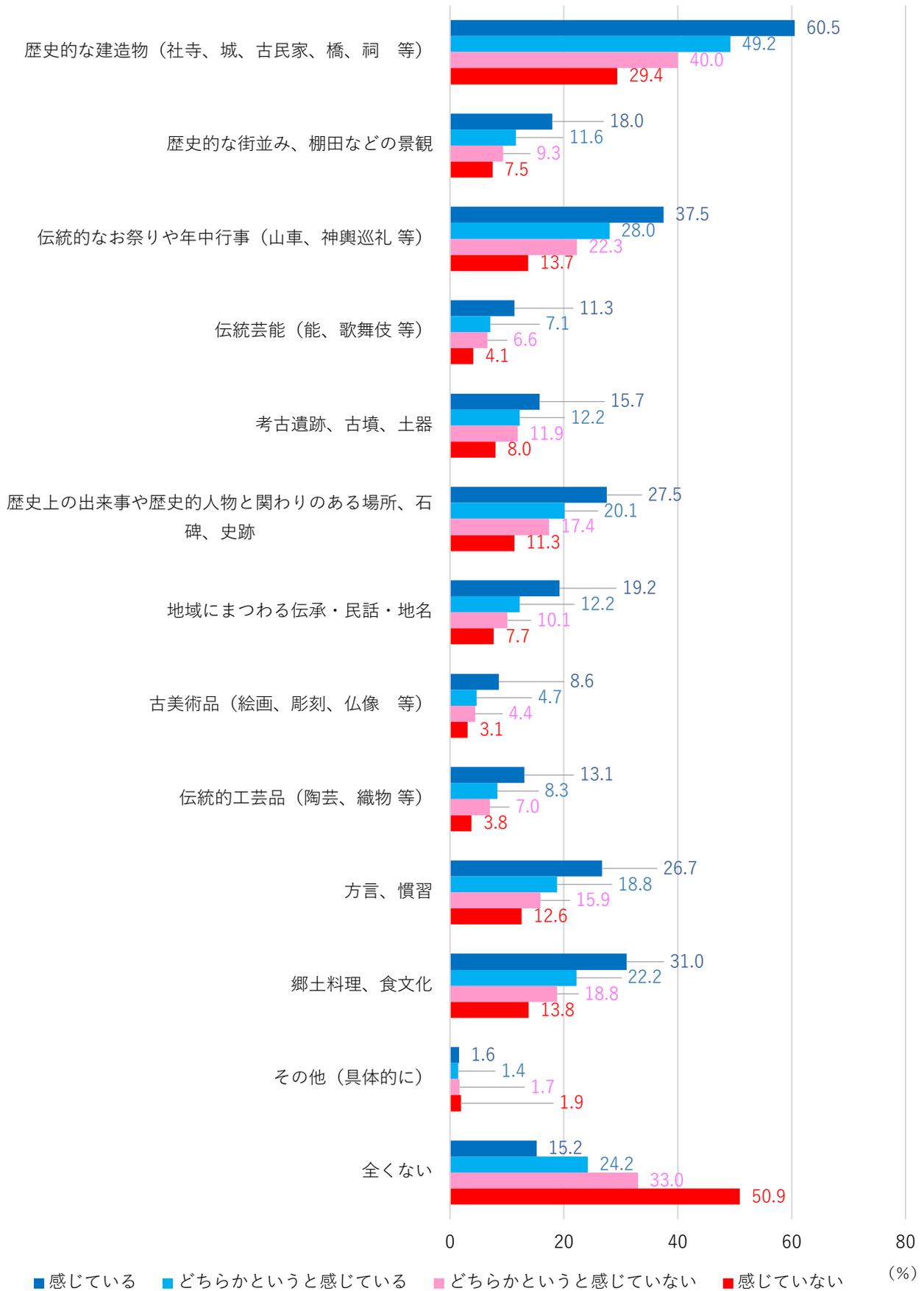
表：愛着の度合い×居住地域の文化遺産

	全回答者	感じている	どちらかという と感じている	どちらかという と感じていない	感じていない
歴史的な建造物 (社寺、城、古民家、橋、祠 等)	51.9%	60.5%	49.2%	40.0%	29.4%
歴史的な街並み、棚田などの景観	13.9%	18.0%	11.6%	9.3%	7.5%
伝統的なお祭りや年中行事(山車、神輿巡礼 等)	30.6%	37.5%	28.0%	22.3%	13.7%
伝統芸能(能、歌舞伎 等)	8.7%	11.3%	7.1%	6.6%	4.1%
考古遺跡、古墳、土器	13.4%	15.7%	12.2%	11.9%	8.0%
歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場 所、石碑、史跡	22.5%	27.5%	20.1%	17.4%	11.3%
地域にまつわる伝承・民話・地名	14.7%	19.2%	12.2%	10.1%	7.7%
古美術品(絵画、彫刻、仏像 等)	6.3%	8.6%	4.7%	4.4%	3.1%
伝統的工芸品(陶芸、織物 等)	9.9%	13.1%	8.3%	7.0%	3.8%
方言、慣習	21.5%	26.7%	18.8%	15.9%	12.6%
郷土料理、食文化	25.1%	31.0%	22.2%	18.8%	13.8%
その他(具体的に)	1.6%	1.6%	1.4%	1.7%	1.9%
全くない	22.8%	15.2%	24.2%	33.0%	50.9%

凡例：全回答者との比較色分け

値 $\geq +10\%$	$+10\% >$ 値 $\geq +5\%$	$-5\% \leq$ 値 $< -10\%$	$-10\% \leq$ 値
----------------	-------------------------	-------------------------	----------------

3-3. 愛着の度合いによる比較



図：愛着の度合い×居住地域の文化遺産

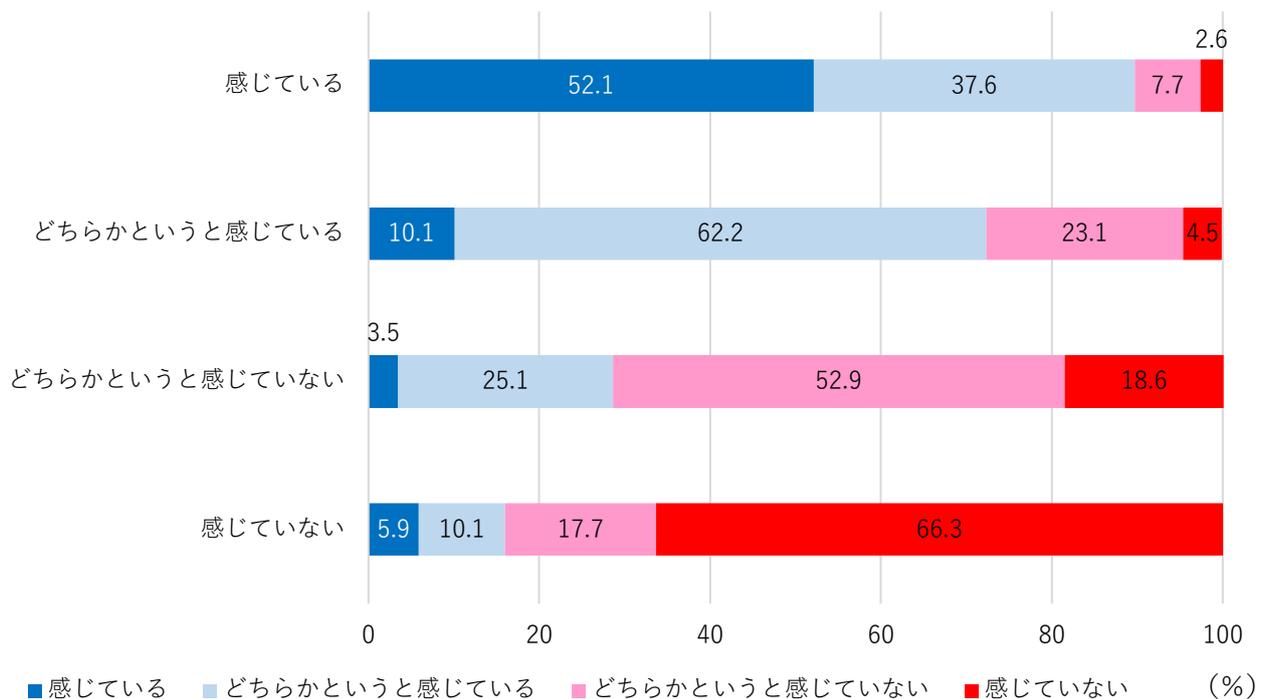
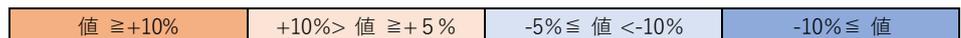
3-3-6. 愛着の度合い×居住地域の文化遺産への愛着度

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域の文化遺産に対する愛着を「感じている (52.1%)」と回答する割合が顕著に多く、「どちらかというと感じている (37.6%)」と合せて 89.7%の回答者が愛着を感じている。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、居住地域の文化遺産に対する愛着を「感じていない (66.3%)」と回答する割合が顕著に多く、「どちらかというと感じていない (17.7%)」と合せて 84.0%の回答者が地域の文化遺産に愛着を感じていない。

表：愛着の度合い×居住地域の文化遺産への愛着度

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	29.0%	45.4%	18.5%	7.2%
感じている	52.1%	37.6%	7.7%	2.6%
どちらかというと感じている	10.1%	62.2%	23.1%	4.5%
どちらかというと感じていない	3.5%	25.1%	52.9%	18.6%
感じていない	5.9%	10.1%	17.7%	66.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×居住地域の文化遺産への愛着度

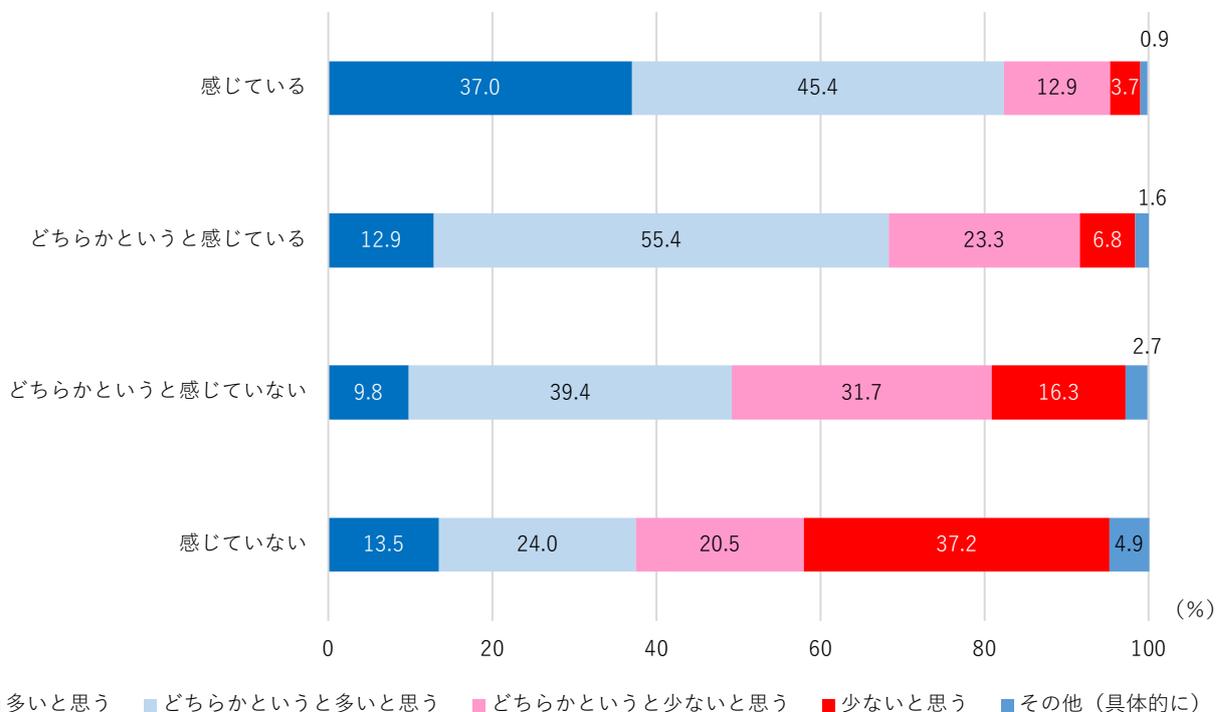
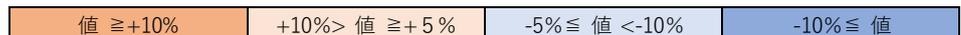
3-3-7. 愛着の度合い×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「多いと思う（37.0%）」と回答する割合が多く、「どちらかというとも多いと思う（45.4%）」と合せて82.4%の回答者が愛着を感じている人が多いと考える傾向にある。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、居住地域の文化遺産に対して地域の方が愛着を感じている人が「少ないと思う（37.2%）」と回答する割合が多く、「どちらかというとも少ないと思う（20.5%）」と合せて57.7%と多い。概ねの回答者が自分自身の愛着の度合いと、地域の方々が愛着の度合いを同様に考えている傾向が見られる。

表：愛着の度合い×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

	多いと思う	どちらかというとも多いと思う	どちらかというとも少ないと思う	少ないと思う	その他（具体的に）
全回答者	23.9%	48.1%	19.1%	7.3%	1.5%
感じている	37.0%	45.4%	12.9%	3.7%	0.9%
どちらかというとも感じている	12.9%	55.4%	23.3%	6.8%	1.6%
どちらかというとも感じていない	9.8%	39.4%	31.7%	16.3%	2.7%
感じていない	13.5%	24.0%	20.5%	37.2%	4.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

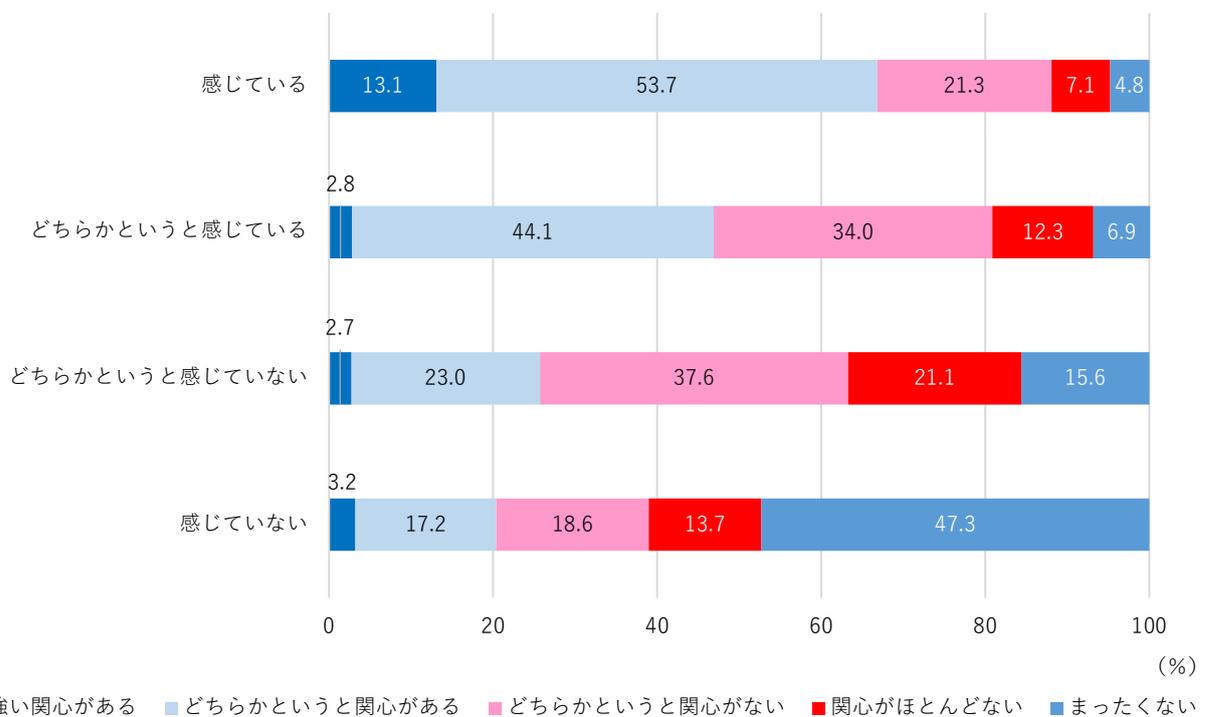
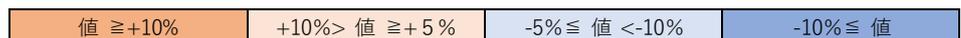
3-3-8. 愛着の度合い×文化遺産全般への関心度

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、文化遺産全般に対して「強い関心がある (13.1%)」、「どちらかというに関心がある (53.7%)」と回答する割合が多く、合せて 66.8%の回答者が関心を持っている傾向にある。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、文化遺産に対する関心が「まったくない (47.3%)」と回答する割合が多く、「どちらかというに関心がない (18.6%)」と「関心がほとんどない (13.7%)」と合せて 79.6%の回答者は関心が低い傾向にある。

表：愛着の度合い×文化遺産への関心度

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者	7.2%	44.4%	28.1%	11.1%	9.2%
感じている	13.1%	53.7%	21.3%	7.1%	4.8%
どちらかというと感じている	2.8%	44.1%	34.0%	12.3%	6.9%
どちらかというと感じていない	2.7%	23.0%	37.6%	21.1%	15.6%
感じていない	3.2%	17.2%	18.6%	13.7%	47.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×文化遺産全般への関心度

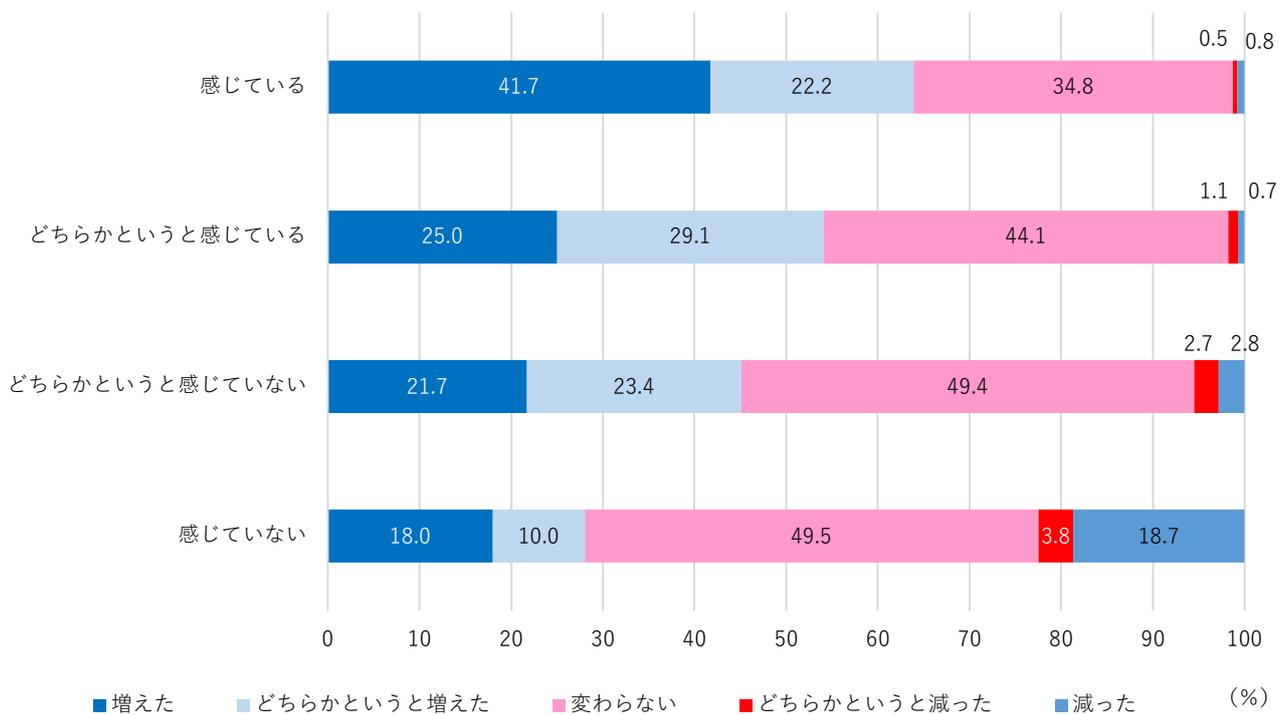
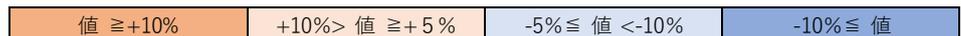
3-3-9. 愛着の度合い×居住地域での滞在時間

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域での滞在時間が「増えた(41.7%)」と回答する割合が多く、「どちらかというが増えた」と合せて63.9%の回答者が増加している。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、居住地域での滞在時間が「変わらない(49.5%)」が他よりも多い。また「減った(18.7%)」と回答する割合も多く、「どちらかというが減った(3.8%)」と合せて22.5%の回答者の滞在時間が減少している。

表：愛着の度合い×居住地域での滞在時間

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	31.7%	24.6%	40.7%	1.1%	1.8%
感じている	41.7%	22.2%	34.8%	0.5%	0.8%
どちらかというと感じている	25.0%	29.1%	44.1%	1.1%	0.7%
どちらかというと感じていない	21.7%	23.4%	49.4%	2.7%	2.8%
感じていない	18.0%	10.0%	49.5%	3.8%	18.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×居住地域での滞在時間

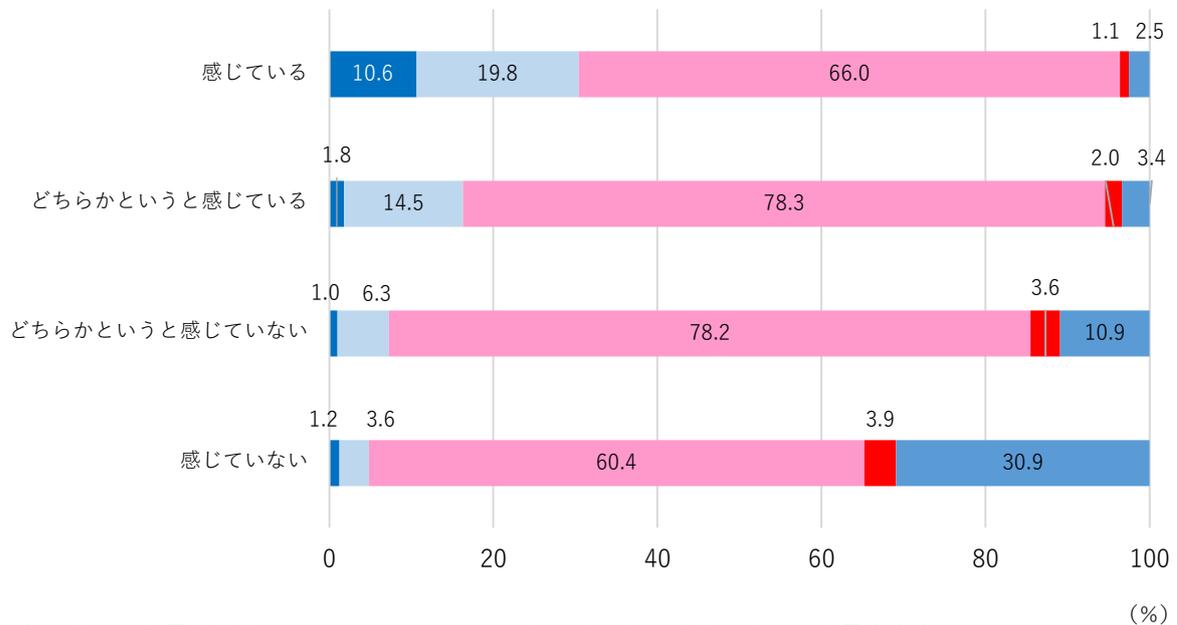
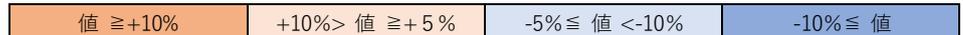
3-3-10. 愛着の度合い×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域の文化遺産に対して「もっと知りたいと思うようになった(10.6%)」と回答する割合が多く、「どちらかという知りたいと思うようになった(19.8%)」と合せて30.4%の回答者が知りたいという気持ちが芽生えている。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、居住地域の文化遺産に対して「知りたいと思わなくなった(30.9%)」と回答する割合が多く、「どちらかという知りたいと思わなくなった(3.9%)」と合せて34.8%の回答者が知りたいと思わなくなった。

表：愛着の度合い×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった
全回答者	5.4%	15.3%	72.0%	1.9%	5.4%
感じている	10.6%	19.8%	66.0%	1.1%	2.5%
どちらかという感じている	1.8%	14.5%	78.3%	2.0%	3.4%
どちらかという感じていない	1.0%	6.3%	78.2%	3.6%	10.9%
感じていない	1.2%	3.6%	60.4%	3.9%	30.9%

凡例：全回答者との比較色分け



- もっと知りたいと思うようになった
- どちらかという知りたいと思うようになった
- 変わらない
- どちらかという知りたいと思わなくなった
- 知りたいと思わなくなった

図：愛着の度合い×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

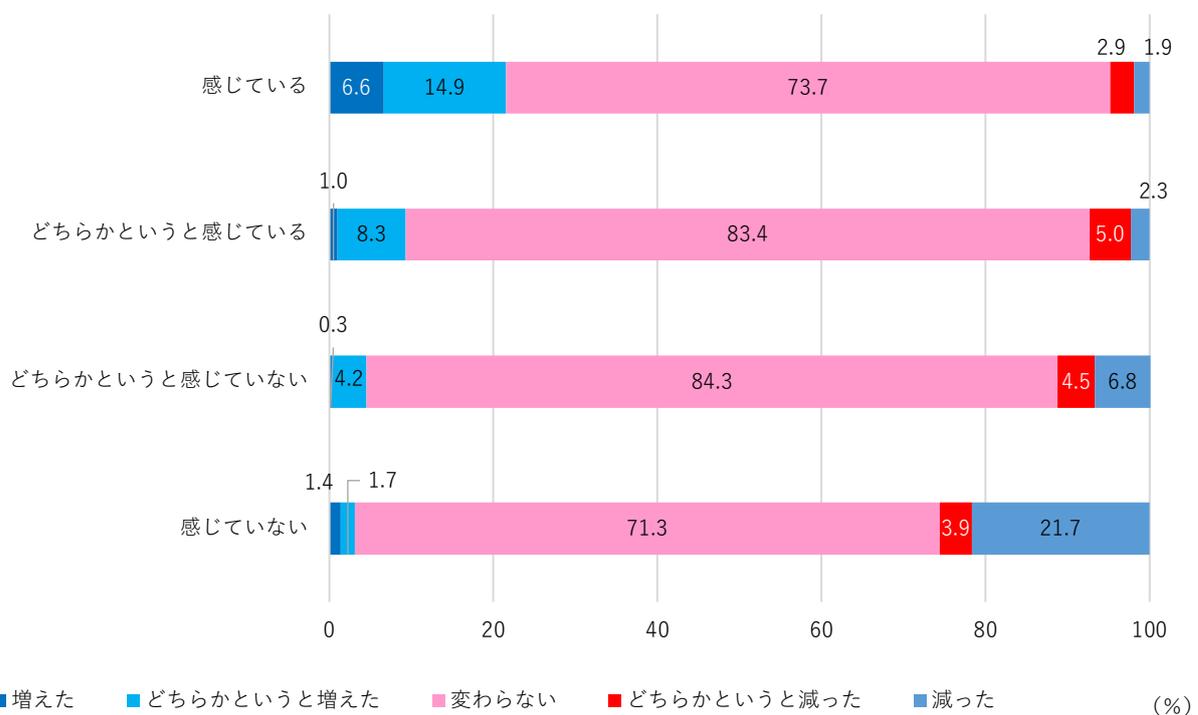
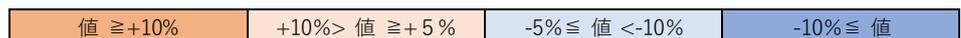
3-3-11. 愛着の度合い×居住地域の文化遺産を知る機会

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、コロナ禍を経て居住地域の文化遺産を知る機会が「増えた(6.6%)」、「どちらかという増えた(14.9%)」の合計値が21.5%と、他よりも高い傾向にある。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、コロナ禍を経て居住地域の文化遺産を知る機会が「減った(21.7%)」と回答する割合が多く、「どちらかという減った(3.9%)」と合せて25.6%の回答者が減少傾向にある。

表：愛着の度合い×居住地域の文化遺産を知る機会

	増えた	どちらかという増えた	変わらない	どちらかという減った	減った
全回答者	3.3%	10.3%	78.7%	4.0%	3.7%
感じている	6.6%	14.9%	73.7%	2.9%	1.9%
どちらかという感じている	1.0%	8.3%	83.4%	5.0%	2.3%
どちらかという感じていない	0.3%	4.2%	84.3%	4.5%	6.8%
感じていない	1.4%	1.7%	71.3%	3.9%	21.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×居住地域の文化遺産を知る機会

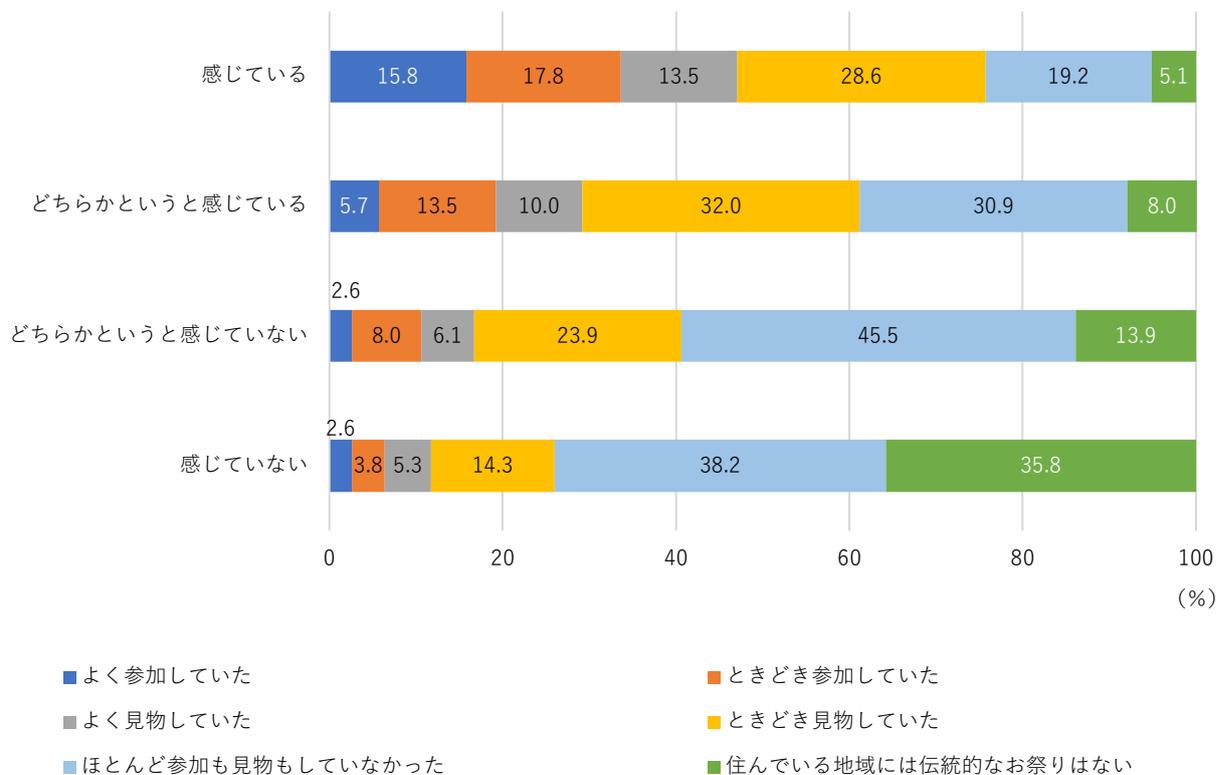
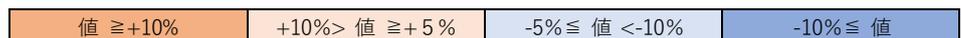
3-3-12. 愛着の度合い×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「よく参加していた (15.8%)」と回答する割合が多く、「ときどき参加していた (17.8%)」の合計値が33.6%と、他よりも高い傾向にある。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「ほとんど参加も見学もしていなかった (38.2%)」と回答する割合が多く、「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない (35.8%)」とする割合も高い。

表：愛着の度合い×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	9.5%	14.2%	10.8%	28.7%	27.9%	8.9%
感じている	15.8%	17.8%	13.5%	28.6%	19.2%	5.1%
どちらかというと感じている	5.7%	13.5%	10.0%	32.0%	30.9%	8.0%
どちらかというと感じていない	2.6%	8.0%	6.1%	23.9%	45.5%	13.9%
感じていない	2.6%	3.8%	5.3%	14.3%	38.2%	35.8%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

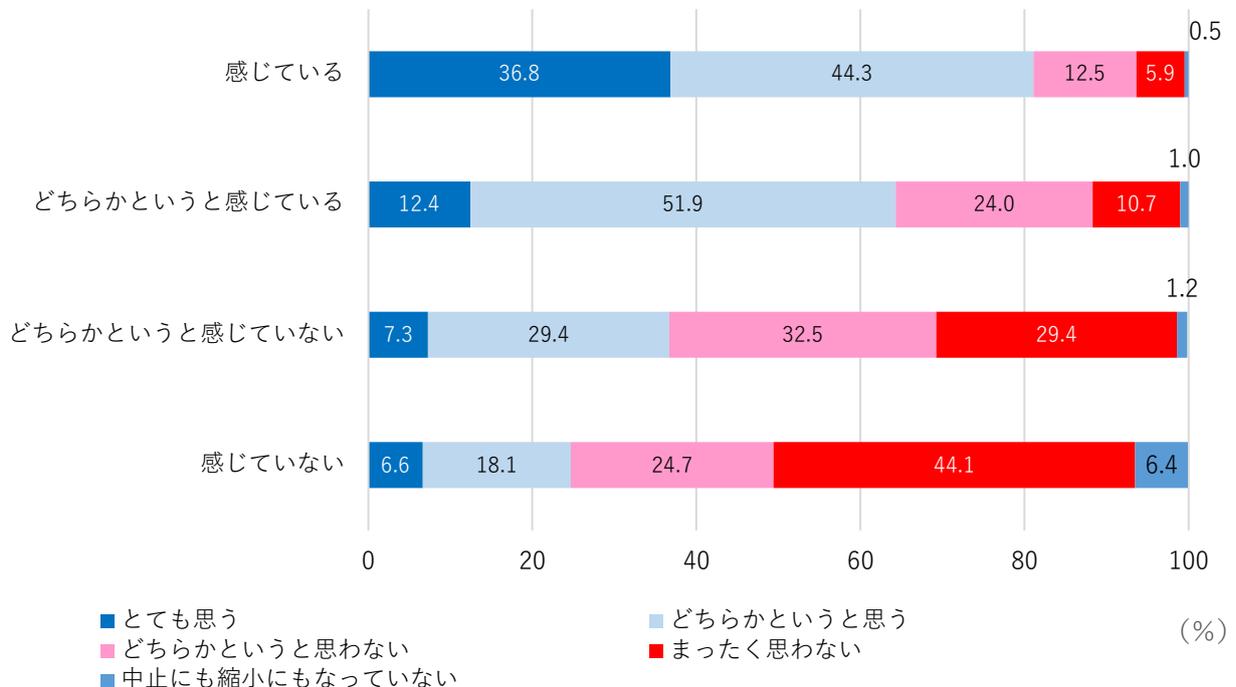
3-3-13. 愛着の度合い×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「とても思う(36.8%)」と回答する割合が多く、「どちらかと思う(44.3%)」と合わせて80.1%と、愛着を感じていない人よりも著しく高い割合で寂しさを感じている。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、居住地域の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「まったく思わない(44.1%)」と回答する割合が多く、「どちらかというと思わない(24.7%)」の合計値が68.8%であり、愛着の度合いと、地域の祭りの中止を寂しいと思うかの割合は概ね比例している。

表：愛着の度合い×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

	とても思う	どちらかと思う	どちらかというと思わない	まったく思わない	中止にも縮小にもなっていない
全回答者	22.5%	44.9%	19.8%	11.8%	1.0%
感じている	36.8%	44.3%	12.5%	5.9%	0.5%
どちらかというと感じている	12.4%	51.9%	24.0%	10.7%	1.0%
どちらかというと感じていない	7.3%	29.4%	32.5%	29.4%	1.2%
感じていない	6.6%	18.1%	24.7%	44.1%	6.4%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

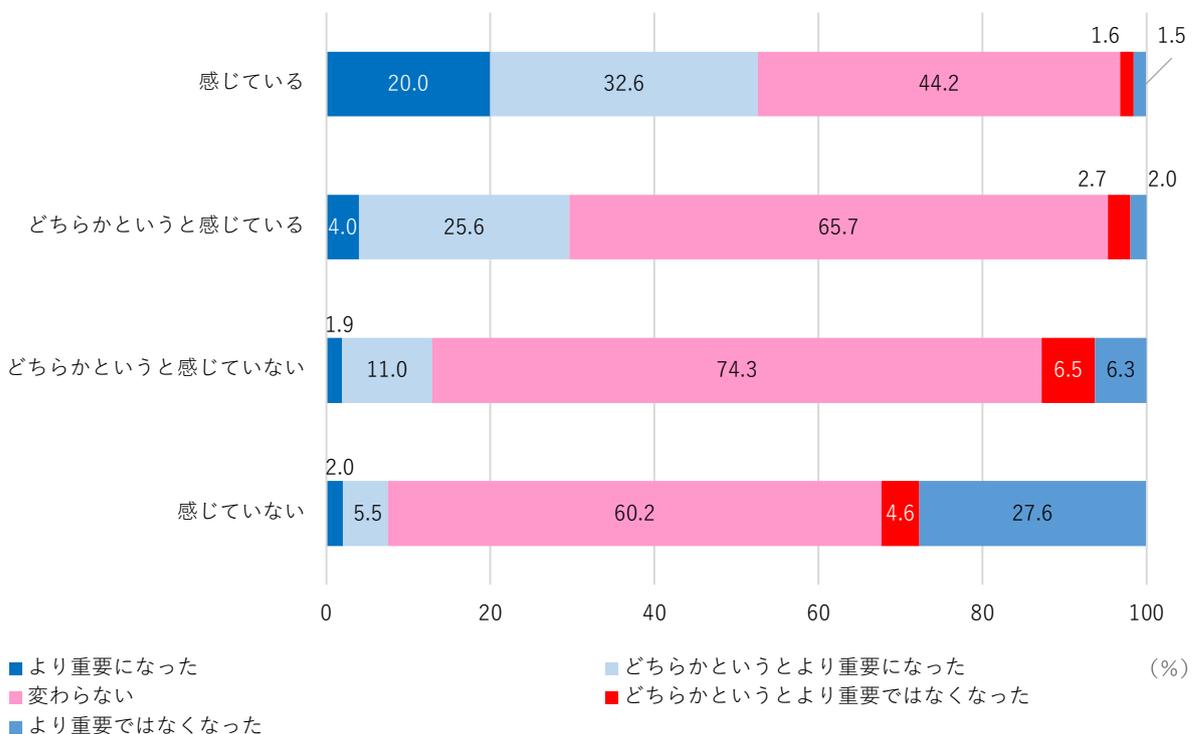
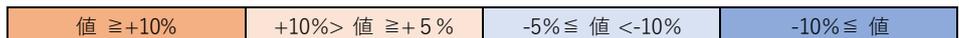
3-3-14. 愛着の度合い×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

居住地域に愛着を「感じている」と回答した方は、居住地域の文化遺産がコロナ禍以前の認識よりも「より重要になった (20.0%)」、「どちらかというより重要になった (32.6%)」と回答する割合が多く、合わせて52.6%と、他よりも高い割合となっている。一方で、居住地域に愛着を「感じていない」と回答した方は、居住地域の文化遺産がコロナ禍以前の認識よりも「より重要ではなくなった (27.6%)」と回答する割合が多く、「どちらかというより重要ではなくなった (4.6%)」と合わせて32.2%と、他よりも高い割合になっている。

表：愛着の度合い×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

	より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	10.5%	25.9%	57.1%	2.7%	3.7%
感じている	20.0%	32.6%	44.2%	1.6%	1.5%
どちらかというと感じている	4.0%	25.6%	65.7%	2.7%	2.0%
どちらかというと感じていない	1.9%	11.0%	74.3%	6.5%	6.3%
感じていない	2.0%	5.5%	60.2%	4.6%	27.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：愛着の度合い×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

3-4. 年齢区分による比較

「強い関心がある」、「どちらかというに関心がある」、「どちらかというに関心がない」、「関心がほとんどない」、「まったくない」の11つの項目ごとの回答結果を比較する。

なお、各エリアの母数は以下の通りである。

表：年齢区分の回答者数

	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳
回答者数 (人)	849	959	964	960	959	960	960	960	962	962	943

3-4-1. 年齢区分×継続居住年数

年齢が低い世代は、継続居住年数が短く、年齢が高い世代は継続居住年数が長い傾向にある。ただし、25-34歳まで居住年数が「20年以上～」「出生時から」が減少しており、また「2年以上～5年未満」が微増している。つまり、25-34歳頃に引っ越しをしてから継続して同一市町村に住み続けている回答者が多いことが読み取れる。

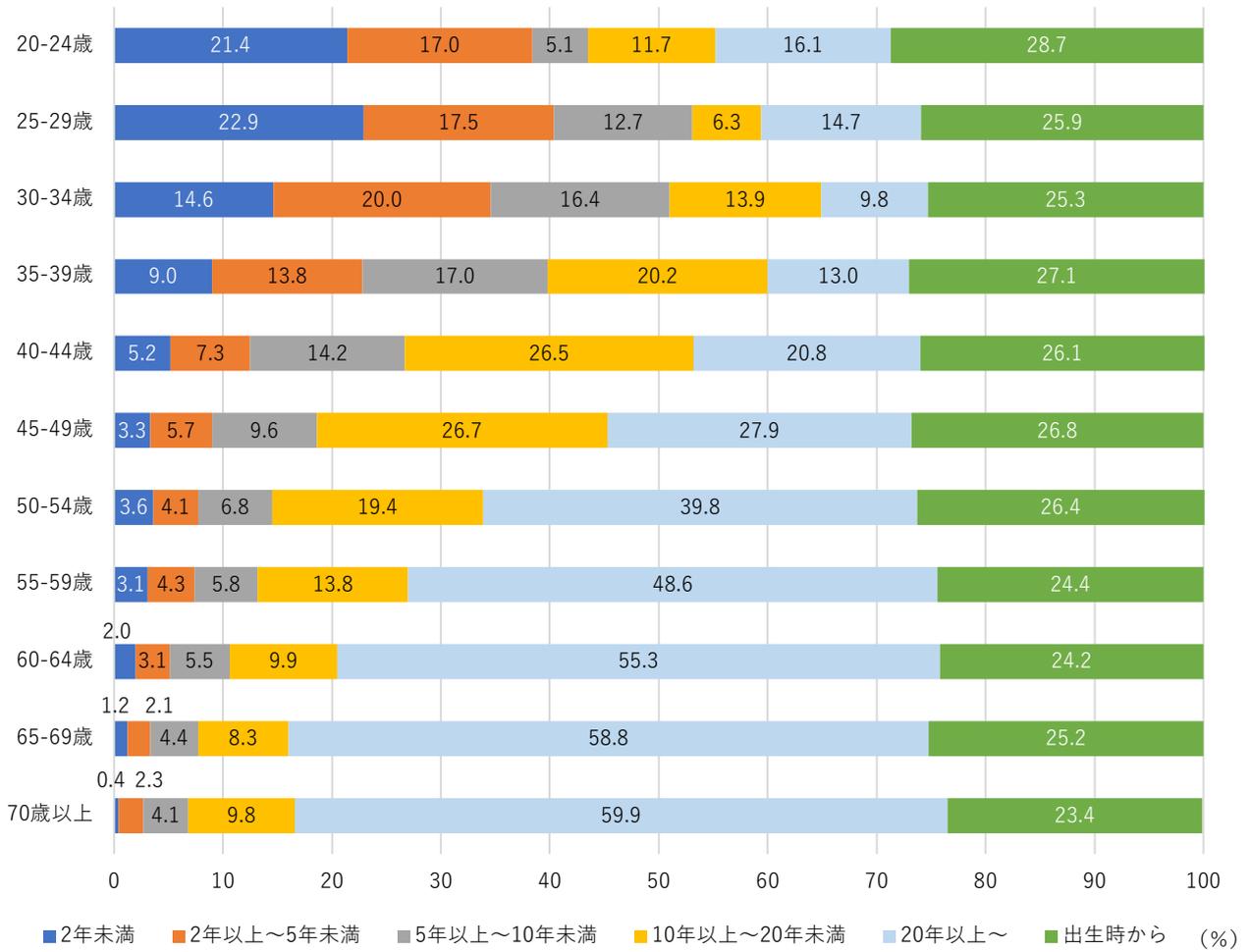
表：年齢区分×継続居住年数

	2年未満	2年以上 ～5年未満	5年以上 ～10年未満	10年以上 ～20年未満	20年以上～	出生時から
全回答者	7.8%	8.8%	9.3%	15.2%	33.3%	25.7%
20-24 歳	21.4%	17.0%	5.1%	11.7%	16.1%	28.7%
25-29 歳	22.9%	17.5%	12.7%	6.3%	14.7%	25.9%
30-34 歳	14.6%	20.0%	16.4%	13.9%	9.8%	25.3%
35-39 歳	9.0%	13.8%	17.0%	20.2%	13.0%	27.1%
40-44 歳	5.2%	7.3%	14.2%	26.5%	20.8%	26.1%
45-49 歳	3.3%	5.7%	9.6%	26.7%	27.9%	26.8%
50-54 歳	3.6%	4.1%	6.8%	19.4%	39.8%	26.4%
55-59 歳	3.1%	4.3%	5.8%	13.8%	48.6%	24.4%
60-64 歳	2.0%	3.1%	5.5%	9.9%	55.3%	24.2%
65-69 歳	1.2%	2.1%	4.4%	8.3%	58.8%	25.2%
70-74 歳	0.4%	2.3%	4.1%	9.8%	59.9%	23.4%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-4. 年齢区分による比較



図：年齢区分×継続居住年数

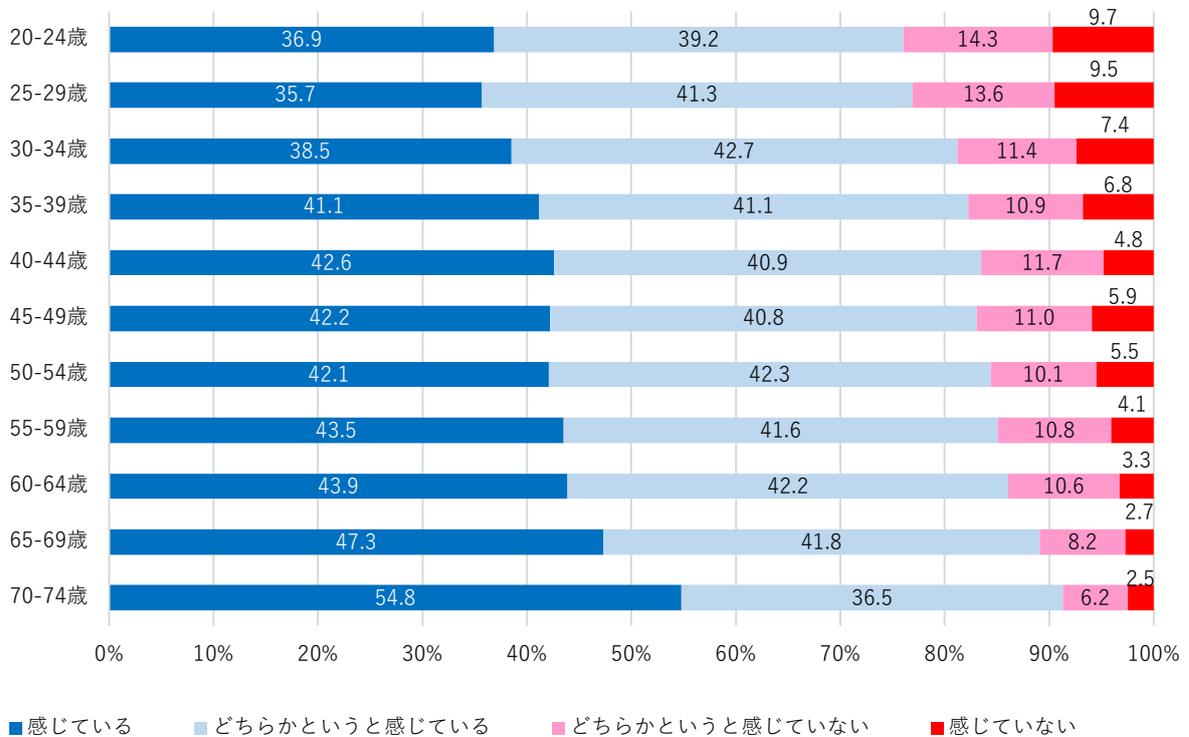
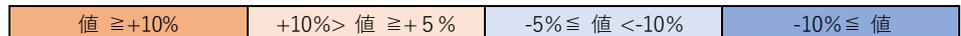
3-4-2. 年齢区分×愛着を感じる度合い

年齢が低い世代は、居住地域に愛着を「感じている」と回答する割合が低く、「どちらかというと感じていない」「感じていない」と回答する割合が高い傾向にある。一方で、年齢が高い世代は、居住地域に愛着を「感じている」と回答する割合が高い傾向にあり、年齢と愛着の度合いは概ね比例している。70-74歳においては54.8%が「感じている」と回答している。

表：年齢区分×愛着を感じる度合い

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	42.6%	41.0%	10.8%	5.6%
20-24歳	36.9%	39.2%	14.3%	9.7%
25-29歳	35.7%	41.3%	13.6%	9.5%
30-34歳	38.5%	42.7%	11.4%	7.4%
35-39歳	41.1%	41.1%	10.9%	6.8%
40-44歳	42.6%	40.9%	11.7%	4.8%
45-49歳	42.2%	40.8%	11.0%	5.9%
50-54歳	42.1%	42.3%	10.1%	5.5%
55-59歳	43.5%	41.6%	10.8%	4.1%
60-64歳	43.9%	42.2%	10.6%	3.3%
65-69歳	47.3%	41.8%	8.2%	2.7%
70-74歳	54.8%	36.5%	6.2%	2.5%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×愛着を感じる度合い

3-4-3. 年齢区分×愛着を感じる点

年齢区分ごとに愛着を感じる点を選択した割合の合計を比較すると、年齢区分が高くなるにつれて割合も高くなっていく傾向が見られる。年齢が低い世代は、居住地域の愛着を感じる点を選択する割合が低く、「自分の家・土地がある」は特に低い割合である。また、「気候や風土がよい」「治安や風紀が良い」「自宅近隣との人間関係がある」に低い割合を示した。一方で、年齢が高い世代は、「自分の家・土地がある」と回答する割合が高い傾向にあり、70-74歳においては「自然環境に恵まれている(56.1%)」「治安や風紀が良い(44.4%)」「自宅近隣との人間関係がある(23.2%)」と大きな違いが見られた。

「伝統・習慣など歴史・文化がある」については、年齢が高まるにつれて愛着も感じる要素として選択する割合が高まるが、他の要素と比較して顕著な差は現れていない。

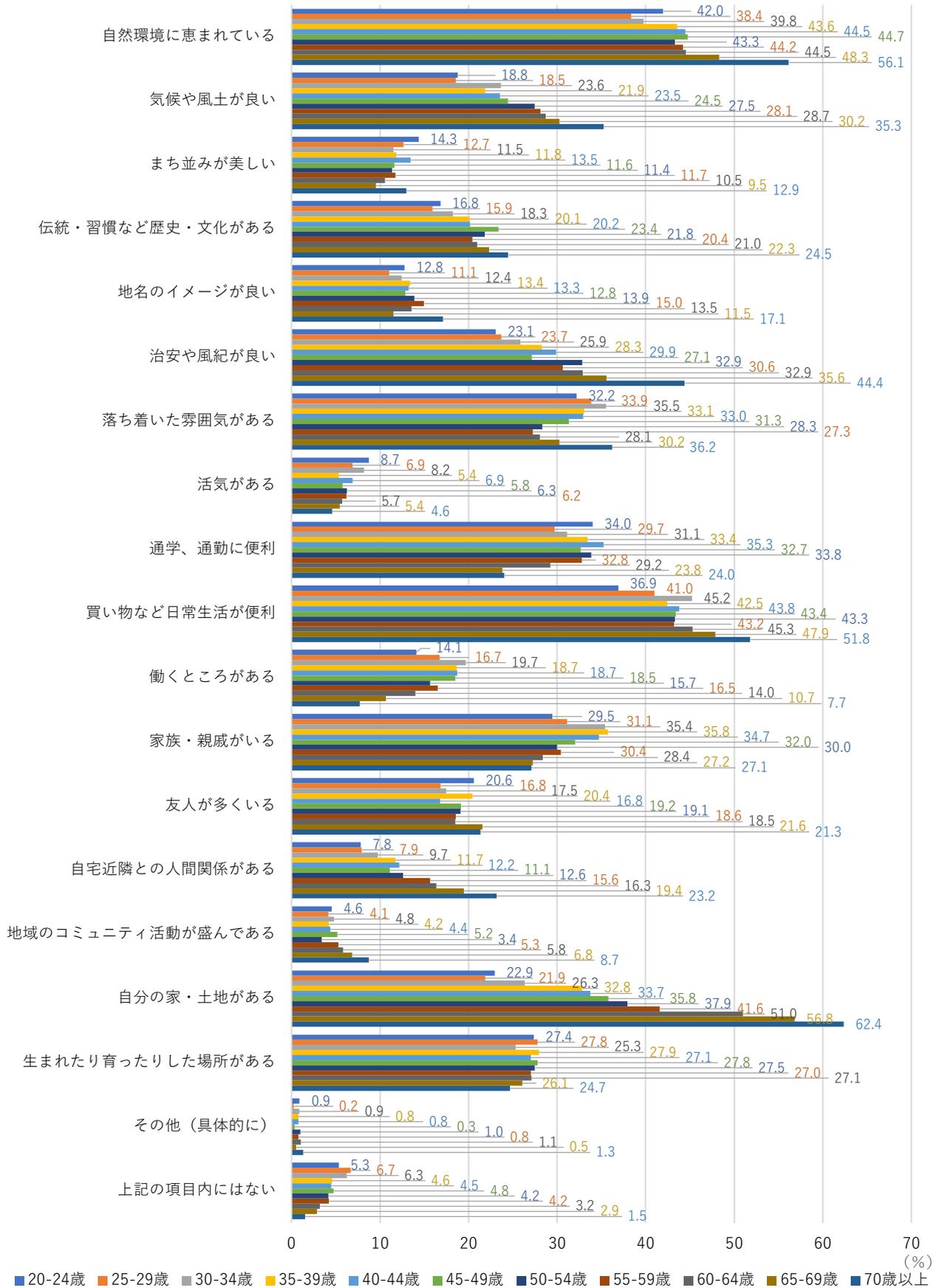
表：年齢区分×愛着を感じる点

	全回答者	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
選択した割合の合計	415.0%	372.8%	365.1%	397.4%	410.4%	416.5%	412.0%	413.8%	419.5%	424.8%	437.0%	484.9%
自然環境に恵まれている	44.6%	42.0%	38.4%	39.8%	43.6%	44.5%	44.7%	43.3%	44.2%	44.5%	48.3%	56.1%
気候や風土が良い	25.7%	18.8%	18.5%	23.6%	21.9%	23.5%	24.5%	27.5%	28.1%	28.7%	30.2%	35.3%
まち並みが美しい	11.9%	14.3%	12.7%	11.5%	11.8%	13.5%	11.6%	11.4%	11.7%	10.5%	9.5%	12.9%
伝統・習慣など歴史・文化がある	20.5%	16.8%	15.9%	18.3%	20.1%	20.2%	23.4%	21.8%	20.4%	21.0%	22.3%	24.5%
地名のイメージが良い	13.4%	12.8%	11.1%	12.4%	13.4%	13.3%	12.8%	13.9%	15.0%	13.5%	11.5%	17.1%
治安や風紀が良い	30.6%	23.1%	23.7%	25.9%	28.3%	29.9%	27.1%	32.9%	30.6%	32.9%	35.6%	44.4%
落ち着いた雰囲気がある	31.7%	32.2%	33.9%	35.5%	33.1%	33.0%	31.3%	28.3%	27.3%	28.1%	30.2%	36.2%
活気がある	6.3%	8.7%	6.9%	8.2%	5.4%	6.9%	5.8%	6.3%	6.2%	5.7%	5.4%	4.6%
通学、通勤に便利	30.8%	34.0%	29.7%	31.1%	33.4%	35.3%	32.7%	33.8%	32.8%	29.2%	23.8%	24.0%
買い物など日常生活が便利	44.2%	36.9%	41.0%	45.2%	42.5%	43.8%	43.4%	43.3%	43.2%	45.3%	47.9%	51.8%
働くところがある	15.5%	14.1%	16.7%	19.7%	18.7%	18.7%	18.5%	15.7%	16.5%	14.0%	10.7%	7.7%
家族・親戚がいる	31.0%	29.5%	31.1%	35.4%	35.8%	34.7%	32.0%	30.0%	30.4%	28.4%	27.2%	27.1%
友人が多くいる	19.1%	20.6%	16.8%	17.5%	20.4%	16.8%	19.2%	19.1%	18.6%	18.5%	21.6%	21.3%
自宅近隣との人間関係がある	13.6%	7.8%	7.9%	9.7%	11.7%	12.2%	11.1%	12.6%	15.6%	16.3%	19.4%	23.2%
地域のコミュニティ活動が盛んである	5.2%	4.6%	4.1%	4.8%	4.2%	4.4%	5.2%	3.4%	5.3%	5.8%	6.8%	8.7%
自分の家・土地がある	38.9%	22.9%	21.9%	26.3%	32.8%	33.7%	35.8%	37.9%	41.6%	51.0%	56.8%	62.4%
生まれたり育ったりした場所がある	26.9%	27.4%	27.8%	25.3%	27.9%	27.1%	27.8%	27.5%	27.0%	27.1%	26.1%	24.7%
その他(具体的に)	0.8%	0.9%	0.2%	0.9%	0.8%	0.8%	0.3%	1.0%	0.8%	1.1%	0.5%	1.3%
上記の項目内にはない	4.3%	5.3%	6.7%	6.3%	4.6%	4.5%	4.8%	4.2%	4.2%	3.2%	2.9%	1.5%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------

3-4. 年齢区分による比較



図：年齢区分×愛着を感じる点

3-4-4. 年齢区分×愛着をより感じるようになった点

年齢区分ごとに愛着（親しみ）をより感じようになった点を選択した割合の合計を比較すると、年齢区分が高くなるにつれて割合も高くなっていく傾向が見られる。年齢が低い世代は、居住地の愛着を感じる点を選択する割合が低く、「自分の家・土地がある」は低い傾向にある。一方で、年齢が高い世代は、「自分の家・土地がある」と回答する割合が高い傾向にあり、70-74歳においては「自然環境に恵まれている（36.0%）」「治安や風紀が良い（37.7%）」が高い傾向にある。

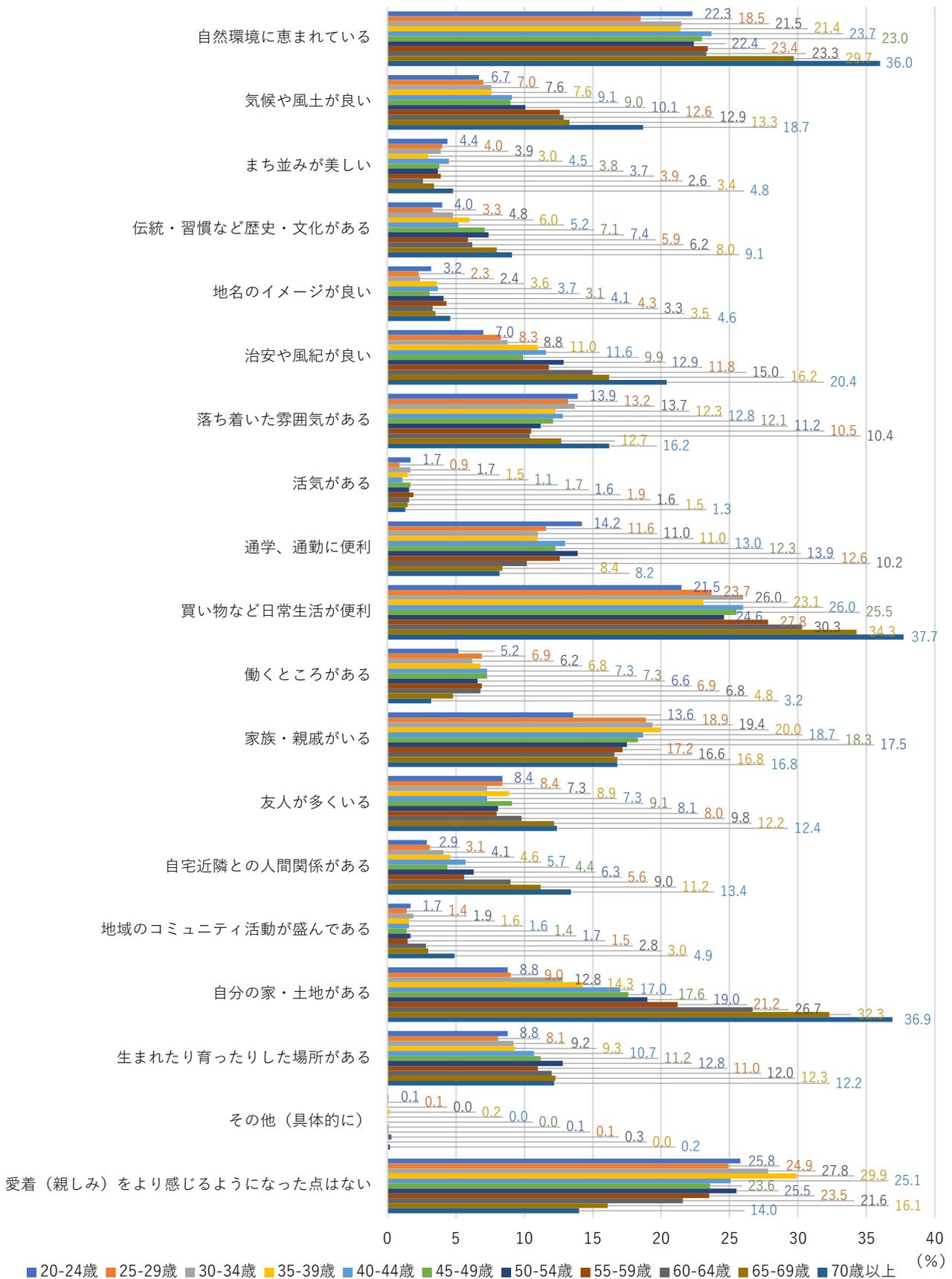
表：年齢区分×愛着をより感じるようになった点

	全回答者	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
選択した割合の合計（「愛着をより感じるようになった点はない」を除く）	186.1%	148.4%	148.7%	162.3%	166.2%	179.0%	176.8%	184.0%	186.2%	199.8%	223.6%	257.0%
自然環境に恵まれている	24.3%	22.3%	18.5%	21.5%	21.4%	23.7%	23.0%	22.4%	23.4%	23.3%	29.7%	36.0%
気候や風土が良い	10.6%	6.7%	7.0%	7.6%	7.6%	9.1%	9.0%	10.1%	12.6%	12.9%	13.3%	18.7%
まち並みが美しい	3.8%	4.4%	4.0%	3.9%	3.0%	4.5%	3.8%	3.7%	3.9%	2.6%	3.4%	4.8%
伝統・習慣など歴史・文化がある	6.2%	4.0%	3.3%	4.8%	6.0%	5.2%	7.1%	7.4%	5.9%	6.2%	8.0%	9.1%
地名のイメージが良い	3.5%	3.2%	2.3%	2.4%	3.6%	3.7%	3.1%	4.1%	4.3%	3.3%	3.5%	4.6%
治安や風紀が良い	12.3%	7.0%	8.3%	8.8%	11.0%	11.6%	9.9%	12.9%	11.8%	15.0%	16.2%	20.4%
落ち着いた雰囲気がある	12.6%	13.9%	13.2%	13.7%	12.3%	12.8%	12.1%	11.2%	10.5%	10.4%	12.7%	16.2%
活気がある	1.5%	1.7%	0.9%	1.7%	1.5%	1.1%	1.7%	1.6%	1.9%	1.6%	1.5%	1.3%
通学、通勤に便利	11.4%	14.2%	11.6%	11.0%	11.0%	13.0%	12.3%	13.9%	12.6%	10.2%	8.4%	8.2%
買い物など日常生活が便利	27.5%	21.5%	23.7%	26.0%	23.1%	26.0%	25.5%	24.6%	27.8%	30.3%	34.3%	37.7%
働くところがある	6.2%	5.2%	6.9%	6.2%	6.8%	7.3%	7.3%	6.6%	6.9%	6.8%	4.8%	3.2%
家族・親戚がいる	17.6%	13.6%	18.9%	19.4%	20.0%	18.7%	18.3%	17.5%	17.2%	16.6%	16.8%	16.8%
友人が多くいる	9.1%	8.4%	8.4%	7.3%	8.9%	7.3%	9.1%	8.1%	8.0%	9.8%	12.2%	12.4%
自宅近隣との人間関係がある	6.5%	2.9%	3.1%	4.1%	4.6%	5.7%	4.4%	6.3%	5.6%	9.0%	11.2%	13.4%
地域のコミュニティ活動が盛んである	2.2%	1.7%	1.4%	1.9%	1.6%	1.6%	1.4%	1.7%	1.5%	2.8%	3.0%	4.9%
自分の家・土地がある	20.0%	8.8%	9.0%	12.8%	14.3%	17.0%	17.6%	19.0%	21.2%	26.7%	32.3%	36.9%
生まれたり育ったりした場所がある	10.7%	8.8%	8.1%	9.2%	9.3%	10.7%	11.2%	12.8%	11.0%	12.0%	12.3%	12.2%
その他（具体的に）	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	0.2%
愛着（親しみ）をより感じるようになった点はない	23.3%	25.8%	24.9%	27.8%	29.9%	25.1%	23.6%	25.5%	23.5%	21.6%	16.1%	14.0%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%+10% > 値 \geq +5%-5% \leq 値 < -10%-10% \leq 値

3-4. 年齢区分による比較



図：年齢区分×愛着をより感じるようになった点

3-4-5. 年齢区分×居住地域以外で愛着のある地域

年齢区分による顕著な差はないが、30歳代は3-4-1でみたように居住年数が少ない傾向があるためか、「成人前に、住んでいた地域」を選択する割合が高く、60歳以上は「成人前に、住んでいた地域」を選択する割合が低い。

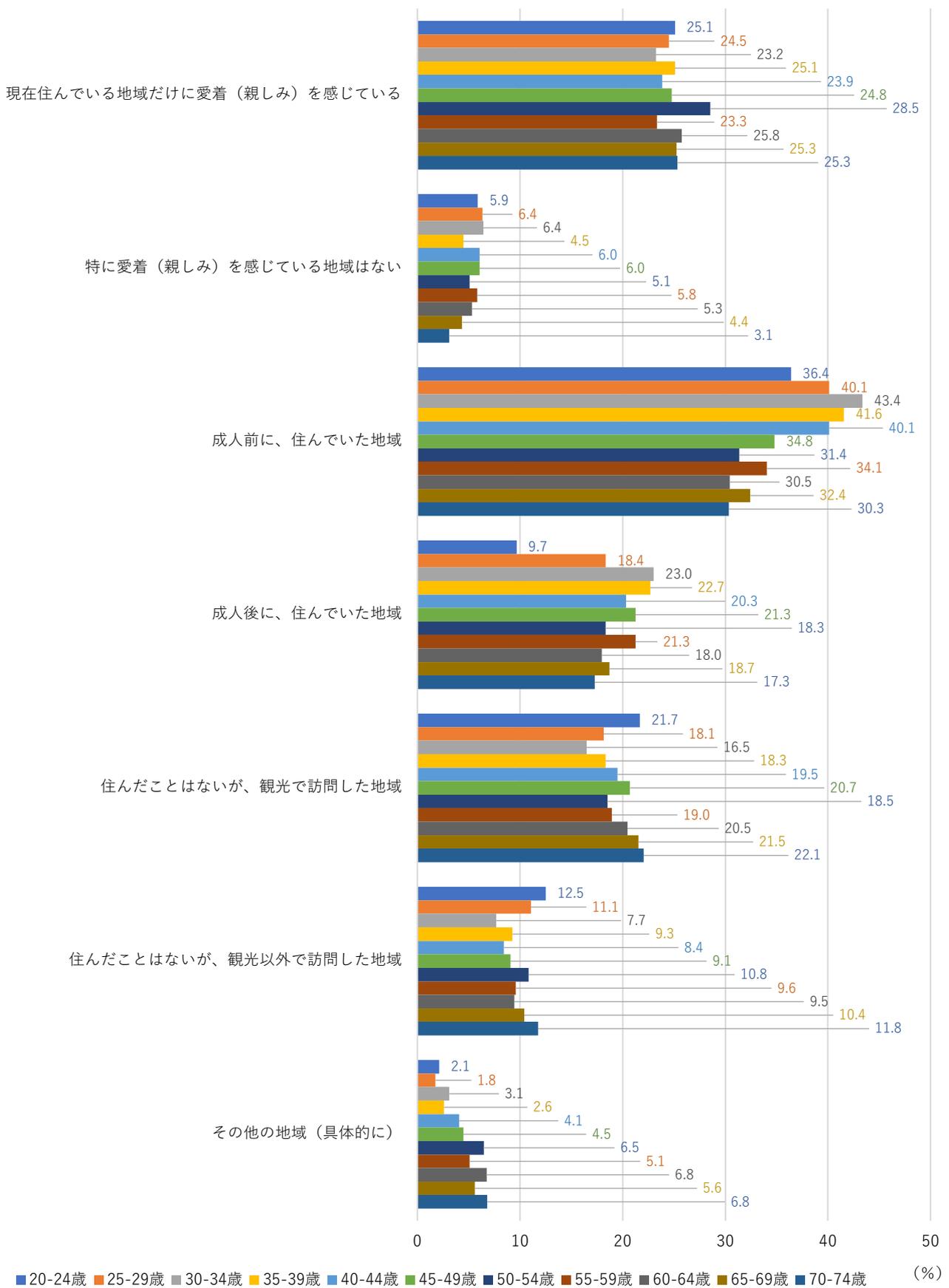
表：年齢区分×居住地域以外で愛着のある地域

	現在住んでいる地域だけに愛着(親しみ)を感じている	特に愛着(親しみ)を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域(具体的に)
全回答者	25.0%	5.4%	35.9%	19.1%	19.6%	10.0%	4.5%
20-24歳	25.1%	5.9%	36.4%	9.7%	21.7%	12.5%	2.1%
25-29歳	24.5%	6.4%	40.1%	18.4%	18.1%	11.1%	1.8%
30-34歳	23.2%	6.4%	43.4%	23.0%	16.5%	7.7%	3.1%
35-39歳	25.1%	4.5%	41.6%	22.7%	18.3%	9.3%	2.6%
40-44歳	23.9%	6.0%	40.1%	20.3%	19.5%	8.4%	4.1%
45-49歳	24.8%	6.0%	34.8%	21.3%	20.7%	9.1%	4.5%
50-54歳	28.5%	5.1%	31.4%	18.3%	18.5%	10.8%	6.5%
55-59歳	23.3%	5.8%	34.1%	21.3%	19.0%	9.6%	5.1%
60-64歳	25.8%	5.3%	30.5%	18.0%	20.5%	9.5%	6.8%
65-69歳	25.3%	4.4%	32.4%	18.7%	21.5%	10.4%	5.6%
70-74歳	25.3%	3.1%	30.3%	17.3%	22.1%	11.8%	6.8%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-4. 年齢区分による比較



図：年齢区分×居住地域以外で愛着のある地域

3-4-6. 年齢区分×居住地域の文化遺産

年齢が低い世代は、居住地域で認識している文化遺産を選択する割合が全般的には低く、「全くない」と回答する割合が高い傾向にある。一方で、年齢が高い世代は居住地域で認識している文化遺産を選択する割合が全般的には高くなり、「全くない」と回答する割合が低い傾向にある。大きな差が現れたものとして「歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡」が挙げられる。

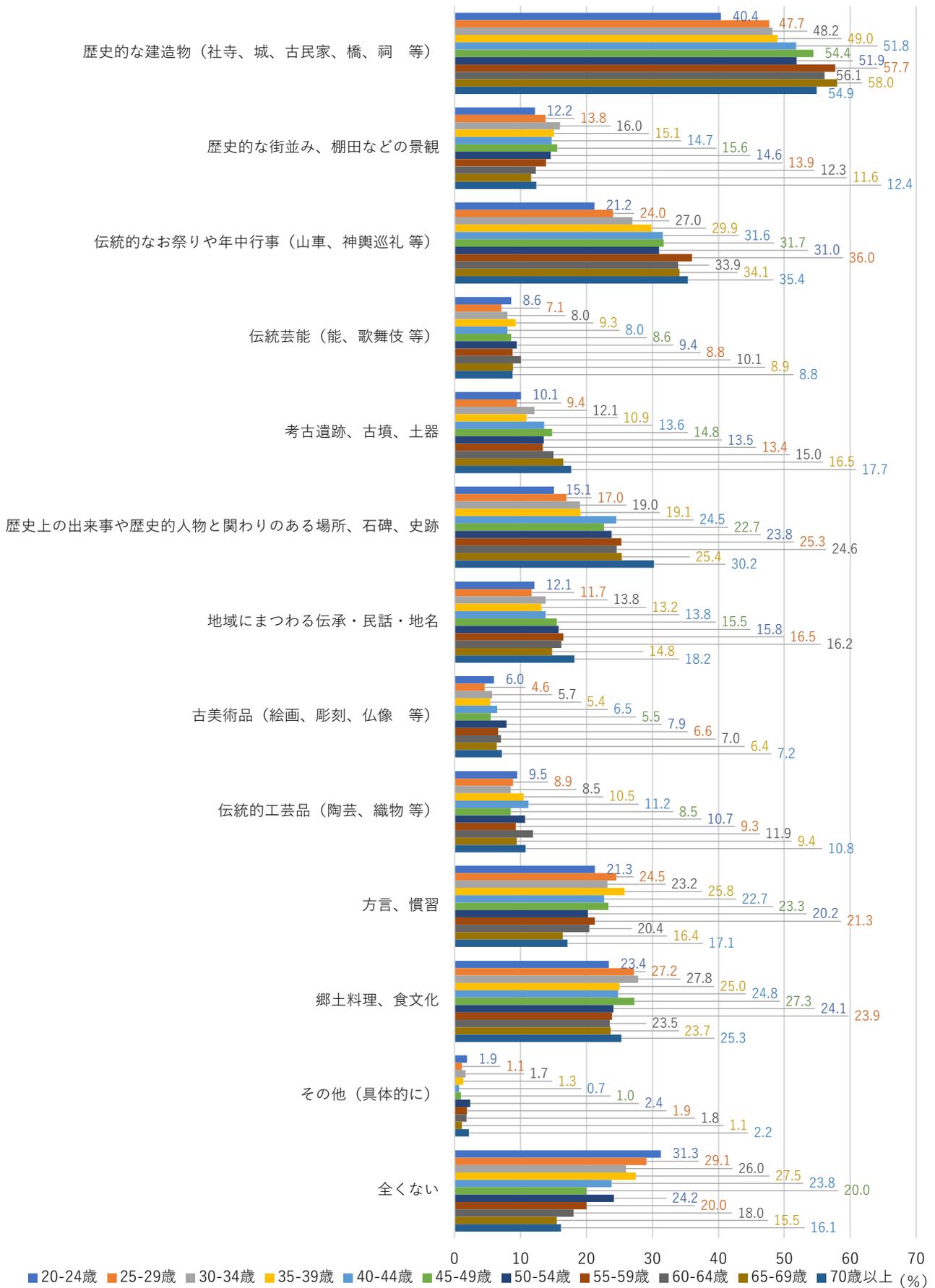
表：年齢区分×居住地域以外で愛着のある地域

	全回答者	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠等）	51.9%	40.4%	47.7%	48.2%	49.0%	51.8%	54.4%	51.9%	57.7%	56.1%	58.0%	54.9%
歴史的な街並み、棚田などの景観	13.9%	12.2%	13.8%	16.0%	15.1%	14.7%	15.6%	14.6%	13.9%	12.3%	11.6%	12.4%
伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼等）	30.6%	21.2%	24.0%	27.0%	29.9%	31.6%	31.7%	31.0%	36.0%	33.9%	34.1%	35.4%
伝統芸能（能、歌舞伎等）	8.7%	8.6%	7.1%	8.0%	9.3%	8.0%	8.6%	9.4%	8.8%	10.1%	8.9%	8.8%
考古遺跡、古墳、土器	13.4%	10.1%	9.4%	12.1%	10.9%	13.6%	14.8%	13.5%	13.4%	15.0%	16.5%	17.7%
歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡	22.5%	15.1%	17.0%	19.0%	19.1%	24.5%	22.7%	23.8%	25.3%	24.6%	25.4%	30.2%
地域にまつわる伝承・民話・地名	14.7%	12.1%	11.7%	13.8%	13.2%	13.8%	15.5%	15.8%	16.5%	16.2%	14.8%	18.2%
古美術品（絵画、彫刻、仏像等）	6.3%	6.0%	4.6%	5.7%	5.4%	6.5%	5.5%	7.9%	6.6%	7.0%	6.4%	7.2%
伝統的工芸品（陶芸、織物等）	9.9%	9.5%	8.9%	8.5%	10.5%	11.2%	8.5%	10.7%	9.3%	11.9%	9.4%	10.8%
方言、慣習	21.5%	21.3%	24.5%	23.2%	25.8%	22.7%	23.3%	20.2%	21.3%	20.4%	16.4%	17.1%
郷土料理、食文化	25.1%	23.4%	27.2%	27.8%	25.0%	24.8%	27.3%	24.1%	23.9%	23.5%	23.7%	25.3%
その他（具体的に）	1.6%	1.9%	1.1%	1.7%	1.3%	0.7%	1.0%	2.4%	1.9%	1.8%	1.1%	2.2%
全くない	22.8%	31.3%	29.1%	26.0%	27.5%	23.8%	20.0%	24.2%	20.0%	18.0%	15.5%	16.1%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-4. 年齢区分による比較



図：年齢区分×居住地域以外で愛着のある地域

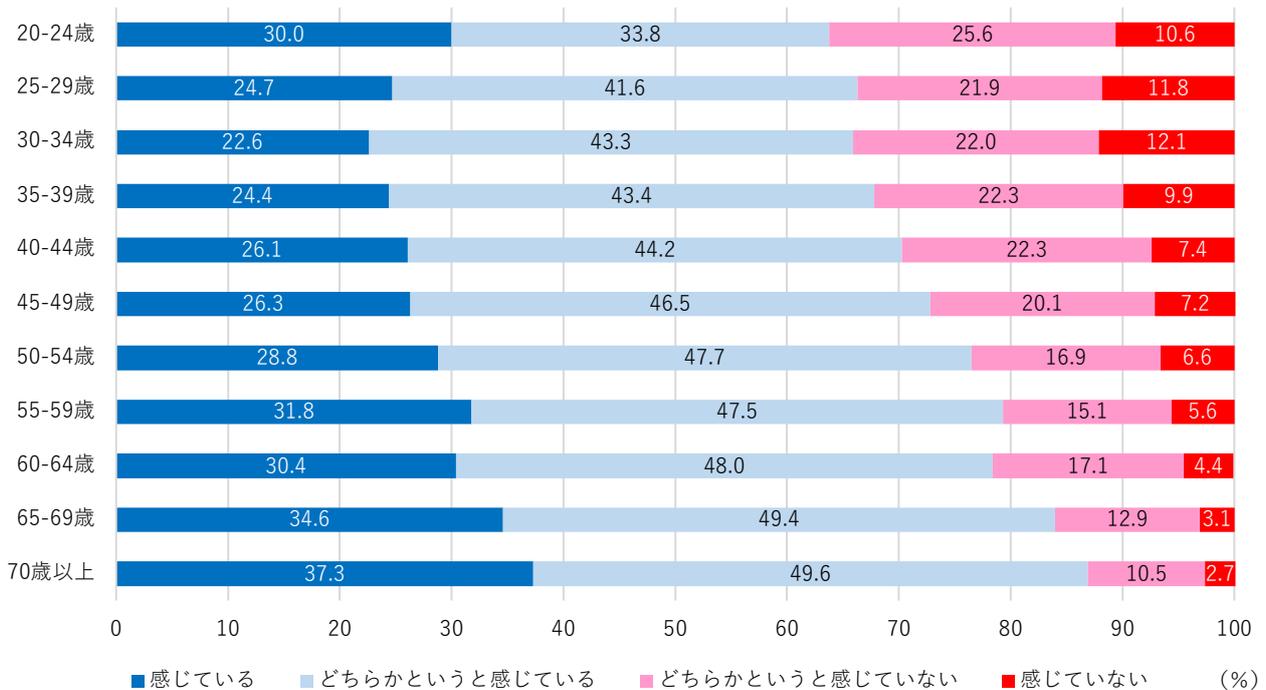
3-4-7. 年齢区分×居住地域の文化遺産への愛着度

年齢が低い世代は、居住地域の文化遺産への愛着を「感じている」を選択する割合が全般的に低い傾向にある。居住地域の文化遺産への愛着を「感じていない」回答者も、居住地を変更する割合の多い30-34歳までは徐々に増えているが、その後は徐々に微減している。

表：年齢区分×居住地域の文化遺産への愛着度

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	29.0%	45.4%	18.5%	7.2%
20-24歳	30.0%	33.8%	25.6%	10.6%
25-29歳	24.7%	41.6%	21.9%	11.8%
30-34歳	22.6%	43.3%	22.0%	12.1%
35-39歳	24.4%	43.4%	22.3%	9.9%
40-44歳	26.1%	44.2%	22.3%	7.4%
45-49歳	26.3%	46.5%	20.1%	7.2%
50-54歳	28.8%	47.7%	16.9%	6.6%
55-59歳	31.8%	47.5%	15.1%	5.6%
60-64歳	30.4%	48.0%	17.1%	4.4%
65-69歳	34.6%	49.4%	12.9%	3.1%
70-74歳	37.3%	49.6%	10.5%	2.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×居住地域の文化遺産への愛着度

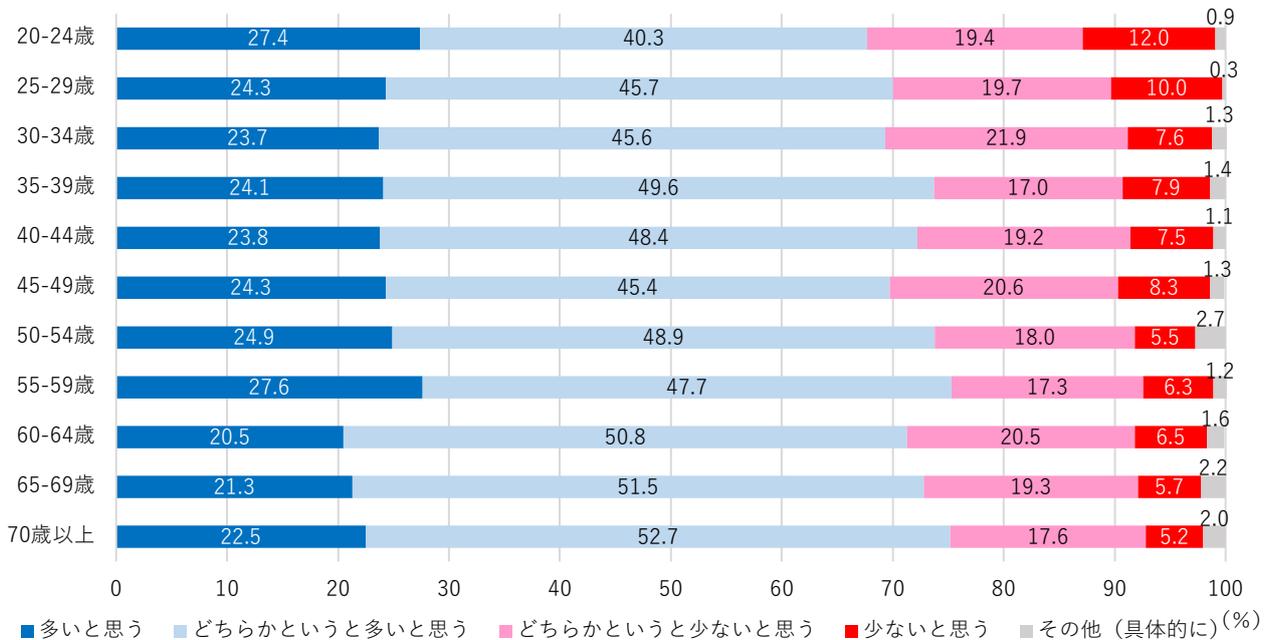
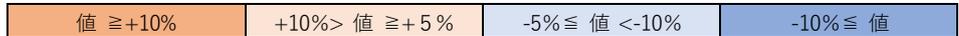
3-4-8. 年齢区分×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

前問と比較して、年齢区分による顕著な差は生じていない。年齢が低い世代は、居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「多いと思う」や「どちらかというとも多いと思う」と回答する割合が若干低い傾向にある。一方で、年齢が高い世代は居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「多いと思う」や「どちらかというとも多いと思う」と回答する割合が若干高い傾向にある。

表：年齢区分×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

	多いと思う	どちらかというとも多いと思う	どちらかというとも少ないと思う	少ないと思う	その他（具体的に）
全回答者	23.9%	48.1%	19.1%	7.3%	1.5%
20-24歳	27.4%	40.3%	19.4%	12.0%	0.9%
25-29歳	24.3%	45.7%	19.7%	10.0%	0.3%
30-34歳	23.7%	45.6%	21.9%	7.6%	1.3%
35-39歳	24.1%	49.6%	17.0%	7.9%	1.4%
40-44歳	23.8%	48.4%	19.2%	7.5%	1.1%
45-49歳	24.3%	45.4%	20.6%	8.3%	1.3%
50-54歳	24.9%	48.9%	18.0%	5.5%	2.7%
55-59歳	27.6%	47.7%	17.3%	6.3%	1.2%
60-64歳	20.5%	50.8%	20.5%	6.5%	1.6%
65-69歳	21.3%	51.5%	19.3%	5.7%	2.2%
70-74歳	22.5%	52.7%	17.6%	5.2%	2.0%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

<居住地の文化遺産に対する3-4-7 個人愛着と3-4-8 集団愛着の比較>

[自身]が居住地の文化遺産への愛着を「感じている」を選択する愛着の度合い(3-4-7)と、[地域住民]が居住地の文化遺産に対して愛着を感じている人が「多いと思う」(3-4-8)を比較すると、年齢区分が高い人は「感じている」を選択する割合が、周りの方よりも「多いと思う」を選択する割合よりも多い。つまり、年齢区分が高い方は、地域住民より、自分自身の方が地域内の文化遺産に愛着を感じていると考えていることが読み取れる。

表：年齢区分×居住地の文化遺産への愛着度[(3-4-7 個人) - (3-4-8 集団)]

	感じている —多いと思う	どちらかというと感じている —どちらかというともいえる	どちらかというと感じていない —どちらかというとも少ないと思う	感じていない —少ないと思う
全回答者	5.1%	-2.7%	-0.6%	-0.1%
20-24 歳	2.6%	-6.5%	6.2%	-1.4%
25-29 歳	0.4%	-4.1%	2.2%	1.8%
30-34 歳	-1.1%	-2.3%	0.1%	4.5%
35-39 歳	0.3%	-6.2%	5.3%	2.0%
40-44 歳	2.3%	-4.2%	3.1%	-0.1%
45-49 歳	2.0%	1.1%	-0.5%	-1.1%
50-54 歳	3.9%	-1.2%	-1.1%	1.1%
55-59 歳	4.2%	-0.2%	-2.2%	-0.7%
60-64 歳	9.9%	-2.8%	-3.4%	-2.1%
65-69 歳	13.3%	-2.1%	-6.4%	-2.6%
70-74 歳	14.8%	-3.1%	-7.1%	-2.5%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-4-9. 年齢区分×文化遺産への関心度

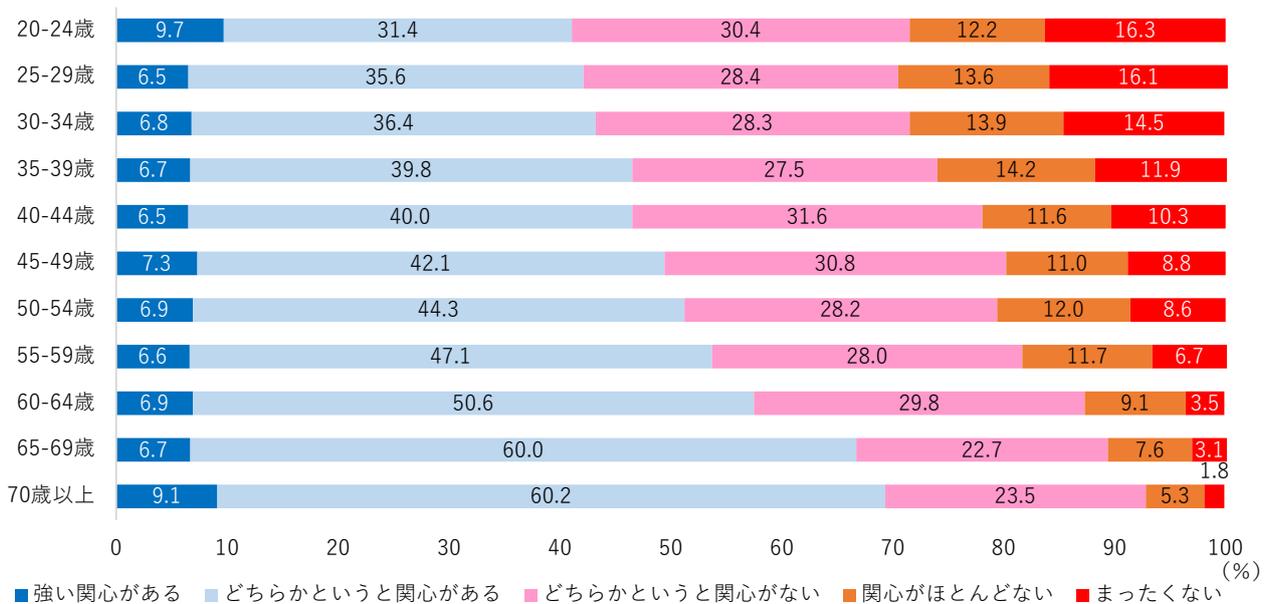
年齢が低い世代は、文化遺産に対して「どちらかというに関心がある」と回答する割合が低く、「まったくない」と回答する割合が高い。一方で、年齢が高い世代は文化遺産に対して「どちらかというに関心がある」と回答する割合が高く、「どちらかというに関心がない」「関心がほとんどない」「まったくない」と回答する割合が低い。つまり、年齢と文化遺産への関心の度合いは概ね比例していることが読み取れる。

表：年齢区分×文化遺産への関心度

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者	7.2%	44.4%	28.1%	11.1%	9.2%
20-24歳	9.7%	31.4%	30.4%	12.2%	16.3%
25-29歳	6.5%	35.6%	28.4%	13.6%	16.1%
30-34歳	6.8%	36.4%	28.3%	13.9%	14.5%
35-39歳	6.7%	39.8%	27.5%	14.2%	11.9%
40-44歳	6.5%	40.0%	31.6%	11.6%	10.3%
45-49歳	7.3%	42.1%	30.8%	11.0%	8.8%
50-54歳	6.9%	44.3%	28.2%	12.0%	8.6%
55-59歳	6.6%	47.1%	28.0%	11.7%	6.7%
60-64歳	6.9%	50.6%	29.8%	9.1%	3.5%
65-69歳	6.7%	60.0%	22.7%	7.6%	3.1%
70-74歳	9.1%	60.2%	23.5%	5.3%	1.8%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------



図：年齢区分×文化遺産への関心度

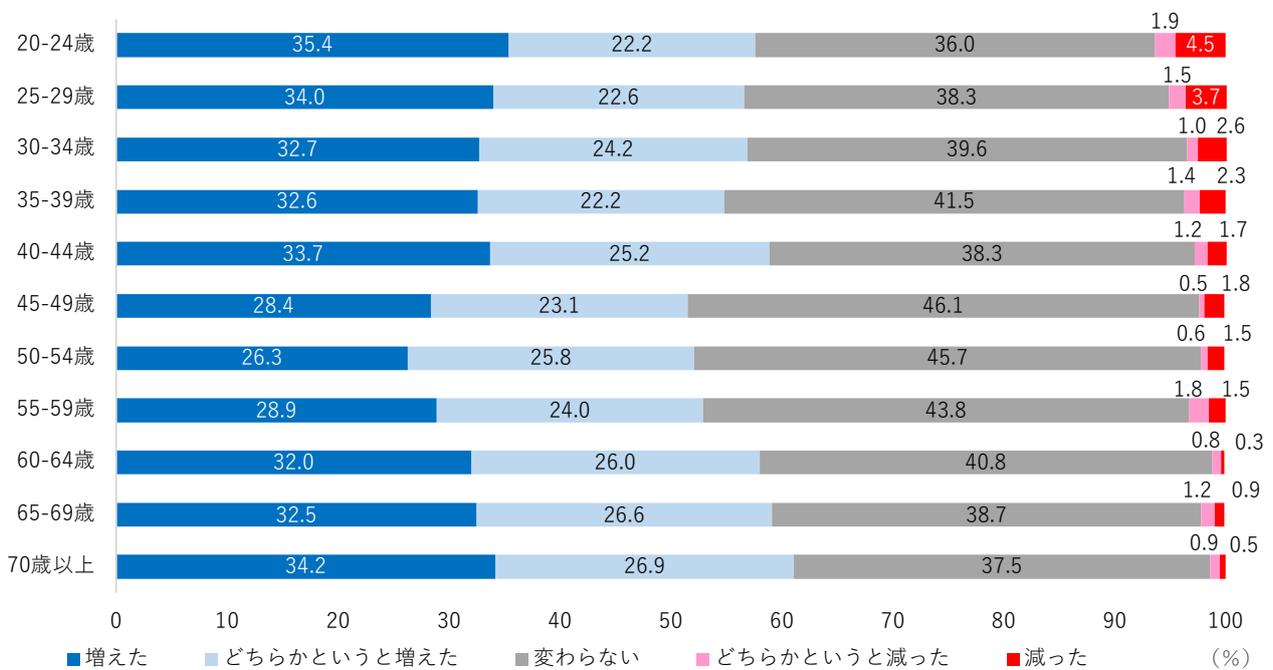
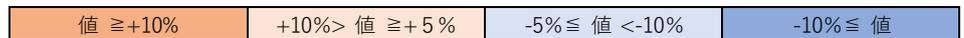
3-4-10. 年齢区分×居住地域での滞在時間

居住地域での滞在時間は、45歳から54歳の区分において「変わらない」と回答する割合が若干高いものの、年齢区分による違いは大きく見られない。わずかであるが、年齢区分が低い回答者は「どちらかというと減った」「減った」がわずかであるが、年齢区分が高い回答者に比べて多い。

表：年齢区分×居住地域での滞在時間

	増えた	どちらかという 増えた	変わらない	どちらかという 減った	減った
全回答者	31.7%	24.6%	40.7%	1.1%	1.8%
20-24歳	35.4%	22.2%	36.0%	1.9%	4.5%
25-29歳	34.0%	22.6%	38.3%	1.5%	3.7%
30-34歳	32.7%	24.2%	39.6%	1.0%	2.6%
35-39歳	32.6%	22.2%	41.5%	1.4%	2.3%
40-44歳	33.7%	25.2%	38.3%	1.2%	1.7%
45-49歳	28.4%	23.1%	46.1%	0.5%	1.8%
50-54歳	26.3%	25.8%	45.7%	0.6%	1.5%
55-59歳	28.9%	24.0%	43.8%	1.8%	1.5%
60-64歳	32.0%	26.0%	40.8%	0.8%	0.3%
65-69歳	32.5%	26.6%	38.7%	1.2%	0.9%
70-74歳	34.2%	26.9%	37.5%	0.9%	0.5%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×居住地域での滞在時間

3-4-11. 年齢区分×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

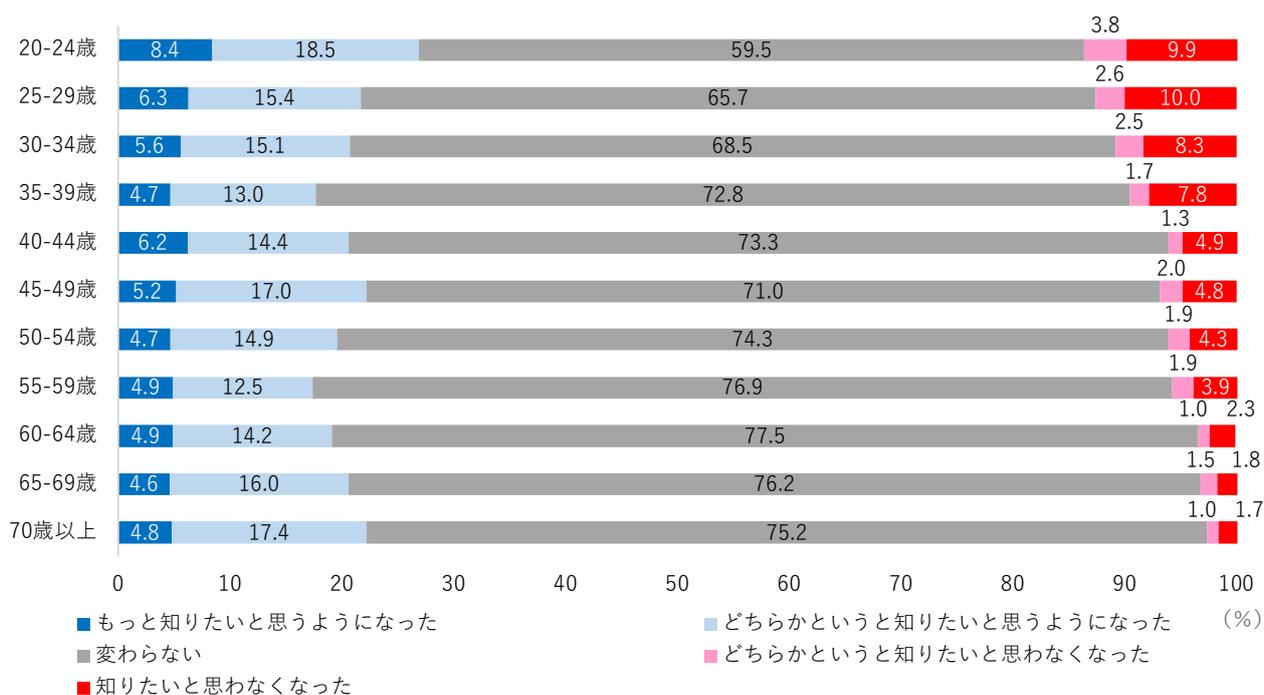
コロナ禍を経て居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったという気持ちの変化は、世代に限らず「もっと知りたいと思うようになった」「どちらかという知りたいと思うようになった」を選択する割合に顕著な違いは見られない。ただし、若い世代において「変わらない」を選択する割合が低く、「知りたいと思わなくなった」を選択する割合が若干高い傾向が見られる。コロナ禍による地域内の文化遺産への関心度合いへの影響は若い世代ほど大きく、「知りたい」と「知りたいと思わなくなった」に考えにより分かれるという傾向が見られる。

表：年齢区分×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった
全回答者	5.4%	15.3%	72.0%	1.9%	5.4%
20-24歳	8.4%	18.5%	59.5%	3.8%	9.9%
25-29歳	6.3%	15.4%	65.7%	2.6%	10.0%
30-34歳	5.6%	15.1%	68.5%	2.5%	8.3%
35-39歳	4.7%	13.0%	72.8%	1.7%	7.8%
40-44歳	6.2%	14.4%	73.3%	1.3%	4.9%
45-49歳	5.2%	17.0%	71.0%	2.0%	4.8%
50-54歳	4.7%	14.9%	74.3%	1.9%	4.3%
55-59歳	4.9%	12.5%	76.9%	1.9%	3.9%
60-64歳	4.9%	14.2%	77.5%	1.0%	2.3%
65-69歳	4.6%	16.0%	76.2%	1.5%	1.8%
70-74歳	4.8%	17.4%	75.2%	1.0%	1.7%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------



図：年齢区分×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

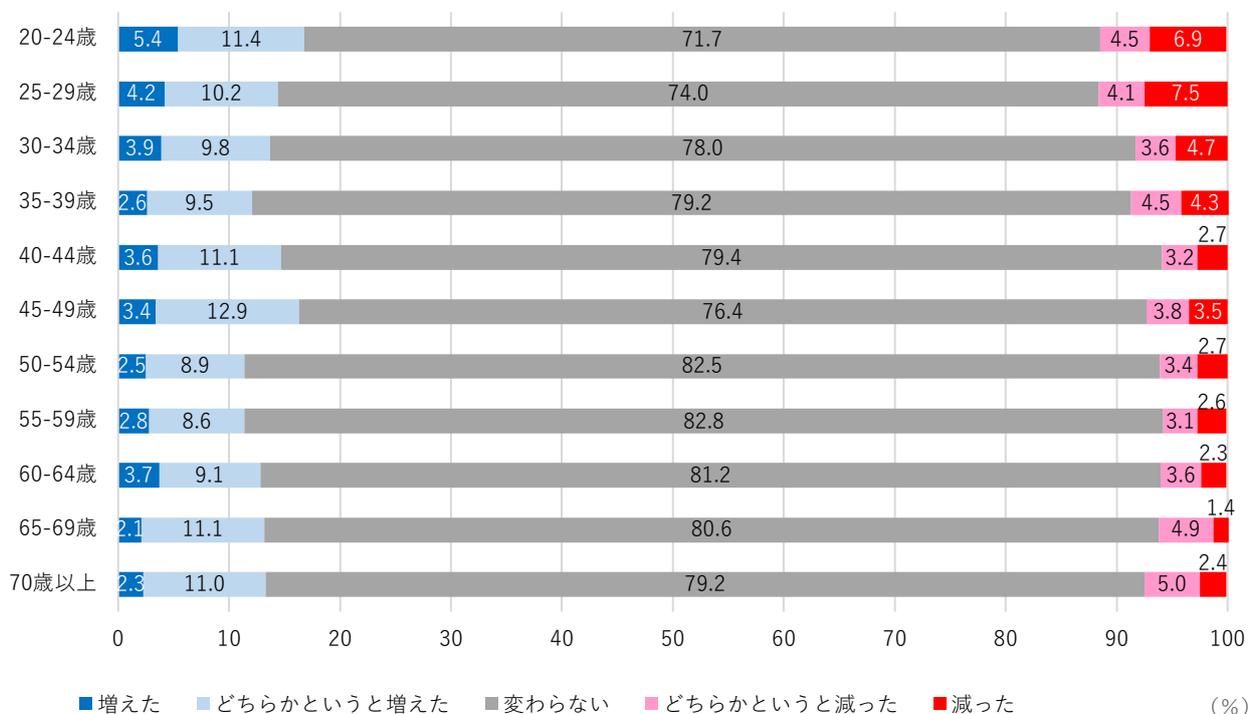
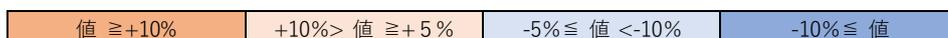
3-4-12. 年齢区分×居住地域の文化遺産を知る機会

居住地域での滞在時間は、年齢区分による違いは大きく見られない。しかし、傾向として年齢区分が低い世代は「変わらない」を選択する回答者が少なく、高齢の世代よりも居住地域の文化遺産を知る機会を「増えた」「どちらかというが増えた」と「どちらかというが減った」「減った」に分かれる結果となった。

表：年齢区分×居住地域の文化遺産を知る機会

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	3.3%	10.3%	78.7%	4.0%	3.7%
20-24歳	5.4%	11.4%	71.7%	4.5%	6.9%
25-29歳	4.2%	10.2%	74.0%	4.1%	7.5%
30-34歳	3.9%	9.8%	78.0%	3.6%	4.7%
35-39歳	2.6%	9.5%	79.2%	4.5%	4.3%
40-44歳	3.6%	11.1%	79.4%	3.2%	2.7%
45-49歳	3.4%	12.9%	76.4%	3.8%	3.5%
50-54歳	2.5%	8.9%	82.5%	3.4%	2.7%
55-59歳	2.8%	8.6%	82.8%	3.1%	2.6%
60-64歳	3.7%	9.1%	81.2%	3.6%	2.3%
65-69歳	2.1%	11.1%	80.6%	4.9%	1.4%
70-74歳	2.3%	11.0%	79.2%	5.0%	2.4%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×居住地域の文化遺産を知る機会

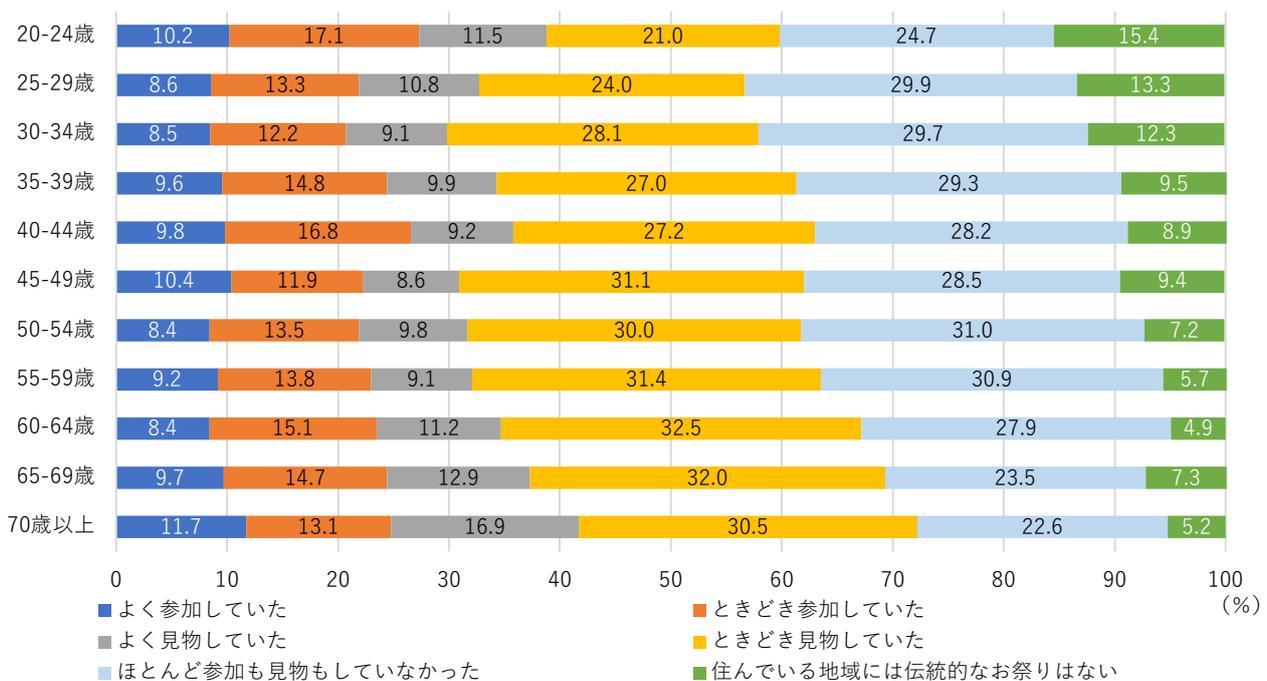
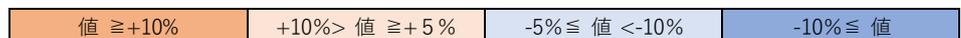
3-4-13. 年齢区分×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

年齢が低い世代は、コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない」と回答する割合が高い。一方で、年齢が高い世代は、コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について頻度は問わず参加や見物をしてきたと回答した割合が高く、「ほとんど参加も見物もしていなかった」と回答する割合は低い。一方で、「よく参加していた」「ときどき参加していた」には年齢区分による大きな差は見られない。

表：年齢区分×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	9.5%	14.2%	10.8%	28.7%	27.9%	8.9%
20-24歳	10.2%	17.1%	11.5%	21.0%	24.7%	15.4%
25-29歳	8.6%	13.3%	10.8%	24.0%	29.9%	13.3%
30-34歳	8.5%	12.2%	9.1%	28.1%	29.7%	12.3%
35-39歳	9.6%	14.8%	9.9%	27.0%	29.3%	9.5%
40-44歳	9.8%	16.8%	9.2%	27.2%	28.2%	8.9%
45-49歳	10.4%	11.9%	8.6%	31.1%	28.5%	9.4%
50-54歳	8.4%	13.5%	9.8%	30.0%	31.0%	7.2%
55-59歳	9.2%	13.8%	9.1%	31.4%	30.9%	5.7%
60-64歳	8.4%	15.1%	11.2%	32.5%	27.9%	4.9%
65-69歳	9.7%	14.7%	12.9%	32.0%	23.5%	7.3%
70-74歳	11.7%	13.1%	16.9%	30.5%	22.6%	5.2%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

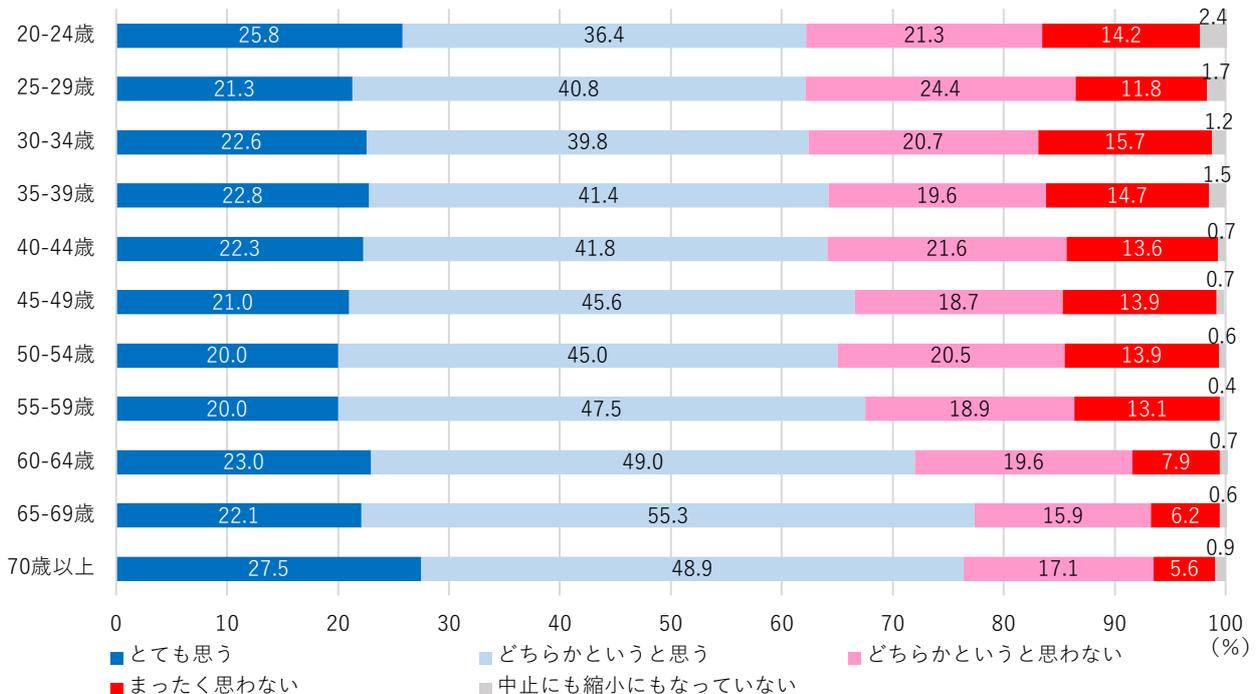
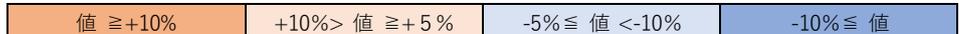
3-4-14. 年齢区分×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

年齢が低い世代は、居住地域の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「どちらかというと思う」と回答する割合が低く、「どちらかというと思わない」や「まったく思わない」を選択する割合が比較的高い。一方で、特に65歳以上の年齢が高い世代は、居住地域の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「どちらかというと思わない」や「まったく思わない」を選択する割合が低い。

表：年齢区分×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

	とても思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	まったく思わない	中止にも縮小にもなっていない
全回答者	22.5%	44.9%	19.8%	11.8%	1.0%
20-24歳	25.8%	36.4%	21.3%	14.2%	2.4%
25-29歳	21.3%	40.8%	24.4%	11.8%	1.7%
30-34歳	22.6%	39.8%	20.7%	15.7%	1.2%
35-39歳	22.8%	41.4%	19.6%	14.7%	1.5%
40-44歳	22.3%	41.8%	21.6%	13.6%	0.7%
45-49歳	21.0%	45.6%	18.7%	13.9%	0.7%
50-54歳	20.0%	45.0%	20.5%	13.9%	0.6%
55-59歳	20.0%	47.5%	18.9%	13.1%	0.4%
60-64歳	23.0%	49.0%	19.6%	7.9%	0.7%
65-69歳	22.1%	55.3%	15.9%	6.2%	0.6%
70-74歳	27.5%	48.9%	17.1%	5.6%	0.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

3-4-15. 年齢区分×住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

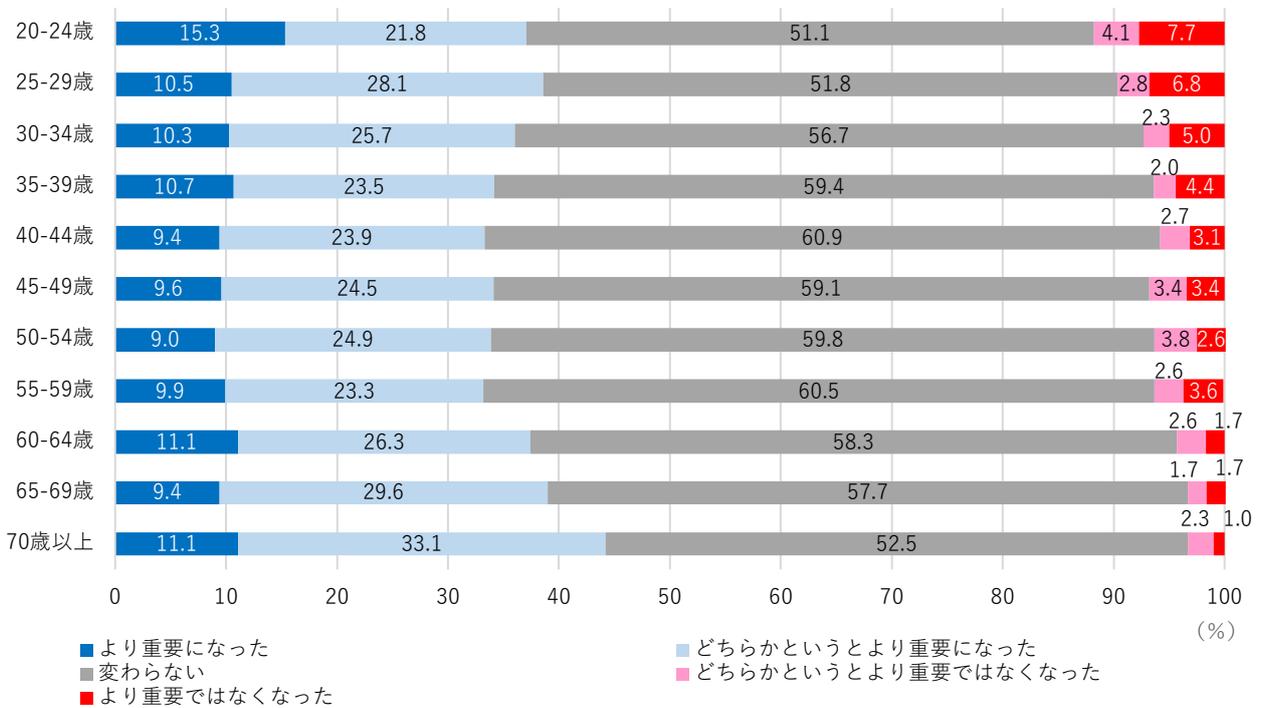
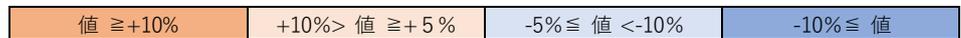
年齢が低い世代は、居住地域の文化遺産がコロナ禍以前の認識が「変わらない」とする割合が低く、「どちらか」というとより重要ではなくなった」や「より重要ではなくなった」と回答する割合が若干高い。つまり、若い世代は、コロナ禍前後で居住地域の文化遺産に対する認識がより変化した傾向が読み取れる。

一方で、年齢が高い世代、特に65歳以上の高齢者は居住地域の文化遺産がコロナ禍以前の認識よりも「より重要になった」や「どちらか」というとより重要になった」と回答する割合が若干高い。

表：年齢区分×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

	より重要になった	どちらかという より重要になった	変わらない	どちらかという より重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	10.5%	25.9%	57.1%	2.7%	3.7%
20-24歳	15.3%	21.8%	51.1%	4.1%	7.7%
25-29歳	10.5%	28.1%	51.8%	2.8%	6.8%
30-34歳	10.3%	25.7%	56.7%	2.3%	5.0%
35-39歳	10.7%	23.5%	59.4%	2.0%	4.4%
40-44歳	9.4%	23.9%	60.9%	2.7%	3.1%
45-49歳	9.6%	24.5%	59.1%	3.4%	3.4%
50-54歳	9.0%	24.9%	59.8%	3.8%	2.6%
55-59歳	9.9%	23.3%	60.5%	2.6%	3.6%
60-64歳	11.1%	26.3%	58.3%	2.6%	1.7%
65-69歳	9.4%	29.6%	57.7%	1.7%	1.7%
70-74歳	11.1%	33.1%	52.5%	2.3%	1.0%

凡例：全回答者との比較色分け



図：年齢区分×住地域の居住地域での滞在時間の増減による比較

3-5. 居住地域での滞在時間の増減による比較

「増えた」、「どちらかというが増えた」、「変わらない」、「どちらかというが減った」、「減った」の5つの項目ごとの回答結果を比較する。

なお、各エリアの母数は以下の通りであり、項目により母数が少ないことに留意が必要である。

表：滞在時間の増減の回答者数

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
回答者数(人)	3,055	2,364	3,923	110	175

3-5-1. 滞在時間の増減×継続居住年数

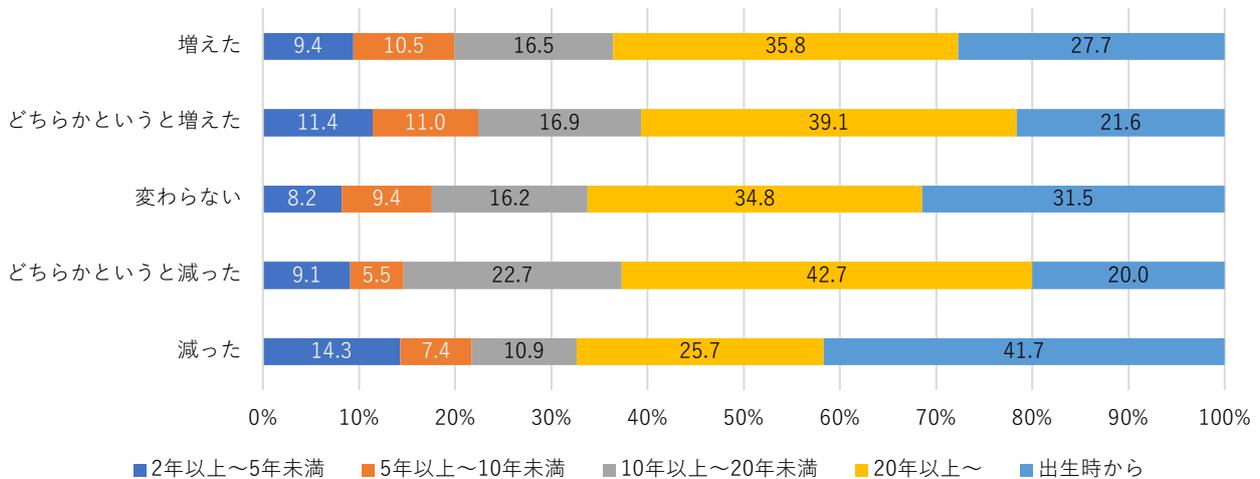
コロナ禍による居住地域内での滞在時間の増減の影響で継続居住年数が「20年以上～」の場合に「どちらかというが減った」または「減った」に対する影響が大きい。

表：滞在時間の増減×継続居住年数

	2年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 20年未満	20年以上～	出生時から
全回答者	9.5%	10.1%	16.4%	36.1%	27.9%
増えた	9.4%	10.5%	16.5%	35.8%	27.7%
どちらかというが増えた	11.4%	11.0%	16.9%	39.1%	21.6%
変わらない	8.2%	9.4%	16.2%	34.8%	31.5%
どちらかというが減った	9.1%	5.5%	22.7%	42.7%	20.0%
減った	14.3%	7.4%	10.9%	25.7%	41.7%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------



図：滞在時間の増減×継続居住年数

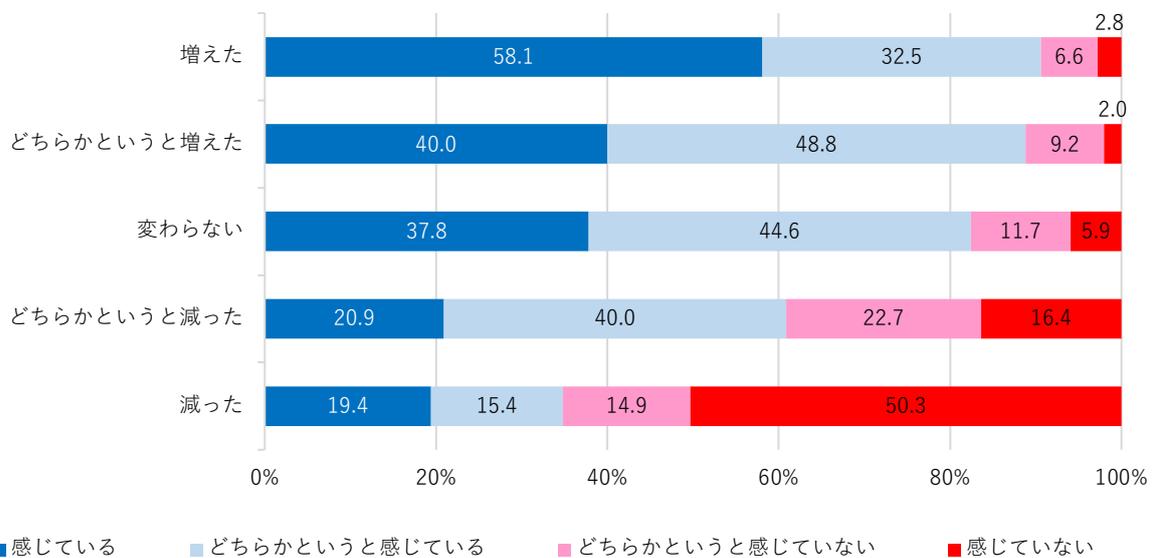
3-5-2. 滞在時間の増減×愛着を感じる度合い

コロナ禍により居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域に愛着を「感じている（58.1%）」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというと感じている（32.5%）」と合わせて90.6%が地域に愛着を感じている。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域に愛着を「感じていない（50.3%）」や「どちらかというと感じていない（14.9%）」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて65.2%の回答者が度合いの強弱はあるものの居住地域に愛着を感じていない。つまり、居住地域内での滞在時間の増減と愛着の度合いは相関関係が認められる。

表：滞在時間の増減×愛着を感じる度合い

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	44.2%	41.2%	9.6%	4.9%
増えた	58.1%	32.5%	6.6%	2.8%
どちらかというが増えた	40.0%	48.8%	9.2%	2.0%
変わらない	37.8%	44.6%	11.7%	5.9%
どちらかというが減った	20.9%	40.0%	22.7%	16.4%
減った	19.4%	15.4%	14.9%	50.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×愛着を感じる度合い

3-5-3. 滞在時間の増減×愛着を感じる点

コロナ禍により居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域の愛着を感じる点として「買い物など日常生活が便利（49.5%）」「落ち着いた雰囲気がある（37.4%）」「治安や風紀が良い（36.6%）」と回答する割合が全回答者より高い。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域の愛着を感じる点として多くの要素を選択する割合が全回答者より低い。

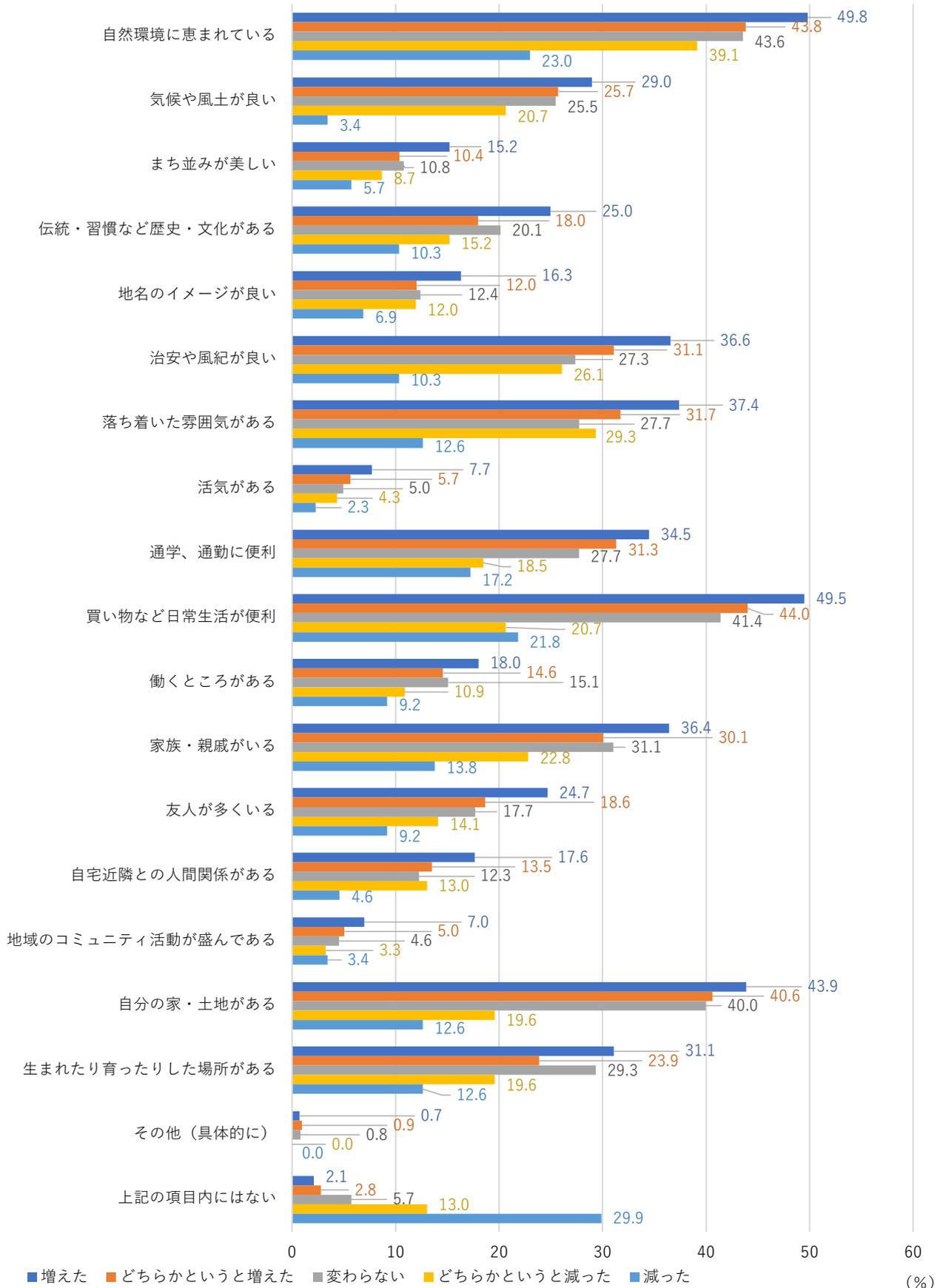
表：滞在時間の増減×愛着を感じる点

	全回答者	増えた	どちらかという と増えた	変わらない	どちらかという と減った	減った
自然環境に恵まれている	45.4%	49.8%	43.8%	43.6%	39.1%	23.0%
気候や風土が良い	26.4%	29.0%	25.7%	25.5%	20.7%	3.4%
まち並みが美しい	12.1%	15.2%	10.4%	10.8%	8.7%	5.7%
伝統・習慣など歴史・文化がある	21.0%	25.0%	18.0%	20.1%	15.2%	10.3%
地名のイメージが良い	13.5%	16.3%	12.0%	12.4%	12.0%	6.9%
治安や風紀が良い	31.1%	36.6%	31.1%	27.3%	26.1%	10.3%
落ち着いた雰囲気がある	31.7%	37.4%	31.7%	27.7%	29.3%	12.6%
活気がある	6.0%	7.7%	5.7%	5.0%	4.3%	2.3%
通学、通勤に便利	30.6%	34.5%	31.3%	27.7%	18.5%	17.2%
買い物など日常生活が便利	44.3%	49.5%	44.0%	41.4%	20.7%	21.8%
働くところがある	15.8%	18.0%	14.6%	15.1%	10.9%	9.2%
家族・親戚がいる	32.3%	36.4%	30.1%	31.1%	22.8%	13.8%
友人が多くいる	20.1%	24.7%	18.6%	17.7%	14.1%	9.2%
自宅近隣との人間関係がある	14.3%	17.6%	13.5%	12.3%	13.0%	4.6%
地域のコミュニティ活動が盛んである	5.4%	7.0%	5.0%	4.6%	3.3%	3.4%
自分の家・土地がある	40.9%	43.9%	40.6%	40.0%	19.6%	12.6%
生まれたり育ったりした場所がある	28.3%	31.1%	23.9%	29.3%	19.6%	12.6%
その他（具体的に）	0.8%	0.7%	0.9%	0.8%	0.0%	0.0%
上記の項目内にはない	4.1%	2.1%	2.8%	5.7%	13.0%	29.9%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-5. 居住地域での滞在時間の増減による比較



図：滞在時間の増減×愛着を感じる点

3-5-4. 滞在時間の増減×愛着をより感じるようになった点

コロナ禍により居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域の愛着を感じる点として「買い物など日常生活が便利(33.4%)」「自然環境に恵まれている(30.3%)」と回答する割合が全回答者より高い。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域の愛着を感じる点として「買い物など日常生活が便利(14.8%)」や「自分の家・土地がある(11.5%)」「治安や風紀が良い(3.3%)」「落ち着いた雰囲気がある(4.9%)」を選択する割合が全回答者より低い。

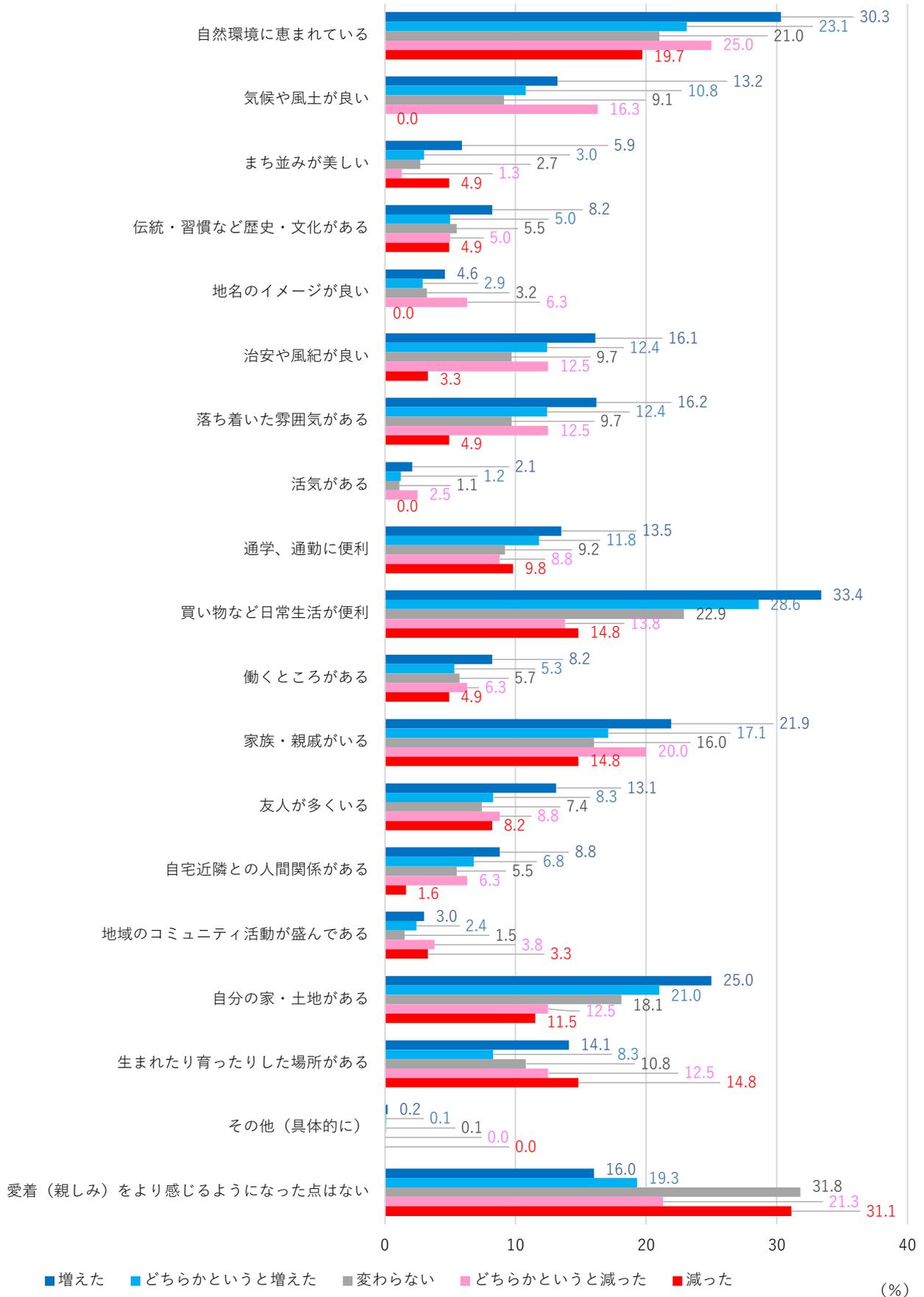
表：滞在時間の増減×愛着をより感じるようになった点

	全回答者	増えた	どちらかという と増えた	変わらない	どちらかという と減った	減った
自然環境に恵まれている	24.6%	30.3%	23.1%	21.0%	25.0%	19.7%
気候や風土が良い	10.9%	13.2%	10.8%	9.1%	16.3%	0.0%
まち並みが美しい	3.8%	5.9%	3.0%	2.7%	1.3%	4.9%
伝統・習慣など歴史・文化がある	6.3%	8.2%	5.0%	5.5%	5.0%	4.9%
地名のイメージが良い	3.6%	4.6%	2.9%	3.2%	6.3%	0.0%
治安や風紀が良い	12.5%	16.1%	12.4%	9.7%	12.5%	3.3%
落ち着いた雰囲気がある	12.6%	16.2%	12.4%	9.7%	12.5%	4.9%
活気がある	1.5%	2.1%	1.2%	1.1%	2.5%	0.0%
通学、通勤に便利	11.3%	13.5%	11.8%	9.2%	8.8%	9.8%
買い物など日常生活が便利	27.7%	33.4%	28.6%	22.9%	13.8%	14.8%
働くところがある	6.4%	8.2%	5.3%	5.7%	6.3%	4.9%
家族・親戚がいる	18.3%	21.9%	17.1%	16.0%	20.0%	14.8%
友人が多くいる	9.5%	13.1%	8.3%	7.4%	8.8%	8.2%
自宅近隣との人間関係がある	6.9%	8.8%	6.8%	5.5%	6.3%	1.6%
地域のコミュニティ活動が盛んである	2.3%	3.0%	2.4%	1.5%	3.8%	3.3%
自分の家・土地がある	21.1%	25.0%	21.0%	18.1%	12.5%	11.5%
生まれたり育ったりした場所がある	11.3%	14.1%	8.3%	10.8%	12.5%	14.8%
その他(具体的に)	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
愛着(親しみ)をより感じるようになった点はない	23.3%	16.0%	19.3%	31.8%	21.3%	31.1%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≥ +10%	+10% > 値 ≥ +5%	-5% ≤ 値 < -10%	-10% ≤ 値
----------	----------------	----------------	----------

3-5. 居住地域での滞在時間の増減による比較



図：滞在時間の増減×愛着をより感じるようになった点

3-5-5. 滞在時間の増減×居住地域以外で愛着のある地域

コロナ禍により居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域以外で愛着のある地域として「特に愛着（親しみ）を感じている地域はない（26.2%）」と回答する割合が全回答者より低い。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域以外で愛着のある地域として「現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている（49.2%）」を選択する割合が全回答者より高い。また、「成人前に、住んでいた地域（19.7%）」や「住んだことはないが、観光で訪問した地域（8.2%）」「特に愛着（親しみ）を感じている地域はない（28.9%）」を選択する割合が全回答者より低い。

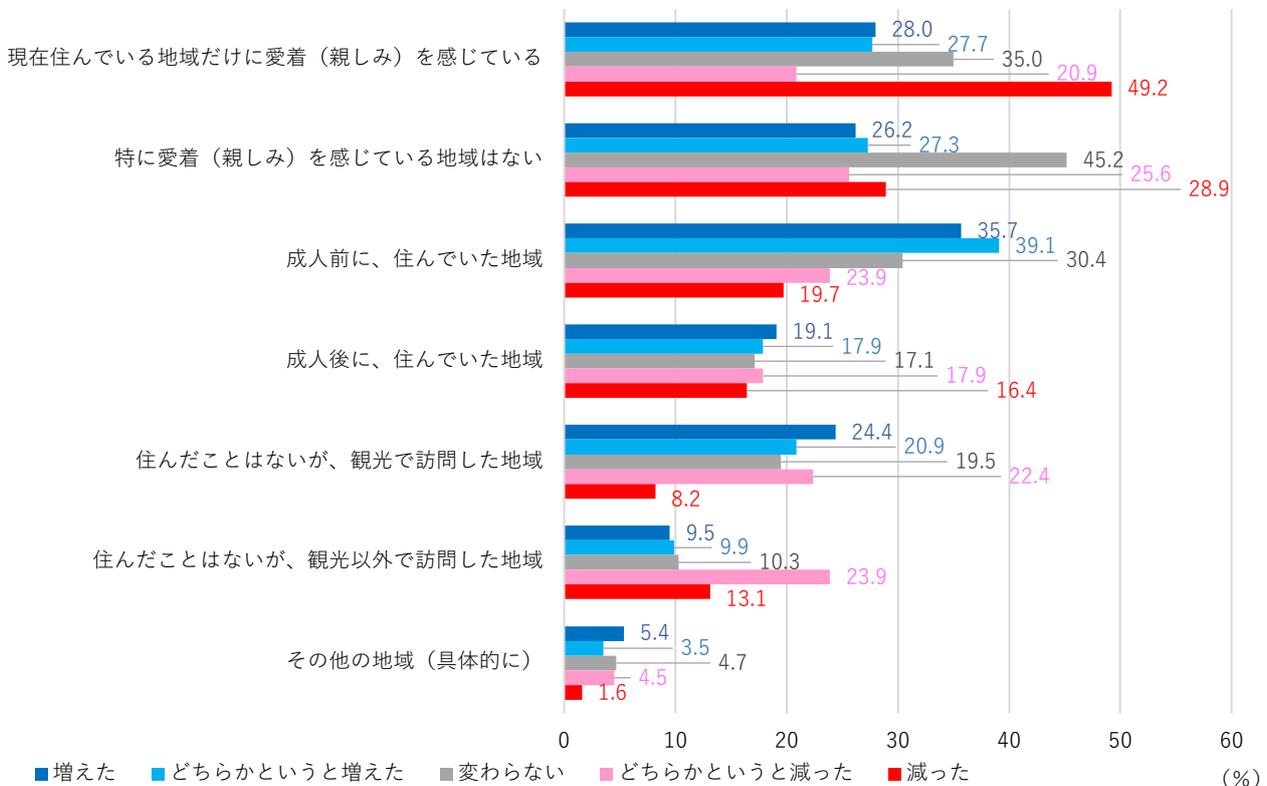
滞在時間が「どちらかという減った」と回答した人は「住んだことはないが、観光以外で訪問した地域」を選択する割合が高い。

表：滞在時間の増減×居住地域以外で愛着のある地域

	現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）
全回答者	30.8%	36.0%	34.3%	18.0%	21.4%	10.1%	4.6%
増えた	28.0%	26.2%	35.7%	19.1%	24.4%	9.5%	5.4%
どちらかという増えた	27.7%	27.3%	39.1%	17.9%	20.9%	9.9%	3.5%
変わらない	35.0%	45.2%	30.4%	17.1%	19.5%	10.3%	4.7%
どちらかという減った	20.9%	25.6%	23.9%	17.9%	22.4%	23.9%	4.5%
減った	49.2%	28.9%	19.7%	16.4%	8.2%	13.1%	1.6%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------



図：滞在時間の増減×居住地域以外で愛着のある地域

3-5-6. 滞在時間の増減×居住地域の文化遺産

コロナ禍により居住地域内での滞在時間が「減った」と回答した人は、居住地域で認識している文化遺産として多くの項目が全回答者より低く、「全くない (70.3%)」を選択する割合が全回答者より高い。

滞在時間の増減と、居住地域の各文化遺産を認識している割合は概ね比例している。

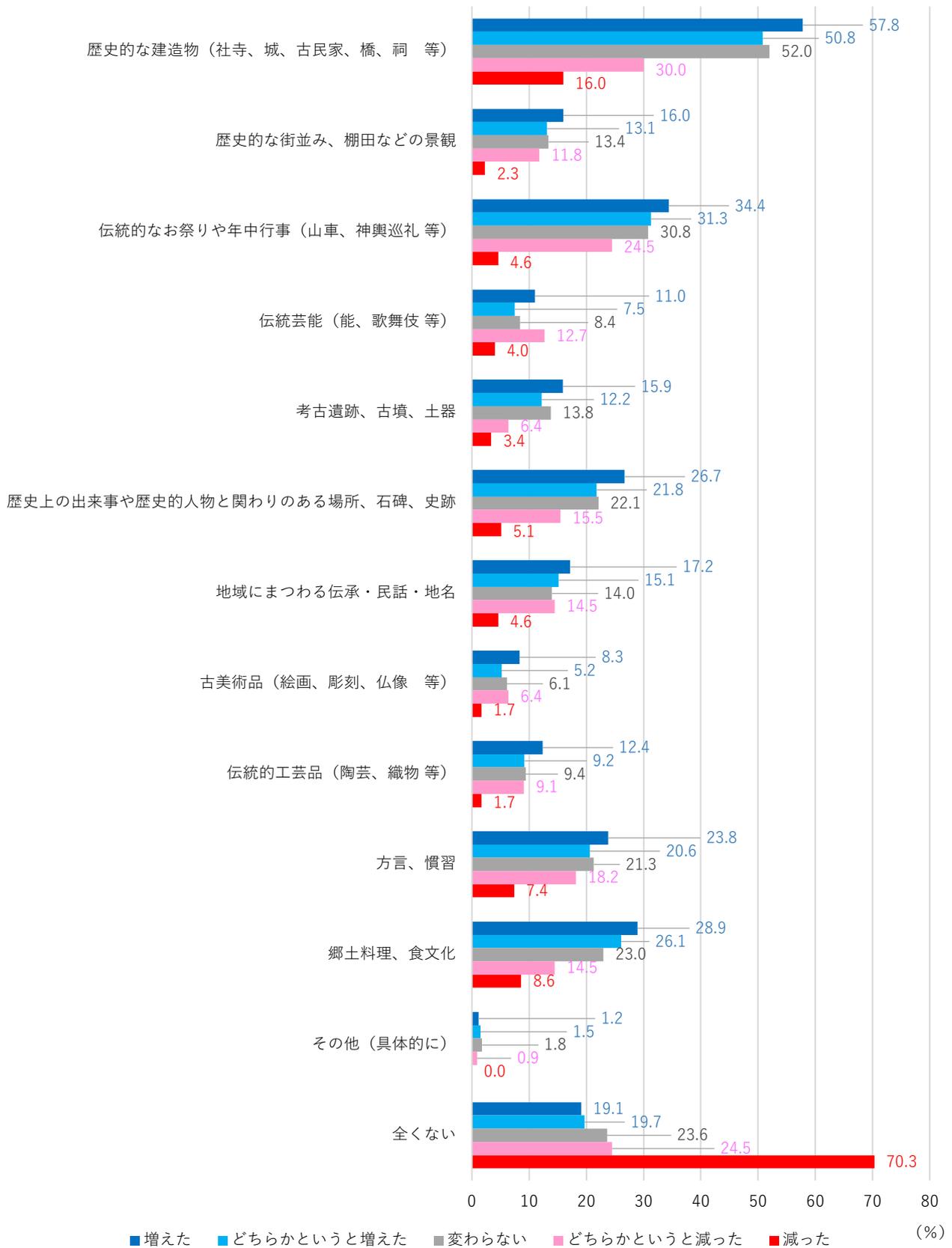
表：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産

	全回答者	増えた	どちらかという と増えた	変わらない	どちらかとい うと減った	減った
歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠 等）	52.6%	57.8%	50.8%	52.0%	30.0%	16.0%
歴史的な街並み、棚田などの景観	13.9%	16.0%	13.1%	13.4%	11.8%	2.3%
伝統的なお祭りや年中行事（山車、神輿巡礼 等）	31.5%	34.4%	31.3%	30.8%	24.5%	4.6%
伝統芸能（能、歌舞伎 等）	9.0%	11.0%	7.5%	8.4%	12.7%	4.0%
考古遺跡、古墳、土器	13.8%	15.9%	12.2%	13.8%	6.4%	3.4%
歴史上の出来事や歴史的人物と関わりのある場所、石碑、史跡	23.1%	26.7%	21.8%	22.1%	15.5%	5.1%
地域にまつわる伝承・民話・地名	15.1%	17.2%	15.1%	14.0%	14.5%	4.6%
古美術品（絵画、彫刻、仏像 等）	6.5%	8.3%	5.2%	6.1%	6.4%	1.7%
伝統的工芸品（陶芸、織物 等）	10.2%	12.4%	9.2%	9.4%	9.1%	1.7%
方言、慣習	21.6%	23.8%	20.6%	21.3%	18.2%	7.4%
郷土料理、食文化	25.2%	28.9%	26.1%	23.0%	14.5%	8.6%
その他（具体的に）	1.5%	1.2%	1.5%	1.8%	0.9%	0.0%
全くない	22.0%	19.1%	19.7%	23.6%	24.5%	70.3%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-5. 居住地域での滞在時間の増減による比較



図：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産

3-5-7. 滞在時間の増減×居住地域の文化遺産への愛着度

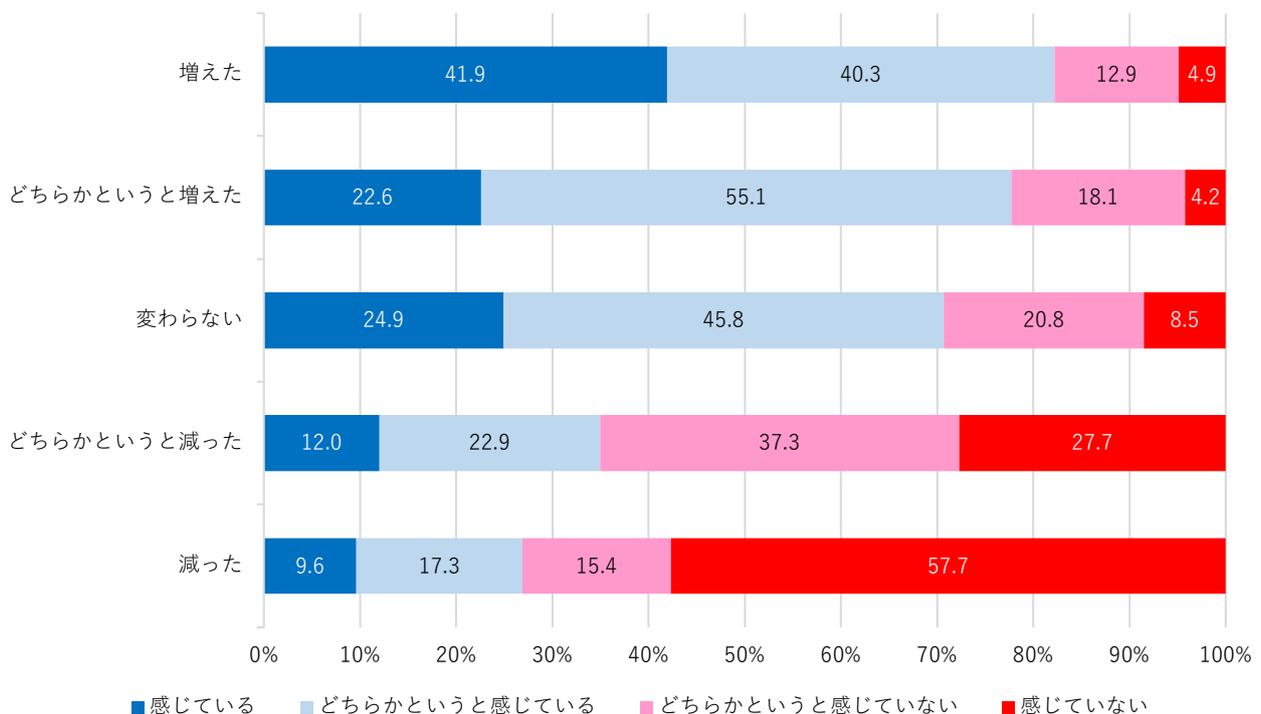
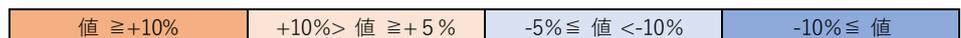
コロナ禍により居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域の文化遺産への愛着度を「感じている (41.9%)」「どちらかというと感じている (40.3%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて82.2%が度合いの強弱はあるものの愛着を感じている。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域の文化遺産への愛着度を「感じていない (57.7%)」を選択する割合が全回答者より顕著に高い。「どちらかというと感じていない (15.4%)」と合わせて、73.1%が度合いの強弱はあるものの愛着を感じていない。

調査結果は、居住地域内での滞在時間が増えた人ほど、居住地域の文化遺産への愛着を感じている傾向があることを示している。

表：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産への愛着度

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	29.7%	45.9%	17.7%	6.8%
増えた	41.9%	40.3%	12.9%	4.9%
どちらかというが増えた	22.6%	55.1%	18.1%	4.2%
変わらない	24.9%	45.8%	20.8%	8.5%
どちらかというが減った	12.0%	22.9%	37.3%	27.7%
減った	9.6%	17.3%	15.4%	57.7%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産への愛着度

3-5-8. 滞在時間の増減×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

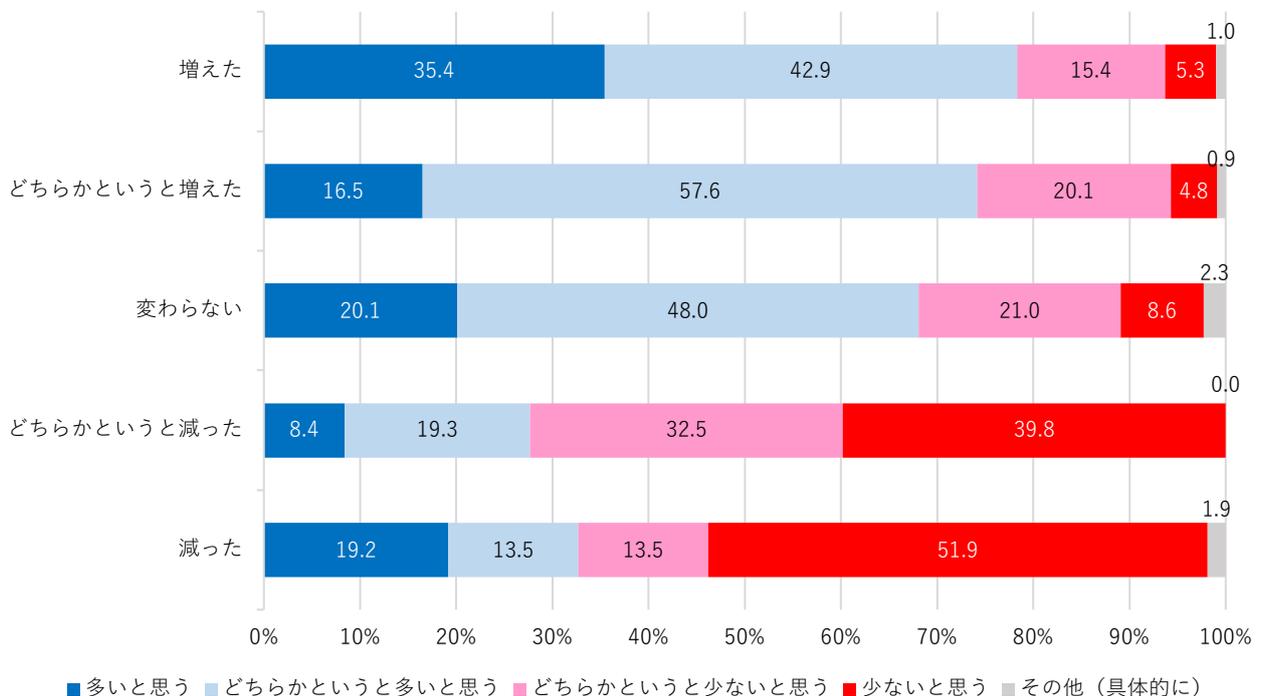
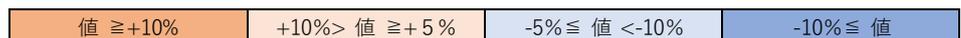
コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「多いと思う（35.4%）」や「どちらかというとも多いと思う（42.9%）」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて78.3%が度合いの強弱はあるものの愛着を感じている人が多いと考えている。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「少ないと思う（51.9%）」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというとも少ないと思う（13.5%）」と合わせて65.4%が度合いの強弱はあるものの愛着を感じている人が少ないと考えている。

つまり、滞在時間の増えた地域は文化遺産への愛着度が高い地域であるという調査結果となっている。

表：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

	多いと思う	どちらかというとも多いと思う	どちらかというとも少ないと思う	少ないと思う	その他（具体的に）
全回答者	24.1%	48.2%	19.0%	7.2%	1.5%
増えた	35.4%	42.9%	15.4%	5.3%	1.0%
どちらかというとも増えた	16.5%	57.6%	20.1%	4.8%	0.9%
変わらない	20.1%	48.0%	21.0%	8.6%	2.3%
どちらかというとも減った	8.4%	19.3%	32.5%	39.8%	0.0%
減った	19.2%	13.5%	13.5%	51.9%	1.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

3-5-9. 滞在時間の増減×文化遺産への関心度

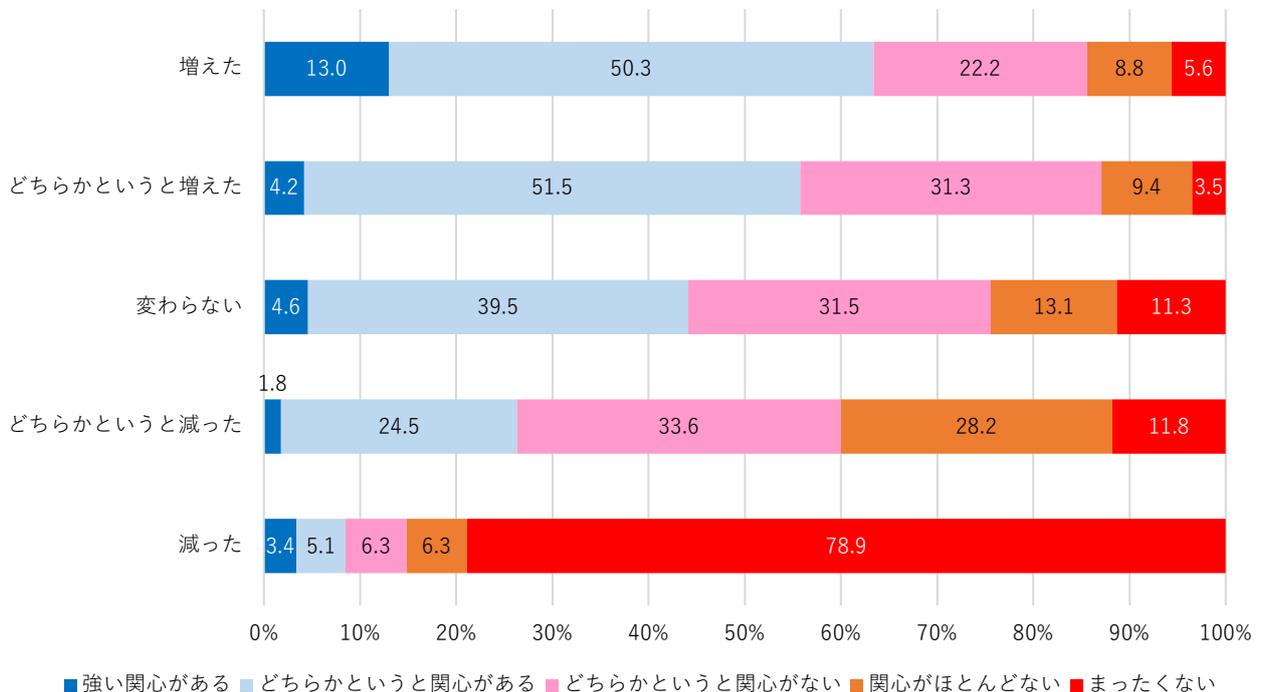
コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、文化遺産に「強い関心がある(13.0%)」や「どちらかというに関心がある(50.3%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて63.3%が度合いの強弱はあるものの文化遺産への関心がある。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は文化遺産への関心が「まったくない(78.9%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというに関心がない(6.3%)」と「関心がほとんどない(6.3%)」と合わせて91.5%が度合いの強弱はあるものの文化遺産への関心が弱いことを示している。

調査結果からは、滞在時間が増えた人ほど、文化遺産全般への関心が強いという傾向が読み取れる。

表：滞在時間の増減×文化遺産への関心度

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者	7.1%	45.1%	28.1%	10.9%	8.8%
増えた	13.0%	50.3%	22.2%	8.8%	5.6%
どちらかというが増えた	4.2%	51.5%	31.3%	9.4%	3.5%
変わらない	4.6%	39.5%	31.5%	13.1%	11.3%
どちらかというが減った	1.8%	24.5%	33.6%	28.2%	11.8%
減った	3.4%	5.1%	6.3%	6.3%	78.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×文化遺産への関心度

3-5-10. 滞在時間の増減×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

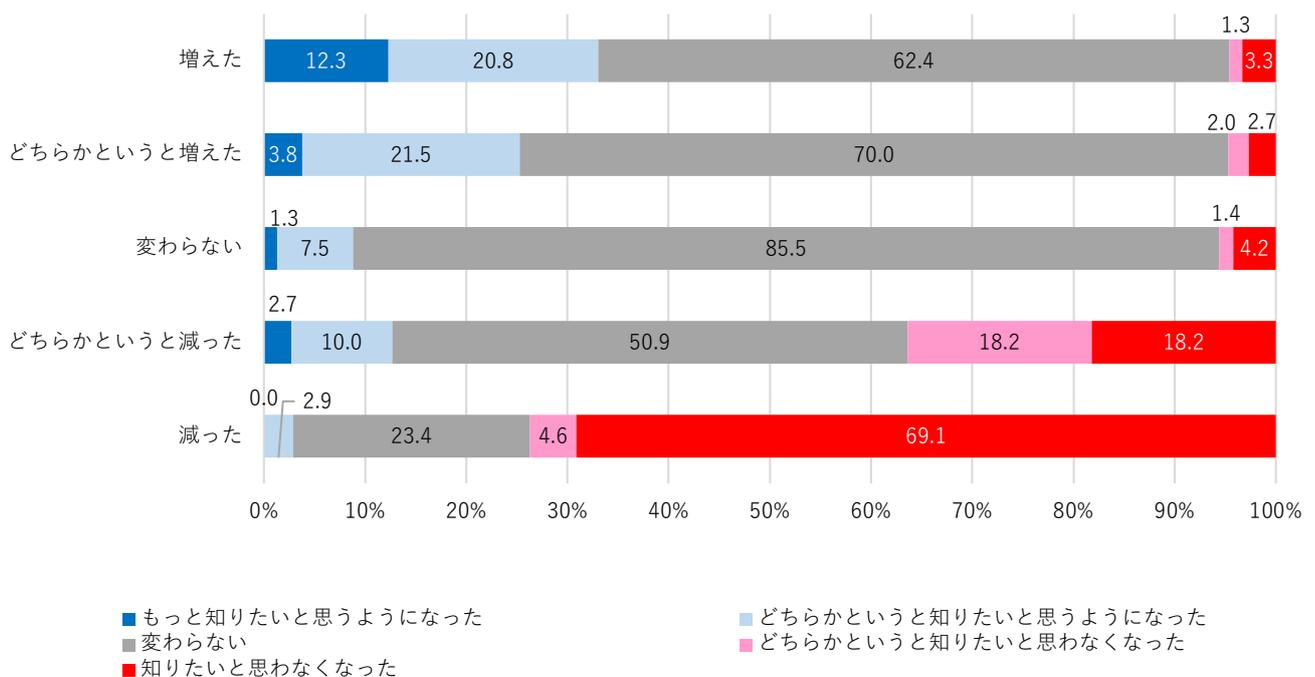
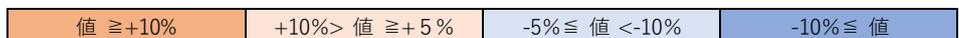
コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、コロナ禍を経て居住地域の文化遺産を「もっと知りたいと思うようになった(12.3%)」や「どちらかという知りたいと思うようになった(20.8%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて33.1%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産をもっと知りたいと思うようになった。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人はコロナ禍を経て居住地域の文化遺産を「知りたいと思わなくなった(69.1%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかという知りたいと思わなくなった(4.6%)」と合わせて73.7%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産をもっと知りたいと思わなくなった。

調査結果からは、滞在時間の増加と居住地域の文化遺産への関心度合いは相関する傾向が見られる。

表：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった
全回答者	5.4%	15.1%	72.8%	1.8%	4.9%
増えた	12.3%	20.8%	62.4%	1.3%	3.3%
どちらかという増えた	3.8%	21.5%	70.0%	2.0%	2.7%
変わらない	1.3%	7.5%	85.5%	1.4%	4.2%
どちらかという減った	2.7%	10.0%	50.9%	18.2%	18.2%
減った	0.0%	2.9%	23.4%	4.6%	69.1%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

3-5-11. 滞在時間の増減×居住地域の文化遺産を知る機会

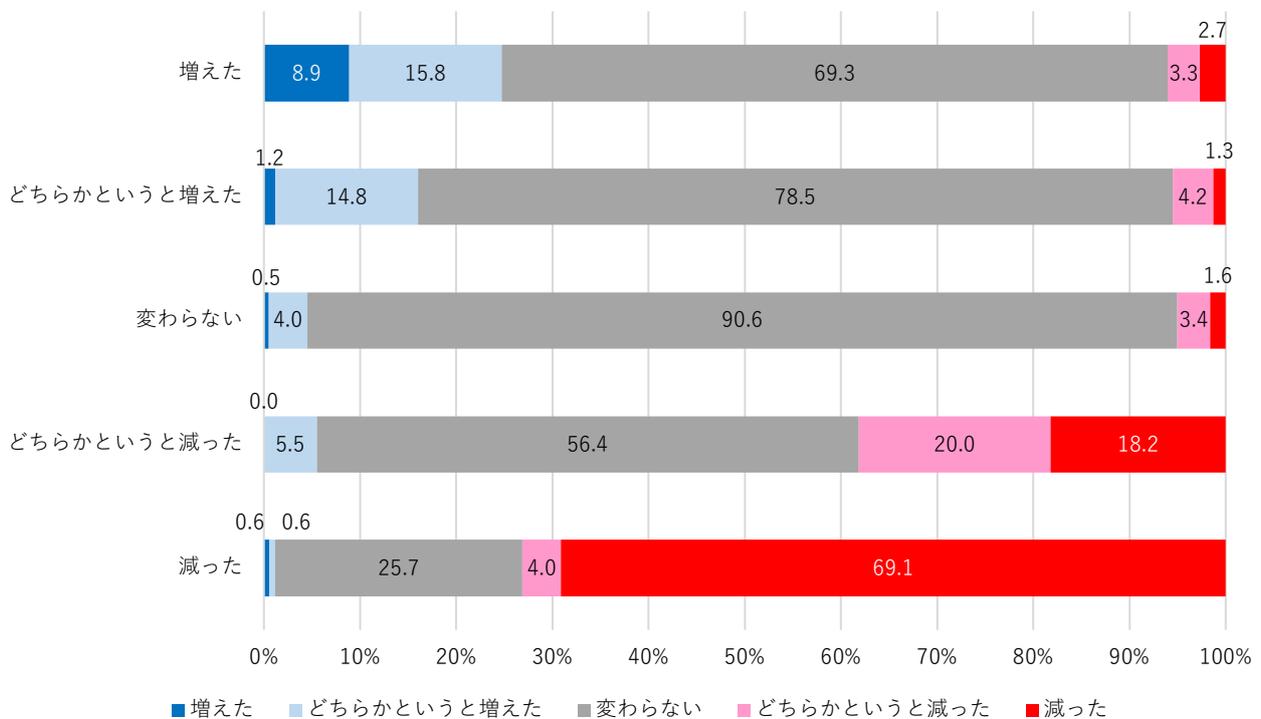
コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域の文化遺産を知る機会が「増えた(8.9%)」や「どちらかというが増えた(15.8%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて24.7%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産を知る機会が増えた。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域の文化遺産を知る機会が「減った(69.1%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというが減った(4.0%)」と合わせて73.1%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産を知る機会が減った。

居住地域での滞在時間の増減と居住地域の文化遺産を知る機会の増減は概ね相関しているが、滞在時間が減った回答者に対する居住地域での文化遺産を知る機会の減少は著しい結果が示されている。

表：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産を知る機会

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	3.3%	10.3%	79.3%	3.7%	3.3%
増えた	8.9%	15.8%	69.3%	3.3%	2.7%
どちらかというが増えた	1.2%	14.8%	78.5%	4.2%	1.3%
変わらない	0.5%	4.0%	90.6%	3.4%	1.6%
どちらかというが減った	0.0%	5.5%	56.4%	20.0%	18.2%
減った	0.6%	0.6%	25.7%	4.0%	69.1%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産を知る機会

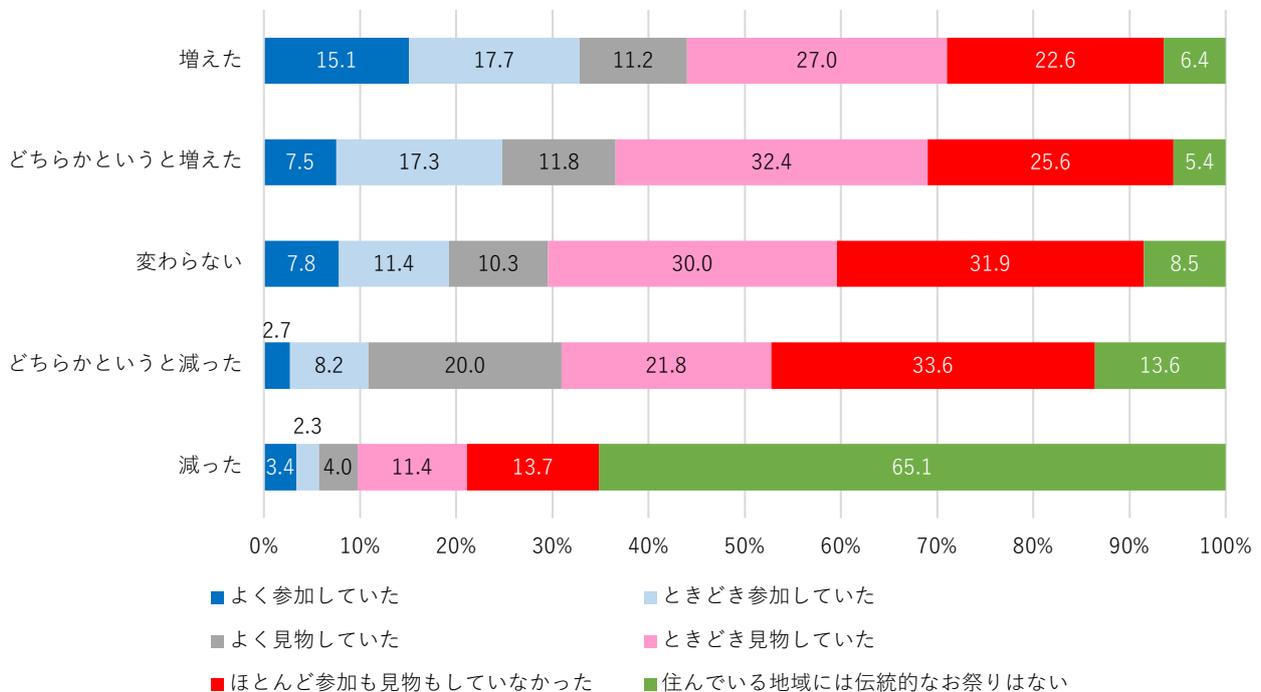
3-5-12. 滞在時間の増減×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「よく参加していた (15.1%)」と回答する割合が全回答者より高い。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人はコロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない (65.1%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高い。

表：滞在時間の増減×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	9.9%	14.6%	11.0%	29.2%	27.1%	8.2%
増えた	15.1%	17.7%	11.2%	27.0%	22.6%	6.4%
どちらかという増えた	7.5%	17.3%	11.8%	32.4%	25.6%	5.4%
変わらない	7.8%	11.4%	10.3%	30.0%	31.9%	8.5%
どちらかという減った	2.7%	8.2%	20.0%	21.8%	33.6%	13.6%
減った	3.4%	2.3%	4.0%	11.4%	13.7%	65.1%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

3-5-13. 滞在時間の増減×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

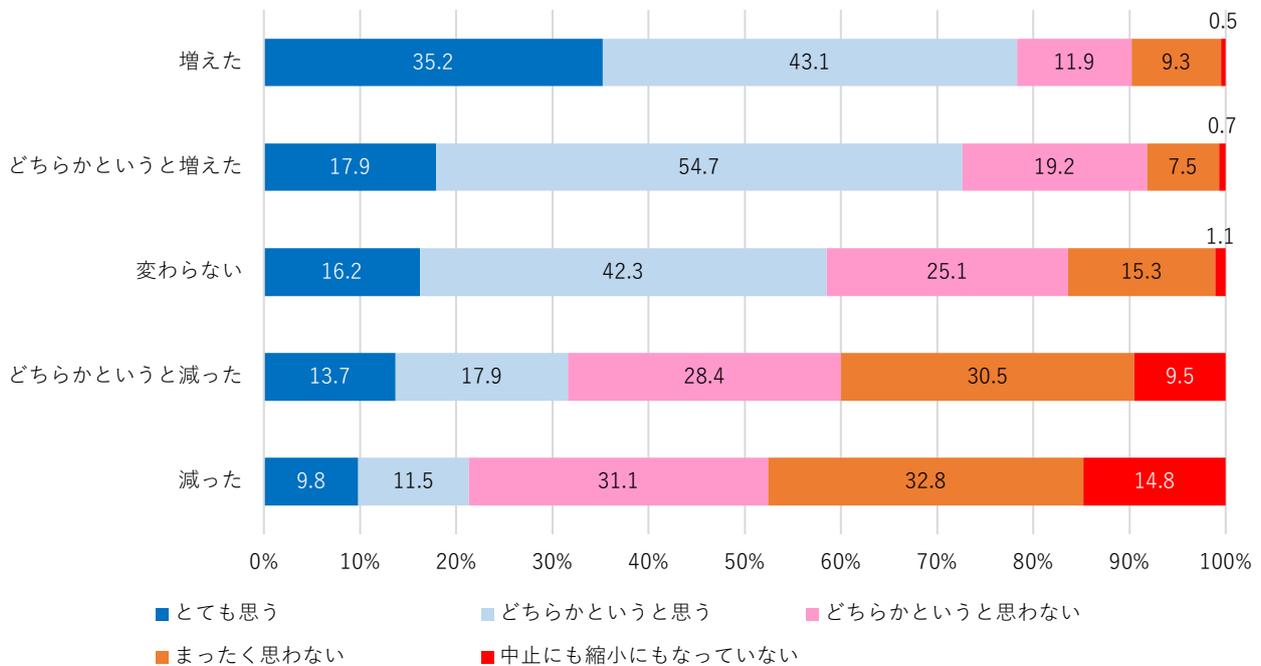
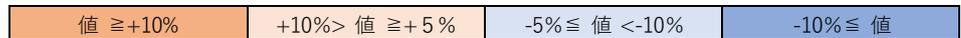
コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、居住地域の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「とても思う (35.2%)」と回答する割合が全回答者より高い。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人は居住地域の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「まったく思わない (32.8%)」、「どちらかというと思わない (31.1%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、合わせて63.9%が度合いの強弱はあるものの寂しさを感じていない。

居住地域内での滞在時間の増えたと答える回答者と居住地域の祭りの中止に対して寂しいと思う気持ちは、概ね相関関係が認められる。

表：滞在時間の増減×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

	とても思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	まったく思わない	中止にも縮小にもなっていない
全回答者	22.7%	45.2%	19.4%	11.7%	1.0%
増えた	35.2%	43.1%	11.9%	9.3%	0.5%
どちらかというが増えた	17.9%	54.7%	19.2%	7.5%	0.7%
変わらない	16.2%	42.3%	25.1%	15.3%	1.1%
どちらかというが減った	13.7%	17.9%	28.4%	30.5%	9.5%
減った	9.8%	11.5%	31.1%	32.8%	14.8%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×居住地域の祭りが中止・縮小し寂しいか

3-5-14. 滞在時間の増減×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

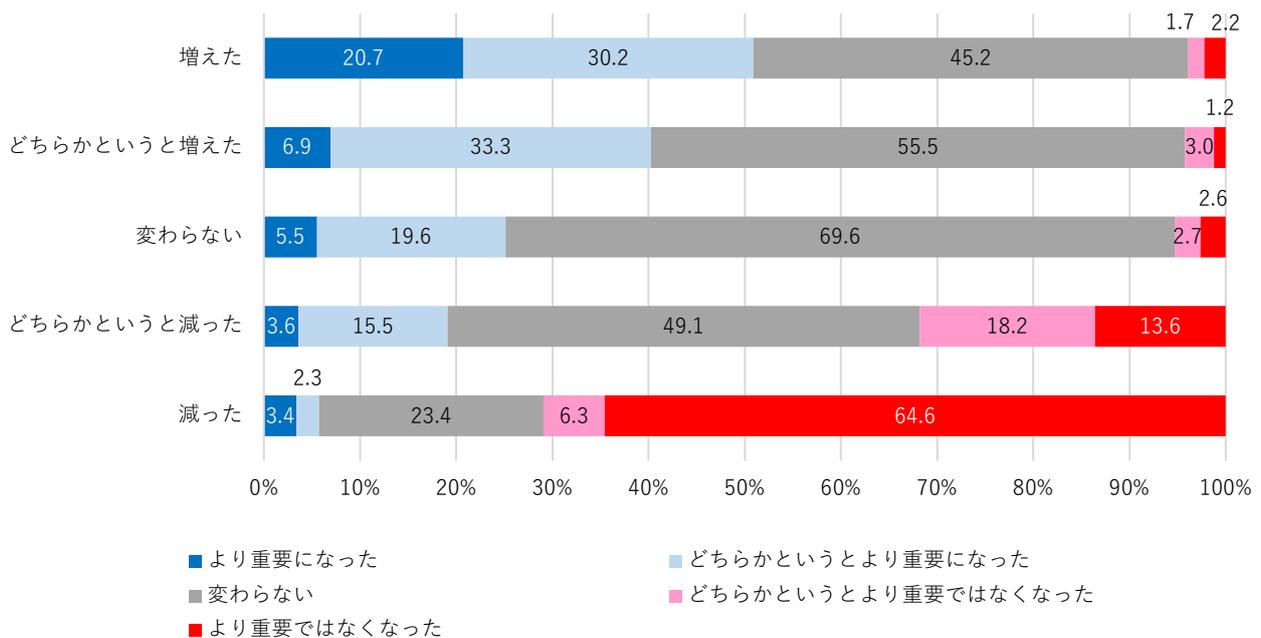
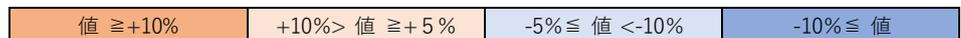
コロナ禍によって居住地域内での滞在時間が「増えた」と回答した人は、コロナ禍以前より居住地域の文化遺産が「より重要になった(20.7%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというより重要になった(30.2%)」と合わせて50.9%が度合いの強弱はあるものの以前より重要なものになったと感じている。一方で、滞在時間が「減った」と回答した人はコロナ禍以前より居住地域の文化遺産が「より重要ではなくなった(64.6%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというより重要ではなくなった(6.3%)」と合わせて70.9%が度合いの強弱はあるもののより重要ではなくなったと感じている。

居住地域内での滞在時間の増えたと答える回答者と居住地域の文化遺産は以前より重要になったと思う気持ちは、概ね相関関係が認められる。

表：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

	より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	10.6%	26.0%	57.3%	2.7%	3.4%
増えた	20.7%	30.2%	45.2%	1.7%	2.2%
どちらかという増えた	6.9%	33.3%	55.5%	3.0%	1.2%
変わらない	5.5%	19.6%	69.6%	2.7%	2.6%
どちらかという減った	3.6%	15.5%	49.1%	18.2%	13.6%
減った	3.4%	2.3%	23.4%	6.3%	64.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：滞在時間の増減×居住地域の文化遺産は以前より重要なものになったか

3-6. 文化遺産への関心度による比較

「強い関心がある」、「どちらかというに関心がある」、「どちらかというに関心がない」、「関心がほとんどない」、「まったくない」の5つの項目ごとの回答結果を比較する。

なお、各エリアの母数は以下の通りであり、項目により母数が少ないことに留意が必要である。

表：文化遺産への関心度の回答者数

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
回答者数(人)	751	4,638	2,933	1,159	957

3-6-1. 文化遺産への関心度×継続居住年数

文化遺産全般への関心度は、継続居住年数による違いは大きく見られない。文化遺産全般への関心が「全くない」と答えた回答者のうち継続居住年数が「20年以上～」の回答者は比較的を少ない割合となっている一方で「出生時から」を選んだ方は逆に少し多い割合となっている。

表：文化遺産への関心度×継続居住年数

	2年未満	2年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上～	出生時から
全回答者	7.8%	8.8%	9.3%	15.2%	33.3%	25.7%
強い関心がある	8.5%	6.9%	8.5%	14.6%	33.2%	28.2%
どちらかというに関心がある	6.4%	8.4%	8.9%	15.3%	35.9%	25.2%
どちらかというに関心がない	7.9%	8.9%	10.0%	15.1%	33.5%	24.6%
関心がほとんどない	9.7%	9.6%	10.1%	14.2%	31.5%	25.0%
まったくない	11.3%	10.6%	8.8%	16.3%	22.4%	30.7%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≥ +10%	+10% > 値 ≥ +5%	-5% ≤ 値 < -10%	-10% ≤ 値
----------	----------------	----------------	----------



図：文化遺産への関心度×継続居住年数

3-6-2. 文化遺産への関心度×愛着を感じる度合い

文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域への愛着を「感じている (77.6%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというと感じている (15.8%)」と合わせて 93.4%が度合いの強弱はあるものの居住地域への愛着を感じている。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域への愛着を「感じていない (28.9%)」、「どちらかというと感じていない (18.3%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて 47.2%が度合いの強弱はあるものの居住地域への愛着を感じていない。

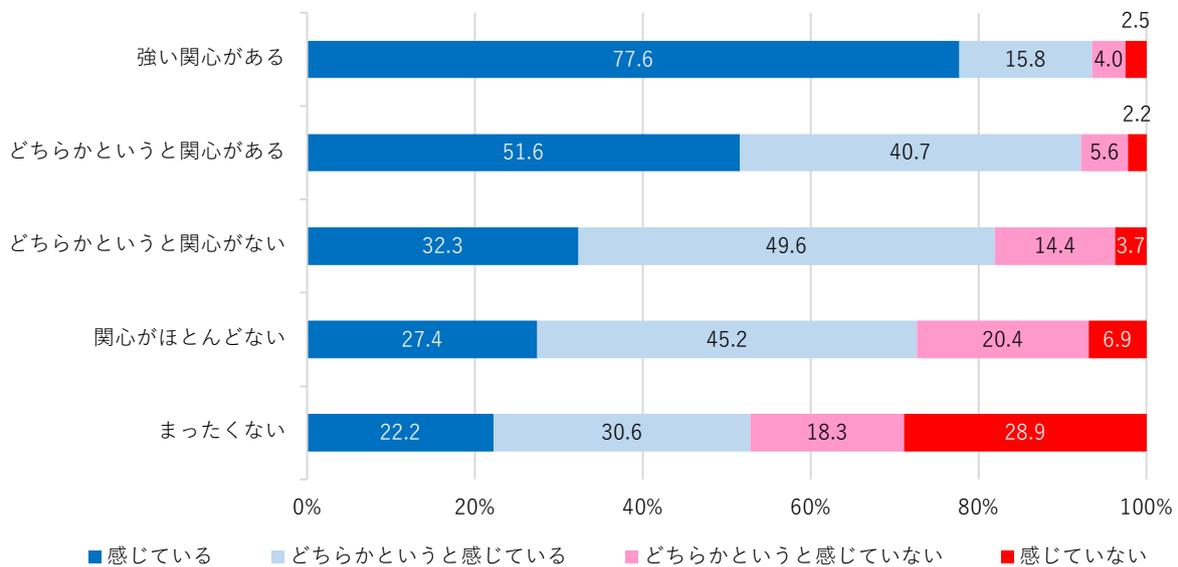
調査結果からは、文化遺産全般への関心度合いと地域への愛着度合いは、概ね相関していることが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×愛着を感じる度合い

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	42.6%	41.0%	10.8%	5.6%
強い関心がある	77.6%	15.8%	4.0%	2.5%
どちらかというに関心がある	51.6%	40.7%	5.6%	2.2%
どちらかというに関心がない	32.3%	49.6%	14.4%	3.7%
関心がほとんどない	27.4%	45.2%	20.4%	6.9%
まったくない	22.2%	30.6%	18.3%	28.9%

凡例：全回答者との比較色分け

値 $\geq +10\%$	$+10\% >$ 値 $\geq +5\%$	$-5\% \leq$ 値 $< -10\%$	$-10\% \leq$ 値
----------------	-------------------------	-------------------------	----------------



図：文化遺産への関心度×愛着を感じる度合い

3-6-3. 文化遺産への関心度×愛着を感じる点

文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地の愛着を感じる点として多くの要素を選択する割合が全回答者より高い。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地の愛着を感じる点として多くの要素を選択する割合が全回答者より低い。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高いと、居住地内のより多くの点について愛着を感じる傾向が読み取れる。

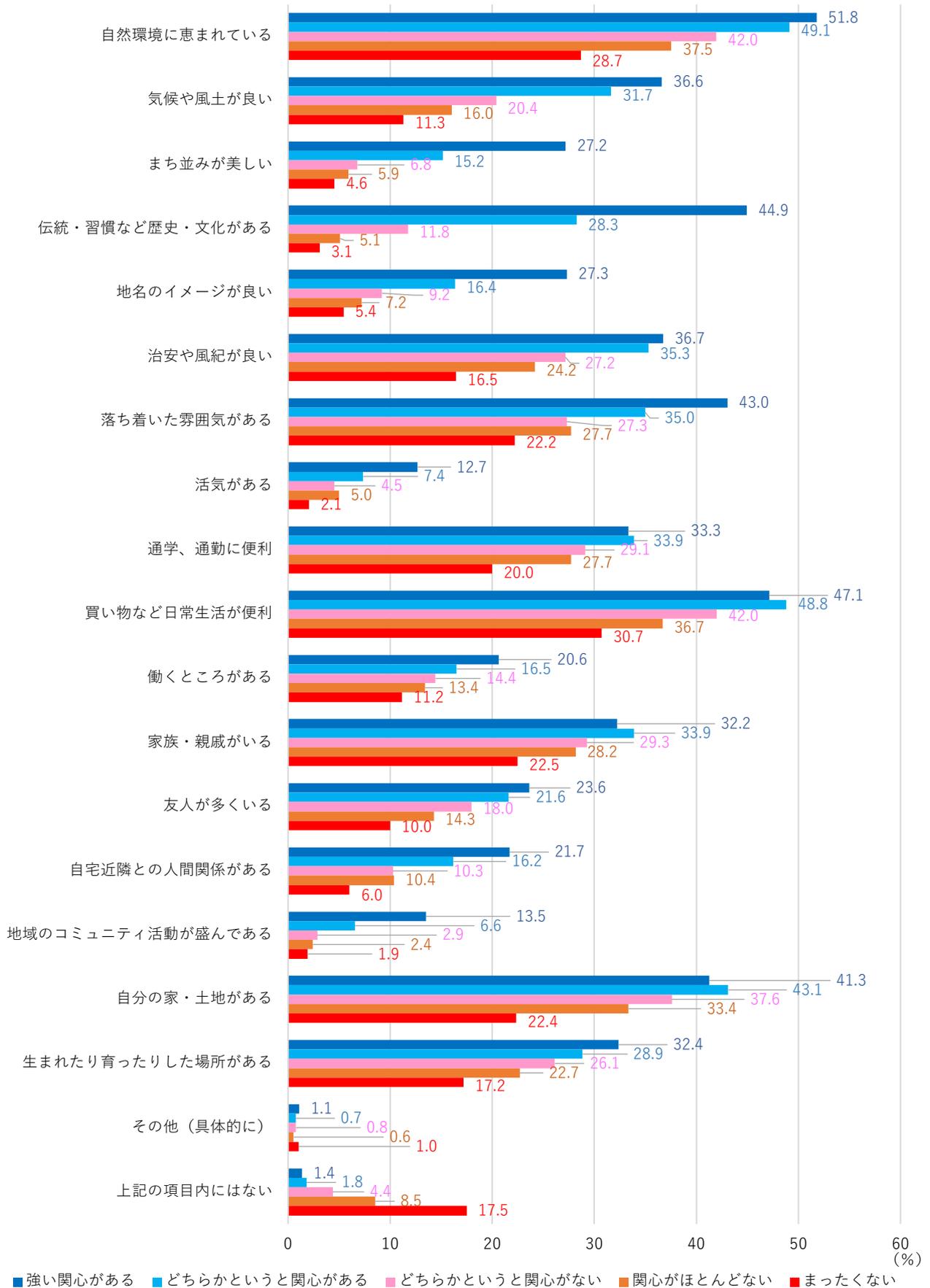
表：文化遺産への関心度×愛着を感じる度合い

	全回答者	強い関心がある	どちらかという と関心がある	どちらかという と関心がない	関心がほとんど ない	まったくない
自然環境に恵まれている	44.6%	51.8%	49.1%	42.0%	37.5%	28.7%
気候や風土が良い	25.7%	36.6%	31.7%	20.4%	16.0%	11.3%
まち並みが美しい	11.9%	27.2%	15.2%	6.8%	5.9%	4.6%
伝統・習慣など歴史・文化がある	20.5%	44.9%	28.3%	11.8%	5.1%	3.1%
地名のイメージが良い	13.4%	27.3%	16.4%	9.2%	7.2%	5.4%
治安や風紀が良い	30.6%	36.7%	35.3%	27.2%	24.2%	16.5%
落ち着いた雰囲気がある	31.7%	43.0%	35.0%	27.3%	27.7%	22.2%
活気がある	6.3%	12.7%	7.4%	4.5%	5.0%	2.1%
通学、通勤に便利	30.8%	33.3%	33.9%	29.1%	27.7%	20.0%
買い物など日常生活が便利	44.2%	47.1%	48.8%	42.0%	36.7%	30.7%
働くところがある	15.5%	20.6%	16.5%	14.4%	13.4%	11.2%
家族・親戚がいる	31.0%	32.2%	33.9%	29.3%	28.2%	22.5%
友人が多い	19.1%	23.6%	21.6%	18.0%	14.3%	10.0%
自宅近隣との人間関係がある	13.6%	21.7%	16.2%	10.3%	10.4%	6.0%
地域のコミュニティ活動が盛んである	5.2%	13.5%	6.6%	2.9%	2.4%	1.9%
自分の家・土地がある	38.9%	41.3%	43.1%	37.6%	33.4%	22.4%
生まれたり育ったりした場所がある	26.9%	32.4%	28.9%	26.1%	22.7%	17.2%
その他（具体的に）	0.8%	1.1%	0.7%	0.8%	0.6%	1.0%
上記の項目内にはない	4.3%	1.4%	1.8%	4.4%	8.5%	17.5%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧ +10%	+10% > 値 ≧ +5%	-5% ≦ 値 < -10%	-10% ≦ 値
----------	----------------	----------------	----------

3-6. 文化遺産への関心度による比較



図：文化遺産への関心度×愛着を感じる度合い

3-6-4. 文化遺産への関心度×愛着をより感じるようになった点

文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域の愛着を感じる点として多くの要素を選択する割合が全回答者より高い。さらに、「自然環境に恵まれている」、「伝統・習慣など歴史・文化がある」を全回答者に比べて特に高い。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域の愛着を感じる点として多くの要素を選択する割合が全回答者より低い。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人は、コロナ禍で地域への愛着がより増したことが読み取れる。

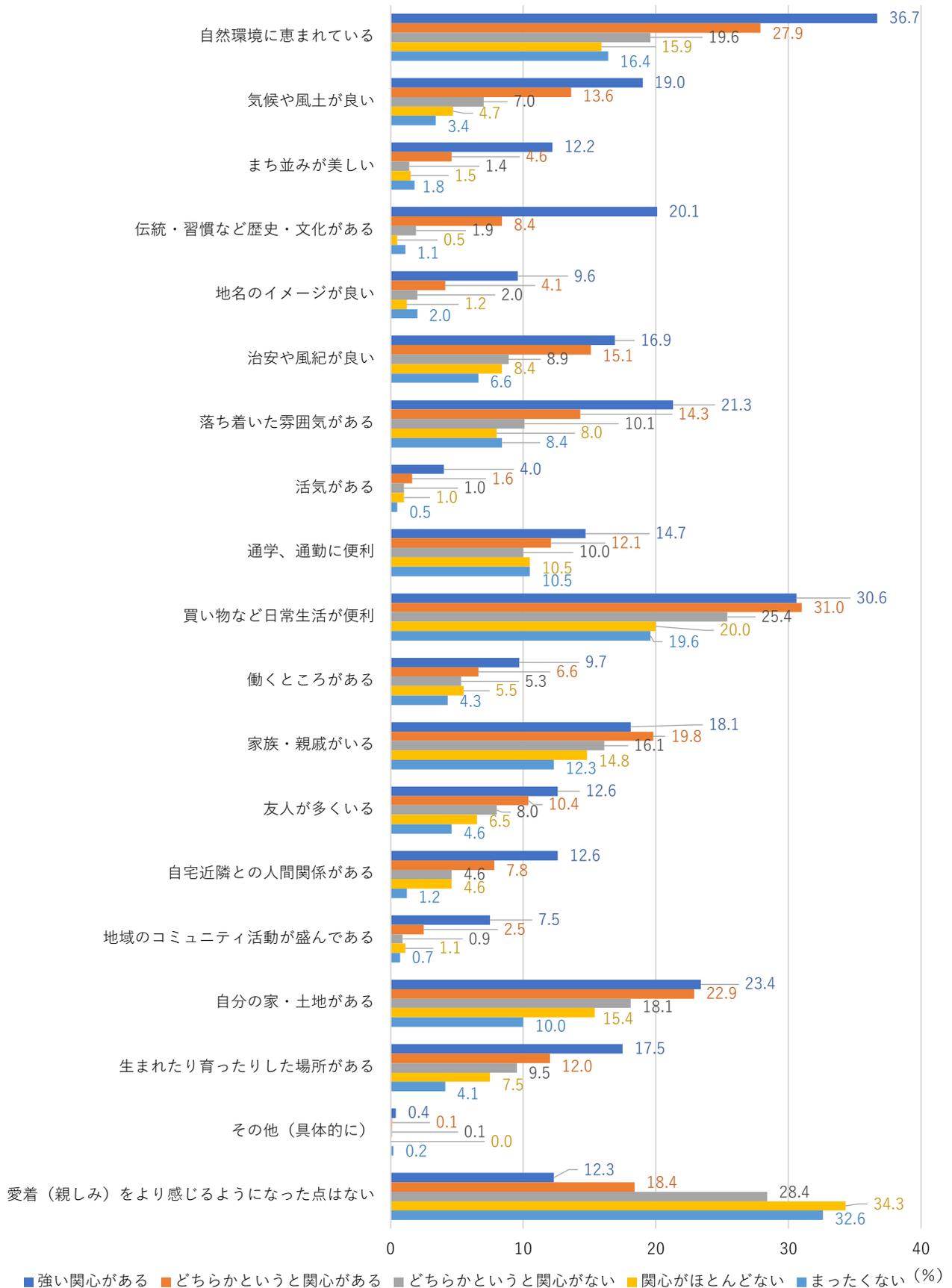
表：文化遺産への関心度×愛着をより感じるようになった点

	全回答者	強い関心がある	どちらかという と関心がある	どちらかという と関心がない	関心がほとんど ない	まったくない
自然環境に恵まれている	24.3%	36.7%	27.9%	19.6%	15.9%	16.4%
気候や風土が良い	10.6%	19.0%	13.6%	7.0%	4.7%	3.4%
まち並みが美しい	3.8%	12.2%	4.6%	1.4%	1.5%	1.8%
伝統・習慣など歴史・文化がある	6.2%	20.1%	8.4%	1.9%	0.5%	1.1%
地名のイメージが良い	3.5%	9.6%	4.1%	2.0%	1.2%	2.0%
治安や風紀が良い	12.3%	16.9%	15.1%	8.9%	8.4%	6.6%
落ち着いた雰囲気がある	12.6%	21.3%	14.3%	10.1%	8.0%	8.4%
活気がある	1.5%	4.0%	1.6%	1.0%	1.0%	0.5%
通学、通勤に便利	11.4%	14.7%	12.1%	10.0%	10.5%	10.5%
買い物など日常生活が便利	27.5%	30.6%	31.0%	25.4%	20.0%	19.6%
働くところがある	6.2%	9.7%	6.6%	5.3%	5.5%	4.3%
家族・親戚がいる	17.6%	18.1%	19.8%	16.1%	14.8%	12.3%
友人が多くいる	9.1%	12.6%	10.4%	8.0%	6.5%	4.6%
自宅近隣との人間関係がある	6.5%	12.6%	7.8%	4.6%	4.6%	1.2%
地域のコミュニティ活動が盛んである	2.2%	7.5%	2.5%	0.9%	1.1%	0.7%
自分の家・土地がある	20.0%	23.4%	22.9%	18.1%	15.4%	10.0%
生まれたり育ったりした場所がある	10.7%	17.5%	12.0%	9.5%	7.5%	4.1%
その他（具体的に）	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%
愛着（親しみ）をより感じるようになった点はない	23.3%	12.3%	18.4%	28.4%	34.3%	32.6%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-6. 文化遺産への関心度による比較



図：文化遺産への関心度×愛着をより感じるようになった点

3-6-5. 文化遺産への関心度×居住地域以外で愛着のある地域

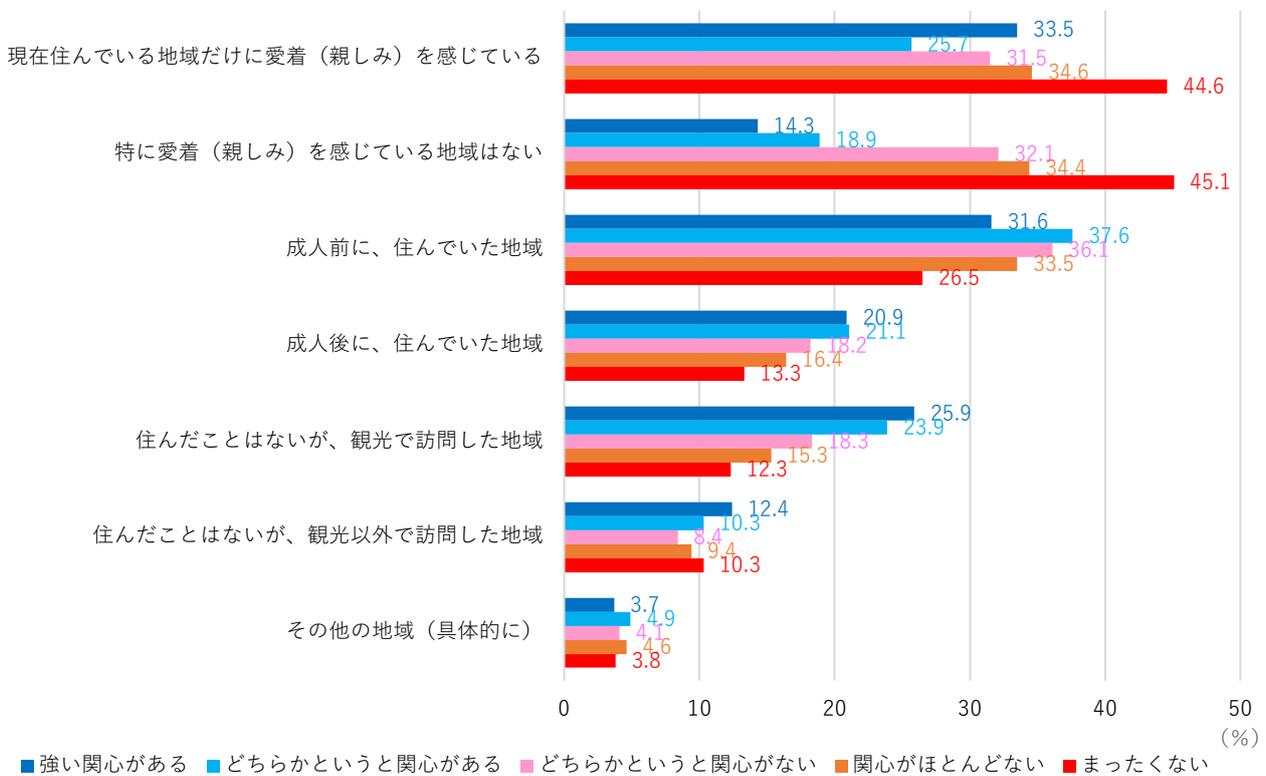
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域以外で愛着のある地域として「特に愛着（親しみ）を感じている地域はない（14.3%）」と回答する割合が全回答者より低い。一方で、文化遺産への関心が「まったくくない」と回答した人は居住地域以外で愛着のある地域として「現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている（44.6%）」、「特に愛着（親しみ）を感じている地域はない（45.1%）」と回答する割合が全回答者より高い。

表：文化遺産への関心度×居住地域以外で愛着のある地域

	現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）
全回答者	29.9%	32.7%	35.7%	19.4%	21.0%	9.8%	4.5%
強い関心がある	33.5%	14.3%	31.6%	20.9%	25.9%	12.4%	3.7%
どちらかという関心がある	25.7%	18.9%	37.6%	21.1%	23.9%	10.3%	4.9%
どちらかという関心がない	31.5%	32.1%	36.1%	18.2%	18.3%	8.4%	4.1%
関心がほとんどない	34.6%	34.4%	33.5%	16.4%	15.3%	9.4%	4.6%
まったくくない	44.6%	45.1%	26.5%	13.3%	12.3%	10.3%	3.8%

凡例：全回答者との比較色分け

値 ≧+10%	+10% > 値 ≧+5%	-5% ≦ 値 <-10%	-10% ≦ 値
---------	---------------	---------------	----------



図：文化遺産への関心度×居住地域以外で愛着のある地域

3-6-6. 文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産

文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、全回答者の割合よりも多くの居住地域の文化遺産を認識している。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域で認識している文化遺産として多くの種類の文化遺産がないと認識している割合が全回答者より低い。

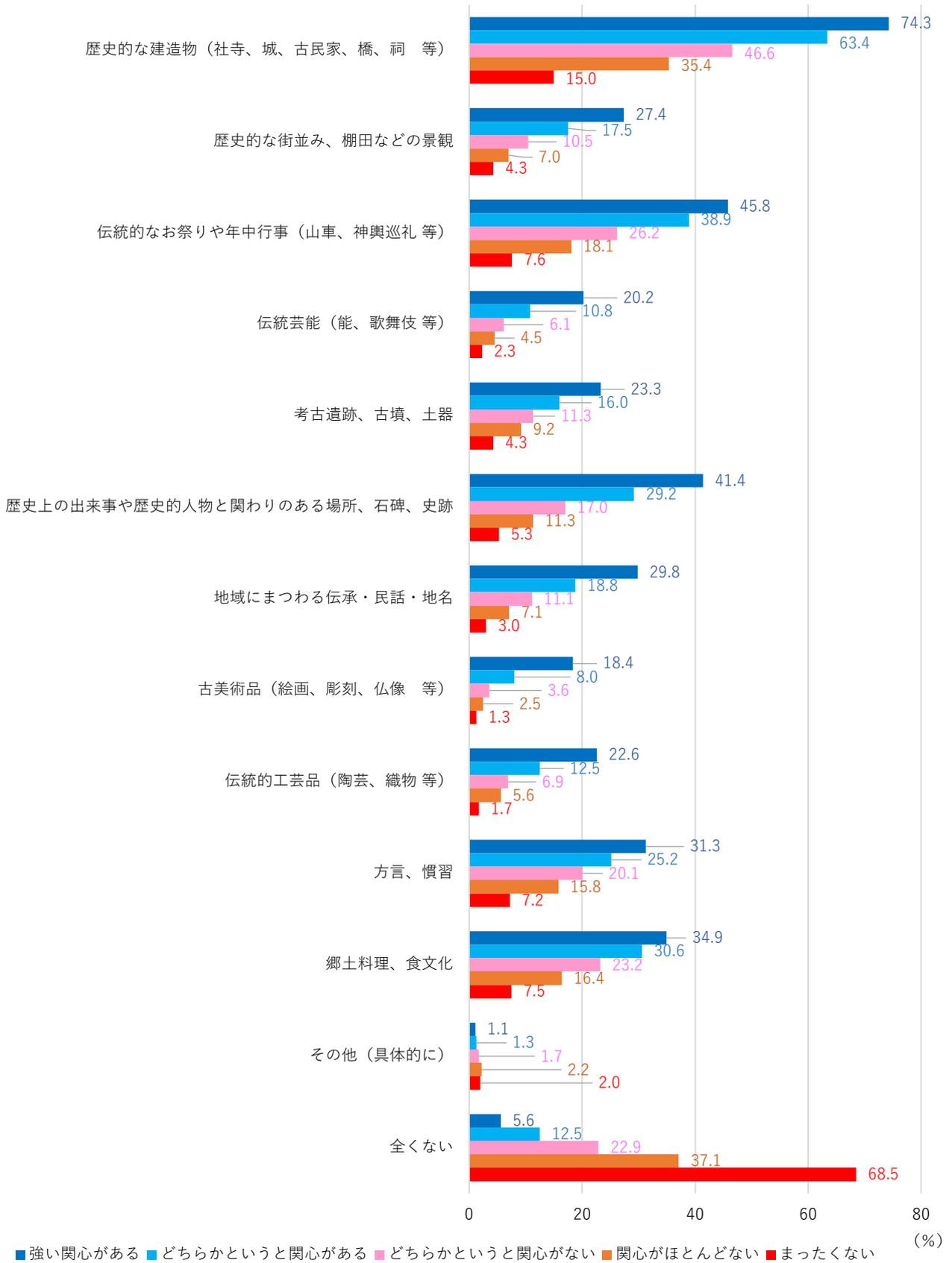
表：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産

	全回答者	強い関心がある	どちらかという と関心がある	どちらかという と関心がない	関心がほとんど ない	まったくない
歴史的な建造物（社寺、城、古民家、橋、祠 等）	51.9%	74.3%	63.4%	46.6%	35.4%	15.0%
歴史的な街並み、棚田などの 景観	13.9%	27.4%	17.5%	10.5%	7.0%	4.3%
伝統的なお祭りや年中行事 （山車、神輿巡礼 等）	30.6%	45.8%	38.9%	26.2%	18.1%	7.6%
伝統芸能（能、歌舞伎 等）	8.7%	20.2%	10.8%	6.1%	4.5%	2.3%
考古遺跡、古墳、土器	13.4%	23.3%	16.0%	11.3%	9.2%	4.3%
歴史上の出来事や歴史的人物と 関わりのある場所、石碑、史跡	22.5%	41.4%	29.2%	17.0%	11.3%	5.3%
地域にまつわる伝承・民話・地名	14.7%	29.8%	18.8%	11.1%	7.1%	3.0%
古美術品（絵画、彫刻、仏像 等）	6.3%	18.4%	8.0%	3.6%	2.5%	1.3%
伝統的工芸品（陶芸、織物 等）	9.9%	22.6%	12.5%	6.9%	5.6%	1.7%
方言、慣習	21.5%	31.3%	25.2%	20.1%	15.8%	7.2%
郷土料理、食文化	25.1%	34.9%	30.6%	23.2%	16.4%	7.5%
その他（具体的に）	1.6%	1.1%	1.3%	1.7%	2.2%	2.0%
全くない	22.8%	5.6%	12.5%	22.9%	37.1%	68.5%

凡例：全回答者との比較色分け

値 \geq +10%	+10% > 値 \geq +5%	-5% \leq 値 < -10%	-10% \leq 値
---------------	---------------------	---------------------	---------------

3-6. 文化遺産への関心度による比較



図：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産

3-6-7. 文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産への愛着度

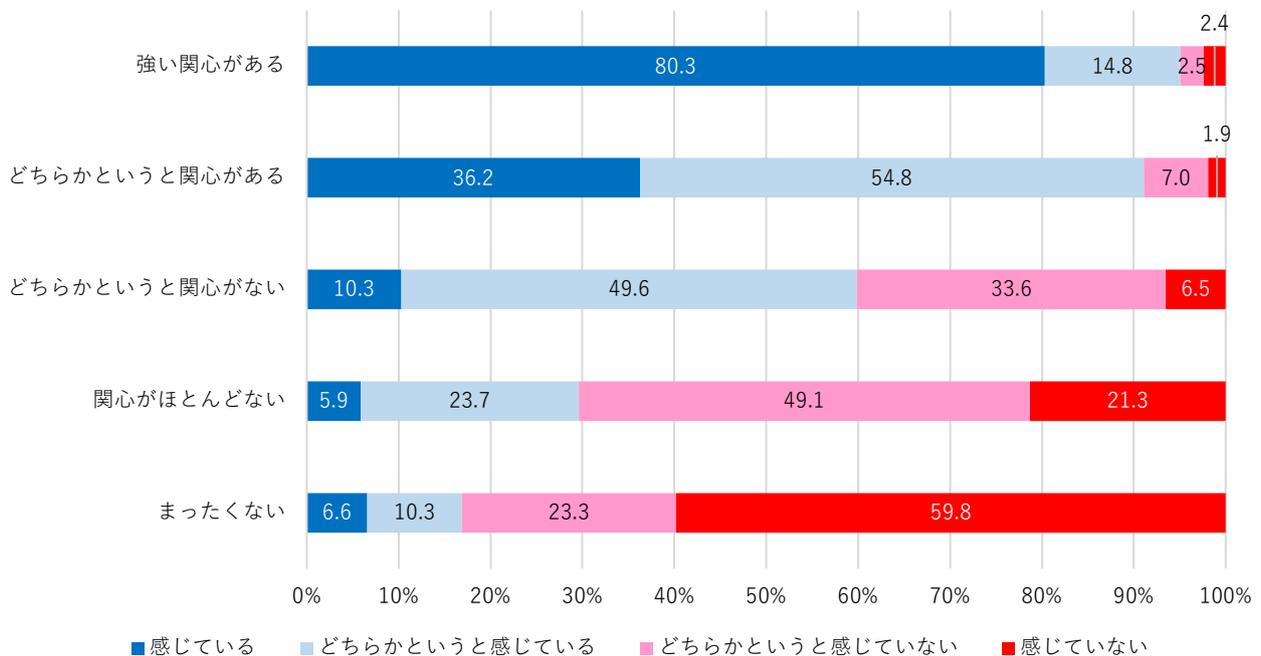
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域の文化遺産への愛着を「感じている (80.3%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというと感じている (14.8%)」と合わせて 95.1%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産に愛着を感じている。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域の文化遺産への愛着を「感じていない (59.8%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというと感じていない (23.3%)」と合わせて 83.1%が回答する割合が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産に愛着を感じていない。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人は、居住地域の文化遺産へも強い愛着を持っていることが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産への愛着度

	感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない
全回答者	29.0%	45.4%	18.5%	7.2%
強い関心がある	80.3%	14.8%	2.5%	2.4%
どちらかというに関心がある	36.2%	54.8%	7.0%	1.9%
どちらかというに関心がない	10.3%	49.6%	33.6%	6.5%
関心がほとんどない	5.9%	23.7%	49.1%	21.3%
まったくない	6.6%	10.3%	23.3%	59.8%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産への愛着度

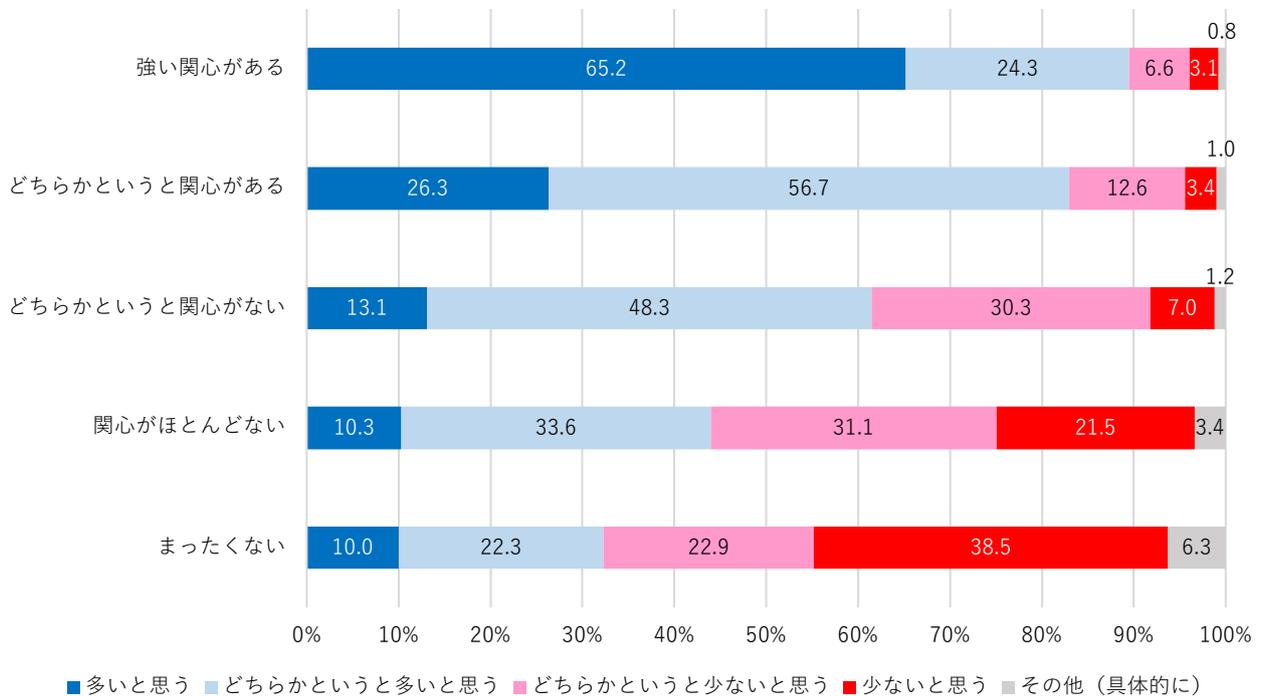
3-6-8. 文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「多いと思う(65.2%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというとも多いと思う(24.3%)」と合わせて 89.5%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産に愛着を感じている人が多いと考えている。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域の文化遺産に対して地域の方も愛着を感じている人が「少ないと思う(38.5%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというとも少ないと思う(22.9%)」と合わせて 61.4%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産に愛着を感じている人が少ないと考えている。

表：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

	多いと思う	どちらかというとも多いと思う	どちらかというとも少ないと思う	少ないと思う	その他（具体的に）
全回答者	23.9%	48.1%	19.1%	7.3%	1.5%
強い関心がある	65.2%	24.3%	6.6%	3.1%	0.8%
どちらかというとも関心がある	26.3%	56.7%	12.6%	3.4%	1.0%
どちらかというとも関心がない	13.1%	48.3%	30.3%	7.0%	1.2%
関心がほとんどない	10.3%	33.6%	31.1%	21.5%	3.4%
まったくない	10.0%	22.3%	22.9%	38.5%	6.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産への愛着度（集団）

3-6-9. 文化遺産への関心度×居住地域での滞在時間

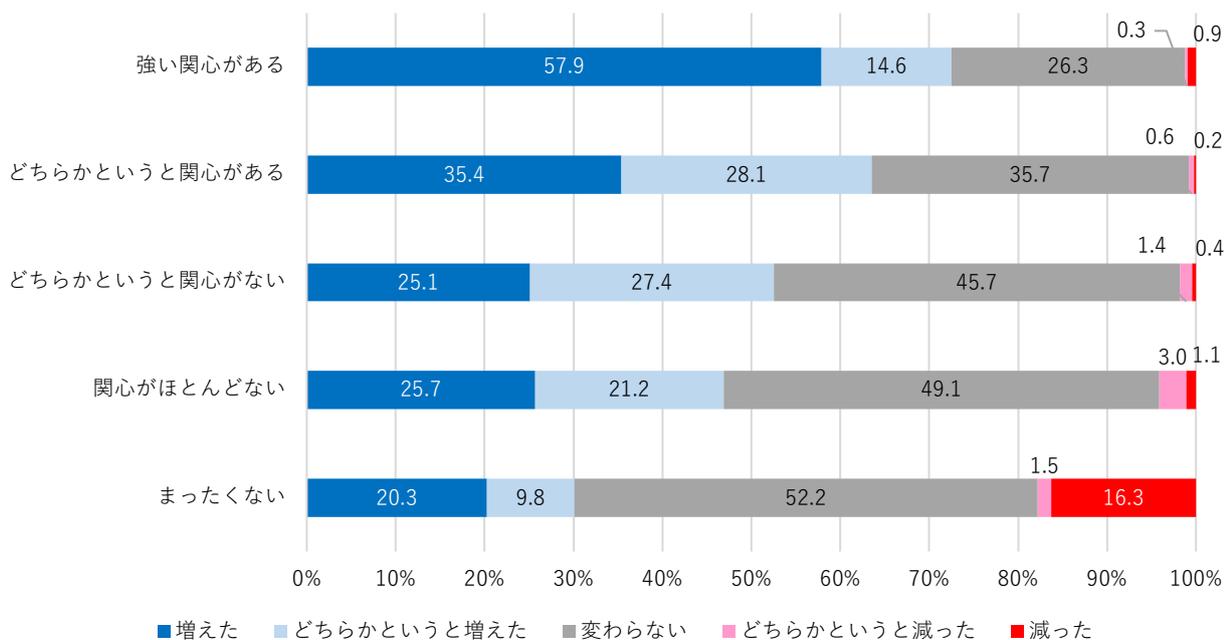
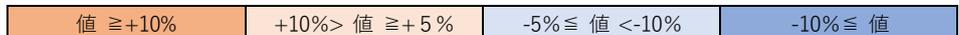
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域での滞在時間が「増えた (57.9%)」と回答する割合が全回答者より顕著に高く、「どちらかというが増えた (14.6%)」と合わせて72.5%が度合いの強弱はあるものの居住地域の滞在時間が増えたと考えている。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域での滞在時間が「変わらない (52.2%)」と回答する割合が全回答者より高い。また、「減った (38.5%)」と回答する割合も全回答者より高く、「どちらかというが減った (1.5%)」と合わせて17.8%が度合いの強弱はあるものの居住地域の滞在時間が減ったと考えている。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人は、コロナ禍によって居住地域での滞在時間も増えたことが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×居住地域での滞在時間

	増えた	どちらかというが増えた	変わらない	どちらかというが減った	減った
全回答者	31.7%	24.6%	40.7%	1.1%	1.8%
強い関心がある	57.9%	14.6%	26.3%	0.3%	0.9%
どちらかというに関心がある	35.4%	28.1%	35.7%	0.6%	0.2%
どちらかというに関心がない	25.1%	27.4%	45.7%	1.4%	0.4%
関心がほとんどない	25.7%	21.2%	49.1%	3.0%	1.1%
まったくない	20.3%	9.8%	52.2%	1.5%	16.3%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地域での滞在時間

3-6-10. 文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

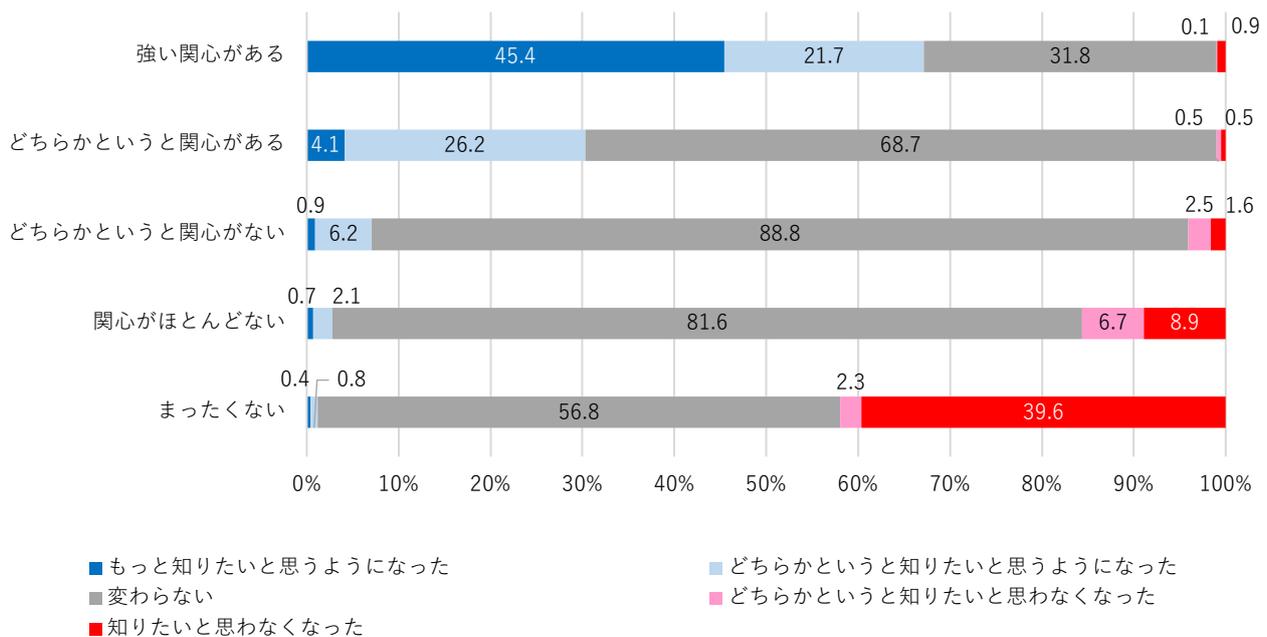
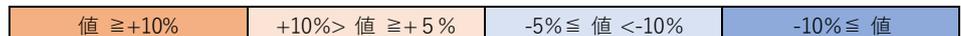
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、コロナ禍を経て居住地域の文化遺産を「もっと知りたいと思うようになった(45.4%)」、「どちらかという知りたいと思うようになった(21.7%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて67.1%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産をもっと知りたいと思うようになった。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人はコロナ禍を経て居住地域の文化遺産を「知りたいと思わなくなった(39.6%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかという知りたいと思わなくなった(2.3%)」と合わせて41.9%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産を知りたいと思わなくなった。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人ほど、コロナ禍で居住地域の文化遺産への関心が高まり、一方で文化遺産全般への関心が低いほど居住地域の文化遺産への関心がない、なくなったことが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

	もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった
全回答者	5.4%	15.3%	72.0%	1.9%	5.4%
強い関心がある	45.4%	21.7%	31.8%	0.1%	0.9%
どちらかという関心がある	4.1%	26.2%	68.7%	0.5%	0.5%
どちらかという関心がない	0.9%	6.2%	88.8%	2.5%	1.6%
関心がほとんどない	0.7%	2.1%	81.6%	6.7%	8.9%
まったくない	0.4%	0.8%	56.8%	2.3%	39.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産をもっと知りたくなったか

3-6-11. 文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産を知る機会

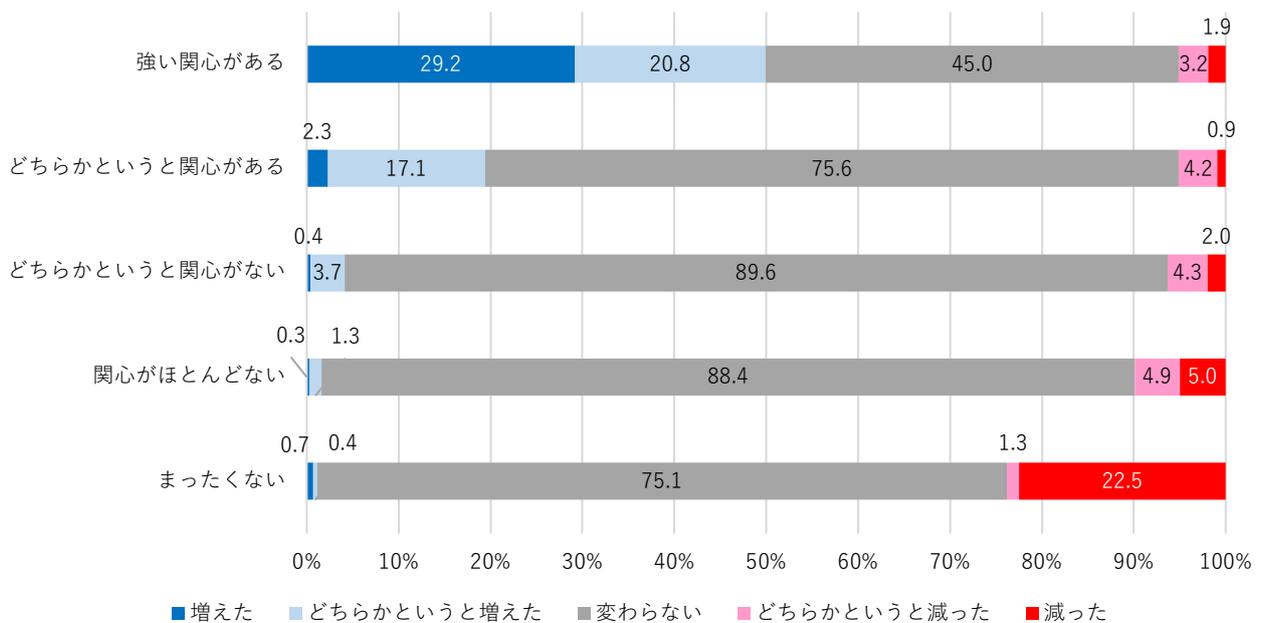
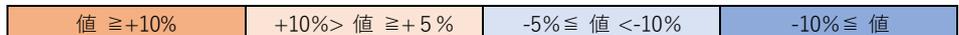
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地域の文化遺産を知る機会が「増えた (29.2%)」、「どちらかという増えた (20.8%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて 50.0%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産を知る機会が増えたと回答している。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地域の文化遺産を知る機会が「減った (22.5%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかという減った (1.3%)」と合わせて 23.8%が度合いの強弱はあるものの居住地域の文化遺産を知る機会が減ったと回答している。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人ほど、居住地域の文化遺産を知る機会が増えたことが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産を知る機会

	増えた	どちらかという増えた	変わらない	どちらかという減った	減った
全回答者	3.3%	10.3%	78.7%	4.0%	3.7%
強い関心がある	29.2%	20.8%	45.0%	3.2%	1.9%
どちらかという関心がある	2.3%	17.1%	75.6%	4.2%	0.9%
どちらかという関心がない	0.4%	3.7%	89.6%	4.3%	2.0%
関心がほとんどない	0.3%	1.3%	88.4%	4.9%	5.0%
まったくない	0.7%	0.4%	75.1%	1.3%	22.5%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地域の文化遺産を知る機会

3-6-12. 文化遺産への関心度×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

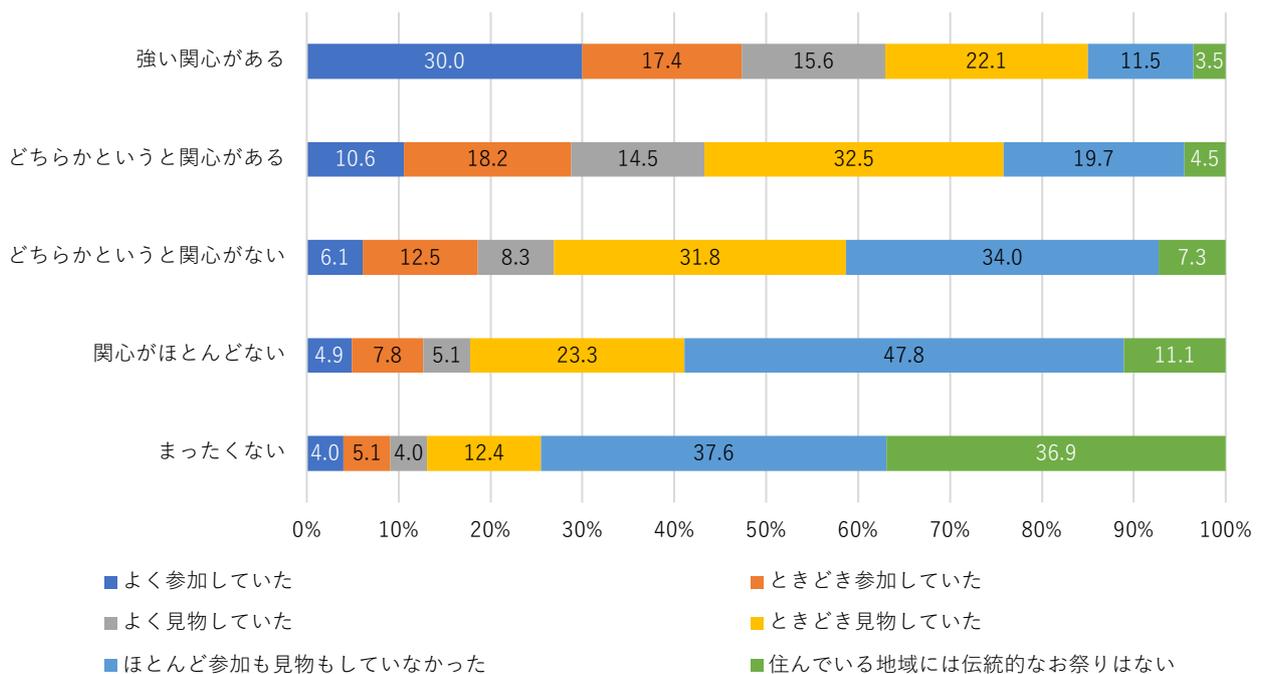
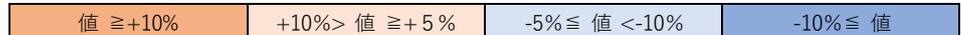
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「よく参加していた (30.0%)」と回答する割合が全回答者より高い。また、「ほとんど参加も見物もしていなかった (11.5%)」、「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない (3.5%)」と回答する割合が全回答者より低い。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人はコロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物の機会について「ほとんど参加も見物もしていなかった (37.6%)」、「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない (36.9%)」と回答する割合が全回答者より高い。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人ほど、地域の祭りへの参加率が高いことが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	9.5%	14.2%	10.8%	28.7%	27.9%	8.9%
強い関心がある	30.0%	17.4%	15.6%	22.1%	11.5%	3.5%
どちらかというに関心がある	10.6%	18.2%	14.5%	32.5%	19.7%	4.5%
どちらかというに関心がない	6.1%	12.5%	8.3%	31.8%	34.0%	7.3%
関心がほとんどない	4.9%	7.8%	5.1%	23.3%	47.8%	11.1%
まったくない	4.0%	5.1%	4.0%	12.4%	37.6%	36.9%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×コロナ禍以前、地域の祭りへの参加・見物

3-6-13. 文化遺産への関心度×居住地の祭りが中止・縮小し寂しいか

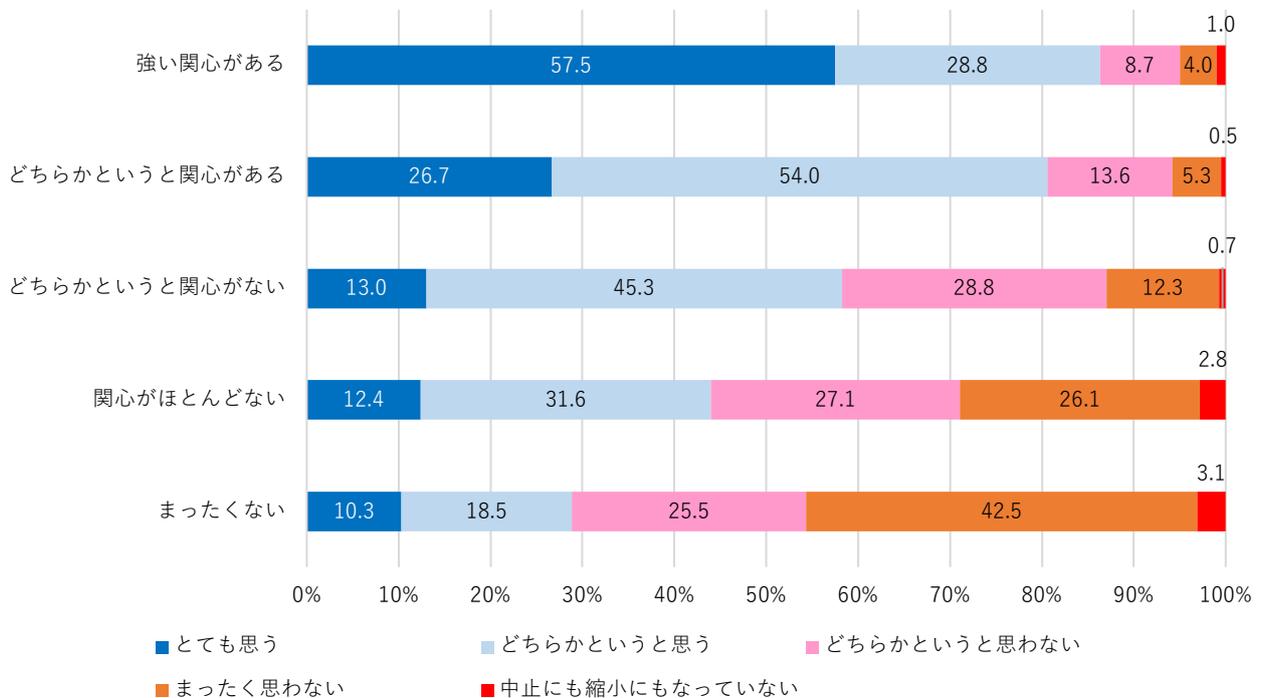
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、居住地の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「とても思う (57.5%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというと思う (28.8%)」と合わせて86.3%が、度合いの強弱はあるものの寂しいと思うと回答している。一方で、文化遺産への関心が「まったくない」と回答した人は居住地の祭りが中止・縮小したことに寂しさを感じるかについて「まったく思わない(42.5%)」、「どちらかというと思わない(25.5%)」と回答する割合が全回答者より高く、合わせて68.0%が度合いの強弱はあるものの寂しいと思わないと回答している。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人ほど、居住地の祭りが中止・縮小したことを寂しいと思う傾向があることが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×居住地の祭りが中止・縮小し寂しいか

	とても思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	まったく思わない	中止にも縮小にもなっていない
全回答者	22.5%	44.9%	19.8%	11.8%	1.0%
強い関心がある	57.5%	28.8%	8.7%	4.0%	1.0%
どちらかというに関心がある	26.7%	54.0%	13.6%	5.3%	0.5%
どちらかというに関心がない	13.0%	45.3%	28.8%	12.3%	0.7%
関心がほとんどない	12.4%	31.6%	27.1%	26.1%	2.8%
まったくない	10.3%	18.5%	25.5%	42.5%	3.1%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地の祭りが中止・縮小し寂しいか

3-6-14. 文化遺産への関心度×居住地の文化遺産は以前より重要なものになったか

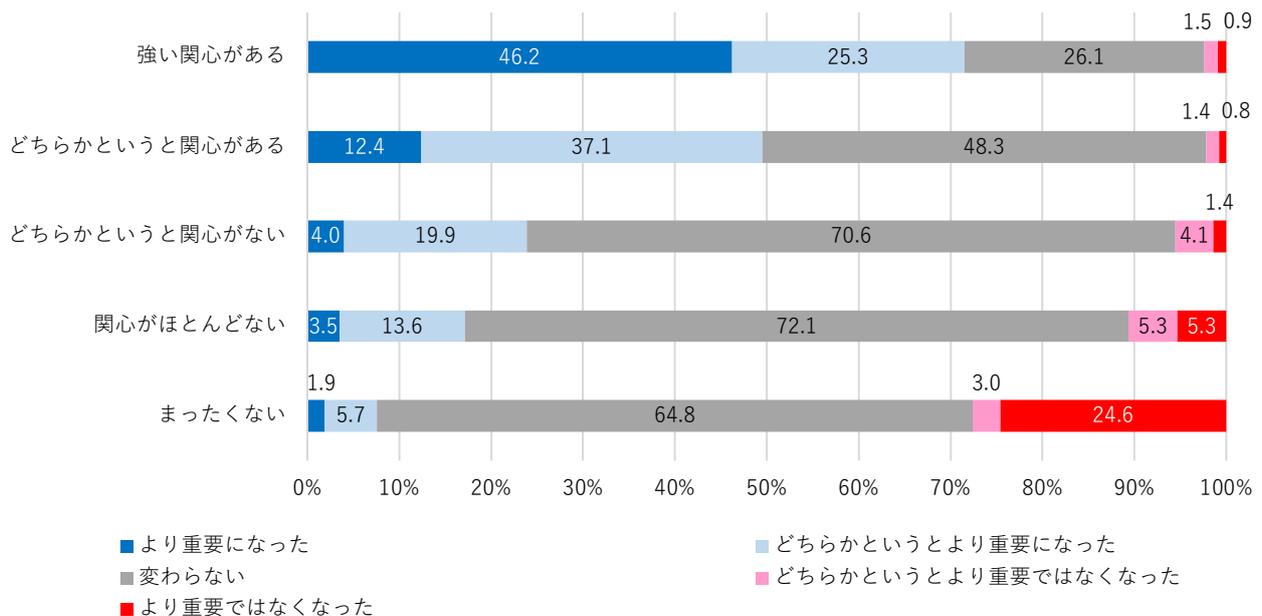
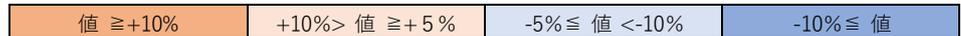
文化遺産に「強い関心がある」と回答した人は、コロナ禍以前より居住地の文化遺産が「より重要になった(46.2%)」と回答する割合が全回答者より高く、「どちらかというより重要になった(25.3%)」と合わせて71.5%が度合いの強弱はあるものより重要になったと回答している。一方で、文化遺産への関心が「まったくくない」と回答した人はコロナ禍以前より居住地の文化遺産が「変わらない(64.8%)」と回答する割合が全回答者より高い。また、「より重要ではなくなった(24.6%)」と回答する割合も全回答者より高く、「どちらかというより重要ではなくなった(3.0%)」と合わせて27.6%が度合いの強弱はあるものより重要ではなくなったと回答している。

調査結果からは、文化遺産全般への関心度が高い人ほど、コロナ禍によって居住地の文化遺産がより重要になったと認識していることが読み取れる。

表：文化遺産への関心度×居住地の文化遺産は以前より重要なものになったか

	より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	10.5%	25.9%	57.1%	2.7%	3.7%
強い関心がある	46.2%	25.3%	26.1%	1.5%	0.9%
どちらかという関心がある	12.4%	37.1%	48.3%	1.4%	0.8%
どちらかという関心がない	4.0%	19.9%	70.6%	4.1%	1.4%
関心がほとんどない	3.5%	13.6%	72.1%	5.3%	5.3%
まったくくない	1.9%	5.7%	64.8%	3.0%	24.6%

凡例：全回答者との比較色分け



図：文化遺産への関心度×居住地の文化遺産は以前より重要なものになったか



4. 三重分析、テーマ別分析

4. 三重分析、テーマ別分析

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析

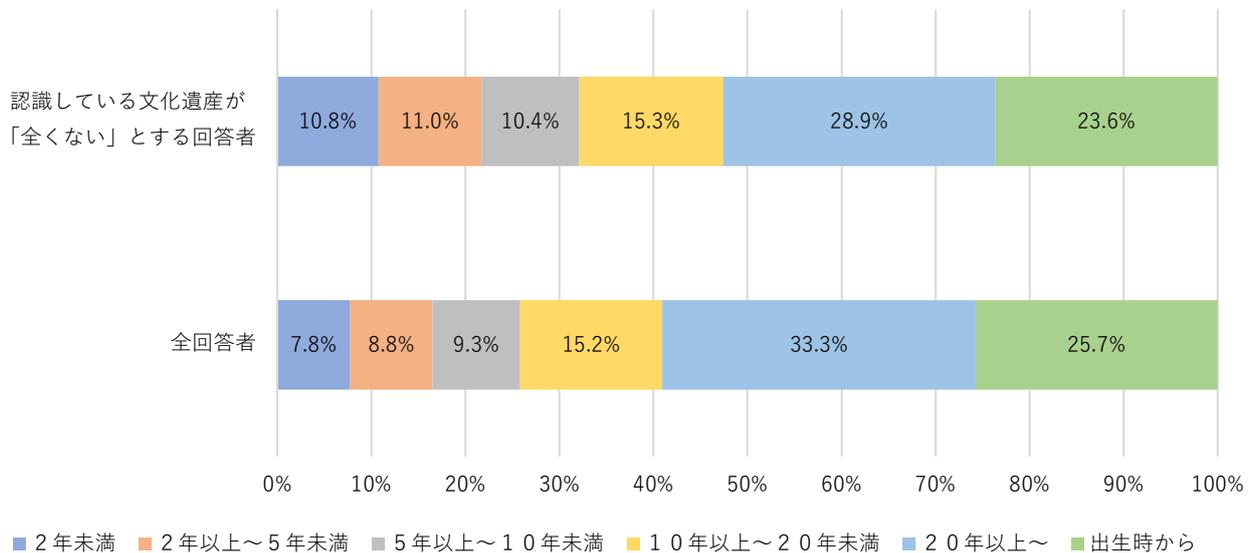
4-1-1. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×居住年数

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、継続居住年数が短い人よりも長い人の方が小さくなっていく。5年未満では全回答者は16.6%である一方、「全くない」とする回答者は21.8%であり、20年以上では全回答者は59.0%である一方、「全くない」とする回答者は52.5%となっている。

Q1 現在、お住まいの市区町村に継続して何年住んでいますか？（回答は1つ）

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×居住年数

		2年未満	2年以上 ～5年未満	5年以上 ～10年未満	10年以上 ～20年未満	20年以上～	出生時から	全回答者
全回答者	回答者数 (人)	811	914	969	1,582	3,476	2,686	10,438
	割合 (%)	7.8	8.8	9.3	15.2	33.3	25.7	100.0
認識している 文化遺産が 「全くない」 とする回答者	回答者数 (人)	256	261	247	364	688	562	2,378
	割合 (%)	10.8	11.0	10.4	15.3	28.9	23.6	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×居住年数

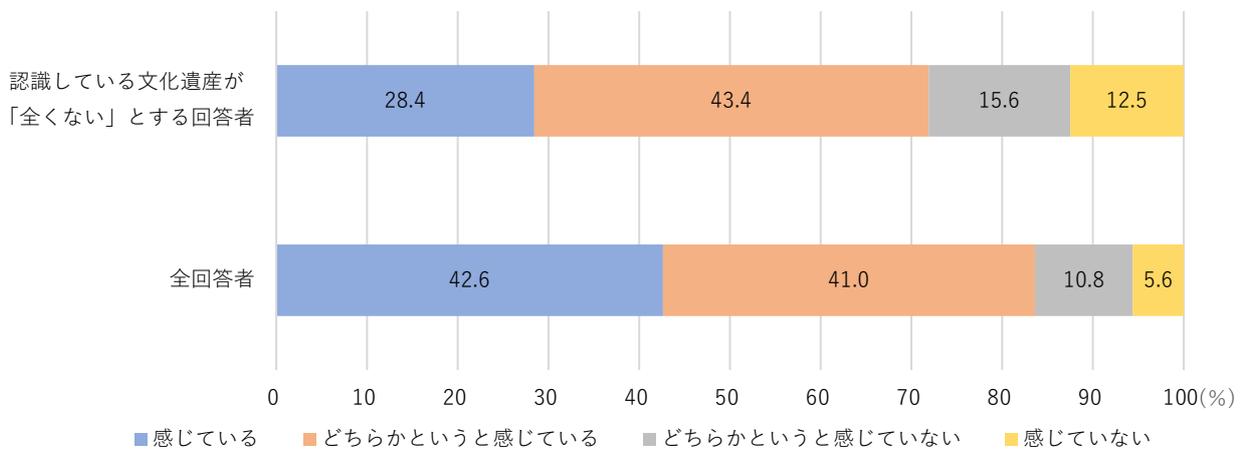
4-1-2. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×居住地域への愛着度合い

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、居住地域への愛着を「感じている(28.4%)」、「どちらかというと感じている(43.4%)」をあわせて71.8%となっており、全回答者の83.6%よりも低い割合になっている。また、地方圏町村平均の78.8%よりも低く、居住年数2年～5年未満の73.6%よりは若干低く、居住年数2年未満の61.6%よりは高い。

Q2 お住まいの地域に、愛着（親しみ）を感じていますか？（回答は1つ）「愛着」は、自分にとって「親しみがある」「大事だな」と感じられるものとお考え下さい。「お住まいの地域」は、ご自宅を中心として、普段生活されている地域とし、最大でも日常的に利用している交通手段で概ね30分以内に行ける範囲とします。

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×居住地域への愛着度合い

		感じている	どちらかというと感じている	どちらかというと感じていない	感じていない	全回答者
全回答者	回答者数(人)	4,451	4,277	1,124	586	10,438
	割合(%)	42.6	41.0	10.8	5.6	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	676	1,033	371	298	2,378
	割合(%)	28.4	43.4	15.6	12.5	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×居住地域への愛着度合い

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析

4-1-3. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×愛着を感じる地域内の要素

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、愛着を感じる地域内の要素を選択することが、「通学、通勤に便利」を除き、全回答者と比較して全般的に低い。その差は、「伝統・習慣など歴史・文化がある」において最大19.0%の差となっている。次いで、「自然環境に恵まれている」で17.1%、「気候や風土が良い」で15.6%の差がついている。

Q3A+B お住まいの地域に、愛着(親しみ)を感じている点があれば、あてはまるもの全てを選んでください。(回答はいくつでも)

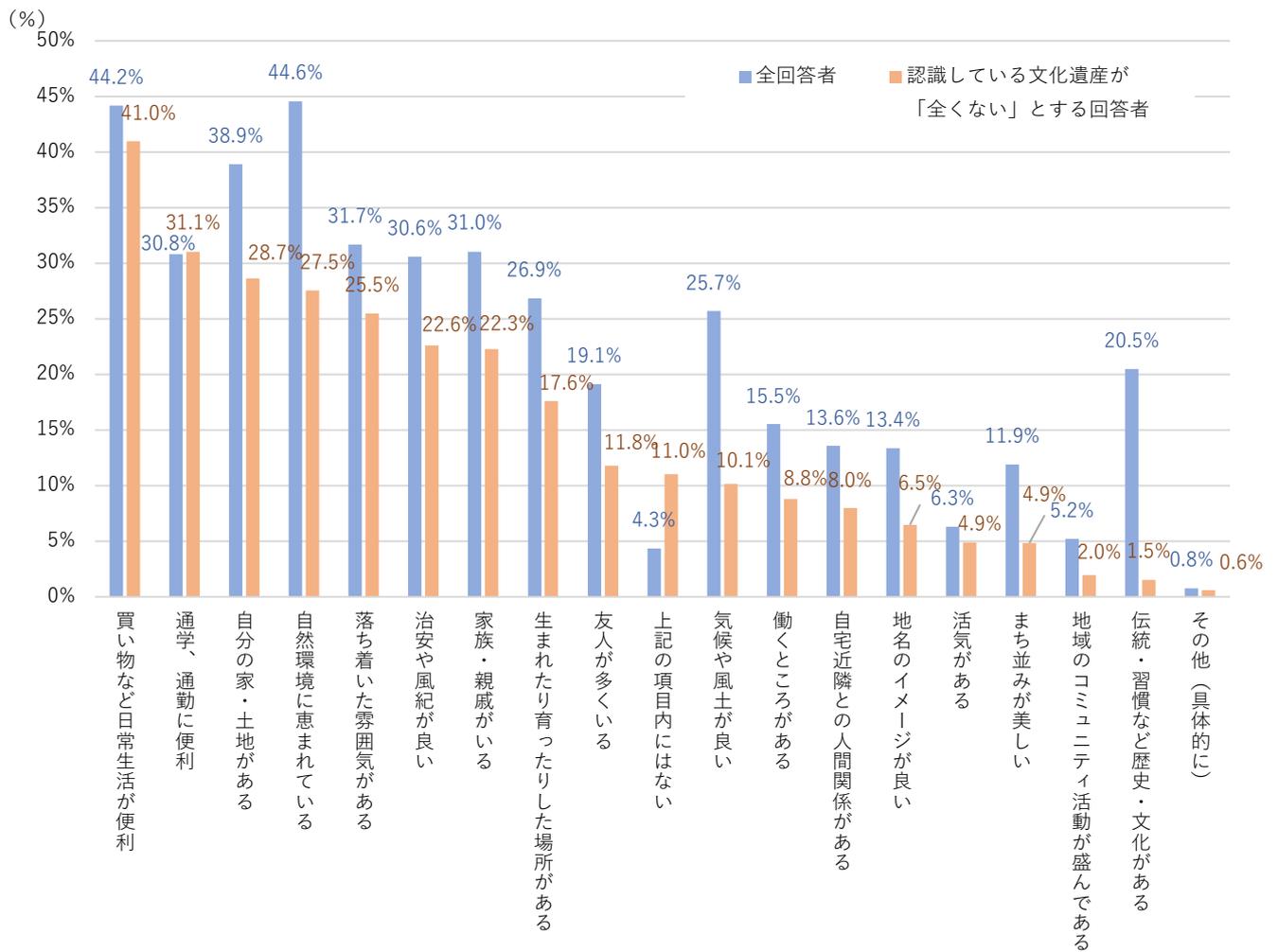
表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×愛着を感じる地域内の要素

		買い物など日常生活が便利	通学、通勤に便利	自分の家・土地がある	自然環境に恵まれている	落ち着いた雰囲気がある	治安や風紀が良い	家族・親戚がいる
全回答者	回答者数(人)	4,351	3,038	3,832	4,392	3,123	3,012	3,058
	割合(%)	44.2	30.8	38.9	44.6	31.7	30.6	31.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	852	646	596	573	530	470	463
	割合(%)	41.0	31.1	28.7	27.5	25.5	22.6	22.3

		生まれたり育ったりした場所がある	友人が多い	上記の項目内にはない	気候や風土が良い	働くところがある	自宅近隣との人間関係がある	地名のイメージが良い
全回答者	回答者数(人)	2,646	1,883	428	2,530	1,529	1,337	1,317
	割合(%)	26.9	19.1	4.3	25.7	15.5	13.6	13.4
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	366	245	229	211	183	166	135
	割合(%)	17.6	11.8	11.0	10.1	8.8	8.0	6.5

		活気がある	まち並みが美しい	地域のコミュニティ活動が盛んである	伝統・習慣など歴史・文化がある	その他(具体的に)	全回答者
全回答者	回答者数(人)	623	1,174	517	2,020	77	9,852
	割合(%)	6.3	11.9	5.2	20.5	0.8	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	102	101	41	32	12	2,080
	割合(%)	4.9	4.9	2.0	1.5	1.5	100.0

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×愛着を感じる地域内の要素

4-1-4. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍でより愛着を感じるようになった要素

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、コロナ禍でより愛着を感じるようになった要素を選択することが全回答者と比較して全般的に低い。その差は、「自然環境に恵まれている」において最大9.4%の差となっている。次いで、「気候や風土が良い」で7.0%、「伝統・習慣など歴史・文化がある」で5.9%となっている。

Q4 前問 Q3 で選ばれた項目のうち、コロナ禍の期間中（2020年1月～現在）に、愛着（親しみ）をより感じるようになった点（改めて良さを感じた点）がありますか？（回答はいくつでも）

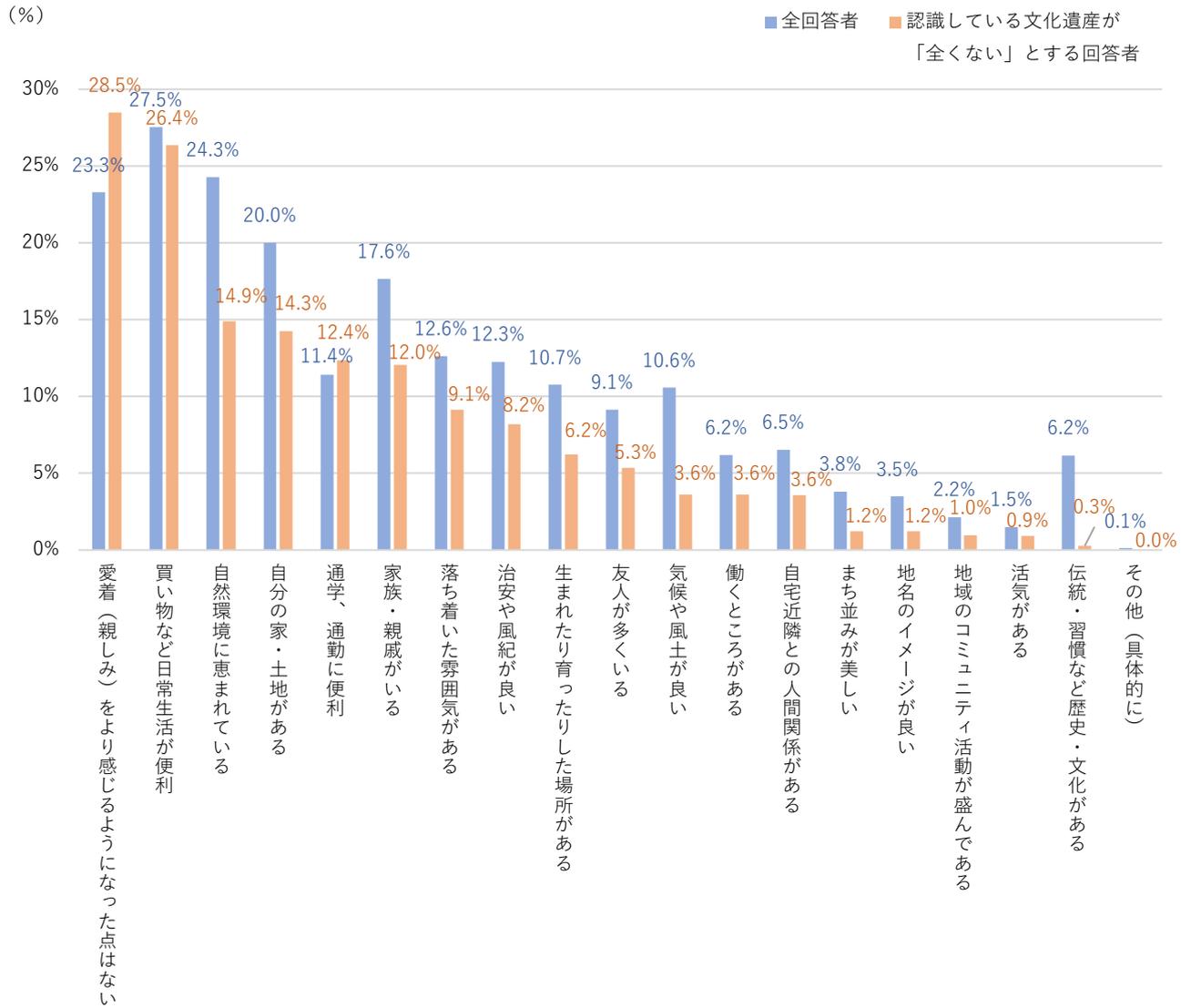
表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍でより愛着を感じるようになった要素

		愛着（親しみ）をより感じるようになった点はない	買い物など日常生活が便利	自然環境に恵まれている	自分の家・土地がある	通学、通勤に便利	家族・親戚がいる	落ち着いた雰囲気がある
全回答者	回答者数（人）	2195	2594	2287	1885	1076	1663	1190
	割合（%）	23.3	27.5	24.3	20.0	11.4	17.6	12.6
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数（人）	527	488	276	264	229	223	169
	割合（%）	28.5	26.4	14.9	14.3	12.4	12.0	9.1

		治安や風紀が良い	生まれたり育った場所がある	友人が多い	気候や風土が良い	働くところがある	自宅近隣との人間関係がある	まち並みが美しい
全回答者	回答者数（人）	1155	1013	860	996	583	615	358
	割合（%）	12.3	10.7	9.1	10.6	6.2	6.5	3.8
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数（人）	152	115	99	67	67	66	23
	割合（%）	8.2	6.2	5.3	3.6	3.6	3.6	1.2

		地名のイメージが良い	地域のコミュニティ活動が盛んである	活気がある	伝統・習慣など歴史・文化がある	その他（具体的に）	全回答者
全回答者	回答者数（人）	330	203	142	580	11	9424
	割合（%）	3.5	2.2	1.5	6.2	0.1	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数（人）	23	18	17	5	0	1851
	割合（%）	1.2	1.0	0.9	0.3	0.0	100.0

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍でより愛着を感じるようになった要素

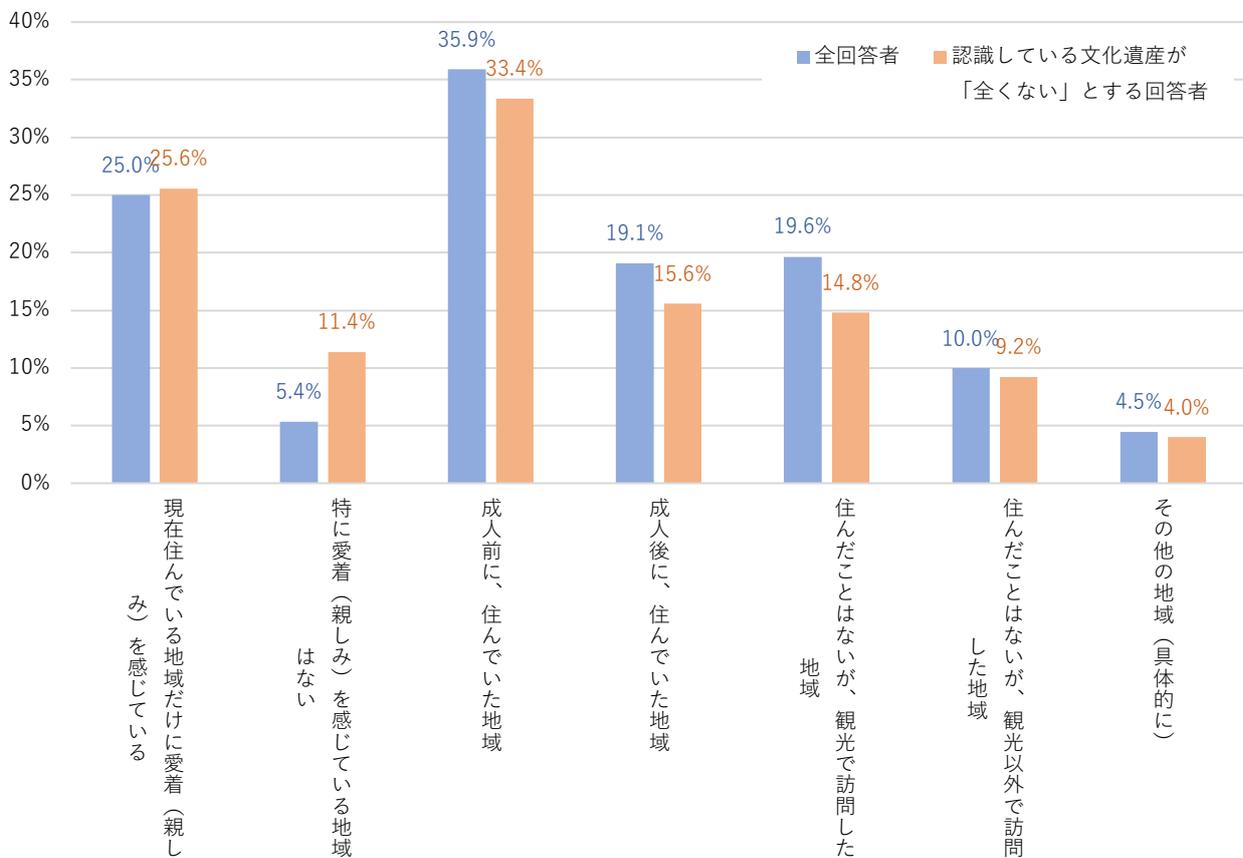
4-1-5. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×お住まいの地域以外での愛着（親しみ）を感じている地域

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、お住まいの地域以外での愛着（親しみ）を感じている地域を選択することが全回答者と比較して全般的に低い。その差は、「住んだことはないが、観光で訪問した地域」において最大4.8%の差に留まっている。

Q5_A+B お住まいの地域以外で、愛着（親しみ）を感じている地域がありますか？（回答はいくつでも）

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×お住まいの地域以外での愛着（親しみ）を感じている地域

		現在住んでいる地域だけに愛着（親しみ）を感じている	特に愛着（親しみ）を感じている地域はない	成人前に、住んでいた地域	成人後に、住んでいた地域	住んだことはないが、観光で訪問した地域	住んだことはないが、観光以外で訪問した地域	その他の地域（具体的に）	母数
全回答者	回答者数(人)	2,608	559	3,749	1,993	2,051	1,041	466	10,438
	割合(%)	25.0	5.4	35.9	19.1	19.6	10.0	4.5	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	608	271	794	370	352	219	95	2,378
	割合(%)	25.6	11.4	33.4	15.6	14.8	9.2	4.0	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×お住まいの地域以外での愛着（親しみ）を感じている地域

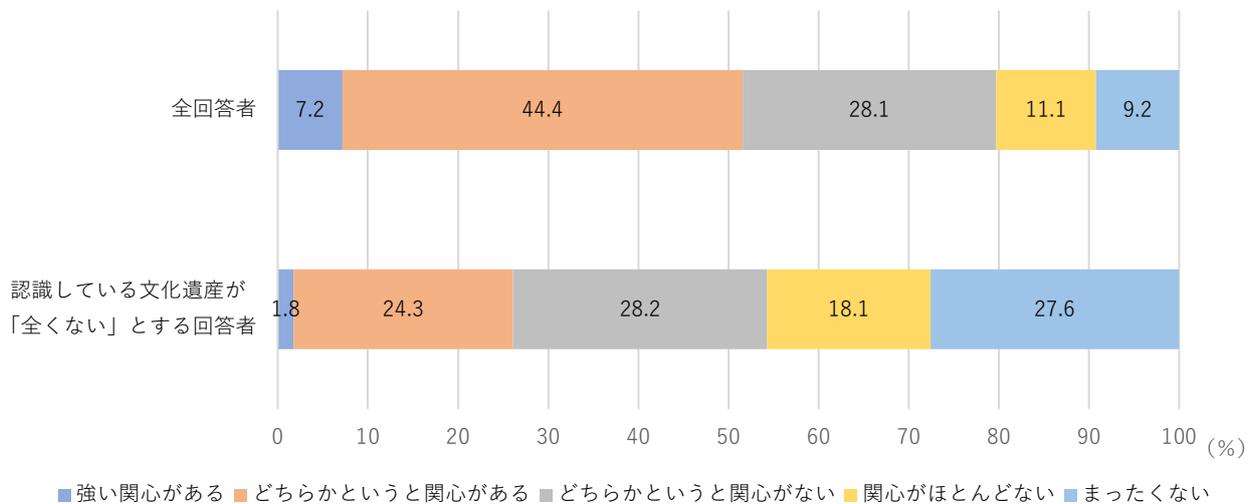
4-1-6. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×文化遺産全般への関心

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、文化遺産全般への関心が全回答者と比較して全般的に低い。「強い関心がある（1.8%）」、「どちらかというに関心がある（24.3%）」をあわせて26.1%となっており、全回答者の51.6%よりも低い。

Q9 あなたは、現在、文化遺産全般について、どれぐらい関心がありますか？（回答は1つ） コロナ禍の期間中（2020年1月～現在）における、文化遺産への関心と行動の変化について伺います。

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×文化遺産全般への関心

		強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない	全回答者
全回答者	回答者数(人)	751	4,638	2,933	1,159	957	10,438
	割合(%)	7.2	44.4	28.1	11.1	9.2	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	42	579	671	430	656	2,378
	割合(%)	1.8	24.3	28.2	18.1	27.6	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×文化遺産全般への関心

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析

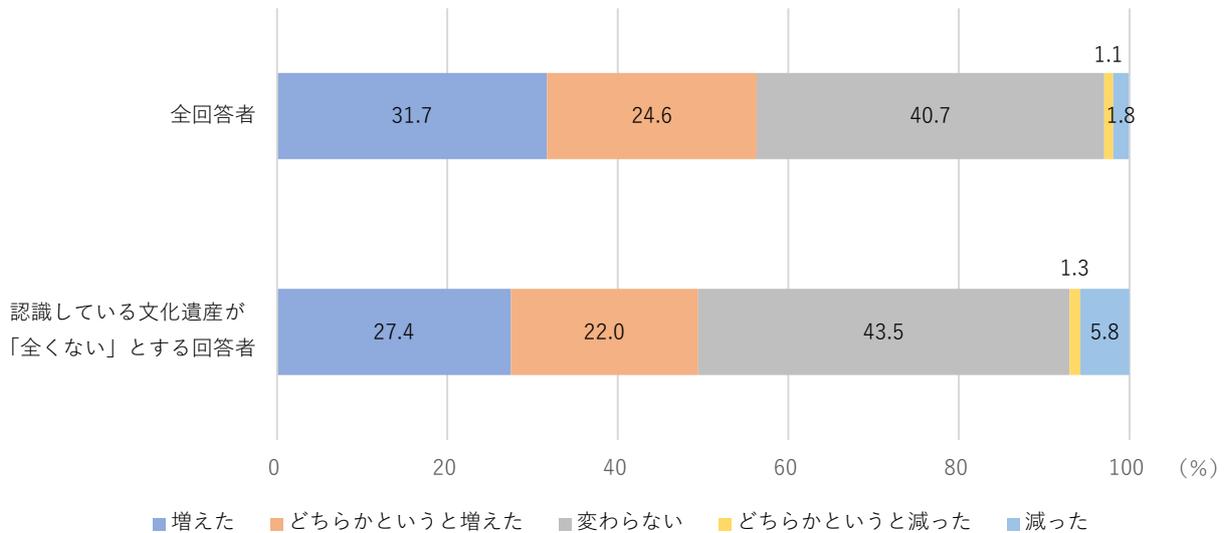
4-1-7. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍での滞在時間の増減

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、コロナ禍で地域内での滞在時間が増加したと回答とする人が少なく、「変わらない」や「減った」と回答する人が多い。「増えた (27.4%)」、「どちらかというが増えた (31.7%)」をあわせて 59.1% となっており、全回答者の 56.3% よりも低い。

Q10 コロナ禍以前 (2018～2019 年の 2 年間) と比べ、お住まいの地域に滞在している時間が増えたと思いますか? (回答は 1 つ)

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍での滞在時間の増減

		増えた	どちらかという と増えた	変わらない	どちらかという と減った	減った	全回答者
全回答者	回答者 数(人)	3,055	2,364	3,923	110	175	9,627
	割合 (%)	31.7	24.6	40.7	1.1	1.8	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者 数(人)	582	466	924	27	123	2,122
	割合 (%)	27.4	22.0	43.5	1.3	5.8	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍での滞在時間の増減

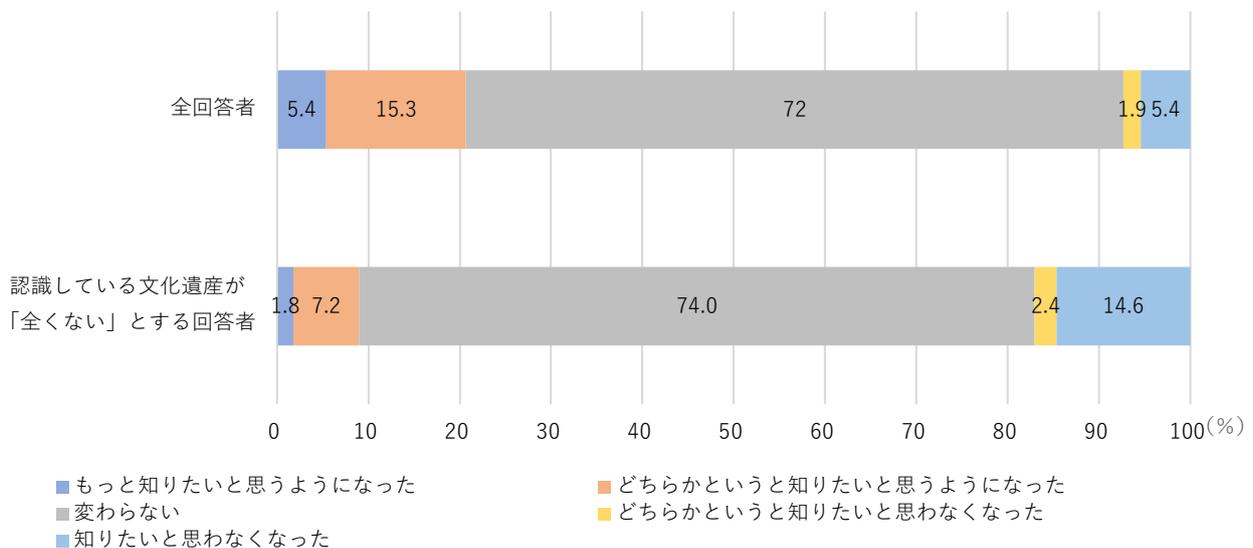
4-1-8. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、回答者全体の平均と比べて、コロナ禍を受けて居住地域の文化遺産のことを「もっと知りたいと思うようになった（1.8%）」、「どちらかという知りたいと思うようになった（7.2%）」と回答とする人は少なく合わせて9.0%と、全回答者の20.7%よりも低い。

Q11 コロナ禍の期間中、緊急事態宣言等による移動制限を受けて、お住まいの地域の歴史や文化、つまり文化遺産のことを、もっと知りたいと思うようになりましたか？（回答は1つ）

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

		もっと知りたいと思うようになった	どちらかという知りたいと思うようになった	変わらない	どちらかという知りたいと思わなくなった	知りたいと思わなくなった	全回答者
全回答者	回答者数(人)	567	1,595	7,518	197	561	10,438
	割合(%)	5.4	15.3	72.0	1.9	5.4	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	43	171	1,759	57	348	2,378
	割合(%)	1.8	7.2	74.0	2.4	14.6	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍による居住地域の文化遺産への関心の増減

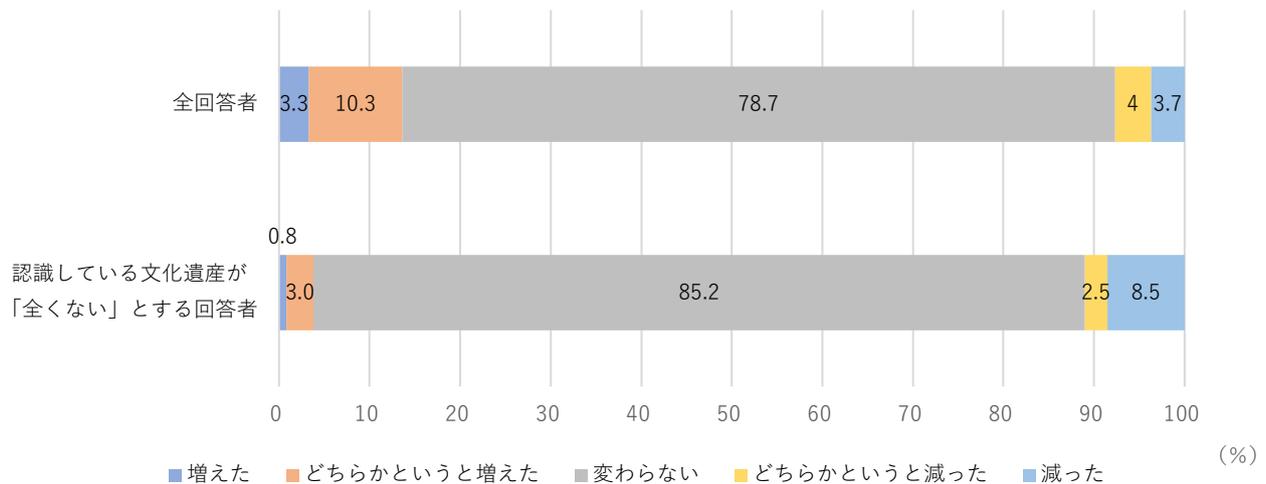
4-1-9. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増加有無

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会が増加したと回答とする人が少なく、「変わらない」や「減った」と回答する人が多い。「増えた(0.8%)」、「どちらかというが増えた(3.0%)」をあわせて3.8%となっており、全回答者の13.6%よりも低い。

Q12 コロナ禍の期間中にお住まいの地域の文化遺産を知る機会は増えたと思いますか？（回答は1つ）

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増加有無

		増えた	どちらかという と増えた	変わらない	どちらかという と減った	減った	全回答者
全回答者	回答者 数(人)	346	1,077	8,215	414	386	10,438
	割合 (%)	3.3	10.3	78.7	4.0	3.7	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者 数(人)	19	72	2,025	59	203	2,378
	割合 (%)	0.8	3.0	85.2	2.5	8.5	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍による居住地域の文化遺産を知る機会の増加有無

4-1-10. 全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合いが「ほとんど参加も見物もしていなかった(37.5%)」や「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない(25.9%)」と回答とする人が多く、両選択を合計して63.4%となっており、全回答者の36.8%と比較して高い。

Q13 コロナ禍以前、お住まいの地域で行われる伝統的なお祭り(年中行事含む)に、参加または見物をしていましたか? もっとも実感に近いものを1つ選んでください。(回答は1つ)

表: 全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

		よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない	全回答者
全回答者	回答者数(人)	990	1,480	1,128	2,996	2,910	934	10,438
	割合(%)	9.5	14.2	10.8	28.7	27.9	8.9	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	93	164	135	479	892	615	2,378
	割合(%)	3.9	6.9	5.7	20.1	37.5	25.9	100.0

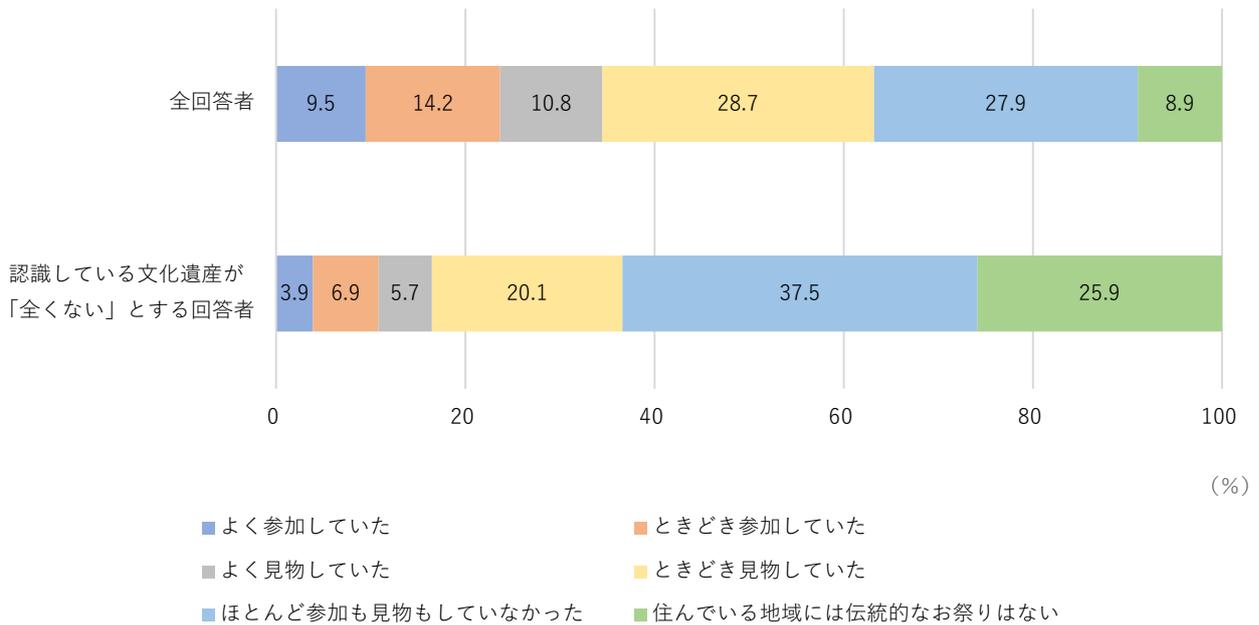


図: 全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍以前におけるお祭りへの参加の度合い

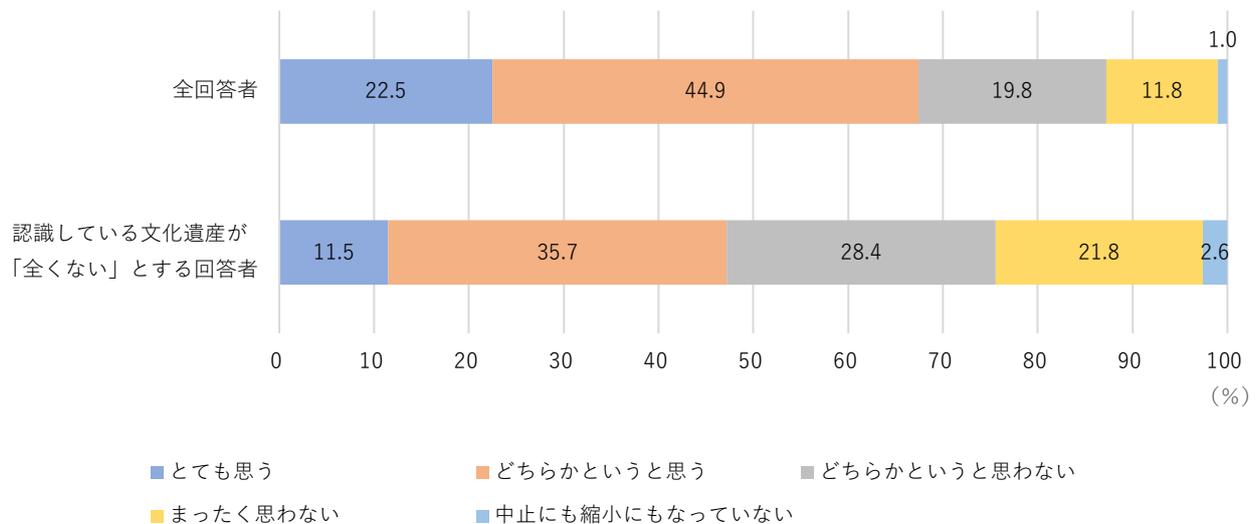
4-1-11. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、コロナ禍によるお祭り中止をかなしいと思うと回答とする人が少なく、「思わない」と回答する人が多い。「とても思う（11.5%）」、「どちらかというと思う（35.7%）」をあわせて57.2%となっており、全回答者の67.4%よりも低い。

Q14 コロナ禍の期間中に、お住まいの地域でいつも行われていた伝統的なお祭りが、中止・縮小になったことを「さみしい」と思いますか？（回答は1つ）

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

		とても思う	どちらかという と思う	どちらかという と思わない	まったく思わない	中止にも縮小にも なっていない	全回答者
全回答者	回答者 数(人)	2,141	4,267	1,881	1,121	94	9,504
	割合 (%)	22.5	44.9	19.8	11.8	1.0	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者 数(人)	203	629	500	385	46	1,763
	割合 (%)	11.5	35.7	28.4	21.8	2.6	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍によるお祭り中止に対する喪失感の度合い

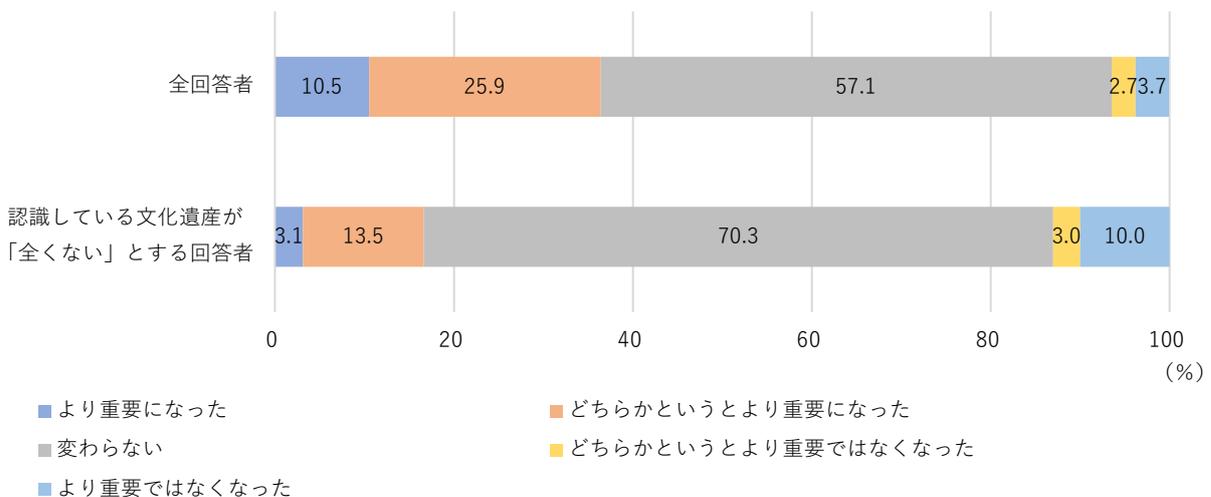
4-1-12. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産について「重要となった」と回答とする人が少なく、「変わらない」や「重要ではなくなった」と回答する人が多い。「より重要になった(3.1%)」、「どちらかというより重要になった(13.5%)」をあわせて16.6%となっており、全回答者の36.4%よりも低い。

Q15 コロナ禍を機会として、お祭り等の文化遺産は、お住まいの地域への愛着(親しみ)にとって、より重要なものになったと思いますか？(回答は1つ)

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

		より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった	全回答者
全回答者	回答者数(人)	1,098	2,705	5,965	286	384	10,438
	割合(%)	10.5	25.9	57.1	2.7	3.7	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	74	322	1,672	72	238	2,378
	割合(%)	3.1	13.5	70.3	3.0	10.0	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×コロナ禍を機にした地域愛着に対する文化遺産の重要性の増加の認識度合い

4-1-13. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×性別

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、性別による違いはみられない。

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×性別

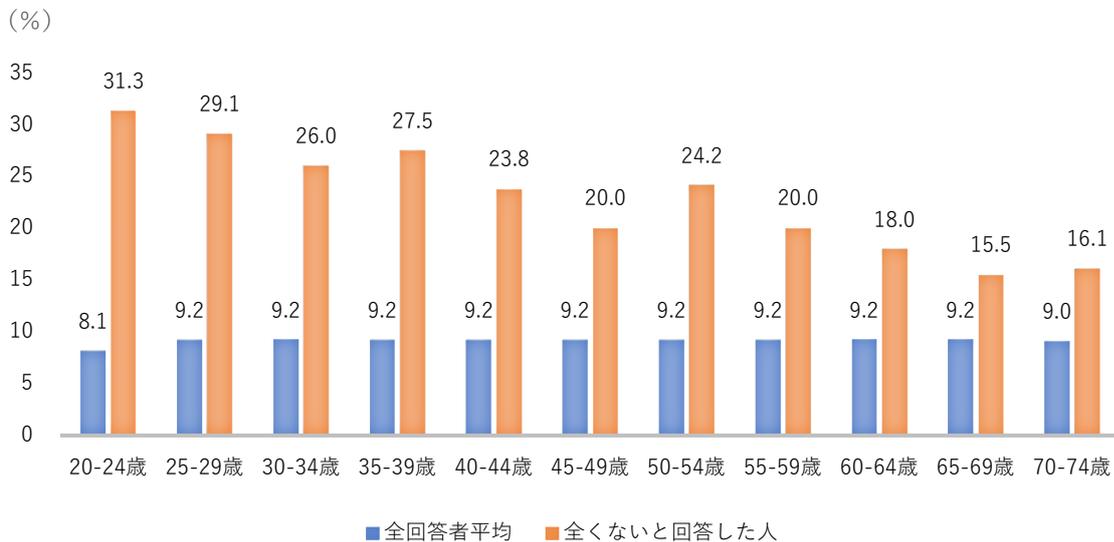
		男性	女性	全回答者
全回答者	回答者数(人)	4917	5521	10438
	割合(%)	47.1	52.9	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	1,136	1,242	2,378
	割合(%)	47.8	52.2	100.0

4-1-14. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×性別年代（5歳刻み）

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、全回答者と比較して40歳未満においては多く、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×性別年代（5歳刻み）

		20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	全回答者
全回答者	回答者数(人)	849	959	964	960	959	960	960	960	962	962	943	10,438
	割合(%)	8.1	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.0	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	266	279	251	264	228	192	232	192	173	149	152	2,378
	割合(%)	31.3	29.1	26.0	27.5	23.8	20.0	24.2	20.0	18.0	15.5	16.1	22.8



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×性別年代（5歳刻み）

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析

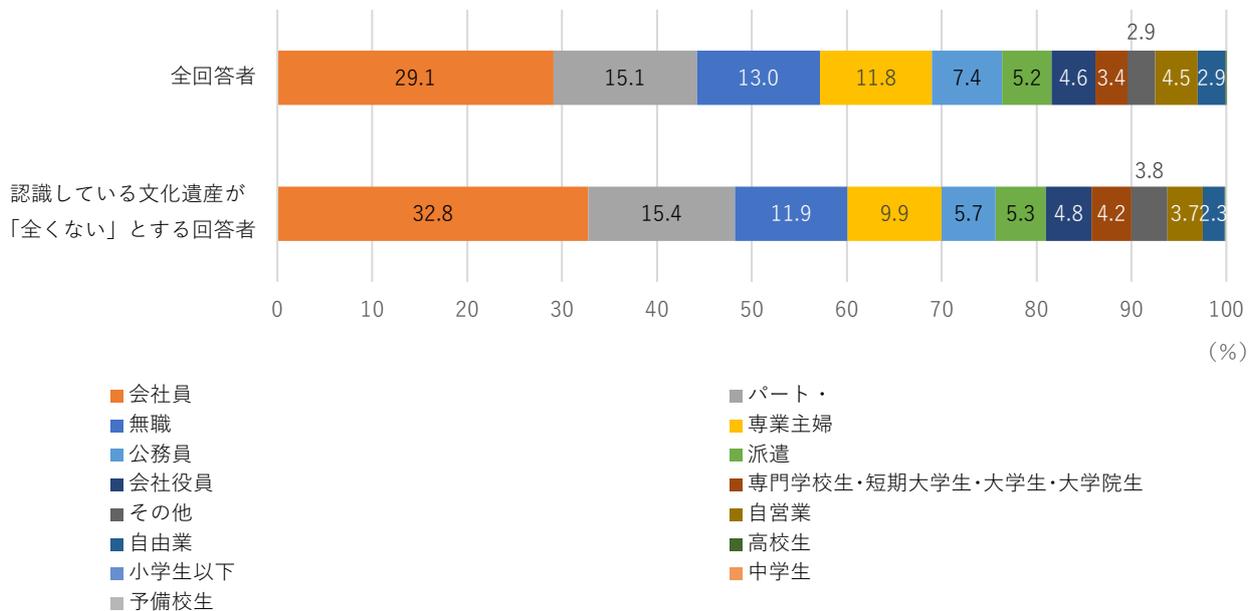
4-1-15. 全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×職業

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、全回答者と比較して大きな差は生じていない。

表：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×職業

		会社員	パート・アルバイト	無職	専業主婦・専業主夫	公務員・団体職員	派遣・契約社員	会社役員・管理職	専門学校生・短期大学生・大学生・大学院生
全回答者	回答者数(人)	3041	1581	1356	1233	773	546	481	351
	割合(%)	29.1	15.1	13.0	11.8	7.4	5.2	4.6	3.4
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	780	367	284	235	135	127	115	99
	割合(%)	32.8	15.4	11.9	9.9	5.7	5.3	4.8	4.2

		その他	自営業	自由業・専門職	高校生	小学生以下	中学生	予備校生	全回答者
全回答者	回答者数(人)	302	466	298	7	0	0	3	10438
	割合(%)	2.9	4.5	2.9	0.1	0.0	0.0	0.0	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	91	89	54	2	0	0	0	2,378
	割合(%)	3.8	3.7	2.3	0.1	0.0	0.0	0.0	100.0



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×職業

4-1-16. 全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×都市規模

居住地域で認識している文化遺産が「全くない」とする回答者は、全回答者と比較して100万人以上の市区町村においては割合が高くなっている。

表：全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×都市規模

		100万人以上	50万人以上	30万人以上	20万人以上	10万人以上	5万人以上	5万人未満	全回答者
全回答者	回答者数(人)	3,054	1,364	1,176	1,346	345	140	3,013	10,438
	割合(%)	29.3	13.1	11.3	12.9	3.3	1.3	28.9	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	1,004	152	208	178	41	26	769	2,378
	割合(%)	42.2	6.4	8.7	7.5	1.7	1.1	32.3	100.0



図：全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×都市規模

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析

4-1-17. 全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×出身都道府県

居住地域で認識している文化遺産は「全くない」とする回答者は、全回答者と比較して東京都や北海道で多く、京都府や兵庫県、長野県では低くなっている。

表：全回答者/認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×出身都道府県

		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全回答者	回答者数(人)	396	201	184	183	137	133	205	191	197	190
	割合(%)	3.8	1.9	1.8	1.8	1.3	1.3	2.0	1.8	1.9	1.8
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	163	43	37	40	32	23	56	64	62	57
	割合(%)	6.9	1.8	1.6	1.7	1.3	1.0	2.4	2.7	2.6	2.4

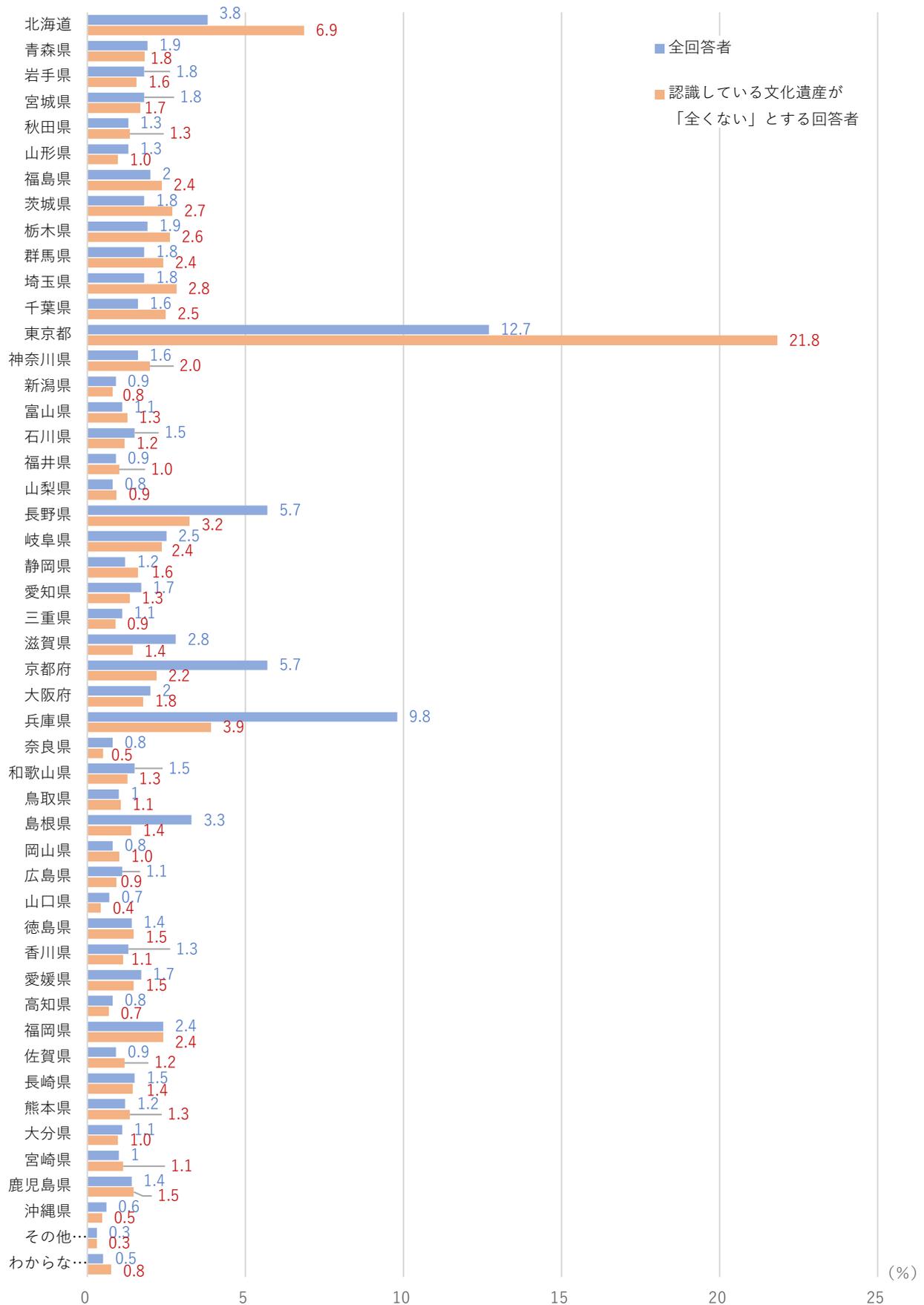
		埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
全回答者	回答者数(人)	188	167	1,324	166	97	120	156	90	85	591
	割合(%)	1.8	1.6	12.7	1.6	0.9	1.1	1.5	0.9	0.8	5.7
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	67	59	519	47	19	30	28	24	22	77
	割合(%)	2.8	2.5	21.8	2.0	0.8	1.3	1.2	1.0	0.9	3.2

		岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全回答者	回答者数(人)	262	122	180	119	297	590	212	1,027	84	156
	割合(%)	2.5	1.2	1.7	1.1	2.8	5.7	2.0	9.8	0.8	1.5
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	56	38	32	21	34	52	42	93	12	30
	割合(%)	2.4	1.6	1.3	0.9	1.4	2.2	1.8	3.9	0.5	1.3

		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全回答者	回答者数(人)	107	345	86	111	70	144	136	176	87	249
	割合(%)	1.0	3.3	0.8	1.1	0.7	1.4	1.3	1.7	0.8	2.4
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	25	33	24	22	10	35	27	35	16	57
	割合(%)	1.1	1.4	1.0	0.9	0.4	1.5	1.1	1.5	0.7	2.4

		佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他(海外等)	わからない・答えたくない	全回答者
全回答者	回答者数(人)	95	157	122	115	101	142	61	30	54	10,438
	割合(%)	0.9	1.5	1.2	1.1	1.0	1.4	0.6	0.3	0.5	100.0
認識している文化遺産が「全くない」とする回答者	回答者数(人)	28	34	32	23	27	35	11	7	18	2,378
	割合(%)	1.2	1.4	1.3	1.0	1.1	1.5	0.5	0.3	0.8	100.0

4-1. 居住地域には文化遺産が「全くない」とする回答者の分析



図：全回答者／認識している文化遺産が「全くない」とする回答者×出身都道府県

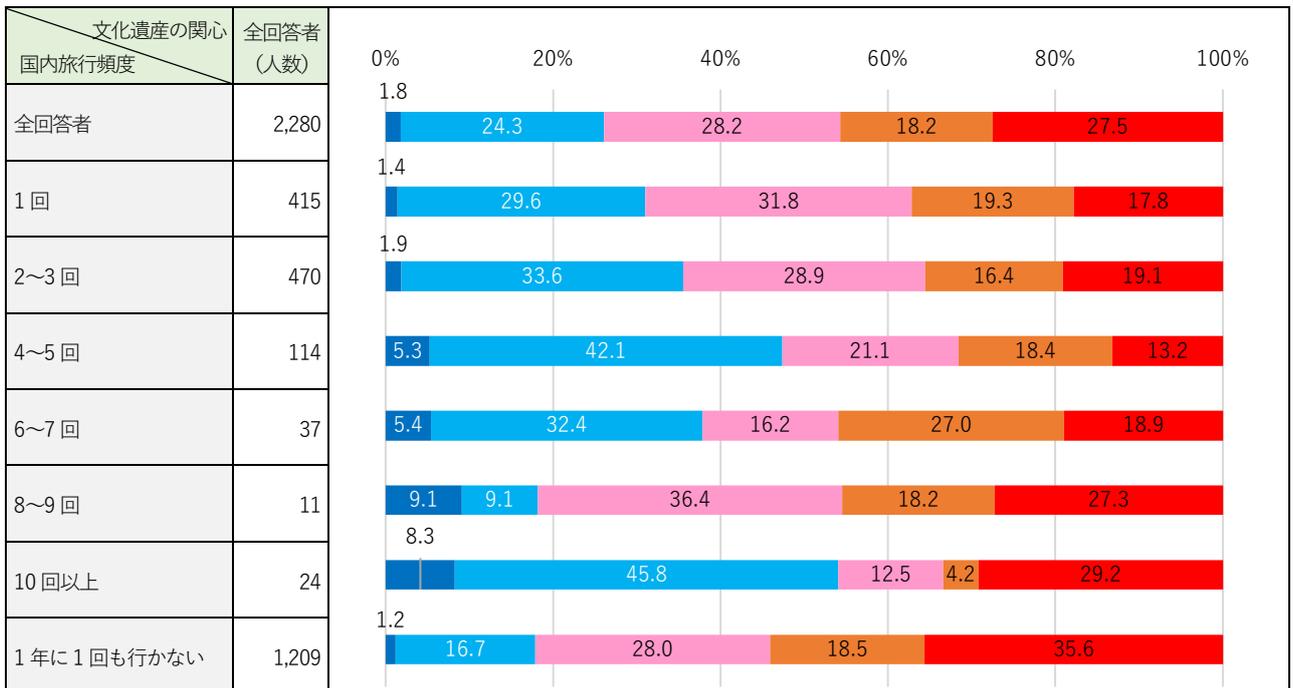
4-2. 旅行頻度×文化遺産への関心

4-2-1. 国内旅行頻度×文化遺産への関心

国内旅行の頻度が高い回答者は、全回答者と比較して文化遺産への関心があると回答する割合が高い。「1年に1回も行かない」とする回答者は「強い関心がある(1.2%)」、「どちらかというに関心がある(16.7%)」を合計して17.9%に対し、「4~5回」と回答する回答者は合計して47.4%であり、その差は29.5%となっている。

表：国内旅行頻度×文化遺産への関心の割合

国内旅行頻度	文化遺産の関心	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者		1.8%	24.3%	28.2%	18.2%	27.5%
1回		1.4%	29.6%	31.8%	19.3%	17.8%
2~3回		1.9%	33.6%	28.9%	16.4%	19.1%
4~5回		5.3%	42.1%	21.1%	18.4%	13.2%
6~7回		5.4%	32.4%	16.2%	27.0%	18.9%
8~9回		9.1%	9.1%	36.4%	18.2%	27.3%
10回以上		8.3%	45.8%	12.5%	4.2%	29.2%
1年に1回も行かない		1.2%	16.7%	28.0%	18.5%	35.6%



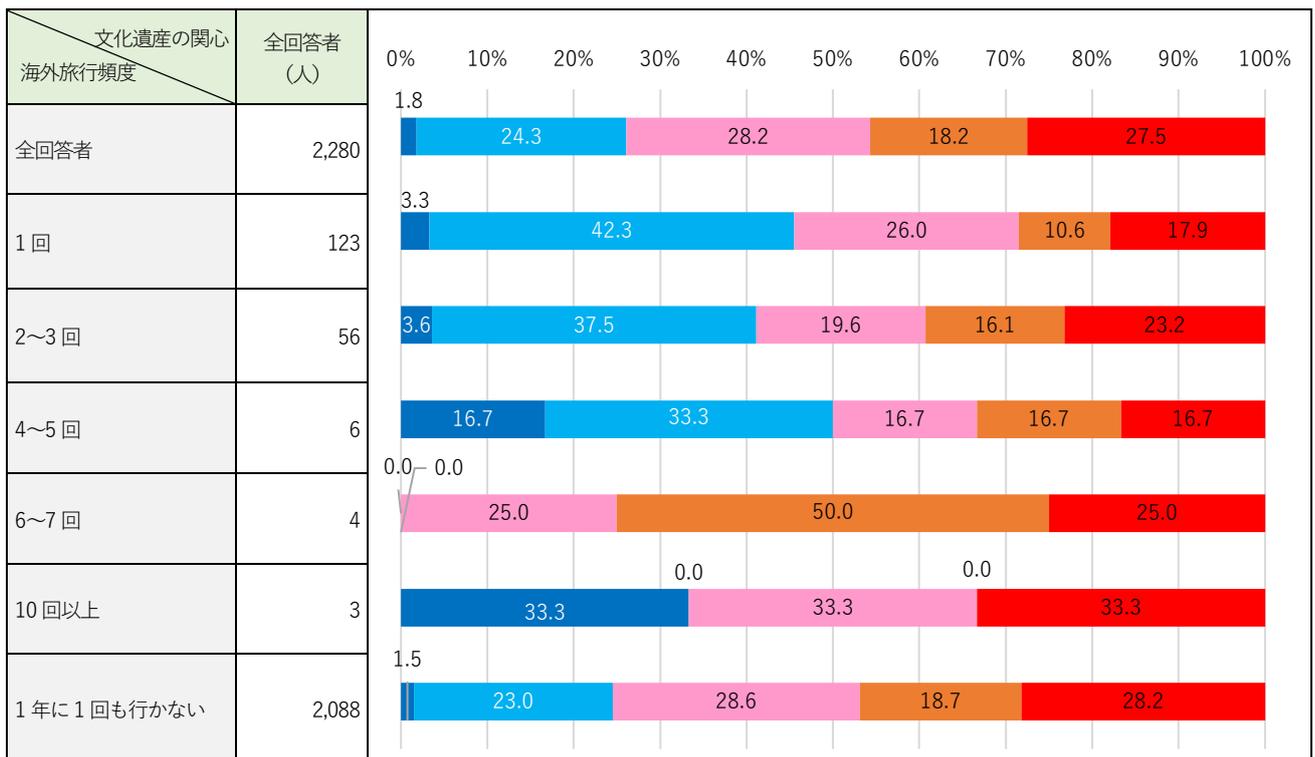
■ 強い関心がある ■ どちらかというに関心がある ■ どちらかというに関心がない
■ 関心がほとんどない ■ まったくない

4-2-2. 海外旅行頻度×文化遺産への関心

海外旅行に年に1回以上行くとする回答者は、全回答者と比較して文化遺産への関心があると回答する割合が高い。「1年に1回も行かない」とする回答者は「強い関心がある(1.5%)」、「どちらかというに関心がある(23.0%)」を合計して24.5%に対し、「2~3回」と回答する回答者は合計して41.1%であり、その差は16.6%となっている。

表：海外旅行頻度×文化遺産への関心の割合

海外旅行頻度 \ 文化遺産の関心	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	まったくない
全回答者	1.8%	24.3%	28.2%	18.2%	27.5%
1回	3.3%	42.3%	26.0%	10.6%	17.9%
2~3回	3.6%	37.5%	19.6%	16.1%	23.2%
4~5回	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%
6~7回	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%
10回以上	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
1年に1回も行かない	1.5%	23.0%	28.6%	18.7%	28.2%



- 強い関心がある
- どちらかというに関心がある
- どちらかというに関心がない
- 関心がほとんどない
- まったくない

4-3. 東京都区部の分析

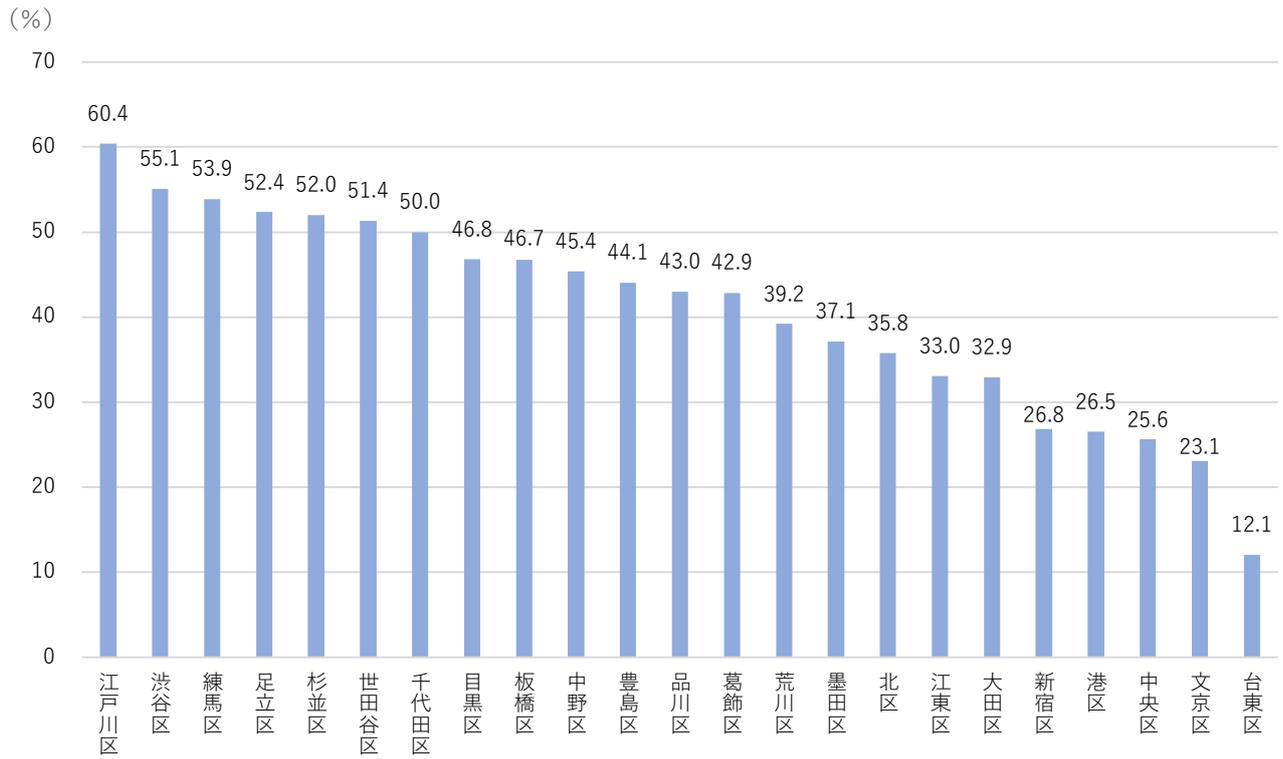
4-3-1. 東京都区部で文化遺産が「全くない」とする回答者の割合

東京都区部で居住地域内に文化遺産が「全くない」とする回答者は、台東区（12.1%）で一番低く、次いで文京区（23.1%）、中央区（25.6%）の順に低くなっている。一方、江戸川区（60.4%）で一番高く、次いで渋谷区（55.1%）、練馬区（53.9%）の順に高くなっている。台東区と江戸川区では48.3%の差がある。なお、本分析は、区によっては回答者が20人～185人、年齢等の属性も一定していないことから誤差が生じている可能性がある。

表：東京都区部の基本情報×文化遺産が全くないとする人の割合

区名	推計人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	回答者数 (人)	認識している文化遺産が「全くない」とする回答者 (人)	認識している文化遺産が「全くない」とする回答者の割合 (%)
千代田区	66,813	11.66	5,730	20	10	50.0
中央区	170,568	10.21	16,706	39	10	25.6
港区	258,203	20.37	12,676	49	13	26.5
新宿区	345,735	18.22	18,976	82	22	26.8
文京区	239,794	11.29	21,240	52	12	23.1
台東区	212,098	10.11	20,979	58	7	12.1
墨田区	272,316	13.77	19,776	70	26	37.1
江東区	523,261	40.16	13,029	115	38	33.0
品川区	418,499	22.84	18,323	93	40	43.0
目黒区	284,094	14.67	19,366	47	22	46.8
大田区	739,649	60.83	12,159	173	57	32.9
世田谷区	937,047	58.05	16,142	185	95	51.4
渋谷区	241,828	15.11	16,005	49	27	55.1
中野区	341,528	15.59	21,907	97	44	45.4
杉並区	585,767	34.06	17,198	123	64	52.0
豊島区	297,593	13.01	22,874	59	26	44.1
北区	352,709	20.61	17,113	109	39	35.8
荒川区	216,416	10.16	21,301	51	20	39.2
板橋区	580,186	32.22	18,007	137	64	46.7
練馬区	749,592	48.08	15,591	167	90	53.9
足立区	691,657	53.25	12,989	168	88	52.4
葛飾区	450,628	34.80	12,949	119	51	42.9
江戸川区	689,817	49.90	13,824	149	90	60.4
合計	9,665,798			2,211	955	43.2

推計人口に対する回答者数は、0.02% (2,211 / 9,665,798 * 100 = 0.02%)



図：文化遺産が全くないとする人の割合×東京都区部

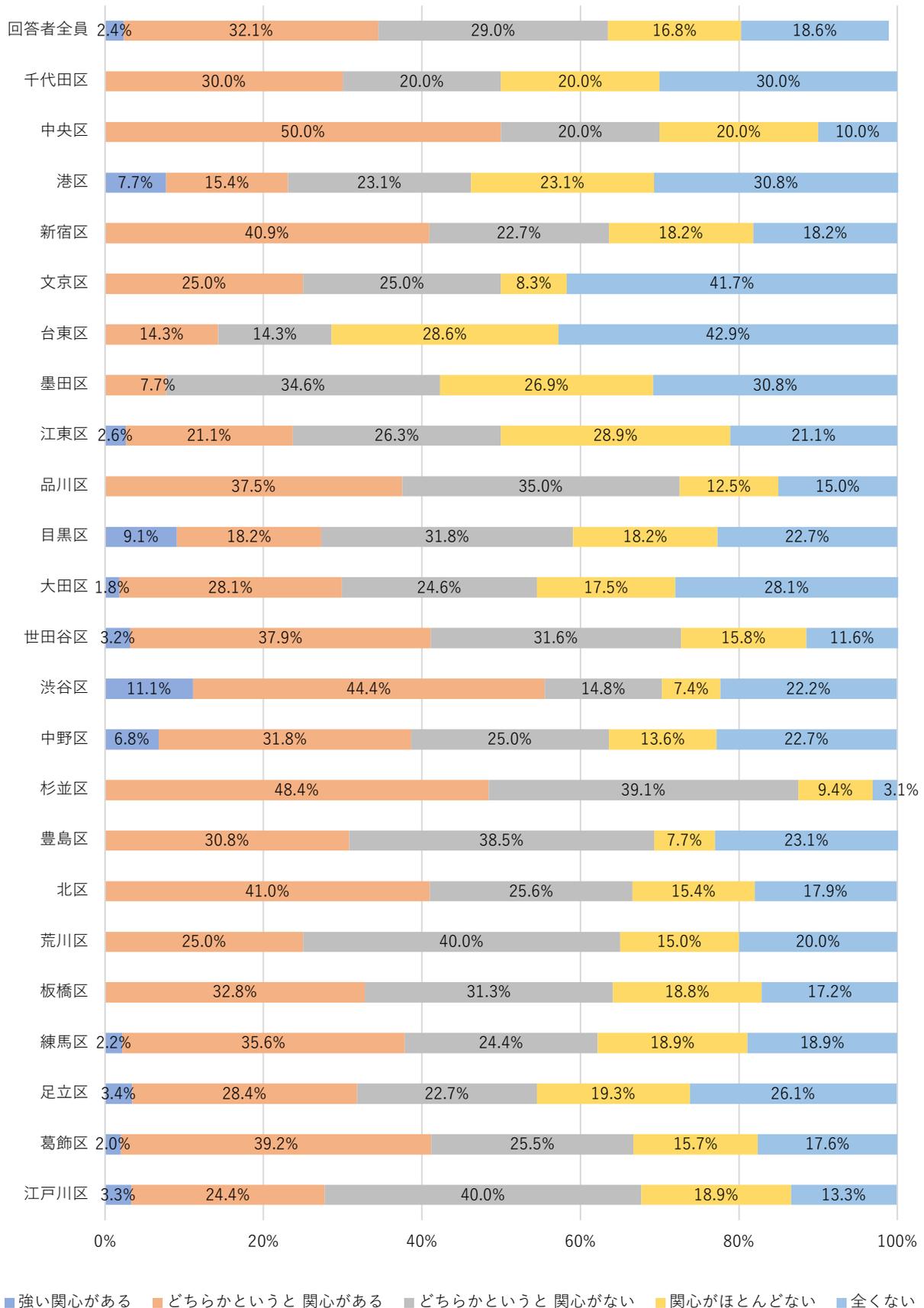
4-3-2. 「文化遺産が全くない」とする人の文化遺産への関心度×東京都区部

東京都区部で居住地域内に文化遺産が「全くない」とする回答者の文化遺産への関心度は、「強い関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計値が高い順に、渋谷区(55.5%)、中央区(50.0%)、杉並区(48.4%)となっている。一方、墨田区(7.7%)で一番低く、次いで江東区(23.7%)、港区(23.1%)の順に低くなっている。渋谷区と墨田区では文化遺産への関心度として47.8%の差がある。

表：「文化遺産が全くない」とする人の文化遺産への関心度×東京都区部の割合

	強い関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	関心がほとんどない	全くない
全回答者	2.4%	32.1%	29.0%	16.8%	18.6%
千代田区	0.0%	30.0%	20.0%	20.0%	30.0%
中央区	0.0%	50.0%	20.0%	20.0%	10.0%
港区	7.7%	15.4%	23.1%	23.1%	30.8%
新宿区	0.0%	40.9%	22.7%	18.2%	18.2%
文京区	0.0%	25.0%	25.0%	8.3%	41.7%
台東区	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	42.9%
墨田区	0.0%	7.7%	34.6%	26.9%	30.8%
江東区	2.6%	21.1%	26.3%	28.9%	21.1%
品川区	0.0%	37.5%	35.0%	12.5%	15.0%
目黒区	9.1%	18.2%	31.8%	18.2%	22.7%
大田区	1.8%	28.1%	24.6%	17.5%	28.1%
世田谷区	3.2%	37.9%	31.6%	15.8%	11.6%
渋谷区	11.1%	44.4%	14.8%	7.4%	22.2%
中野区	6.8%	31.8%	25.0%	13.6%	22.7%
杉並区	0.0%	48.4%	39.1%	9.4%	3.1%
豊島区	0.0%	30.8%	38.5%	7.7%	23.1%
北区	0.0%	41.0%	25.6%	15.4%	17.9%
荒川区	0.0%	25.0%	40.0%	15.0%	20.0%
板橋区	0.0%	32.8%	31.3%	18.8%	17.2%
練馬区	2.2%	35.6%	24.4%	18.9%	18.9%
足立区	3.4%	28.4%	22.7%	19.3%	26.1%
葛飾区	2.0%	39.2%	25.5%	15.7%	17.6%
江戸川区	3.3%	24.4%	40.0%	18.9%	13.3%

4-3. 東京都区部の分析



図：文化遺産が全くないとする人の文化遺産への関心度

4-3-3. 「文化遺産が全くない」とする人の年齢区分（5歳刻み）

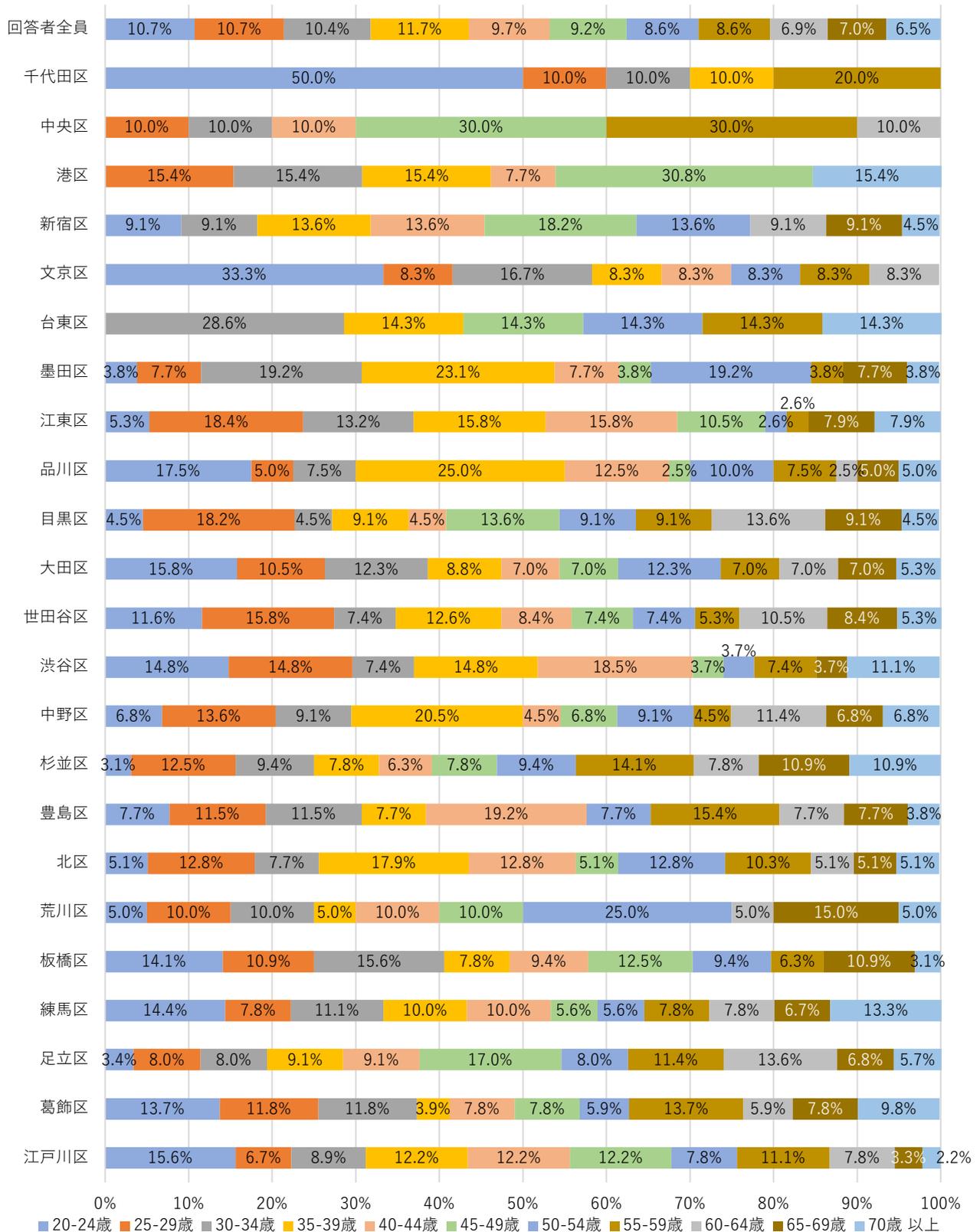
居住地域内に文化遺産が「全くない」とする年齢区分ごとの回答者の割合は、東京都区部の全回答者では概ね年齢区分が高くなるにつれて少なくなっている。区ごとで比較すると、全回答者と比較して40歳未満（20-39歳合計）では、千代田区（80.0%）や文京区（66.6%）において割合が高く、中央区（20.0%）や足立区（28.5%）ではその割合が低くなっている。

表：「文化遺産が全くない」とする人の年代（5歳刻み）の割合

	全回答者	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
全回答者	100%	10.7%	10.7%	10.4%	11.7%	9.7%	9.2%	8.6%	8.6%	6.9%	7.0%	6.5%
千代田区	100%	50.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中央区	100%	0.0%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%	30.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%
港区	100%	0.0%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%
新宿区	100%	9.1%	0.0%	9.1%	13.6%	13.6%	18.2%	13.6%	0.0%	9.1%	9.1%	4.5%
文京区	100%	33.3%	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%
台東区	100%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
墨田区	100%	3.8%	7.7%	19.2%	23.1%	7.7%	3.8%	19.2%	3.8%	0.0%	7.7%	3.8%
江東区	100%	5.3%	18.4%	13.2%	15.8%	15.8%	10.5%	2.6%	2.6%	0.0%	7.9%	7.9%
品川区	100%	17.5%	5.0%	7.5%	25.0%	12.5%	2.5%	10.0%	7.5%	2.5%	5.0%	5.0%
目黒区	100%	4.5%	18.2%	4.5%	9.1%	4.5%	13.6%	9.1%	9.1%	13.6%	9.1%	4.5%
大田区	100%	15.8%	10.5%	12.3%	8.8%	7.0%	7.0%	12.3%	7.0%	7.0%	7.0%	5.3%
世田谷区	100%	11.6%	15.8%	7.4%	12.6%	8.4%	7.4%	7.4%	5.3%	10.5%	8.4%	5.3%
渋谷区	100%	14.8%	14.8%	7.4%	14.8%	18.5%	3.7%	3.7%	7.4%	0.0%	3.7%	11.1%
中野区	100%	6.8%	13.6%	9.1%	20.5%	4.5%	6.8%	9.1%	4.5%	11.4%	6.8%	6.8%
杉並区	100%	3.1%	12.5%	9.4%	7.8%	6.3%	7.8%	9.4%	14.1%	7.8%	10.9%	10.9%
豊島区	100%	7.7%	11.5%	11.5%	7.7%	19.2%	0.0%	7.7%	15.4%	7.7%	7.7%	3.8%
北区	100%	5.1%	12.8%	7.7%	17.9%	12.8%	5.1%	12.8%	10.3%	5.1%	5.1%	5.1%
荒川区	100%	5.0%	10.0%	10.0%	5.0%	10.0%	10.0%	25.0%	0.0%	5.0%	15.0%	5.0%
板橋区	100%	14.1%	10.9%	15.6%	7.8%	9.4%	12.5%	9.4%	6.3%	0.0%	10.9%	3.1%
練馬区	100%	14.4%	7.8%	11.1%	10.0%	10.0%	5.6%	5.6%	7.8%	7.8%	6.7%	13.3%
足立区	100%	3.4%	8.0%	8.0%	9.1%	9.1%	17.0%	8.0%	11.4%	13.6%	6.8%	5.7%
葛飾区	100%	13.7%	11.8%	11.8%	3.9%	7.8%	7.8%	5.9%	13.7%	5.9%	7.8%	9.8%
江戸川区	100%	15.6%	6.7%	8.9%	12.2%	12.2%	12.2%	7.8%	11.1%	7.8%	3.3%	2.2%

※表中の0.0%は回答者がいなかったものを含む。

4-3. 東京都区部の分析



図：「文化遺産が全くない」とする人の年代（5歳刻み）

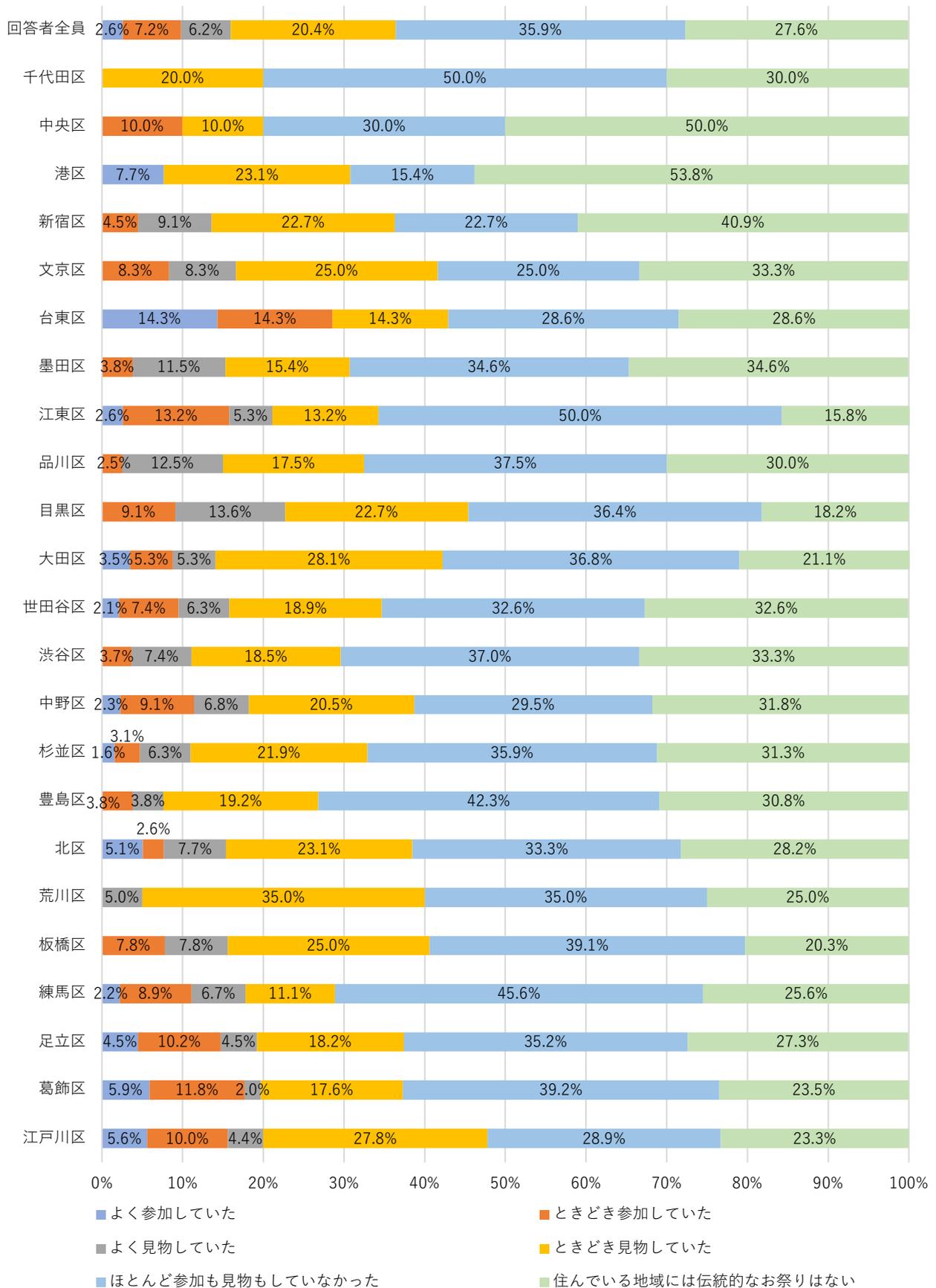
4-3-4. 「文化遺産が全くない」とする人の伝統的なお祭り(年中行事含む)への参加または見物

東京都区部で居住地域内に文化遺産が「全くない」とする回答者の伝統的なお祭り(年中行事含む)への参加または見物の状況について区ごとで比較する。全回答者と比較して、「ほとんど参加も見物もしていなかった」や「住んでいる地域には伝統的なお祭りはない」と回答する割合が千代田区(80.0%)や中央区(80.0%)では高く、江戸川区(52.2%)や目黒区(54.6%)ではその割合が低くなっている。

表: 「文化遺産が全くない」とする人の伝統的なお祭り(年中行事含む)への参加または見物の割合

	全回答者	よく参加していた	ときどき参加していた	よく見物していた	ときどき見物していた	ほとんど参加も見物もしていなかった	住んでいる地域には伝統的なお祭りはない
全回答者	100.0%	2.6%	7.2%	6.2%	20.4%	35.9%	27.6%
千代田区	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%
中央区	100.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	30.0%	50.0%
港区	100.0%	7.7%	0.0%	0.0%	23.1%	15.4%	53.8%
新宿区	100.0%	0.0%	4.5%	9.1%	22.7%	22.7%	40.9%
文京区	100.0%	0.0%	8.3%	8.3%	25.0%	25.0%	33.3%
台東区	100.0%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%
墨田区	100.0%	0.0%	3.8%	11.5%	15.4%	34.6%	34.6%
江東区	100.0%	2.6%	13.2%	5.3%	13.2%	50.0%	15.8%
品川区	100.0%	0.0%	2.5%	12.5%	17.5%	37.5%	30.0%
目黒区	100.0%	0.0%	9.1%	13.6%	22.7%	36.4%	18.2%
大田区	100.0%	3.5%	5.3%	5.3%	28.1%	36.8%	21.1%
世田谷区	100.0%	2.1%	7.4%	6.3%	18.9%	32.6%	32.6%
渋谷区	100.0%	0.0%	3.7%	7.4%	18.5%	37.0%	33.3%
中野区	100.0%	2.3%	9.1%	6.8%	20.5%	29.5%	31.8%
杉並区	100.0%	1.6%	3.1%	6.3%	21.9%	35.9%	31.3%
豊島区	100.0%	0.0%	3.8%	3.8%	19.2%	42.3%	30.8%
北区	100.0%	5.1%	2.6%	7.7%	23.1%	33.3%	28.2%
荒川区	100.0%	0.0%	0.0%	5.0%	35.0%	35.0%	25.0%
板橋区	100.0%	0.0%	7.8%	7.8%	25.0%	39.1%	20.3%
練馬区	100.0%	2.2%	8.9%	6.7%	11.1%	45.6%	25.6%
足立区	100.0%	4.5%	10.2%	4.5%	18.2%	35.2%	27.3%
葛飾区	100.0%	5.9%	11.8%	2.0%	17.6%	39.2%	23.5%
江戸川区	100.0%	5.6%	10.0%	4.4%	27.8%	28.9%	23.3%

4-3. 東京都区部の分析



図：「文化遺産が全くない」とする人の伝統的なお祭り(年中行事含む)への参加または見物

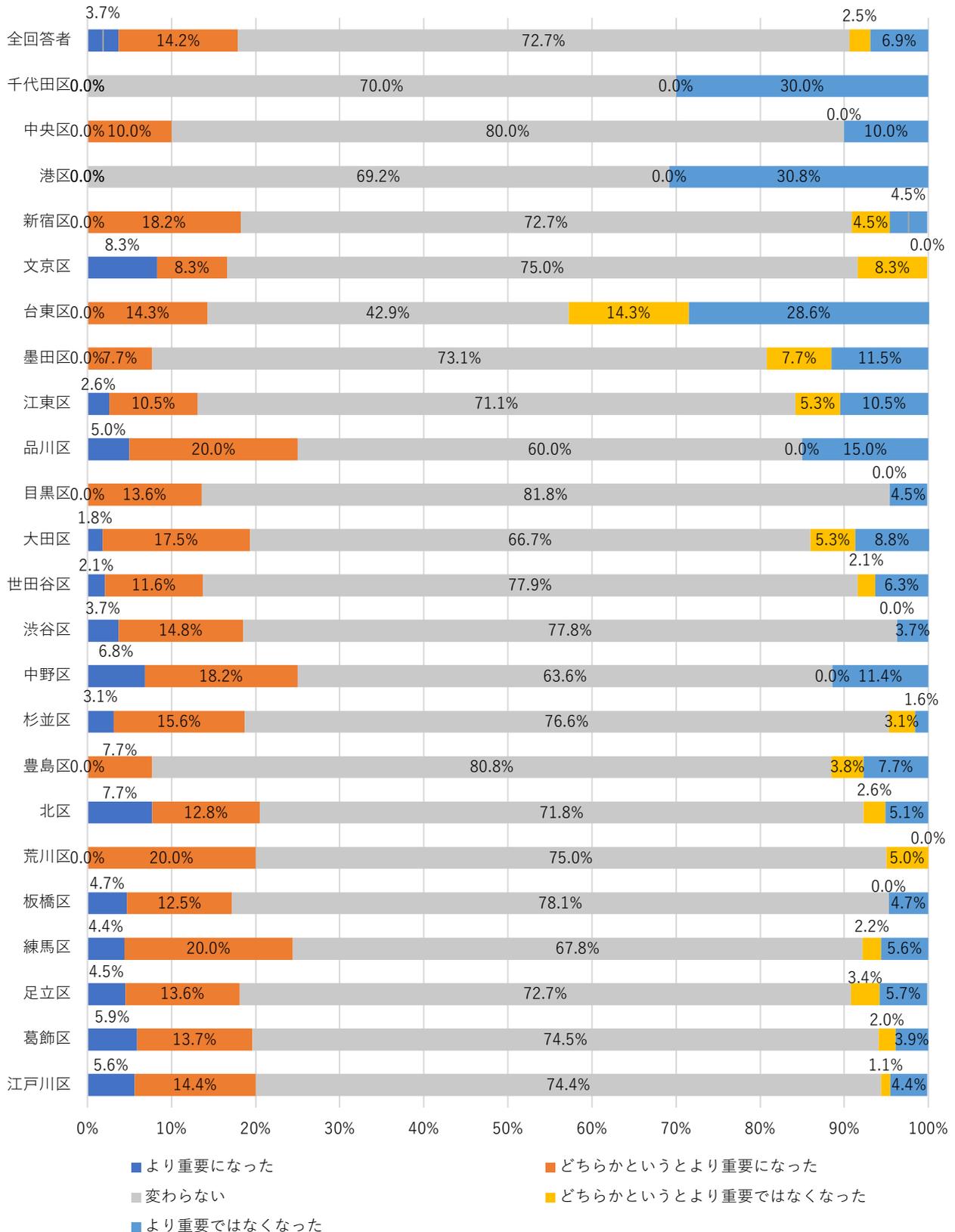
4-3-5. 「文化遺産が全くない」とする人のコロナ禍を機とした文化遺産の重要度の変化

東京都区部で居住地域内に文化遺産が「全くない」とする回答者のコロナ禍を機とした文化遺産の重要度は、全回答者と比較して、品川区（25.0%）や中野区（25.0%）、練馬区（24.4%）において「より重要になった」や「どちらかというより重要になった」と回答する割合が高く、千代田区（0.0%）や港区（0.0%）では重要になったと回答する人はいなかった。

表：「文化遺産が全くない」とする人のコロナ禍を機とした文化遺産の重要度の変化の割合

	全回答者	より重要になった	どちらかというより重要になった	変わらない	どちらかというより重要ではなくなった	より重要ではなくなった
全回答者	100.0%	3.7%	14.2%	72.7%	2.5%	6.9%
千代田区	100.0%	0.0%	0.0%	70.0%	0.0%	30.0%
中央区	100.0%	0.0%	10.0%	80.0%	0.0%	10.0%
港区	100.0%	0.0%	0.0%	69.2%	0.0%	30.8%
新宿区	100.0%	0.0%	18.2%	72.7%	4.5%	4.5%
文京区	100.0%	8.3%	8.3%	75.0%	8.3%	0.0%
台東区	100.0%	0.0%	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%
墨田区	100.0%	0.0%	7.7%	73.1%	7.7%	11.5%
江東区	100.0%	2.6%	10.5%	71.1%	5.3%	10.5%
品川区	100.0%	5.0%	20.0%	60.0%	0.0%	15.0%
目黒区	100.0%	0.0%	13.6%	81.8%	0.0%	4.5%
大田区	100.0%	1.8%	17.5%	66.7%	5.3%	8.8%
世田谷区	100.0%	2.1%	11.6%	77.9%	2.1%	6.3%
渋谷区	100.0%	3.7%	14.8%	77.8%	0.0%	3.7%
中野区	100.0%	6.8%	18.2%	63.6%	0.0%	11.4%
杉並区	100.0%	3.1%	15.6%	76.6%	3.1%	1.6%
豊島区	100.0%	0.0%	7.7%	80.8%	3.8%	7.7%
北区	100.0%	7.7%	12.8%	71.8%	2.6%	5.1%
荒川区	100.0%	0.0%	20.0%	75.0%	5.0%	0.0%
板橋区	100.0%	4.7%	12.5%	78.1%	0.0%	4.7%
練馬区	100.0%	4.4%	20.0%	67.8%	2.2%	5.6%
足立区	100.0%	4.5%	13.6%	72.7%	3.4%	5.7%
葛飾区	100.0%	5.9%	13.7%	74.5%	2.0%	3.9%
江戸川区	100.0%	5.6%	14.4%	74.4%	1.1%	4.4%

4-3. 東京都区部の分析



図：「文化遺産が全くない」とする人のコロナ禍を機とした文化遺産の重要度の変化



資料. 調査対象市区町村一覽

資料：調査対象市区町村一覧

A-1 三大都市圏中心部（東京都区部）

地域コード	地域
13101	東京都 千代田区
13102	東京都 中央区
13103	東京都 港区
13104	東京都 新宿区
13105	東京都 文京区
13106	東京都 台東区
13107	東京都 墨田区
13108	東京都 江東区
13109	東京都 品川区
13110	東京都 目黒区
13111	東京都 大田区
13112	東京都 世田谷区
13113	東京都 渋谷区
13114	東京都 中野区
13115	東京都 杉並区
13116	東京都 豊島区
13117	東京都 北区
13118	東京都 荒川区
13119	東京都 板橋区
13120	東京都 練馬区
13121	東京都 足立区
13122	東京都 葛飾区
13123	東京都 江戸川区

A-2 地方圏県庁所在市
(政令市を除く)

地域コード	地域
02201	青森県 青森市
03201	岩手県 盛岡市
05201	秋田県 秋田市
06201	山形県 山形市
07201	福島県 福島市
08201	茨城県 水戸市
09201	栃木県 宇都宮市
10201	群馬県 前橋市
16201	富山県 富山市
17201	石川県 金沢市
18201	福井県 福井市
19201	山梨県 甲府市
20201	長野県 長野市
21201	岐阜県 岐阜市
24201	三重県 津市
25201	滋賀県 大津市
29201	奈良県 奈良市
30201	和歌山県 和歌山市
31201	鳥取県 鳥取市
32201	島根県 松江市
35203	山口県 山口市
36201	徳島県 徳島市
37201	香川県 高松市
38201	愛媛県 松山市
39201	高知県 高知市
41201	佐賀県 佐賀市

42201	長崎県 長崎市
44201	大分県 大分市
45201	宮崎県 宮崎市
46201	鹿児島県 鹿児島市
47201	沖縄県 那覇市

A-3 地方圏町村

地域コード	地域
01303	北海道 当別町
01304	北海道 新篠津村
01331	北海道 松前町
01332	北海道 福島町
01333	北海道 知内町
01334	北海道 木古内町
01337	北海道 七飯町
01343	北海道 鹿部町
01345	北海道 森町
01346	北海道 八雲町
01347	北海道 長万部町
01361	北海道 江差町
01362	北海道 上ノ国町
01363	北海道 厚沢部町
01364	北海道 乙部町
01367	北海道 奥尻町
01370	北海道 今金町
01371	北海道 せたな町
01391	北海道 島牧村
01392	北海道 寿都町
01393	北海道 黒松内町
01394	北海道 蘭越町
01395	北海道 二セコ町
01396	北海道 真狩村
01397	北海道 留寿都村
01398	北海道 喜茂別町
01399	北海道 京極町
01400	北海道 倶知安町
01401	北海道 共和町
01402	北海道 岩内町
01403	北海道 泊村
01404	北海道 神恵内村
01405	北海道 積丹町
01406	北海道 古平町
01407	北海道 仁木町
01408	北海道 余市町
01409	北海道 赤井川村
01423	北海道 南幌町
01424	北海道 奈井江町
01425	北海道 上砂川町
01427	北海道 由仁町
01428	北海道 長沼町
01429	北海道 栗山町
01430	北海道 月形町
01431	北海道 浦臼町
01432	北海道 新十津川町
01433	北海道 妹背牛町
01434	北海道 秩父別町

01436	北海道 雨竜町
01437	北海道 北竜町
01438	北海道 沼田町
01452	北海道 鷹栖町
01453	北海道 東神楽町
01454	北海道 当麻町
01455	北海道 比布町
01456	北海道 愛別町
01457	北海道 上川町
01458	北海道 東川町
01459	北海道 美瑛町
01460	北海道 上富良野町
01461	北海道 中富良野町
01462	北海道 南富良野町
01463	北海道 占冠村
01464	北海道 和寒町
01465	北海道 剣淵町
01468	北海道 下川町
01469	北海道 美深町
01470	北海道 音威子府村
01471	北海道 中川町
01472	北海道 幌加内町
01481	北海道 増毛町
01482	北海道 小平町
01483	北海道 苫前町
01484	北海道 羽幌町
01485	北海道 初山別村
01486	北海道 遠別町
01487	北海道 天塩町
01511	北海道 猿払村
01512	北海道 浜頓別町
01513	北海道 中頓別町
01514	北海道 枝幸町
01516	北海道 豊富町
01517	北海道 礼文町
01518	北海道 利尻町
01519	北海道 利尻富士町
01520	北海道 幌延町
01543	北海道 美幌町
01544	北海道 津別町
01545	北海道 斜里町
01546	北海道 清里町
01547	北海道 小清水町
01549	北海道 訓子府町
01550	北海道 置戸町
01552	北海道 佐呂間町
01555	北海道 遠軽町
01559	北海道 湧別町
01560	北海道 滝上町
01561	北海道 興部町
01562	北海道 西興部村
01563	北海道 雄武町
01564	北海道 大空町
01571	北海道 豊浦町
01575	北海道 壮瞥町
01578	北海道 白老町
01581	北海道 厚真町
01584	北海道 洞爺湖町
01585	北海道 安平町

01586	北海道	むかわ町
01601	北海道	日高町
01602	北海道	平取町
01604	北海道	新冠町
01607	北海道	浦河町
01608	北海道	様似町
01609	北海道	えりも町
01610	北海道	新ひだか町
01631	北海道	音更町
01632	北海道	土幌町
01633	北海道	上土幌町
01634	北海道	鹿追町
01635	北海道	新得町
01636	北海道	清水町
01637	北海道	芽室町
01638	北海道	中札内村
01639	北海道	更別村
01641	北海道	大樹町
01642	北海道	広尾町
01643	北海道	幕別町
01644	北海道	池田町
01645	北海道	豊頃町
01646	北海道	本別町
01647	北海道	足寄町
01648	北海道	陸別町
01649	北海道	浦幌町
01661	北海道	釧路町
01662	北海道	厚岸町
01663	北海道	浜中町
01664	北海道	標茶町
01665	北海道	弟子屈町
01667	北海道	鶴居村
01668	北海道	白糠町
01691	北海道	別海町
01692	北海道	中標津町
01693	北海道	標津町
01694	北海道	羅臼町
02301	青森県	平内町
02303	青森県	今別町
02304	青森県	蓬田村
02307	青森県	外ヶ浜町
02321	青森県	鯉ヶ沢町
02323	青森県	深浦町
02343	青森県	西目屋村
02361	青森県	藤崎町
02362	青森県	大鱒町
02367	青森県	田舎館村
02381	青森県	板柳町
02384	青森県	鶴田町
02387	青森県	中泊町
02401	青森県	野辺地町
02402	青森県	七戸町
02405	青森県	六戸町
02406	青森県	横浜町
02408	青森県	東北町
02411	青森県	六ヶ所村
02412	青森県	おいらせ町
02423	青森県	大間町
02424	青森県	東通村

02425	青森県	風間浦村
02426	青森県	佐井村
02441	青森県	三戸町
02442	青森県	五戸町
02443	青森県	田子町
02445	青森県	南部町
02446	青森県	階上町
02450	青森県	新郷村
03301	岩手県	雫石町
03302	岩手県	葛巻町
03303	岩手県	岩手町
03321	岩手県	紫波町
03322	岩手県	矢巾町
03366	岩手県	西和賀町
03381	岩手県	金ヶ崎町
03402	岩手県	平泉町
03441	岩手県	住田町
03461	岩手県	大槌町
03482	岩手県	山田町
03483	岩手県	岩泉町
03484	岩手県	田野畑村
03485	岩手県	普代村
03501	岩手県	軽米町
03503	岩手県	野田村
03506	岩手県	九戸村
03507	岩手県	洋野町
03524	岩手県	一戸町
04301	宮城県	蔵王町
04302	宮城県	七ヶ宿町
04321	宮城県	大河原町
04322	宮城県	村田町
04323	宮城県	柴田町
04324	宮城県	川崎町
04341	宮城県	丸森町
04361	宮城県	亘理町
04362	宮城県	山元町
04401	宮城県	松島町
04404	宮城県	七ヶ浜町
04406	宮城県	利府町
04421	宮城県	大和町
04422	宮城県	大郷町
04424	宮城県	大衡村
04444	宮城県	色麻町
04445	宮城県	加美町
04501	宮城県	涌谷町
04505	宮城県	美里町
04581	宮城県	女川町
04606	宮城県	南三陸町
05303	秋田県	小坂町
05327	秋田県	上小阿仁村
05346	秋田県	藤里町
05348	秋田県	三種町
05349	秋田県	八峰町
05361	秋田県	五城目町
05363	秋田県	八郎潟町
05366	秋田県	井川町
05368	秋田県	大瀧村
05434	秋田県	美郷町
05463	秋田県	羽後町

05464	秋田県	東成瀬村
06301	山形県	山辺町
06302	山形県	中山町
06321	山形県	河北町
06322	山形県	西川町
06323	山形県	朝日町
06324	山形県	大江町
06341	山形県	大石田町
06361	山形県	金山町
06362	山形県	最上町
06363	山形県	舟形町
06364	山形県	真室川町
06365	山形県	大蔵村
06366	山形県	鮭川村
06367	山形県	戸沢村
06381	山形県	高島町
06382	山形県	川西町
06401	山形県	小国町
06402	山形県	白鷹町
06403	山形県	飯豊町
06426	山形県	三川町
06428	山形県	庄内町
06461	山形県	遊佐町
07301	福島県	桑折町
07303	福島県	国見町
07308	福島県	川俣町
07322	福島県	大玉村
07342	福島県	鏡石町
07344	福島県	天栄村
07362	福島県	下郷町
07364	福島県	檜枝岐村
07367	福島県	只見町
07368	福島県	南会津町
07402	福島県	北塩原村
07405	福島県	西会津町
07407	福島県	磐梯町
07408	福島県	猪苗代町
07421	福島県	会津坂下町
07422	福島県	湯川村
07423	福島県	柳津町
07444	福島県	三島町
07445	福島県	金山町
07446	福島県	昭和村
07447	福島県	会津美里町
07461	福島県	西郷村
07464	福島県	泉崎村
07465	福島県	中島村
07466	福島県	矢吹町
07481	福島県	棚倉町
07482	福島県	矢祭町
07483	福島県	塙町
07484	福島県	鮫川村
07501	福島県	石川町
07502	福島県	玉川村
07503	福島県	平田村
07504	福島県	浅川町
07505	福島県	古殿町
07521	福島県	三春町
07522	福島県	小野町

07541	福島県	広野町
07542	福島県	楡葉町
07543	福島県	富岡町
07544	福島県	川内村
07545	福島県	大熊町
07546	福島県	双葉町
07547	福島県	浪江町
07548	福島県	葛尾村
07561	福島県	新地町
07564	福島県	飯館村
08302	茨城県	茨城町
08309	茨城県	大洗町
08310	茨城県	城里町
08341	茨城県	東海村
08364	茨城県	大子町
08442	茨城県	美浦村
08443	茨城県	阿見町
08447	茨城県	河内町
08521	茨城県	八千代町
09301	栃木県	上三川町
09342	栃木県	益子町
09343	栃木県	茂木町
09344	栃木県	市貝町
09345	栃木県	芳賀町
09361	栃木県	壬生町
09364	栃木県	野木町
09384	栃木県	塩谷町
09386	栃木県	高根沢町
09407	栃木県	那須町
09411	栃木県	那珂川町
10344	群馬県	榛東村
10345	群馬県	吉岡町
10366	群馬県	上野村
10367	群馬県	神流町
10382	群馬県	下仁田町
10383	群馬県	南牧村
10384	群馬県	甘楽町
10421	群馬県	中之条町
10424	群馬県	長野原町
10425	群馬県	嬬恋村
10426	群馬県	草津町
10428	群馬県	高山村
10429	群馬県	東吾妻町
10443	群馬県	片品村
10444	群馬県	川場村
10448	群馬県	昭和村
10449	群馬県	みなかみ町
10464	群馬県	玉村町
10521	群馬県	板倉町
10522	群馬県	明和町
10523	群馬県	千代田町
10524	群馬県	大泉町
10525	群馬県	邑楽町
11343	埼玉県	小川町
11349	埼玉県	ときがわ町
11361	埼玉県	横瀬町
11362	埼玉県	皆野町
11363	埼玉県	長瀬町
11365	埼玉県	小鹿野町

11369	埼玉県	東秩父村
11381	埼玉県	美里町
11383	埼玉県	神川町
11385	埼玉県	上里町
11408	埼玉県	寄居町
12342	千葉県	神崎町
12347	千葉県	多古町
12349	千葉県	東庄町
12403	千葉県	九十九里町
12409	千葉県	芝山町
12410	千葉県	横芝光町
12421	千葉県	一宮町
12422	千葉県	睦沢町
12423	千葉県	長生村
12424	千葉県	白子町
12426	千葉県	長柄町
12427	千葉県	長南町
12441	千葉県	大多喜町
12443	千葉県	御宿町
12463	千葉県	鋸南町
13307	東京都	檜原村
13308	東京都	奥多摩町
13361	東京都	大島町
13362	東京都	利島村
13363	東京都	新島村
13364	東京都	神津島村
13381	東京都	三宅村
13382	東京都	御蔵島村
13401	東京都	八丈町
13402	東京都	青ヶ島村
13421	東京都	小笠原村
14364	神奈川県	山北町
14382	神奈川県	箱根町
14383	神奈川県	真鶴町
14384	神奈川県	湯河原町
14402	神奈川県	清川村
15307	新潟県	聖籠町
15342	新潟県	弥彦村
15361	新潟県	田上町
15385	新潟県	阿賀町
15405	新潟県	出雲崎町
15461	新潟県	湯沢町
15482	新潟県	津南町
15504	新潟県	刈羽村
15581	新潟県	関川村
15586	新潟県	粟島浦村
16321	富山県	舟橋村
16322	富山県	上市町
16323	富山県	立山町
16342	富山県	入善町
16343	富山県	朝日町
17324	石川県	川北町
17361	石川県	津幡町
17365	石川県	内灘町
17384	石川県	志賀町
17386	石川県	宝達志水町
17407	石川県	中能登町
17461	石川県	穴水町
17463	石川県	能登町

18322	福井県	永平寺町
18382	福井県	池田町
18404	福井県	南越前町
18423	福井県	越前町
18442	福井県	美浜町
18481	福井県	高浜町
18483	福井県	おおい町
18501	福井県	若狭町
19346	山梨県	市川三郷町
19364	山梨県	早川町
19365	山梨県	身延町
19366	山梨県	南部町
19368	山梨県	富士川町
19384	山梨県	昭和町
19422	山梨県	道志村
19423	山梨県	西桂町
19424	山梨県	忍野村
19425	山梨県	山中湖村
19429	山梨県	鳴沢村
19430	山梨県	富士河口湖町
19442	山梨県	小菅村
19443	山梨県	丹波山村
20303	長野県	小海町
20304	長野県	川上村
20305	長野県	南牧村
20306	長野県	南相木村
20307	長野県	北相木村
20309	長野県	佐久穂町
20321	長野県	軽井沢町
20323	長野県	御代田町
20324	長野県	立科町
20349	長野県	青木村
20350	長野県	長和町
20361	長野県	下諏訪町
20362	長野県	富士見町
20363	長野県	原村
20382	長野県	辰野町
20383	長野県	箕輪町
20384	長野県	飯島町
20385	長野県	南箕輪村
20386	長野県	中川村
20388	長野県	宮田村
20402	長野県	松川町
20403	長野県	高森町
20404	長野県	阿南町
20407	長野県	阿智村
20409	長野県	平谷村
20410	長野県	根羽村
20411	長野県	下條村
20412	長野県	売木村
20413	長野県	天龍村
20414	長野県	泰阜村
20415	長野県	喬木村
20416	長野県	豊丘村
20417	長野県	大鹿村
20422	長野県	上松町
20423	長野県	南木曾町
20425	長野県	木祖村
20429	長野県	王滝村

20430	長野県	大桑村
20432	長野県	木曾町
20446	長野県	麻績村
20448	長野県	生坂村
20450	長野県	山形村
20451	長野県	朝日村
20452	長野県	筑北村
20481	長野県	池田町
20482	長野県	松川村
20485	長野県	白馬村
20486	長野県	小谷村
20521	長野県	坂城町
20541	長野県	小布施町
20543	長野県	高山村
20561	長野県	山ノ内町
20562	長野県	木島平村
20563	長野県	野沢温泉村
20583	長野県	信濃町
20588	長野県	小川村
20590	長野県	飯綱町
20602	長野県	栄村
21302	岐阜県	岐南町
21303	岐阜県	笠松町
21341	岐阜県	養老町
21361	岐阜県	垂井町
21362	岐阜県	関ヶ原町
21381	岐阜県	神戸町
21382	岐阜県	輪之内町
21383	岐阜県	安八町
21401	岐阜県	揖斐川町
21403	岐阜県	大野町
21404	岐阜県	池田町
21421	岐阜県	北方町
21501	岐阜県	坂祝町
21502	岐阜県	富加町
21503	岐阜県	川辺町
21504	岐阜県	七宗町
21505	岐阜県	八百津町
21506	岐阜県	白川町
21507	岐阜県	東白川村
21521	岐阜県	御嵩町
21604	岐阜県	白川村
22301	静岡県	東伊豆町
22302	静岡県	河津町
22304	静岡県	南伊豆町
22305	静岡県	松崎町
22306	静岡県	西伊豆町
22325	静岡県	函南町
22341	静岡県	清水町
22342	静岡県	長泉町
22344	静岡県	小山町
22424	静岡県	吉田町
22429	静岡県	川根本町
22461	静岡県	森町
23561	愛知県	設楽町
23562	愛知県	東栄町
23563	愛知県	豊根村
24441	三重県	多気町
24442	三重県	明和町

24443	三重県	大台町
24461	三重県	玉城町
24470	三重県	度会町
24471	三重県	大紀町
24472	三重県	南伊勢町
24543	三重県	紀北町
24561	三重県	御浜町
24562	三重県	紀宝町
25383	滋賀県	日野町
25384	滋賀県	竜王町
25425	滋賀県	愛荘町
25441	滋賀県	豊郷町
25442	滋賀県	甲良町
25443	滋賀県	多賀町
26364	京都府	笠置町
26365	京都府	和束町
26367	京都府	南山城村
26407	京都府	京丹波町
26463	京都府	伊根町
26465	京都府	与謝野町
28365	兵庫県	多可町
28381	兵庫県	稲美町
28382	兵庫県	播磨町
28442	兵庫県	市川町
28443	兵庫県	福崎町
28446	兵庫県	神河町
28464	兵庫県	太子町
28481	兵庫県	上郡町
28501	兵庫県	佐用町
28585	兵庫県	香美町
28586	兵庫県	新温泉町
29322	奈良県	山添村
29385	奈良県	曽爾村
29386	奈良県	御杖村
29444	奈良県	黒滝村
29446	奈良県	天川村
29447	奈良県	野迫川村
29449	奈良県	十津川村
29450	奈良県	下北山村
29451	奈良県	上北山村
29452	奈良県	川上村
29453	奈良県	東吉野村
30304	和歌山県	紀美野町
30341	和歌山県	かつらぎ町
30343	和歌山県	九度山町
30344	和歌山県	高野町
30361	和歌山県	湯浅町
30362	和歌山県	広川町
30366	和歌山県	有田川町
30381	和歌山県	美浜町
30382	和歌山県	日高町
30383	和歌山県	由良町
30390	和歌山県	印南町
30391	和歌山県	みなべ町
30392	和歌山県	日高川町
30401	和歌山県	白浜町
30404	和歌山県	上富田町
30406	和歌山県	すさみ町
30421	和歌山県	那智勝浦町

30422	和歌山県	太地町
30424	和歌山県	古座川町
30427	和歌山県	北山村
30428	和歌山県	串本町
31302	鳥取県	岩美町
31325	鳥取県	若桜町
31328	鳥取県	智頭町
31329	鳥取県	八頭町
31364	鳥取県	三朝町
31370	鳥取県	湯梨浜町
31371	鳥取県	琴浦町
31372	鳥取県	北栄町
31384	鳥取県	日吉津村
31386	鳥取県	大山町
31389	鳥取県	南部町
31390	鳥取県	伯耆町
31401	鳥取県	日南町
31402	鳥取県	日野町
31403	鳥取県	江府町
32343	島根県	奥出雲町
32386	島根県	飯南町
32441	島根県	川本町
32448	島根県	美郷町
32449	島根県	邑南町
32501	島根県	津和野町
32505	島根県	吉賀町
32525	島根県	海士町
32526	島根県	西ノ島町
32527	島根県	知夫村
32528	島根県	隠岐の島町
33346	岡山県	和気町
33423	岡山県	早島町
33445	岡山県	里庄町
33461	岡山県	矢掛町
33586	岡山県	新庄村
33606	岡山県	鏡野町
33622	岡山県	勝央町
33623	岡山県	奈義町
33643	岡山県	西粟倉村
33663	岡山県	久米南町
33666	岡山県	美咲町
33681	岡山県	吉備中央町
34302	広島県	府中町
34304	広島県	海田町
34307	広島県	熊野町
34309	広島県	坂町
34368	広島県	安芸太田町
34369	広島県	北広島町
34431	広島県	大崎上島町
34462	広島県	世羅町
34545	広島県	神石高原町
35305	山口県	周防大島町
35321	山口県	和木町
35341	山口県	上関町
35343	山口県	田布施町
35344	山口県	平生町
35502	山口県	阿武町
36301	徳島県	勝浦町
36302	徳島県	上勝町

36321	徳島県	佐那河内村
36341	徳島県	石井町
36342	徳島県	神山町
36368	徳島県	那賀町
36383	徳島県	牟岐町
36387	徳島県	美波町
36388	徳島県	海陽町
36401	徳島県	松茂町
36402	徳島県	北島町
36403	徳島県	藍住町
36404	徳島県	板野町
36405	徳島県	上板町
36468	徳島県	つるぎ町
36489	徳島県	東みよし町
37322	香川県	土庄町
37324	香川県	小豆島町
37341	香川県	三木町
37364	香川県	直島町
37386	香川県	宇多津町
37387	香川県	綾川町
37403	香川県	琴平町
37404	香川県	多度津町
37406	香川県	まんのう町
38356	愛媛県	上島町
38386	愛媛県	久万高原町
38401	愛媛県	松前町
38402	愛媛県	砥部町
38422	愛媛県	内子町
38442	愛媛県	伊方町
38484	愛媛県	松野町
38488	愛媛県	鬼北町
38506	愛媛県	愛南町
39301	高知県	東洋町
39302	高知県	奈半利町
39303	高知県	田野町
39304	高知県	安田町
39305	高知県	北川村
39306	高知県	馬路村
39307	高知県	芸西村
39341	高知県	本山町
39344	高知県	大豊町
39363	高知県	土佐町
39364	高知県	大川村
39386	高知県	いの町
39387	高知県	仁淀川町
39401	高知県	中土佐町
39402	高知県	佐川町
39403	高知県	越知町
39405	高知県	禰原町
39410	高知県	日高村
39411	高知県	津野町
39412	高知県	四万十町
39424	高知県	大月町
39427	高知県	三原村
39428	高知県	黒潮町
40341	福岡県	宇美町
40342	福岡県	篠栗町
40343	福岡県	志免町
40344	福岡県	須恵町

40345	福岡県	新宮町
40348	福岡県	久山町
40349	福岡県	粕屋町
40381	福岡県	芦屋町
40382	福岡県	水巻町
40383	福岡県	岡垣町
40384	福岡県	遠賀町
40401	福岡県	小竹町
40402	福岡県	鞍手町
40421	福岡県	桂川町
40447	福岡県	筑前町
40448	福岡県	東峰村
40503	福岡県	大刀洗町
40522	福岡県	大木町
40544	福岡県	広川町
40601	福岡県	香春町
40602	福岡県	添田町
40604	福岡県	糸田町
40605	福岡県	川崎町
40608	福岡県	大任町
40609	福岡県	赤村
40610	福岡県	福智町
40621	福岡県	苅田町
40625	福岡県	みやこ町
40642	福岡県	吉富町
40646	福岡県	上毛町
40647	福岡県	築上町
41327	佐賀県	吉野ヶ里町
41341	佐賀県	基山町
41345	佐賀県	上峰町
41346	佐賀県	みやき町
41387	佐賀県	玄海町
41401	佐賀県	有田町
41423	佐賀県	大町町
41424	佐賀県	江北町
41425	佐賀県	白石町
41441	佐賀県	太良町
42307	長崎県	長与町
42308	長崎県	時津町
42321	長崎県	東彼杵町
42322	長崎県	川棚町
42323	長崎県	波佐見町
42383	長崎県	小値賀町
42391	長崎県	佐々町
42411	長崎県	新上五島町
43348	熊本県	美里町
43364	熊本県	玉東町
43367	熊本県	南関町
43368	熊本県	長洲町
43369	熊本県	和水町
43403	熊本県	大津町
43404	熊本県	菊陽町
43423	熊本県	南小国町
43424	熊本県	小国町
43425	熊本県	産山村
43428	熊本県	高森町
43432	熊本県	西原村
43433	熊本県	南阿蘇村
43441	熊本県	御船町

43442	熊本県	嘉島町
43443	熊本県	益城町
43444	熊本県	甲佐町
43447	熊本県	山都町
43468	熊本県	氷川町
43482	熊本県	芦北町
43484	熊本県	津奈木町
43501	熊本県	錦町
43505	熊本県	多良木町
43506	熊本県	湯前町
43507	熊本県	水上村
43510	熊本県	相良村
43511	熊本県	五木村
43512	熊本県	山江村
43513	熊本県	球磨村
43514	熊本県	あさぎり町
43531	熊本県	苓北町
44322	大分県	姫島村
44341	大分県	日出町
44461	大分県	九重町
44462	大分県	玖珠町
45341	宮崎県	三股町
45361	宮崎県	高原町
45382	宮崎県	国富町
45383	宮崎県	綾町
45401	宮崎県	高鍋町
45402	宮崎県	新富町
45403	宮崎県	西米良村
45404	宮崎県	木城町
45405	宮崎県	川南町
45406	宮崎県	都農町
45421	宮崎県	門川町
45429	宮崎県	諸塚村
45430	宮崎県	椎葉村
45431	宮崎県	美郷町
45441	宮崎県	高千穂町
45442	宮崎県	日之影町
45443	宮崎県	五ヶ瀬町
46303	鹿児島県	三島村
46304	鹿児島県	十島村
46392	鹿児島県	さつま町
46404	鹿児島県	長島町
46452	鹿児島県	湧水町
46468	鹿児島県	大崎町
46482	鹿児島県	東串良町
46490	鹿児島県	錦江町
46491	鹿児島県	南大隅町
46492	鹿児島県	肝付町
46501	鹿児島県	中種子町
46502	鹿児島県	南種子町
46505	鹿児島県	屋久島町
46523	鹿児島県	大和村
46524	鹿児島県	宇検村
46525	鹿児島県	瀬戸内町
46527	鹿児島県	龍郷町
46529	鹿児島県	喜界町
46530	鹿児島県	徳之島町
46531	鹿児島県	天城町
46532	鹿児島県	伊仙町

46533	鹿児島県 和泊町
46534	鹿児島県 知名町
46535	鹿児島県 与論町
47301	沖縄県 国頭村
47302	沖縄県 大宜味村
47303	沖縄県 東村
47306	沖縄県 今帰仁村
47308	沖縄県 本部町
47311	沖縄県 恩納村
47313	沖縄県 宜野座村
47314	沖縄県 金武町
47315	沖縄県 伊江村
47324	沖縄県 読谷村
47325	沖縄県 嘉手納町
47326	沖縄県 北谷町
47327	沖縄県 北中城村
47328	沖縄県 中城村
47329	沖縄県 西原町
47348	沖縄県 与那原町
47350	沖縄県 南風原町
47353	沖縄県 渡嘉敷村
47354	沖縄県 座間味村
47355	沖縄県 粟国村
47356	沖縄県 渡名喜村
47357	沖縄県 南大東村
47358	沖縄県 北大東村
47359	沖縄県 伊平屋村
47360	沖縄県 伊是名村
47361	沖縄県 久米島町
47362	沖縄県 八重瀬町
47375	沖縄県 多良間村
47381	沖縄県 竹富町
47382	沖縄県 与那国町

B-1 京都市中心部

地域コード	地域
26102	京都府 京都市 上京区
26104	京都府 京都市 中京区
26106	京都府 京都市 下京区

B-2 国宝天守所在市

地域コード	地域
20202	長野県 松本市
23215	愛知県 犬山市
25202	滋賀県 彦根市
28201	兵庫県 姫路市
32201	島根県 松江市

新型コロナウイルスの感染拡大による
「文化遺産と社会との関係」への影響把握調査
報告書

2022年5月
(調査期間：2022年1月26日～2月8日)

調査実施主体
国立大学法人 九州大学 河野俊行研究室

報告書作成
帝京大学文化財研究所 講師 山田大樹
(株)都市環境研究所 主任研究員 関宏光